

**地域健康福祉活動計画
策定のためのアンケート調査
報告書**

平成20年3月

社会福祉法人柏市社会福祉協議会

目 次

調査の概要	1
結果のあらまし	2
1 町会・自治会・区・管理組合	2
2 民生委員児童委員（主任児童委員）	9
3 柏市健康づくり推進員	13
4 おせっ会・サロン活動	17
5 障害関係ボランティア団体	23
調査結果	27
1 町会・自治会・区・管理組合	27
2 民生委員児童委員（主任児童委員）	67
3 柏市健康づくり推進員	113
4 おせっ会・サロン活動	151
5 障害関係ボランティア団体	193

調査の概要

(1) 調査目的

柏市社会福祉協議会では、平成 18 年 3 月に策定した「柏市地域福祉活動計画」にもとづきながら、市民や関係機関等との協働により地域福祉を推進してきました。

「柏市地域福祉活動計画」は、平成 20 年度に計画最終年度を迎えるため、現在、計画の見直し作業を進めています。本調査は、計画の見直しにあたり、関係機関・関係団体等の意見をお伺いし、今後の参考とするために実施しました。

(2) 調査期間

平成 19 年 12 月～平成 20 年 1 月

(3) 調査対象者と回収結果

1 町会・自治会・区・管理組合	275	回収数	196 (回収率 71.3%)
2 民生委員・主任児童委員	481	回収数	341 (回収率 70.9%)
3 柏市健康づくり推進員	407	回収数	184 (回収率 45.2%)
4 おせっ会、サロン団体	97	回収数	85 (回収率 87.6%)
5 障害関係ボランティア団体	50	回収数	37 (回収率 74.0%)

(4) 調査方法

1 町会・自治会・区・管理組合	郵送配布・郵送回収
2 民生委員・主任児童委員	郵送配布・郵送回収
3 柏市民健康づくり推進員	各ブロック会議で配布、郵送回収
4 おせっ会、サロン団体	郵送配布・郵送回収
5 障害関係ボランティア団体	郵送配布・郵送回収

【集計結果の見方】

集計結果は百分率(単位:%)で表示し、小数点第2位を四捨五入しました。そのため、合計が100%にならないものがあります。

結果のあらまし

1 町会・自治会・区・管理組合

(1) 回答者の属性

会長の任期

会長の任期は、「1年」が5割半ば、「2年」3割弱と、「1年」もしくは「2年」で8割半ばを占めています。一方、「3年以上」も1割弱となっています。

就任年数

今回のアンケートに回答していただいた長の就任年数は、「1年以下」が最も多く約5割、次いで「5年を超えている」約2割と任期年数に大きな差がみられます。

前問の会長任期年数では、「3年以上」が1割弱であったことに対し「5年を超えている」が約2割みられることから、任期を超えて就任されている長が少なからずいるものと想定されます。

(2) 町会等の取り組みや課題について

町会等での活動内容

町会等の活動は、「イベント活動（お祭り、運動会、文化祭など）」が約8割と最も多く、次いで「自主防災活動（自主防災の設置など）」が7割弱、「清掃・リサイクル活動（廃品回収、花いっぱい運動など）」が6割半ばと続いています。

このほか、「福祉活動（見守り活動、サロン活動、敬老会など）」「防犯活動（小学校の登下校時の見守りなど）」「交流活動（旅行、懇親会など）」が5割台となっています。

活動で困っていること

「役員のなり手がいない」が5割で最も多く、「行事の開催・継続が大変である」「町会活動への住民の関心が低い、協力的ではない」がともに3割半ば、「入会しない世帯が増えている」3割弱と続いています。

(3) 災害を想定した取り組みについて

（自主防災活動取り組み団体のみ）活動内容

自主防災活動に取り組んでいる団体にその内容を伺ったところ、「防災訓練」約8割、「防災備品の購入・整理」7割半ば、「地域内の安全点検」「防災知識の普及・啓発（研修会等）」が5割台となっています。

災害時要援護者の把握

高齢者や障害者、乳幼児等の災害時要援護者の把握については、「充分把握できている」と「ある程度把握できている」をあわせて約4割が「把握できている」と回答しています。そのほか、「少しだけ把握できている」2割半ば、「まったく把握できていない」も約3割にのぼります。

災害時要援護者の把握にあたっての課題

災害時要援護者の把握にあたっての課題としては、「個人情報保護の関係で対象者の把握ができない」が6割弱、次いで「防災への関心が低い」4割半ば、「把握のために声かけをしても拒否される」1割半ばとなっています。

(4) 健康福祉活動について

(福祉活動、健康づくり活動取り組み団体のみ) 活動内容

福祉活動や健康づくり活動に取り組んでいる団体にその内容を伺ったところ、最も多かったものは「高齢者向けのおせっ会・サロン活動など」で5割半ば、次いで「見守り活動など」「ごみ捨て、草取りなど簡単な支援活動など」がともに2割半ば、「ラジ体操、健康体操など」2割強となっています。

今後取り組みたい福祉活動

今後取り組みたい福祉活動や力を入れていきたい福祉活動は、「高齢者向けのおせっ会・サロン活動など」約4割、「見守り活動など」3割半ば、「ごみ捨て、草取りなど簡単な支援活動など」約3割、「話し相手、相談活動など」2割半ばなどとなっています。

福祉活動に必要な支援

福祉活動に取り組むにあたり必要な支援としては、「担い手の確保への支援」が4割半ばと最も多く、次いで「運営資金の支援」「活動内容・活動方法への助言等の支援」がともに3割強、「福祉に関する学習機会の支援」約3割となっています。

(5) 地域の活動団体等について

子ども会との連携

「よく連携している」3割半ば、「多少連携している」約3割をあわせ6割強が「連携している」と答えています。一方で、「連携していない」という回答は1割弱、「子ども会はない(活動を休止している)」という回答も2割半ばあります。

老人会(老人クラブ)との連携

「よく連携している」3割半ば、「多少連携している」2割半ばをあわせ6割強が「連携している」と答えています。一方で、「連携していない」という回答は約1割、「老人会はない(活動を休止している)」という回答も2割半ばありました。

健康づくり推進員、食生活推進員との連携

「連携は上手くいっている」が5割弱と約半数近くを占めるものの、「連携に課題がある」も3割半ばとなっています。

課題や今後の連携について(自由記入)は、「健康づくり推進員、食生活推進員の仕事の内容が理解できない」「認識も低く、関心も低い」「連携の周知、広報が不十分である」「活動内容が住民に理解されていない」「町会で推進員を推薦しているにも関わ

らず、その組織からの活動を含めた情報の提供がほとんど無い」「情報交換の場が無い」など周知不足、情報共有に関する意見が多くみられました。

一方で、「町会としても各推進員の活動を知る機会をつくる努力をしたい」「健康づくり推進員の存在を、もっと広く知ってもらふ必要がある」といった意見もみられました。

人材の観点からは、「健康づくり推進員になり手がいない」「当会から委員も出せないでいる」などの声もきかれました。

推進員の育成や連携については、「それぞれの組織が町自治会に入り込むことへのためらいがある。市、社協の支援で町自治会に入り込めるようにしてあげると良い」「『推進員』には町会役員になってもらうのが良いとは思いますが、『役員』となると他の役割も背負わせることになり、かえって『推進員』になることに積極的になれない恐れがある」などの意見が、推進員への要望としては、「高齢者を中心とした福祉活動にもっと時間を割いてほしいが、妊婦や子育ての方で手一杯という状況がみられる」などの意見がありました。

民生委員児童委員との連携

「連携は上手くいっている」が7割近くを占め、「連携に課題がある」は2割半ばとなっています。

課題や今後の連携について（自由記入）は、「連携が無い。町会役員の1つに福祉担当役員がある。この役員との連携をするのが良いと思う。民生委員～町会福祉担当の線（パイプ）を作り、それを通じて、町会が民生委員の仕事を手伝えると思う」「民生委員児童委員の人は熱心に活動しているが、町会活動との連携はほとんど出来ていない。町会役員を兼ねてもらう方が活動しやすいと思う」など、連携がないため、役員の兼務などで解消という考え方も示されました。

また、民生委員の担い手の問題として、「民生委員の仕事の負担が大きすぎる」「なり手がいない」「委員には仕事があまりにも多く気の毒に思う。活動事業を少なくできないか。今のままでは、町会から推薦できない」など、民生委員の負担の大きさから、推薦に難色を示す意見も見られました。また、「当町会の民生委員は25年位継続して従事しているが、町会長は最近1年交代なので、とても守秘義務を明かす訳にはいかず、従って連携プレーは無理。民生委員も困っていると思う」という両組織の運営（任期）の違いからくる難しさも指摘されています。

連携に必要な情報共有については、「組織からの情報提供がほとんど無く、連携が上手くかない」「個人情報保護が壁となり、情報が集まらない」「多数の町会員は活動を知らない」などの意見がある一方で、これを解決するために、「町会役員会への参加をお願いする」「自治会の役員と民生児童委員との会合の場がほしい」などの提案も見られました。

(6) 地区社会福祉協議会との関わりについて

地区社会福祉協議会との連携

「連携は上手くいっている」が5割半ば、「連携に課題がある」が3割弱となっています。

課題や今後の連携について(自由記入)は、地区社協に対する意見としては、「活動内容が分からない」「視察事業など不要」「具体的な活動内容が周知されていない」などの意見が、町会、自治会との関わりでは、「組織的な連携が成り立っていない」「接点が無いためよくわからない」「関わりが無いため、町会が深く関わって推進できる事業があると良い」「住民が協議会の活動内容に関心が低く、協力的でない」などの意見が寄せられました。

また、ふるさと協議会との関係については、一本化を求める声が多く、「ふるさと協議会、社会福祉協議会を一体化すべき」「ふるさと協議会と方向が同一。組織、機構が複雑過ぎる。一本化が望ましい」「全てふるさと協議会に一本化すべき。協議会の事業と協調を図ることによって、さらに地域全体のコミュニティ発展の中で弱者対策の意識の啓発を図ることが、地域における社会福祉の発展につながると思う」「ふるさと協議会、社会福祉協議会と2つの大きな団体のため、町会の役員対応が増大となっており、役員の負担が厳しいので、統一化を図る必要がある」などの意見が寄せられました。

一本化した後のあり方として、「ふるさと協議会の中での地区社協の活動が遊離している。情報交換を積極的に行い、役割、使命を協議会として明確にする必要あり」などの意見が、また、ふるさと協議会との一本化に疑問を呈する意見として、「ふる協と一本化されたが、十分に連携されているかは疑問。人的交流がちぐはぐな面がある。」「ふるさと協議会が出過ぎる。(メインになっている)」などの意見が寄せられました。

地区社協が力を入れるべき活動

地区社協が力を入れるべき活動については、「一人暮らし高齢者などへの訪問活動や見守り活動」が5割弱で最も多く、次いで「子どもたちを犯罪から守る見守り活動」約4割、「災害時を想定した災害時要援護者に対する支援」3割半ば、「誰もが気軽に集える交流の場づくり」約3割となっています。

(7) 市社会福祉協議会との関わりについて

市社会福祉協議会との連携

市社会福祉協議会との連携について伺ったところ、「連携は上手くいっている」を「連携に課題がある」が少し上回っています。(ともに3割半ば)

課題や今後の連携について(自由記入)は、町会・自治会との連携・連絡面では、「連携が不十分」「業務連絡のみで人的関係が不足している」「取り組み方は正しいが、各町会、自治会等に依存し過ぎている。各町会は万能ではない」「話し合いの場を多くして、情報の共有を」「地区と比べ遠い存在。町会と市社協との結びつきをもっと強く」といった意見がありました。一方で、地区社協との連携で充分という意見として、「地

区社協があるので、現在連携すべきことは無いような気がする」「単位町会と市社協との連携という捉え方は、今一つピンと来ない。上手くいくとか、いっていないという観点は不自然であり、考えたこともない。」「町自治会への市社協からの直接のアプローチは無いのが現状。地区社協経由での連携で良いのでは」などの意見が寄せられました。

事業に関する課題として、「行事があっても参加する人がいない」「毎年いろいろな行事に対する反省点があれば修正し、次年度に活かすこと」などの意見が、活動のPR、周知に関する課題として、「市社会福祉協議会の活動を町会員はほとんど知らない」「地区社協の上部組織としての顔が見えない」「地区社協と市社協の関わりが良く分からない。もっと広報に力を入れると良い」「市社協の会員だが会費（世帯300円）の市民へのPRが出来ていない」などの意見が寄せられました。

ふる協との一本化については、「一方的でよく理解できない。行事が多過ぎる。ふる協と1つになってほしい」「地域ふるさと協と社会福祉協の一元化を早急実現する必要がある」などの意見が寄せられました。

市社協への批判として、「市社会福祉協議会は有名無実である」「都市部での役割は終わったのではないか。民営化したらどうか」「地区社協とは上手くいっているが、市社協に対しては距離感がある。執行部に特権意識はないか？」などの意見もいただきました。

市社会福祉協議会が力を入れるべき施策

市社会福祉協議会が力を入れるべき施策については、「地域活動を推進する人材やリーダーの育成」「小地域活動（地区社協、町会等での活動）への支援」とともに4割半ば、「ボランティアの育成」3割強、「市が実施していない福祉サービスの提供（すきまを埋めるサービスの提供）」3割弱、「福祉に関する啓発活動や学習機会の提供など」2割半ばなどが挙げられています。

市社会福祉協議会への要望・意見

市社協への要望・意見（自由記入）には多くの意見が寄せられました。

<ふる協との一本化について>

「地域組織の一本化の推進にあたって市との意見が統一されておらず、当地域は二転、三転してまとまった。市の担当部署との意志疎通が薄いように思われる」「一本化の話が進んでいるが、ふるさと協議会の看板の中で社協部では福祉が見えないと思う。誰が見てもわかるような名称にしてほしい」「地域のふるさと協議会と地区社協の合併が進行するなかで、今後は社協組織も末端を町会組織とリンクするように見直していかないと、町会との連携が上手く作用しないように思う」「当地域は形式的には一本化したがるが、会計の分離をはじめとして『旧組織の方が良かったのでは』との住民の声を耳にしている。本来、組織が一体化し、協調に活動するためには、まず拠点の一体化

と、事業経費は別としても、日々活動の諸経費である事務費は一体化して経理すべき」「組織の一元化に向けた取組みの強化、指導。各地域町会において役員の選出を重複することなく、一つの組織の役員として、わかりやすい活動基盤とすべき」「一本化は組織も助成金も活動も一体となって出来なければ意味がなく、活動が出来ないし、すべきでないと思う」「地域の課題はふる協との統一化問題だが、市民部と市社協が必ずしも一体と見受けられない。お互いきちんと整理して対応してほしい」などの意見が寄せられました。

< 市社協の組織や活動について >

「協議会の呼称を市民に親しまれるものに改名し、もっと一般市民に認識される運動が必要」「福祉活動の実態がまったく見えない。公報活動だけでは、福祉協議会の実態、活動は評価されない」「社協の役割は承知しているが、町会長としての職務の負担が大きいため、現在の町会組織の中でどう取り組んでいけるのか？何か良い方策がないのか尋ねたい（別組織体制を設ける、町会長ではなく単独の長を設けるなど）」「あまり手を広げすぎないで、中味の充実を」などの意見が寄せられました。

< P R ・ 周知に関して >

「協議会の P R が不十分。市民との接点を増やす必要がある」「何のために社会福祉協議会が必要なのか、それを推進するための人材、ボランティア等の必要性を説明すべき。市民が早々に関心を持ち、いろいろな企画に参画することが地区の活性化等につながる」などの意見が寄せられました。

< 募金、会費について >

「赤い羽根共同募金からの広報活動費のカット、本来の福祉活動費の増額を願う。特に老人、児童、母子、父子福祉活動費に」「町会への『会費負担金』は取りやめた方が良い。ただし『団体加入』として会費制とする」「赤十字募金等の協力度が町会、自治会ごとに相違があり、また、町会未加入の共同住宅住民へのアプローチがされておらず不公平になっている」「現在のような会費の二重取り（本部と支部）の強制徴収をやめ、寄付のみで運営すること。反対もあり、各個人からは集金ができない。現実には町会費の内から支払っている」「募金の目標金額を提示するのをやめてほしい」などの意見が寄せられました。

< 市との連携について >

「柏市の施策との整合性を取ってほしい」「社協と市は今以上に連携調整して、地域および町会等に依頼、連絡してほしい」などの意見が寄せられました。

< 町会が抱える課題として >

「町会役員も高齢化が進み、年間行事をこなすことで精一杯になっている。市の支

援を受けている会、または市の呼びかけに応じたボランティアの会からの押し付けが強く、少数役員の負担が重くなり困っている」「民生委員や健康づくり推進委員のなり手がなかなか決まらずに困っている」「高齢化時代に求められる福祉、行政との橋渡し、災害時の支援対策等に力を入れてほしい」などの意見が寄せられました。

<町会と市社協の関わりについて>

「最近、市社協の会長、副会長、職員の人たちが地域のボランティアと交流してくれる機会（来てくれる回数）が増え、考え（意向）や心意気が伝わってくる。大変良い傾向だと思う。これからもますます信頼関係が出来ていくことを望む」などの意見が寄せられました。

<その他全般について>

「地区に近隣センターがあるが、『地域福祉センター』など、相談の窓口がここにあると思われるようにしてほしい」「少ない予算で成果をあげるには民間のボランティア活動を育成、支援することが必要」「町会内で活動していて上部団体に加入していないような小さなグループ（老人会、シニア会等）を把握し、支援してほしい」「町会未入会の家庭に対して、どう手を打っていくかが一番問題」「今回のアンケート結果を有効活用すること、結果を知らせること」などの意見をいただきました。

2 民生委員児童委員（主任児童委員）

（1）日頃の活動について

訪問回数や見守りが必要な世帯

月あたりの訪問活動回数は、「1～5回」が約4割で最も多く、「1～15回」で全体の約7割半ばを占めています。

月あたりの相談活動は、「1～3回」が全体の6割を占めています。

週1回以上の見守りを必要とする世帯は、「0世帯」が約4割ですが、「1～3世帯」が全体の3割半ば、「4～10世帯」が1割強となっています。

災害時に安否確認が必要な世帯は、「1～5世帯」が約3割、「6～10世帯」が2割半ばで、「1～20世帯」まででみると7割半ばとなっています。

活動のやりがい、活動の難しさなど、心がけていること

活動のやりがいは、「人とのつながりができる」7割半ば、「自らの成長を感じること」5割半ばなどとなっています。

活動の難しさは、「個人情報関係による活動のしにくさ」が6割半ばと高くなっています。

また、活動しやすいように心がけていること（自由記入）については、「笑顔で接する」「地域の中で挨拶を心がける」「行事に参加して顔を覚えてもらう」「安否確認の道順を決めている」「訪問の曜日や時間帯を決めている」「土日に伺う」「訪問期間が開かないように気をつける」「訪問カードを置いてくる」「隣近所からも情報を得るようにしている」「委員同士のコミュニケーションをとる」「包括支援センターなど専門機関と連携している」などがあげられました。

委員になっている組織と活動

委員になっている割合は、「地区社会福祉協議会」5割半ば、「ふるさと協議会」3割半ば、「青少年健全育成推進協議会」2割半ばであり、活動回数はいずれの組織も年「1～5」回が多くなっています。

（2）地区社会福祉協議会との関わりについて

地区社会福祉協議会との関わりと活動内容

「頻繁に携わっている」3割半ば、「ときどき携わっている」5割半ばで、合わせ約9割が関わりをもっています。活動内容は、「敬老事業」8割半ば、「研修・講座活動」7割半ば、「おせっ会・サロン活動」6割弱、「世代間交流事業」約5割などとなっています。

地区社協活動の課題、改善点（自由記入）

地区社協活動の課題や改善点については、ふるさと協議会と地区社協が“一本している地域”と“一本化していない地域”、地区社協役員と民生委員の“兼務が多い地域”

と“ そうではない地域 ”など、地域状況によって異なる課題、改善点が出されました。

共通してみられた意見としては、「多くの人が活動に関われるようにすべき」など人材の充実や、行事のあり方や関わり方などについての課題も出されました。

地区社協が力をいれるべき活動

「誰もが気軽に集える交流の場づくり」4割半ばが最も多く、「災害時を想定した災害時要援護者に対する支援」「子どもたちを犯罪から守る見守り活動」「一人暮らし高齢者などへの訪問活動や見守り活動」が3割台で続いています。

(3) 町会・自治会等との関わりについて

町会・自治会等との連携

町会・自治会との連携は、「よく連携している」が4割半ば、「多少連携している」が約4割で、あわせて8割半ばが連携していると答えていますが、「連携していない」も約1割みられました。

会議への出席回数は、「1～2回」が4割弱、「3～5回」が3割半ばとなっています。

町会・自治会との連携で必要なこと（自由記入）

町会・自治会との連携で必要なこと（自由記入）では、「情報の共有」「災害時を想定した連携」「子どもや高齢者の見守りや防犯などでの連携」などの意見が多くみられました。また、地域によって、町会・自治会の運営方法、民生委員の関わり方が違うため、それぞれに地域実態を反映した課題がみられました。

(4) 関係機関、関係団体との関わりについて

地域の子育て関連団体（子ども会、子育てサークル等）との連携

地域の子育て関連団体との連携は、「多少連携している」「よく連携している」をあわせて6割強が連携しています。一方で、「連携していない」という回答も3割半ばみられます。

学校との連携

学校との連携は、「多少連携している」「よく連携している」をあわせて8割半ばが連携しています。「連携していない」という回答は1割強となっています。

地域の民間施設や事業者、NPO等との連携

「多少連携している」「よく連携している」をあわせ約4割が連携していますが、「連携していない」が5割半ばとなっています。

関係機関、団体との連携について（自由記入）

「関係機関等との連携ができていない」「連携を図るためにどのような団体があるのか情報共有が必要」といった意見がみられました。また、具体的に「学校との連携が必要」「ふる協・青少協との関わりが重要」といった機関名をあげた意見や、「老人ホーム等との連携により健康管理での意識高揚が図れた」など、上手くいっている事例についても意見がありました。

(5) 地域における福祉等の取り組みについて

福祉の取り組みへの評価

高齢者への支援など6つの項目について取り組みへの評価を4段階で伺ったところ、十分な支援や体制整備ができていない(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が多い)項目は、『高齢者への支援』約7割、『地域福祉活動の組織体制』約5割、『子育て世帯への支援』4割半ばとなっています。

一方、支援や体制整備が充分でない(「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」が多い)項目は、『災害時要援護者への支援』7割半ば、『犯罪から子どもや高齢者等を守る体制』6割半ば、『障害者への支援』約6割となっています。

高齢者向けサロン、子育てサロンへの意見(自由記入)

(高齢者向けサロンについて)

高齢者向けサロンについて、「上手くいっている」「参加者が楽しみにしている」といった意見がみられる一方で、課題についても意見がありました。「実施場所が少ない」「遠くの人ができることができない」など場所に関する課題、「内容がマンネリ化している」「気軽に参加できるものも必要」「高齢者と子どもがふれあえるサロンが必要」など内容に関する課題、「実施回数が少ない」「回数が多く負担」など実施回数に関する課題、「参加者が固定化しており、本当に必要な人が参加していない」「身体等の都合で参加できない人への配慮が必要」「男性が少ない」など参加者に対する課題、「実施費用等に支援が必要」「町会の理解が必要」など支援を求める課題などがあげられました。

(子育てサロンについて)

子育てサロンについては、昔から実施している地域、始めたばかりの地域など、実施状況は様々ですが、共通して「サロンの役割が重要である」「役に立っている」という意見が多く見られました。サロンの実施数は「多い方がよい」、内容面では、「気軽に集まることが大切」「高齢者と交流できるサロンも必要」などの意見がありました。一方、「サロンに来られない人への対応も必要」「PRが必要」「相談機能も必要」といった意見もありました。

また、「実施場所の確保」「担い手が不足している」などの課題などもみられました。

引きこもりがちな方への支援

必要な支援は、「声かけ」が7割強、「訪問活動」が約5割と、この2項目が高い割合となっています。「サロン活動」「相談の場づくり」も2割前後の人が必要な支援と

回答しています。

地域でできる子育て支援

必要な支援は、「親の相談相手」5割半ば、「相談の場づくり」約4割と相談支援が上位にあがっており、「声かけ」3割半ば、「サロン活動」約3割がそれに続いています。

地域に必要な健康づくり活動

健康づくり、食の育成、栄養改善といったことに対して、地域でどのような活動が必要かを伺ったところ、「講座の開催」が5割半ば、それに「相談の場づくり」「啓発」「サロン活動」が3割台で並びました。

児童虐待や不登校に関わった経験と必要な支援

児童虐待や不登校、引きこもりのケースに関わった経験については、「どちらも関わったことはない」が6割強と最も多い結果でしたが、4割の方が関わりを経験しており、「不登校、引きこもりのケースに関わったことがある」が3割弱、「児童虐待のケースに関わったことがある」が1割半ばとなっています。

児童虐待等に対して必要な支援について、自由記入でうかがったところ、「見守り」「親との関わり、相談」「家庭、地域、学校の連携」「学校、保育園、幼稚園など関係機関との連携」「気軽に参加できる地域行事、気軽に集える場」「虐待通報義務を広く知ってもらうこと」などへの必要性について意見がありました。また、「個人情報保護のため実態がわからない」といった意見もありました。

(6) 市社会福祉協議会との関わりについて

市社会福祉協議会との連携と今後力を入れるべき施策

市社会福祉協議会との連携は、約6割が「上手くいっている」、約2割が「連携に課題がある」という回答でした。

市社会福祉協議会が力を入れるべき施策については、「地域活動を推進する人材やリーダーの育成」「小地域活動（地区社協、町会等での活動）への支援」がそれぞれ約5割、「市が実施していない福祉サービスの提供（すきまを埋めるサービスの提供）」「ボランティアの育成」「福祉に関する啓発活動や学習機会の提供など」が3割台で続いています。

最後に、市社会福祉協議会への要望・意見について伺ったところ、「社協の存在や活動内容を周知する」「地区社協など地域との関わりを深める」「ふる協一本化後の事業展開への支援」「市社協と地区社協で考え方にギャップがある」「地区社協への支援強化」「地域間のパイプ役として地域の情報を積極的に収集・提供し地域差を是正する」「民生委員の仕事量が増えているため軽減策を検討」「活動拠点が必要」「気軽に相談できる場が必要」など、様々な意見がありました。

3 柏市民健康づくり推進員

(1) 日頃の活動について

訪問活動、相談活動の状況

月あたりの訪問活動回数は、「1~4回」が約7割を占めています。

一方、相談活動については無回答が半数を占め、「1~4回」が3割半ばとなっています。

活動のやりがい、活動の難しさなど、心がけていること

活動のやりがいは、「人とのつながりができる」7割半ば、「自らの成長を感じること」5割半ばとなっています。

活動の難しさは、「活動の理解が得られないこと」が約6割、「個人情報保護の関係による活動のしにくさ」が4割半ばとなっています。

また、活動しやすいように心がけていること（自由記入）については、訪問に関しては「電話などで事前に予約をとっていく」「電話で終わりにしないため直接伺う」など、状況に応じた訪問をされています。また、「共通する質問は手帳に書いておき即答する」「わからないことは保健師に確認し回答する」「服装や態度に気をつける」などの配慮をされています。活動が十分に知られていないという声も多く、対応として「町会の行事などに参加し活動のPRを行う」「パンフレットやメモなどを事前に配る」「自己紹介をする」「身分証明書を必ず携帯する」などの取り組みがあげられました。

委員になっている組織と活動

委員になっている割合は、「地区社会福祉協議会」約3割、「ふるさと協議会」2割弱、「青少年健全育成推進協議会」1.6%であり、活動回数はいずれの組織も年「1~5」回が多くなっています。

(2) 地区社会福祉協議会との関わりについて

地区社会福祉協議会との関わりと活動内容

「頻繁に携わっている」約1割、「ときどき携わっている」5割で、あわせて約6割が関わりをもっています。活動内容は、「おせっ会・サロン活動」6割半ば、「研修・講座活動」6割弱、「世代間交流事業」5割強、「敬老事業」4割半ばとなっています。

地区社協活動の課題、改善点（自由記入）

地区社協活動の課題や改善点については、「ふるさと協議会と地区社協の区分がはっきりしない」「様々な組織のなかでの位置づけがよくわからない」など地区社協組織の位置づけの課題、「地区社協が知られていない」「地区社協をもっと知ってもらうことで協力を得やすくなるのではないかなど認知についての課題、「健康推進員＝地区社協の運営委員ということを知らなかった」「地区社協の役員を兼ねると負担が大きい」「行事への参加が多く大変、少なくしてほしい」「活動している年代が偏っている」な

ど活動にあたっての課題などが出されました。

地区社協が力をいれるべき活動

「誰もが気軽に集える交流の場づくり」5割弱が最も多く、「子どもたちを犯罪から守る見守り活動」約4割、「一人暮らし高齢者などへの訪問活動や見守り活動」約3割などが続いています。

(3) 町会・自治会等との関わりについて

町会・自治会等との連携

町会・自治会との連携は、「よく連携している」が約3割、「多少連携している」が5割弱で、あわせて約8割が連携していると答えていますが、「連携していない」も約1割半ばみられました。

町会・自治会等の会議への出席は、「ある」が約6割、「ない」が3割半ばとなっています。出席回数は、「1~5回」で約8割を占めています。

町会・自治会との連携で必要なこと（自由記入）

町会・自治会との連携で必要なこと（自由記入）では、連携の必要性を多くの人を感じており、「情報交換、意見交換が必要」「役割分担による活動」などの意見がみられました。ただし、「町会のなかで健康づくり推進員が知られていない」など認知に関する課題もみられました。その対策として「町会名簿に推進員の肩書きを入れている」といった意見もありました。そのほか、「町会の役員の一つとして位置づける」「連携が取れているが、頼られすぎのところがある」などの意見が寄せられました。

(4) 関係機関、関係団体との関わりについて

地域の子育て関連団体（子ども会、子育てサークル等）との連携

地域の子育て関連団体との連携は、「多少連携している」「よく連携している」をあわせて約6割が連携しています。一方で、「連携していない」という回答も3割半ばみられます。

学校との連携

学校との連携は、「多少連携している」「よく連携している」をあわせて4割半ばが連携しています。一方「連携していない」は約5割で、連携の有無は半々となっています。

地域の民間施設や事業者、NPO等との連携

「多少連携している」「よく連携している」をあわせ1割半ばが連携していますが、「連携していない」が7割半ばとなっています。

関係機関、団体との連携について（自由記入）

「連携の必要性を感じる」「横の連携により理解を深める」「どのような機関、団体があるか知ることが大事」などの意見とともに、具体的な連携先として「小学校」「障害者施設」「老人ホーム」「グループホーム」などの機関名もあげられました。

（５）地域における福祉等の取り組みについて

福祉の取り組みへの評価

高齢者への支援など６つの項目について取り組みへの評価を４段階で伺ったところ、十分な支援や体制整備ができている（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が多い）項目は、『子育て世帯への支援』５割半ば、『高齢者への支援』約５割となっています。

一方、支援や体制整備が充分でない（「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」が多い）項目は、『犯罪から子どもや高齢者等を守る体制』、『災害時用援護者への支援』ともに６割半ば、『障害者への支援』約６割となっています。

高齢者向けサロン、子育てサロンへの意見（自由記入）

（高齢者向けサロンについて）

高齢者向けサロンについて、「活動が定着している」などの意見がみられる一方で、課題についても多く意見がありました。利用者側の視点からは「女性の出席率が高く男性が少ない」「利用者が固定化している」「高齢者自身が運営に携われるサロンがよい」「出てこない人に積極的に声をかけるべき」「世代を超えて利用できるサロンにしては」、担い手側の視点からは「ボランティア不足」「役員の負担が重い」など、実施回数やサロンの数については、「実施回数が少ない」「サロンの数が少ない」「サロンが増えるなかで、実施場所が少ない」「いつでも開いているサロンは望ましいが行政レベルでの検討が必要」「町会単位での実施がよい」「送迎や身近な場所での実施」などの意見が、内容等については、「利用者のニーズにあわせた内容にすべき」「PRをもっとすべき」などの意見が寄せられました。

（子育てサロンについて）

「母親の関わりが積極的」「母親同士が交流できる大切な場所」など、サロンの利用され方、大切さに関する意見がみられました。今後もサロンの参加者が増え、場所を増やしていくことの大切さ述べられているものの、「ボランティアが不足している」「サロン数は増やしたいが、担い手が伴わない」「参加者が増えると測定に時間をとられるというデメリットもある」「場所、スタッフの確保が必要」「開催場所が少ない」「実施場所が狭い」「他地域からもくるので部屋が足りない」など、場所や担い手に関する課題が多くみられました。

また、「母と子の集い以降の１歳半～３歳までのケアが不足している」「他国の人への支援も必要」などの課題もみられました。

引きこもりがちな方への支援

必要な支援は、「声かけ」が約 7 割、「訪問活動」が約 4 割半ばと、この 2 項目が高い割合となっています。

地域でできる子育て支援

必要な支援は、「声かけ」が 5 割半ば、「親の相談相手」4 割半ば、「相談の場づくり」約 4 割などとなっています。

地域に必要な健康づくり活動

健康づくり、食の育成、栄養改善といったことに対して、地域でどのような活動が必要かを伺ったところ、「講座の開催」が 6 割半ば、それに「啓発」「相談の場づくり」が 3 割台、「サロン活動」2 割台で続いています。

(6) 市社会福祉協議会との関わりについて

市社会福祉協議会との連携と今後力を入れるべき施策

市社会福祉協議会との連携は、約 4 割が「上手くいっている」、2 割半ばが「連携に課題がある」という回答でした。

市社会福祉協議会が力を入れるべき施策については、「市が実施していない福祉サービスの提供（すきまを埋めるサービスの提供）」、「小地域活動（地区社協、町会等での活動）への支援」がともに約 4 割で多く、「ボランティアの育成」「福祉に関する啓発活動や学習機会の提供など」「地域活動を推進する人材やリーダーの育成」が 3 割台で続いています。

最後に、市社会福祉協議会への要望・意見について伺ったところ、「社協の実施事業はよいが、依頼が多すぎる」「様々な事業があり大変。これ以上の連携は不安」「負担を軽くし、ボランティアをしたい量だけできるようにすべき」「地域が必要とすることを絞り込んで実施すべき」などの意見があり、支える側の負担について多く意見が寄せられました。また、「自分の意志ではなく強制的に社協の活動に参加させられ反発を感じる」という意見もありました。

「市社協、地区社協についてもっと PR する」「地域が主体的に行っている事業をもっと周知する」といった周知に関する意見もありました。地域組織については、「役員の兼務の人が多いため、できるだけ多くの人に関わってもらうようにすべき」「各組織間の交流が必要」「町会、自治会が福祉に対して目を向けるよう、社協が町会等への福祉指導を行ってほしい」などの意見が、そして、必要なサービスや場については、「高齢者向けの学習教室」「気軽に集まれる場」「『心の風邪をひいた人』が集まれる場」「ちょっとした手助けが受けられるしくみ」などの意見がありました。

4 おせっ会・サロン活動

(1) 回答者の属性

活動年数

活動年数は、「1～3年目」2割半ば、「4～6年目」3割強、「7～9年目」2割強、「10年目以上」2割強となっています。

(2) 立ち上げの経緯や活動内容等について

立ち上げの経緯

立ち上げの経緯については、「地区社協からの声かけで始めた」3割半ば、「自発的に立ち上げた」3割弱、「市や市社協からの声かけで始めた」2割強などとなっています。

開催頻度と開催時間

開催頻度については、「月1～2回程度」が7割強で最も多くなっています。

開催時間帯については、「午後」が4割強、「午前、午後の両方」が約3割、「午前」が3割弱となっています。

開催時間については、「2時間未満」と「2～4時間未満」がともに4割弱、「4～6時間未満」が2割強となっています。

活動場所

活動場所としては、「ふるさとセンター（町内会館）」が4割半ば、「近隣センター」2割半ばとなっています。「その他」も2割半ばと多く、「（団地や公園等の）集会所」「自治会館」「福祉センター」「公民館」などとなっています。

利用対象者

利用対象者としては、「高齢者」7割強、「子どもと保護者」3割弱となっています。「その他」では、「年齢を問わず誰でも参加可能」という団体が多くみられました。

平均利用者数

平均利用者数は、「11～20人」が4割、「21～30人」2割半ばとなっています。

利用者の男女比率

「女性が多い」が8割強で圧倒的に多く、次いで「女性がやや多い」1割半ばが続きます。「男性が多い」「男性がやや多い」という回答はありませんでした。

利用者の平均年齢

「70代」が5割と半数を超え、次いで「60代」1割半ば、「80代以上」7.1%で、60代以上で7割半ばを占めます。

「0～1歳半未満」と「1歳半～3歳未満」はともに1割弱となっています。

1 回あたりの参加費

「200 円未満」が 5 割強で最も多く、次いで「無料」が 3 割半ばとなっています。このほか、「200～400 円」3.5%、「400～600 円」2.4%と続きますが、「600 円以上」という回答はみられませんでした。

主な活動内容

「歌」「血圧測定」「食事」「講話」については、4～6 割の団体が取り組んでいます。その他、「旅行」「ウォーキング」「手芸」「マジック」「ゲーム」など多様な活動が挙げられています。

(3) 運営等について

スタッフ数

総スタッフ数は、「11～15 人」が最も多く 3 割強、「6～10 人」が 2 割強、「16～20 人」「21 人以上」がともに 1 割半ばとなっています。

毎回の平均参加スタッフ数については、「10 人以上」「7～9 人」がそれぞれ 3 割半ば、「4～6 人」が 2 割強となっています。

スタッフの男女比率

「女性が多い」が 8 割半ばと圧倒的に多く、「女性がやや多い」が 5.9%も含め、女性の比率が高くなっています。

スタッフの平均年齢

「60 代」が半数近くを占め、「50 代」が 2 割半ば、「70 代」1 割半ばと続きます。「40 代」以下の回答はみられず、高年齢の方が中心に活動されている傾向がみられます。

年間の運営費

「5～10 万円未満」3 割半ば、「1～5 万円未満」3 割弱、「1 万円未満」1 割強と続いています。「10 万円以上」は、あわせて 1 割半ばとなっています。

財源

「地区社協からの補助」が約 6 割、「参加費」が 4 割半ば、「町会・自治会等からの補助」4 割弱、「市社協からの補助」約 1 割となっています。

活動のよい点

活動のよい点、やりがいを感じる点としては、「人とのつながりができること」が約 7 割と最も多く、次いで「参加者から感謝されること」約 3 割、「地域が活性化すること」2 割半ば、「自らの成長（福祉に関する知識を得るなど）を感じること」1 割半ばとなっています。

活動の難しさ、負担に感じる事

活動をするなかで難しさや負担に感じることは、「ボランティアが増えない」が4割で最も多く、次いで「参加者が増えない」3割半ば、「毎回のイベントを考えるのが難しい」約3割などとなっています。

活動のために心がけている事

参加者や実施日、内容等については、「参加者が負担を感じないようにしている」「決めた日に実施している」「見回り活動との連携で参加者は増加傾向にある」「室内と室外を半々程度にしている」などの意見が、企画・運営に関しては、「定例会で企画などを話し合う」「反省会で気になることを話し合う」「ボランティアも一緒に楽しみながら行っている」「ボランティア全員で運営している」「スタッフ同士のコミュニケーションを大切にしている」など、そして、関係機関との連携については、「市社協、市保健師の協力、指導を受けている」「関係者の意見を取り入れマンネリ化防止」「介護施設のスタッフに協力してもらっている」「老人会の理解を得るためスタッフが入会している」などの意見がみられました。

子ども向けサロンでは、「プライバシーの維持」「子どもの安全確保」「健康推進員と民生委員、ボランティアの連携で実施」などの意見がみられました。

困ったときの相談先

活動で困ったときの相談先については、「市の保健師や職員」3割、「市社協職員」2割半ば、「民生委員児童委員（主任児童委員）・柏市民健康づくり推進員」2割半ばという回答のほか、「その他」が3割強と多くなっています。その他の意見としては、「スタッフ同士で相談する」「学校や施設」「地域の関係機関の長などに相談する」などとなっています。

活動を充実させるために必要な事

活動を充実させるために必要なことについては、「他のサロン活動の見学や他の団体等との意見交換」5割、「研修・講座への参加」4割、「市や市社協等からの専門職やアドバイザーの派遣」3割半ばとなっています。

参加したい研修や講座

対象者のニーズに対応できる講座という意見があり、具体的には、「レクダンス」「手芸」「体操」「ゲーム」などのレクリエーションに関するものや、「腰痛予防」「転倒防止」など健康に関する講座、「障害者支援、高齢者介護支援」「事故に対する予備知識」「傾聴」など、介護やケアに関するものなどがあげられました。

また、「他のサロンスタッフとの交流会」「活動の成功事例、失敗事例の当事者発表と専門家の解説」など、事例学習のほか、「地域のことを学べる場」「市や市社協の福祉計画について」「文書作成（起案、報告、お知らせ等）」などの意見もありました。講座の受け方として、「スタッフ皆が受けることができる」などの意見もみられました。

子ども向けでは、上記と同じく、他のサロンとの交流などに加え、乳幼児向けの遊びとして、「手遊び」「わらべ歌」「紙芝居」「エプロンシアター」や、「虐待問題が発生したときの対応方法」「親子への対応の仕方」など専門的な指導、「市内の子育ての状況説明」などの意見がみられました。

怪我や事故などの事例

「誤嚥の対応に苦慮した」「食べ物を詰まらせた人には、柔らかいもの、小さくしたものを食べてもらっている」「サロンに来て具合が悪くなった人への対応に苦慮した。連絡できる場所があるとよいと思った」などの意見がみられました。

(4) 活動の案内や引きこもり者への対応等について

利用者への案内方法

「町会等の回覧」「訪問による声かけ」ともに4割半ば、「近隣センター等に掲示」「地区社協の広報紙に掲載」ともに2割半ばとなっています。「その他」も約4割みられ、具体的な意見としては、「町会などの掲示板の利用」や「口コミ」などとなっています。

引きこもりがちな方への対応

引きこもりがちな方への対応は、「している」が5割半ば、「していない」が4割強となっています。

引きこもりがちな方へ必要な対応

「情報提供」「家庭訪問」「近所の人などに声をかけてもらう」「無理強いせず地道に誘っていく」などの対応が寄せられました。また、「どこに引きこもりの人がいるのかわからない」「民生委員が働きかける方がよい」「民生委員との情報交換、意見交換」などの意見もみられました。

子ども向けサロンでは、「広報やインターネットの活用」「健康推進員、民生委員に協力をお願いする」「町会長らの協力を得る」「地域で親子と知り合うことがらはじめ、信頼関係をつくりサロンに誘う」といった意見と「親子の情報がほとんどないので、情報の把握が必要」「母子手帳を渡すときなど行政側がサポートしてほしい」などの意見がみられました。

(5) 地区社会福祉協議会との関わりについて

地区社会福祉協議会の活動

「頻繁に携わっている」が4割半ば、「ときどき携わっている」が4割強と、あわせて8割半ばが社協の活動に携わっており、「携わっていない」は1割強となっています。

地区社会福祉協議会の課題、改善点

サロンに関わる意見として、「サロンに対する予算が少ない」「サロンの活動資金は平等にわけられているが、町会からの支援や会場使用料の有無などで実状は異なる点

を考慮してほしい」「社協職員がサロンにアドバイスをする」「近隣センターでのサロンだけでなく、すべてのサロンに目を向けてほしい」などの意見がみられました。

地区社協については、「民生委員、健康推進員に比べ一般ボランティアが関わりにくい雰囲気がある」「役員人事を幅広くし、若い人を増やす」などの意見が、そして、活動に関しては、「地区社協の活動まで、手が回っていない」「サロンと地区社協のボランティアの両方で負担を感じる」「地区社協に協力しているが、地区社協からの支援はない」「ボランティア個人の負担が均等になるよう工夫する」などの意見がありました。

地区社協に望むことは、「ボランティアの相談や経済的支援」「地域福祉を充実させるためにリーダーが必要」「事務的な支援」「地区社協独自のイベントをやめ、地区内の福祉団体の支援を中心にする」「もっとPRを。地域に活動が理解されていない」などの意見がありました。

地区社協の運営に関しては、「多くの人の意見を聞いてから行事の内容を決めてほしい」「会議に行くとき既に決まっていた口を出せないことが多い」「地域内の横のつながりを大切にしてほしい」などが、また、全般に関わる意見として、「関係機関が連携して地域福祉の充実に努める」「地域健康福祉（活動）計画や地区別計画に基づいて、地域で活動する団体の活動状況を掌握し、検討する必要がある」といった意見もみられました。

(6) 町会・自治会、関係団体等との関わりについて

町会・自治会等との連携

「よく連携している」4割強、「多少連携している」4割半ば、あわせて8割半ばが連携していると回答しています。一方、「連携していない」は1割強となっています。

町会・自治会等との今後の連携のしかた

サロン活動との連携に関しては、「互いに参加しあい、協力しあう」ことが大切という意見が多くみられました。現状の連携については、「町会役員もボランティアでサロンに参加しているので連携がとれている」という意見の一方で、連携が不十分という意見も多く「町会の中でサロン活動の認知を高めていく」「毎年交代する町会長や役員にサロン活動の周知を図る」「町会と地区社協をつなぐ人が必要」といった意見がありました。

また、地域活動での連携については、「防災と福祉でさらなる連携が必要」「個人情報の問題があるが、一人暮らしなどで介護が必要になった人に、町会、自治会の援助が必要」などの意見がありました。

子ども向けサロンの意見では、上記に重なる意見の他に、「親子会や町会と連携を取りながら不登校生徒の発見などに努めたい」「子育て支援必要性、子育てサロンの必要性を、町会、自治会に浸透させていくことが大切」「今後も地域ぐるみで子育て中の親子を支援してほしい」「マンションやアパートが多く町会加入者は少ないが、少しずつ歩み寄り、少しでも安心して暮らしやすい町会になるよう、いろいろな行事参加等も

増えると良いと思う」「子育てサロン、高齢者サロン等に町会、自治会関係者を招待し、その状況を周知、把握してもらう」などの意見が寄せられました。

その他の団体との連携の有無

地区社協、町会・自治会以外で連携している団体があるかを伺ったところ、「ある」、「ない」ともに4割半ばとなっています。

(7) 市社会福祉協議会について

市社会福祉協議会に対する要望・意見

市社協の役割として、「市内各地域の間のパイプ役として、積極的に情報を収集、提供し、地域差をつくらないようにしてほしい」「弱い立場の人たちへの経済的支援や生きがいを持って暮らせるよう知恵を絞ってほしい」などの意見がありました。

サロン活動については、「各地区のサロンの実態を良く把握してもらいたい」「サロン(子育てサロンなど)の立ち上げや、内容の充実についてアドバイスを願う」といった意見、地域全体では、「誰もが利用できる活動拠点が必要」「ボランティア活動がしたいと思うような場所、交流、相談の場づくり」などに加え、人材に関して、「防災のためにも、役割(リーダー)を決め、なるべく多くの人の協力が保たれるよう、日頃から地域の連携を密にするよう働きかけてほしい」「定年退職者の活用が出来る環境づくり」などの意見がありました。

地域組織については、「ふる協と地区社協の一本化の問題が現実的になってきているが、福祉が後退しないよう望む」「ふる協と組織一本化した地区社協の活動をより良く出来るように、ふるさと協議会会長等に、社会福祉活動の重要性、意義などを説明する会議等を開催してもらい、併せて双方の助成金、補助金の経緯等も説明してほしい」などの意見が、地区社協に対しては、「全地区社協の運営能力の平均化を図れるよう、運営、事務処理能力向上等の研修等の支援が必要」、町会等への支援については、「毎年、総入れ替えになる町会長はじめ役員会に対し、社協が、情報を伝える機会を持ち、現実に合った町会運営となるよう力を出してほしい」などの意見が寄せられました。

また、市社協に対して、「協議会の窓口(事務所)に入りづらい。もっと明るい対応を」「一般住民から見るととても影が薄い。もっと地域に下りて来てほしい」「市社協やサロンの存在を知らない人がほとんどだと思う。いろいろな機会に広めてボランティアの裾野を広げ、地域力を高めてほしい」といった意見がみられました。

子ども向けサロンでは、上記に加え、「子育てサロンに対する市の支援(保健師等)が減っていく場合、市社協から保健師の経験者などを手配してもらえれば大変ありがたい。母親たちは身近に気軽に相談できる保健師を頼りにしている。」といった意見もありました。

5 障害関係ボランティア団体

(1) 回答者の属性

活動エリア

活動エリアは、「市内全域」約4割、「市内の限定された地区」2割半ば、「特に活動エリアの設定はない」2割弱となっています。「市外」という回答はありませんでした。

(2) 活動対象者について

活動対象者

活動対象者は、「身体障害者」が6割半ばと最も多く、そのほか「知的障害者」3割強、「障害児」2割半ば、「精神障害者」1割半ばとなっています。

活動対象者の生活形態は、「施設」が5割半ば、「在宅」が約4割となっています。

活動対象者数

活動対象者数は、「31人以上」が4割弱で最も多く、次いで「21～30人」2割半ばとなっています。このほか、「11～15人」と「5人以下」がともに約1割、「6～10人」が1割弱で続いています。

活動対象者の年齢

活動対象者の年齢は、「60代以上」が約7割、「50代」約5割、「40代」4割半ばと、高い年齢層が多い傾向がみられますが、「10歳未満」「10代」「20代」もそれぞれ3割前後となっています。

(3) 活動内容について

活動回数

活動回数は、「月1～2回程度」が約4割と最も多く、「週1回程度」と「週2～3回程度」「週4回以上」がともに1割半ばとなっています。

半数近くの団体が、週1回以上開催しています。

主な活動内容

主な活動内容は、「施設ボランティア」約4割、「レクリエーション」4割弱、「訪問ボランティア」2割半ば、「リハビリ」1割半ばなどとなっています。

活動の周知方法

活動の周知については、「施設や関係団体を通じて配布・案内」が4割弱、「広報・機関紙」「チラシの配布・回覧・掲示」がともに2割半ばとなっています。「その他」の回答も多く、「商業施設での広報」「口コミ」「ボランティア連絡協議会やボランティアセンターの利用」などとなっています。

(4) 運営等について

ボランティアスタッフ数

ボランティアスタッフ数については、「31人以上」が約3割と最も多く、次いで「6~10人」2割半ば、「16~20人」「21~30人」がともに1割半ばとなっています。スタッフ数が「11人以上」は6割を超えています。

年間の運営費

年間の運営費については、「5~10万円未満」が2割半ばと最も多いものの、「40万円以上」が2割弱、「1~5万円未満」「1万円未満」がそれぞれ1割半ばなど、運営費は様々です。

運営費の財源

運営費の財源は、「会費」7割、「市や市社協からの補助」5割半ばの2つが多く、「寄付」2割半ば、「バザーなどの収益」2割弱、「地区社協からの補助」1割半ばなどが続きます。「その他」では「運営費は掛からない」という意見もみられました。

活動のよい点、やりがいを感じる点

活動のよい点、やりがいを感じる点としては、「人とのつながりができること」「自らの成長を感じること」「利用者から感謝されること」がそれぞれ4割台、「地域が活性化すること(障害に対する地域の理解が広がることなど)」2割半ばとなっています。

活動の難しさ、負担に感じる点

活動をするなかで難しさや負担に感じる点については、「ボランティアが増えない」が約6割で最も多く、「活動のマンネリ化」と「活動費が少ない」がともに2割弱で続いています。「その他」では、「組織の運営」「ボランティアの育成」「高齢化の問題」「場所の確保」「交通費の負担」などが挙げられています。

困ったときの相談先

活動で困ったときの相談先については、「市社協職員」4割半ば、「関係団体や施設」4割弱、「市の保健師や職員」1割半ばなどとなっています。「外部には相談しない」という回答も2割弱みられます。

活動対象者や家族からの意見・要望

「イベント、メニューへの要望」「自宅でのサポート」「訪問の日数、頻度の増加」などの活動内容への意見のほか、「要求がだんだん多くなっていく」「今後もボランティアを続けてほしいといわれる」「血压測定や健康相談は感謝される」「夜の児童の送り迎えが危険」「事業者との人間関係ではなく、普通の人間関係をつくれる施策を望む人が多い」などの意見がありました。

(5) 地域とのかかわりについて

地域における障害者（児）への理解

地域における障害者（児）への理解については、「ある程度理解されている」が半数を占めるものの、「あまり理解されていない」も4割弱となっています。

障害者（児）への理解を深めるための取り組み

理解・意識啓発の側面からは、「福祉教育を幼児から取り入れる」「行政職員に理解してほしい」などが、交流・ふれあいの観点からは、「挨拶を基本とした、地域の絆、地域力が大切」「コミュニケーションを取ることでよく聴くことが大切」「子どもの頃から障害を持った人と関わっていけばよい」などが、地域の関わりとしては、「障害者（児）が町会など地域の行事に出掛ける機会が増えると良い」「障害者（児）との交流会を行い、地域にどのような障害者（児）がいるのか、どう対応したら良いのか、話し合いをしながら理解を深めていくのが良い」「障害者施設を地域でサポートする輪が考えられないか。また逆に、施設から近隣の地域への関係を深める方法をとってはどうか」などの意見がみられました。また、「民生委員やボランティアは、障害者がどこに住んでいるのか把握出来ないので個人情報保護法の改正を望む」といった意見もみられました。

地域における障害者（児）への支援

身近な地域における障害者（児）に対する支援は、「ない」が5割半ば、「ある」が2割半ばとなっています。

具体的な支援としては、「サロン等」「企業からの寄付」などの意見がありました。

望まれる地域のなかでの交流や活動（支援）

交流機会として、「自然な形で触れ合えるような交流を各地域で出来たら良い」「障害者（児）を対象にした、やさしい祭りや運動会など」「同年代の子どもたちとの交流が出来る場」「地域の行事・活動に障害者（児）も自由、気楽に参加出来る工夫、雰囲気づくりが必要」などの意見がみられました。また、「土・日校庭の開放などを含め、学校と地域が仲良しになること」「ふれあいの輪が広がるような活動にも資金援助があれば良い」などの意見もありました。

移動・交通面で、「交通の便が悪くて参加出来ない人が多いので、交通手段の確保」「歩道や公共施設のバリアフリー化で外出しやすくする」といった意見が、また、情報バリアフリーの観点からは、「市内の小中学校での手話指導と交流が市内全域で行われると良い」「公的行事には、必ず手話通訳者、要約筆記者（OHP）を付けてほしい」などの意見がありました。

連携、交流している団体

連携や交流をしている団体の有無は、「ある」が4割半ば、「ない」4割弱となっています。

地区社会福祉協議会との関わり

地区社会福祉協議会との関わりについては、「頻繁に関わっている」は約 1 割、「ときどき関わっている」6 割強で、あわせて 7 割半ばが関わりを持っています。一方、「携わっていない」も 2 割半ばみられます。

(6) 市社会福祉協議会について

市社会福祉協議会に対する要望・意見

ボランティア活動の支援全般については、「合併後、柏社協になって規模が大きくなり細かい所まで目が届かないのだろうが、温かい目でボランティアを見て、援助してほしい」といった意見が、ボランティアの養成については、「ボランティアが高齢化しているため、団塊の世代を中心にボランティアの教育・広報をお願いしたい」「講師の確保などにより、ボランティア講座修了者のケアをしてほしい」などが、ボランティア活動支援については、「活動場所の安定確保を望む」「バザー祭り等で得たお金が多過ぎたようで補助金をカットされた。これでは意欲が薄れるのではないか?」「それぞれの活動の状況等を把握してほしい」などの意見がありました。

ボランティアセンターや社協に対しては、「ボランティアセンターの内容充実」「ボランティアセンターを訪ねた人への対応を向上させる」「社協とボランティア(連・団体)に温度差がある。ボランティアの過剰期待もあるかと思うので、応援出来ること、出来ないことの説明をはっきりと」などの意見が、ボランティアとの関わり、調整に対しては、「ボランティア活動の現場に出向いて生の声を聞いて頂けたら嬉しい」「ボランティア団体は、ほんの一部しか見えていないので、地域活動でカバーされていない事項に対し、社協の調整の指導が必要」「私たちのような団体とも協議する機会をつくって頂けたらありがたい」などの意見がありました。

そのほか、全般に関わる意見として「職員一人ひとりが障害者をもっと知ること」「市民に密着し、情報発信・受信を行ってほしい」「中核市への移行に伴い、独自事業の展開など社協の活動がどのように変わっていくのか知りたい」「社会福祉協議会がもっと理解されるように(活動について、または組織について具体的に)広報活動をして頂きたい」「社協はいろいろなことを相談できる所であってほしい」などの意見が寄せられました。

調査結果

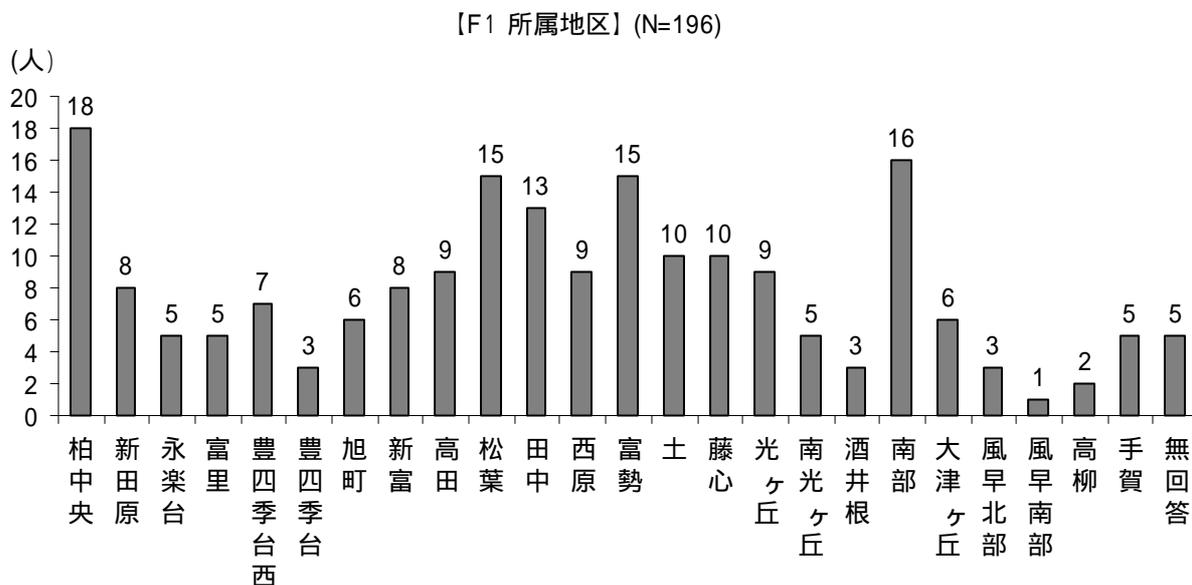
1 町会・自治会・区・管理組合

もくじ

(1) 回答者の属性	28
(2) 町会等の取り組みや課題について	31
(3) 災害を想定した取り組みについて	35
(4) 健康福祉活動について	39
(5) 地域の活動団体等について	45
(6) 地区社会福祉協議会との関わりについて	53
(7) 市社会福祉協議会との関わりについて	58

(1) 回答者の属性

所属地区



(上段:人、下段:%)

合計	1. 柏中央	2. 新田原	3. 永楽台	4. 富里	5. 豊四季台西	6. 豊四季台
196 100.0	18 9.2	8 4.1	5 2.6	5 2.6	7 3.6	3 1.5
7. 旭町	8. 新富	9. 高田	10. 松葉	11. 田中	12. 西原	13. 富勢
6 3.1	8 4.1	9 4.6	15 7.7	13 6.6	9 4.6	15 7.7
14. 土	15. 藤心	16. 光ヶ丘	17. 南光ヶ丘	18. 酒井根	19. 南部	20. 大津ヶ丘
10 5.1	10 5.1	9 4.6	5 2.6	3 1.5	16 8.2	6 3.1
21. 風早北部	22. 風早南部	23. 高柳	24. 手賀	無回答		
3 1.5	1 0.5	2 1.0	5 2.6	5 2.6		

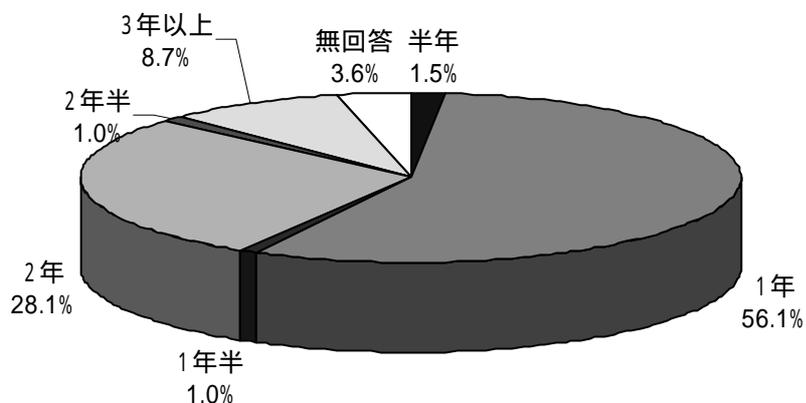
上記 24 地区に加えて、4 エリアでの集計も行っています。

4 エリアは、次のとおりです。(番号は上記 24 地区のもの)

1 ~ 8 中央、9 ~ 13 北部、14 ~ 19 南部(旧柏)、20 ~ 24 南部(旧沼南)

会長の任期

【F2 会長の任期】 (N=196)



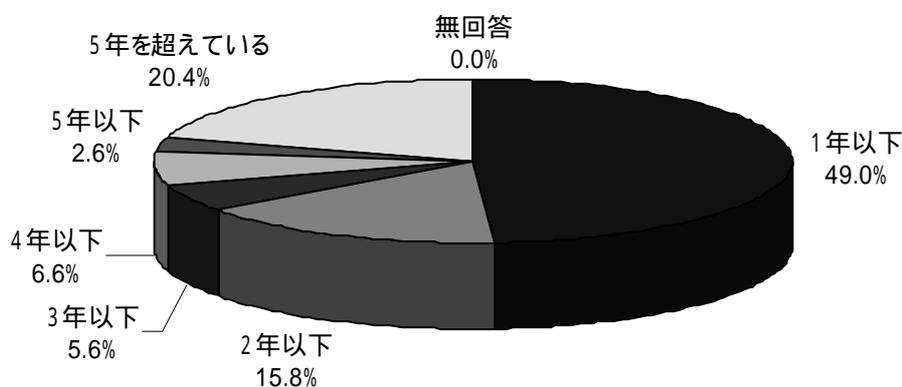
(上段:人、下段:%)

合計	1. 半年	2. 1年	3. 1年半	4. 2年	5. 2年半	6. 3年以上
196	3	110	2	55	2	17
100.0	1.5	56.1	1.0	28.1	1.0	8.7
無回答						
7						
3.6						

会長の任期は、「1年」が56.1%と半数を超え、次いで「2年」28.1%が続き、「1年」もしくは「2年」で8割半ばを占めています。一方、「3年以上」も8.7%となっています。

就任年数

[F3 就任年数] (N=196)



(上段:人、下段:%)

合計	1. 1年以下	2. 2年以下	3. 3年以下	4. 4年以下	5. 5年以下	6. 5年を超えている
196	96	31	11	13	5	40
100.0	49.0	15.8	5.6	6.6	2.6	20.4
無回答						
0						
0.0						

今回のアンケートに回答していただいた長の就任年数は、「1年以下」が最も多く49.0%、次いで「5年を超えている」20.4%と任期年数に大きな差がみられます。それに、「2年以下」15.8%が続き、「3年以下」「4年以下」「5年以下」は1桁台の割合となっています。

前問の会長任期年数では、「3年以上」が8.7%であったことに対し「5年を超えている」が20.4%もみられることから、任期を超えて就任されている長が少なからずいるものと想定されます。

(2) 町会等の取り組みや課題について

町会等での活動内容

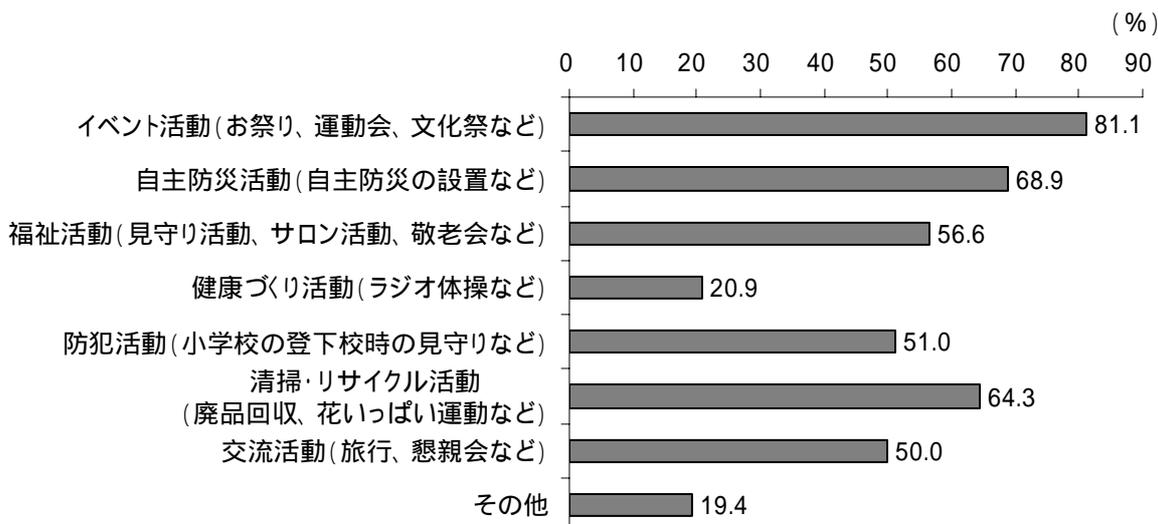
質問1 町会等では、どのような活動に取り組まれていますか。(はいくつでも)

1. イベント活動(お祭り、運動会、文化祭など)
2. 自主防災活動(自主防災の設置など)
3. 福祉活動(見守り活動、サロン活動、敬老会など)
4. 健康づくり活動(ラジオ体操など)
5. 防犯活動(小学校の登下校時の見守りなど)
6. 清掃・リサイクル活動(廃品回収、花いっぱい運動など)
7. 交流活動(旅行、懇親会など)
8. その他

町会等の活動については、「イベント活動(お祭り、運動会、文化祭など)」が81.1%と最も多く、次いで「自主防災活動(自主防災の設置など)」が68.9%、「清掃・リサイクル活動(廃品回収、花いっぱい運動など)」が64.3%と続きます。

このほか、「福祉活動(見守り活動、サロン活動、敬老会など)」56.6%、「防犯活動(小学校の登下校時の見守りなど)」51.0%、「交流活動(旅行、懇親会など)」50.0%なども半数以上が取り組んでいますが、「健康づくり(ラジオ体操など)」は20.9%にとどまっています。

【質問1 活動内容】(複数回答)(N=196)



< クロス集計：4 エリア別 >

	合計	1. イベント活動(お祭り、運動会、文化祭など)	2. 自主防災活動(自主防災の設置など)	3. 福祉活動(見守り活動、サロン活動、敬老会など)	4. 健康づくり活動(ラジオ体操など)
総計	196 (100)	159 (81.1)	135 (68.9)	111 (56.6)	41 (20.9)
中央	60 (100)	50 (83.3)	40 (66.7)	41 (68.3)	14 (23.3)
北部	61 (100)	58 (95.1)	44 (72.1)	32 (52.5)	12 (19.7)
南部(旧柏)	53 (100)	39 (73.6)	41 (77.4)	28 (52.8)	13 (24.5)
南部(旧沼南)	17 (100)	10 (58.8)	6 (35.3)	7 (41.2)	0 (0.0)
無回答	5 (100)	2 (40.0)	4 (80.0)	3 (60.0)	2 (40.0)

	5. 防犯活動(小学校の登下校時の見守りなど)	6. 清掃・リサイクル活動(廃品回収、花いっぱい運動など)	7. 交流活動(旅行、懇親会など)	8. その他
総計	100 (51.0)	126 (64.3)	98 (50.0)	38 (19.4)
中央	28 (46.7)	36 (60.0)	40 (66.7)	15 (25.0)
北部	30 (49.2)	43 (70.5)	24 (39.3)	13 (21.3)
南部(旧柏)	34 (64.2)	37 (69.8)	24 (45.3)	8 (15.1)
南部(旧沼南)	5 (29.4)	7 (41.2)	9 (52.9)	0 (0.0)
無回答	3 (60.0)	3 (60.0)	1 (20.0)	2 (40.0)

エリア別にみると、中央、北部、南部（旧柏）の3地区は同傾向にありますが、南部（旧沼南）では全体的に割合が低めとなっています。

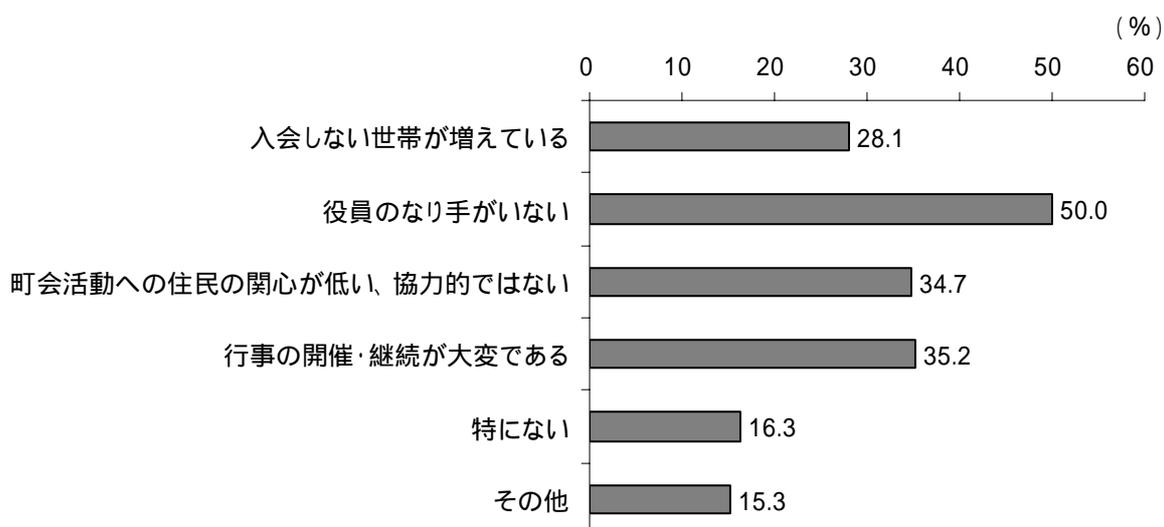
活動で困っていること

質問2 町会等の活動で困っていることはありますか。(はい/いつでも)

1. 入会しない世帯が増えている
2. 役員のなり手がいない
3. 町会活動への住民の関心が低い、協力的ではない
4. 行事の開催・継続が大変である
5. 特にない
6. その他

活動で困っていることについては、「役員のなり手がいない」が50.0%で最も多く、「行事の開催・継続が大変である」35.2%、「町会活動への住民の関心が低い、協力的ではない」34.7%、「入会しない世帯が増えている」28.1%と続いています。

【質問2 活動で困っていること】(複数回答) (N=196)



< クロス集計：4 エリア別 >

単位：人 (%)

	合計	1.入会しない世帯が増えている	2.役員のみなり手がいない	3.町会活動への住民の関心が低い、協力的ではない	4.行事の開催・継続が大変である	5.特にない	6.その他
総計	196 (100)	55 (28.1)	98 (50.0)	68 (34.7)	69 (35.2)	32 (16.3)	30 (15.3)
中央	60 (100)	20 (33.3)	35 (58.3)	18 (30.0)	18 (30.0)	10 (16.7)	13 (21.7)
北部	61 (100)	19 (31.1)	26 (42.6)	24 (39.3)	22 (36.1)	11 (18.0)	8 (13.1)
南部(旧柏)	53 (100)	10 (18.9)	25 (47.2)	21 (39.6)	21 (39.6)	7 (13.2)	6 (11.3)
南部(旧沼南)	17 (100)	5 (29.4)	10 (58.8)	4 (23.5)	6 (35.3)	3 (17.6)	1 (5.9)
無回答	5 (100)	1 (20.0)	2 (40.0)	1 (20.0)	2 (40.0)	1 (20.0)	2 (40.0)

エリア別にみると、「入会しない世帯が増えている」は南部(旧柏)が18.9%と他のエリアの2~3割台に比べ低くなっています。

「役員のみなり手がいない」は、中央、南部(旧沼南)がともに58.8%と高くなっています。

「町会活動への住民の関心が低い、協力的ではない」は南部(旧沼南)で低めとなっています。

「行事の開催・継続が大変である」は、エリアで大きな差はみられませんでした。

< クロス集計：就任年数別 >

単位：人 (%)

	合計	1.入会しない世帯が増えている	2.役員のみなり手がいない	3.町会活動への住民の関心が低い、協力的ではない	4.行事の開催・継続が大変である	5.特にない	6.その他
総数	196 (100)	55 (28.1)	98 (50.0)	68 (34.7)	69 (35.2)	32 (16.3)	30 (15.3)
2年以下	127 (100)	24 (18.9)	56 (44.1)	46 (36.2)	49 (38.6)	25 (19.7)	18 (14.2)
2年超え	69 (100)	31 (44.9)	42 (60.9)	22 (31.9)	20 (29.0)	7 (10.1)	12 (17.4)
無回答	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)

就任年数別にみると、「入会しない世帯が増えている」「役員のみなり手がいない」の割合は、就任年数が長い方の割合が高くなっています。

逆に、「町会活動への住民の関心が低い、協力的ではない」「行事の開催・継続が大変である」は就任年数が短い方の割合が高くなっています。

(3) 災害を想定した取り組みについて

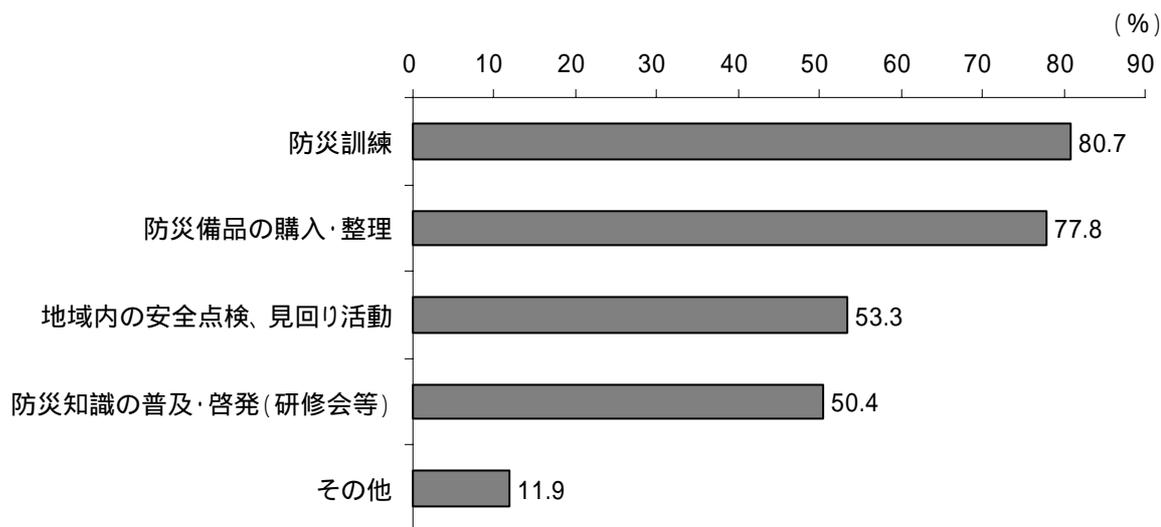
(自主防災活動取り組み団体のみ) 活動内容

質問3 質問1で、「2 自主防災活動」に取り組んでいると回答された方にお尋ねします。
 どのような取り組みをされていますか。(はいくつでも)

1. 防災訓練
2. 防災備品の購入・整理
3. 地域内の安全点検、見回り活動
4. 防災知識の普及・啓発(研修会等)
5. その他

自主防災活動に取り組んでいる団体にその内容を伺ったところ、「防災訓練」80.7%や「防災備品の購入・整理」77.8%が多く、次いで「地域内の安全点検」53.3%、「防災知識の普及・啓発(研修会等)」50.4%となっています。

【質問3(「自主防災活動」取り組み団体のみ)活動内容】(複数回答)(N=135)



<クロス集計：4エリア別>

単位：人 (%)

	合計	1. 防災訓練	2. 防災備品の購入・整理	3. 地域内の安全点検、見回り活動	4. 防災知識の普及・啓発(研修会等)	5. その他
総計	135 (100)	109 (80.7)	105 (77.8)	72 (53.3)	68 (50.4)	16 (11.9)
中央	40 (100)	29 (72.5)	29 (72.5)	26 (65.0)	22 (55.0)	8 (20.0)
北部	44 (100)	38 (86.4)	39 (88.6)	23 (52.3)	20 (45.5)	4 (9.1)
南部(旧柏)	41 (100)	34 (82.9)	30 (73.2)	19 (46.3)	21 (51.2)	3 (7.3)
南部(旧沼南)	6 (100)	4 (66.7)	4 (66.7)	2 (33.3)	3 (50.0)	0 (0.0)
無回答	4 (100)	4 (100.0)	3 (75.0)	2 (50.0)	2 (50.0)	1 (25.0)

エリア別にみると、「防災訓練」「防災備品の購入・整理」「地域内の安全点検」の3項目において、南部(旧沼南)の割合が他のエリアに比べ低くなっています。

災害時要援護者の把握

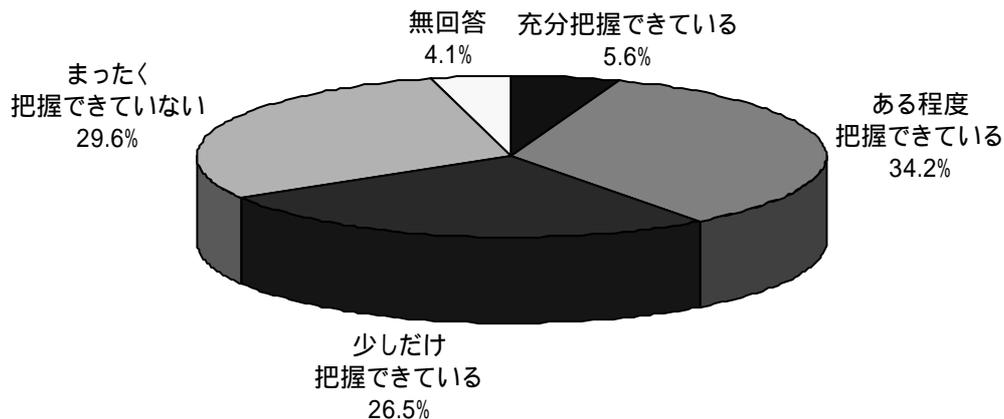
質問4 町会等では、高齢者や障害者、乳幼児等の災害時要援護者の把握はできていますか。(は1つ)

1. 充分把握できている
2. ある程度把握できている
3. 少しだけ把握できている
4. まったく把握できていない

高齢者や障害者、乳幼児等の災害時要援護者の把握については、「充分把握できている」5.6%、「ある程度把握できている」34.2%、「少しだけ把握できている」26.5%となっており、「充分」と「ある程度」をあわせてみると約4割が「把握できている」と回答しています。

一方で、「まったく把握できていない」も29.6%にのぼります。

【質問4 災害時要援護者の把握状況】(N=196)



<クロス集計：4エリア別>

単位：人 (%)

	合計	1. 充分把握できている	2. ある程度把握できている	3. 少しだけ把握できている	4. まったく把握できていない	無回答
総計	196 (100)	11 (5.6)	67 (34.2)	52 (26.5)	58 (29.6)	8 (4.1)
中央	60 (100)	1 (1.7)	24 (40.0)	19 (31.7)	12 (20.0)	4 (6.7)
北部	61 (100)	1 (1.6)	17 (27.9)	19 (31.1)	22 (36.1)	2 (3.3)
南部(旧柏)	53 (100)	7 (13.2)	19 (35.8)	9 (17.0)	16 (30.2)	2 (3.8)
南部(旧沼南)	17 (100)	1 (5.9)	6 (35.3)	4 (23.5)	6 (35.3)	0 (0.0)
無回答	5 (100)	1 (20.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	2 (40.0)	0 (0.0)

「充分把握できている」「ある程度把握できている」を合わせた割合を、エリア別にみると、中央41.7%、北部29.5%、南部(旧柏)49%、南部(旧沼南)41.2%となり、北部の割合が他のエリアに比べ低くなっています。

< クロス集計：就任年数別 >

単位：人（％）

	合計	1. 充分把握 できている	2. ある程度 把握できている	3. 少しだけ 把握できている	4. まったく把 握できていな い	無回答
総計	196 (100)	11 (5.6)	67 (34.2)	52 (26.5)	58 (29.6)	8 (4.1)
中央	60 (100)	1 (1.7)	24 (40.0)	19 (31.7)	12 (20.0)	4 (6.7)
北部	61 (100)	1 (1.6)	17 (27.9)	19 (31.1)	22 (36.1)	2 (3.3)
南部(旧柏)	53 (100)	7 (13.2)	19 (35.8)	9 (17.0)	16 (30.2)	2 (3.8)
南部(旧沼南)	17 (100)	1 (5.9)	6 (35.3)	4 (23.5)	6 (35.3)	0 (0.0)
無回答	5 (100)	1 (20.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	2 (40.0)	0 (0.0)

「充分把握できている」「ある程度把握できている」を合わせた割合を、就任年数別にみると、「2年以下」34.7%、「2年超え」49.3%と就任年数が長い程、把握の割合が高くなっています。

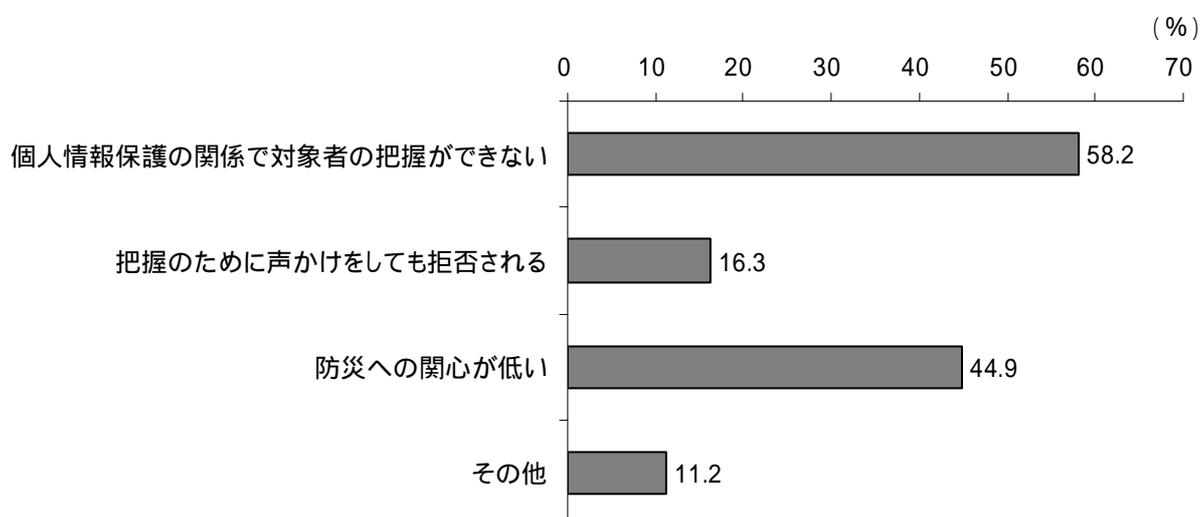
災害時要援護者の把握にあたっての課題

質問5 災害時要援護者の把握にあたり課題となっていることは何ですか。(はいくつでも)

1. 個人情報保護の関係で対象者の把握ができない
2. 把握のために声かけをしても拒否される
3. 防災への関心が低い
4. その他

災害時要援護者の把握にあたっての課題としては、「個人情報保護の関係で対象者の把握ができない」が 58.2%で最も多く、次いで「防災への関心が低い」44.9%、「把握のために声かけをしても拒否される」16.3%となっています。

【質問5 災害時要援護者の把握にあたっての課題】(複数回答) (N=196)



<クロス集計：4エリア別>

	合計	単位：人 (%)			
		1. 個人情報保護の関係で対象者の把握ができない	2. 把握のために声かけをしても拒否される	3. 防災への関心が低い	4. その他
総計	196 (100)	114 (58.2)	32 (16.3)	88 (44.9)	22 (11.2)
中央	60 (100)	34 (56.7)	10 (16.7)	26 (43.3)	8 (13.3)
北部	61 (100)	42 (68.9)	13 (21.3)	31 (50.8)	8 (13.1)
南部(旧柏)	53 (100)	29 (54.7)	8 (15.1)	21 (39.6)	5 (9.4)
南部(旧沼南)	17 (100)	7 (41.2)	1 (5.9)	9 (52.9)	0 (0.0)
無回答	5 (100)	2 (40.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	1 (20.0)

エリア別にみると、「個人情報保護の関係で対象者の把握ができない」は、北部で 68.9%と他のエリアに比べ高くなっています。

「把握のために声かけをしても拒否される」では、南部(旧沼南)の割合が 5.9%と低く、「防災への関心が低い」は、南部(旧柏)の割合が低くなっています。

(4) 健康福祉活動について

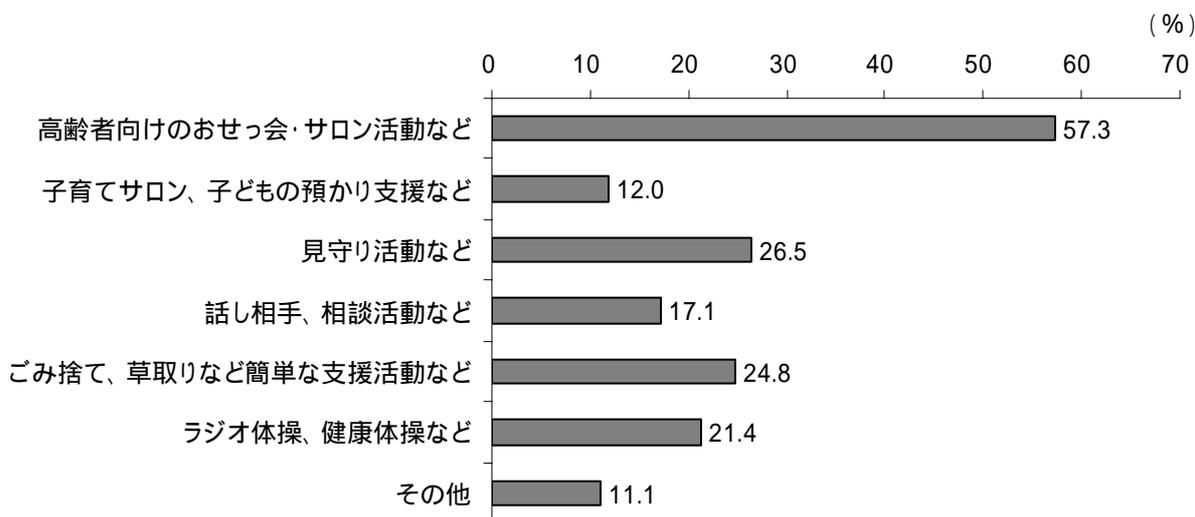
(福祉活動、健康づくり活動取り組み団体のみ) 活動内容

質問6 質問1で、「3 福祉活動」「4 健康づくり活動」に取り組んでいると回答された方にお尋ねします。どのような取り組みをされていますか。(はいいくつでも)

1. 高齢者向けのおせっ会・サロン活動など
2. 子育てサロン、子どもの預かり支援など
3. 見守り活動など
4. 話し相手、相談活動など
5. ごみ捨て、草取りなど簡単な支援活動など
6. ラジオ体操、健康体操など
7. その他

福祉活動や健康づくり活動に取り組んでいる団体にその内容を伺ったところ、最も多かったものは「高齢者向けのおせっ会・サロン活動など」で57.3%、次いで「見守り活動など」26.5%、「ごみ捨て、草取りなど簡単な支援活動など」24.8%、「ラジオ体操、健康体操など」21.4%となっています。

【質問6 (福祉活動、健康づくり活動取り組み団体のみ) 活動内容】(複数回答) (N=117)



<クロス集計：4エリア別>

単位：人（%）

	合計	1.高齢者向けのおせっ会・サロン活動など	2.子育てサロン、子どもの預かり支援など	3.見守り活動など	4.話し相手、相談活動など
総計	117 (100)	67 (57.3)	14 (12.0)	31 (26.5)	20 (17.1)
中央	44 (100)	23 (52.3)	8 (18.2)	13 (29.5)	11 (25.0)
北部	32 (100)	23 (71.9)	3 (9.4)	7 (21.9)	3 (9.4)
南部(旧柏)	31 (100)	15 (48.4)	2 (6.5)	7 (22.6)	5 (16.1)
南部(旧沼南)	7 (100)	4 (57.1)	0 (0.0)	2 (28.6)	0 (0.0)
無回答	3 (100)	2 (66.7)	1 (33.3)	2 (66.7)	1 (33.3)

	5.ごみ捨て、草取りなど簡単な支援活動など	6.ラジオ体操、健康体操など	7.その他
総計	29 (24.8)	25 (21.4)	13 (11.1)
中央	9 (20.5)	9 (20.5)	3 (6.8)
北部	6 (18.8)	5 (15.6)	3 (9.4)
南部(旧柏)	9 (29.0)	10 (32.3)	7 (22.6)
南部(旧沼南)	3 (42.9)	0 (0.0)	0 (0.0)
無回答	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)

エリア別にみると、「高齢者向けのおせっ会・サロン活動など」は北部で71.9%と他のエリアの4~5割台に比べ高い割合となっています。「子育てサロン、子どもの預かり支援など」「話し相手、相談活動など」では、中央がやや高くなっています。

そのほか、「見守り活動など」では大きな差はみられず、「ごみ捨て、草取りなど簡単な支援活動など」は南部（旧沼南）、「ラジオ体操、健康体操など」は南部（旧柏）の割合が高くなっています。

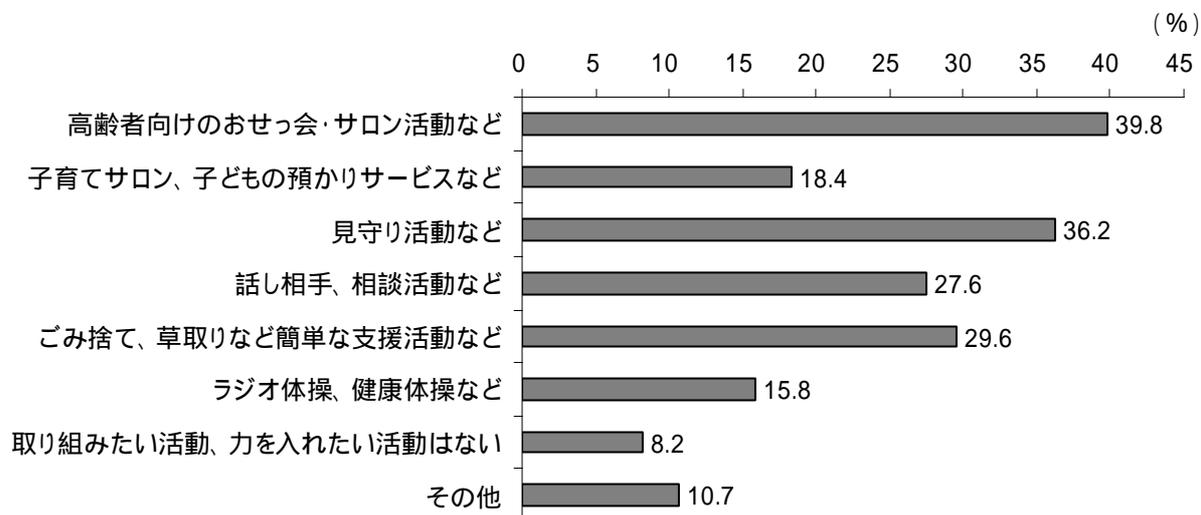
今後取り組みたい福祉活動

質問7 今後取り組みたい福祉活動や力を入れていきたい福祉活動は何ですか。現在取り組んでいる活動も含めお答えください。(はいいくつでも)

1. 高齢者向けのおせっ会・サロン活動など
2. 子育てサロン、子どもの預かりサービスなど
3. 見守り活動など
4. 話し相手、相談活動など
5. ごみ捨て、草取りなど簡単な支援活動など
6. ラジオ体操、健康体操など
7. 取り組みたい活動、力を入れない活動はない
8. その他

今後取り組みたい福祉活動や力を入れていきたい福祉活動を伺ったところ、多い活動としては、「高齢者向けのおせっ会・サロン活動など」39.8%、「見守り活動など」36.2%、「ごみ捨て、草取りなど簡単な支援活動など」29.6%、「話し相手、相談活動など」27.6%の順となっています。

【質問7 今後取り組みたい福祉活動】(複数回答) (N=196)



<クロス集計：4エリア別>

単位：人（％）

	合計	1.高齢者向けのおせっ 会・サロン活 動など	2.子育てサ ロン、子ども の預かりサー ビスなど	3.見守り活 動など	4.話し相手、 相談活動など
総計	196 (100)	78 (39.8)	36 (18.4)	71 (36.2)	54 (27.6)
中央	60 (100)	23 (38.3)	14 (23.3)	23 (38.3)	19 (31.7)
北部	61 (100)	28 (45.9)	10 (16.4)	20 (32.8)	13 (21.3)
南部(旧柏)	53 (100)	21 (39.6)	9 (17.0)	21 (39.6)	18 (34.0)
南部(旧沼南)	17 (100)	4 (23.5)	2 (11.8)	4 (23.5)	3 (17.6)
無回答	5 (100)	2 (40.0)	1 (20.0)	3 (60.0)	1 (20.0)

	5.ごみ捨て、 草取りなど簡 単な支援活動 など	6.ラジオ体 操、健康体操 など	7.組み たい活動、力 を入れない活 動はない	8.その他
総計	58 (29.6)	31 (15.8)	16 (8.2)	21 (10.7)
中央	19 (31.7)	9 (15.0)	6 (10.0)	10 (16.7)
北部	17 (27.9)	11 (18.0)	6 (9.8)	5 (8.2)
南部(旧柏)	17 (32.1)	10 (18.9)	2 (3.8)	4 (7.5)
南部(旧沼南)	3 (17.6)	0 (0.0)	1 (5.9)	1 (5.9)
無回答	2 (40.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	1 (20.0)

エリア別にみると、中央、北部、南部（旧柏）はほぼ同傾向にありますが、南部（旧沼南）では、各項目とも3エリアに比べ割合が低くなっています。

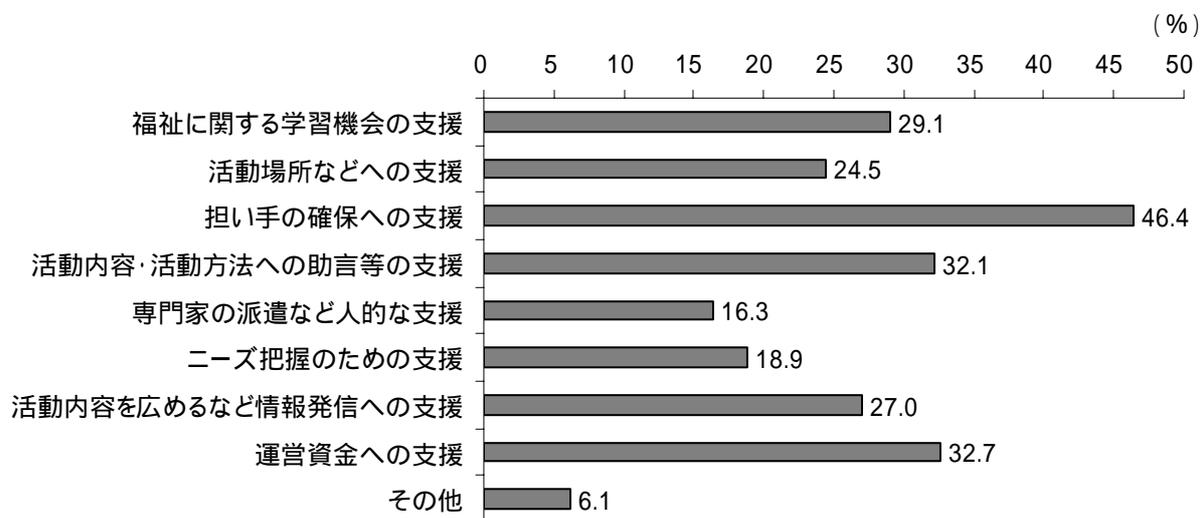
福祉活動に必要な支援

質問8 町会等で福祉活動に取り組むにあたり必要な支援は何ですか。(はいくつでも)

1. 福祉に関する学習機会の支援
2. 活動場所などへの支援
3. 担い手の確保への支援
4. 活動内容・活動方法への助言等の支援
5. 専門家の派遣など人的な支援
6. ニーズ把握のための支援
7. 活動内容を広めるなど情報発信への支援
8. 運営資金への支援
9. その他

福祉活動に取り組むにあたり必要な支援としては、「担い手の確保への支援」が46.4%と最も多く、次いで「運営資金の支援」32.7%、「活動内容・活動方法への助言等の支援」32.1%、「福祉に関する学習機会の支援」29.1%となっています。

【質問8 福祉活動に必要な支援】(複数回答)(N=196)



< クロス集計：4 エリア別 >

単位：人 (%)

	合計	1. 福祉に関する学習機会の支援	2. 活動場所などへの支援	3. 担い手の確保への支援	4. 活動内容・活動方法への助言等の支援
総計	196 (100)	57 (29.1)	48 (24.5)	91 (46.4)	63 (32.1)
中央	60 (100)	14 (23.3)	16 (26.7)	29 (48.3)	17 (28.3)
北部	61 (100)	20 (32.8)	13 (21.3)	26 (42.6)	21 (34.4)
南部(旧柏)	53 (100)	19 (35.8)	12 (22.6)	29 (54.7)	20 (37.7)
南部(旧沼南)	17 (100)	2 (11.8)	5 (29.4)	5 (29.4)	3 (17.6)
無回答	5 (100)	2 (40.0)	2 (40.0)	2 (40.0)	2 (40.0)

	5. 専門家の派遣など人的な支援	6. ニーズ把握のための支援	7. 活動内容を広めるなど情報発信への支援	8. 運営資金への支援	9. その他
総計	32 (16.3)	37 (18.9)	53 (27.0)	64 (32.7)	12 (6.1)
中央	9 (15.0)	11 (18.3)	15 (25.0)	19 (31.7)	4 (6.7)
北部	13 (21.3)	15 (24.6)	17 (27.9)	21 (34.4)	3 (4.9)
南部(旧柏)	8 (15.1)	9 (17.0)	16 (30.2)	16 (30.2)	3 (5.7)
南部(旧沼南)	1 (5.9)	1 (5.9)	3 (17.6)	6 (35.3)	2 (11.8)
無回答	1 (20.0)	1 (20.0)	2 (40.0)	2 (40.0)	0 (0.0)

エリア別にみると、中央、北部、南部（旧柏）はほぼ同傾向にありますが、南部（旧沼南）では、「活動場所などへの支援」「運営資金への支援」を除く各項目とも3エリアに比べ割合が低くなっています。

(5) 地域の活動団体等について

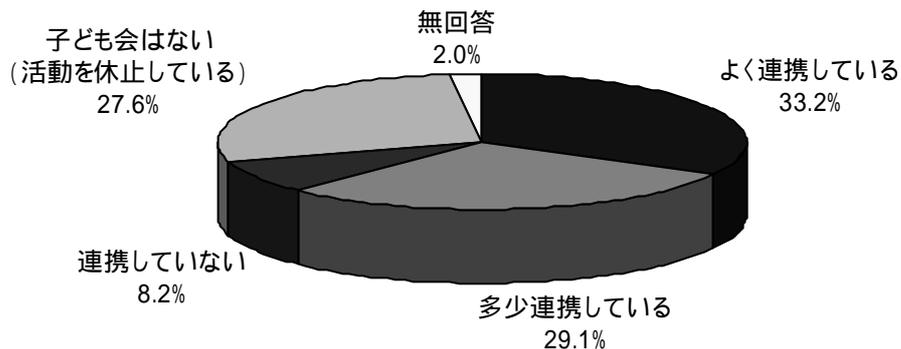
子ども会との連携

質問9 町会等では、子ども会との連携はありますか。(は1つ)

- 1. よく連携している
- 2. 多少連携している
- 3. 連携していない
- 4. 子ども会はない(活動を休止している)

子ども会との連携については、「よく連携している」が 33.2%、「多少連携している」が 29.1%で、あわせて 62.3%が連携していると答えています。一方で、「連携していない」という回答は 8.2%あるほか、「子ども会はない(活動を休止している)」という回答も 27.6%となっています。

【質問9 子ども会との連携】(N=196)



<クロス集計：4エリア別>

単位：人 (%)

	合計	1.よく連携している	2.多少連携している	3.連携していない	4.子ども会はない(活動を休止している)	無回答
総計	196 (100)	65 (33.2)	57 (29.1)	16 (8.2)	54 (27.6)	4 (2.0)
中央	60 (100)	27 (45.0)	20 (33.3)	4 (6.7)	8 (13.3)	1 (1.7)
北部	61 (100)	19 (31.1)	21 (34.4)	8 (13.1)	12 (19.7)	1 (1.6)
南部(旧柏)	53 (100)	17 (32.1)	12 (22.6)	1 (1.9)	23 (43.4)	0 (0.0)
南部(旧沼南)	17 (100)	1 (5.9)	3 (17.6)	1 (5.9)	10 (58.8)	2 (11.8)
無回答	5 (100)	1 (20.0)	1 (20.0)	2 (40.0)	1 (20.0)	0 (0.0)

エリア別にみると、南部(旧沼南)では、「よく連携している」「多少連携している」の割合が低くなっています。その一因として、「子ども会はない(活動を休止している)」の割合が 58.8%と高くなっています。「子ども会はない(活動を休止している)」は南部(旧柏)でも 43.4%と高くなっています。

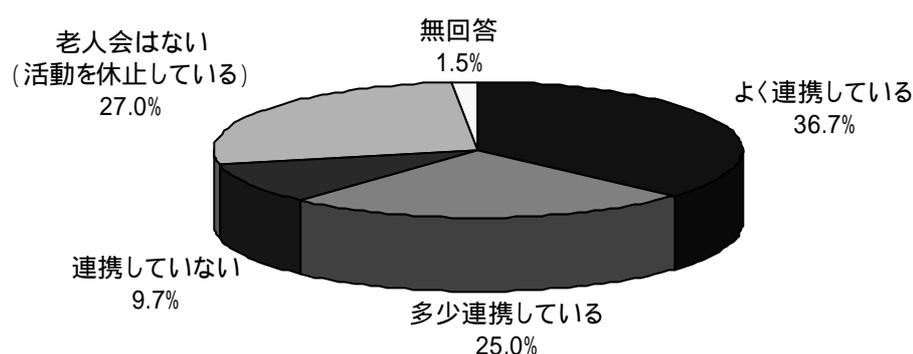
老人会（老人クラブ）との連携

質問10 町会等では、老人会（老人クラブ）との連携はありますか。（ は1つ）

1. よく連携している
2. 多少連携している
3. 連携していない
4. 老人会はない(活動を休止している)

老人会（老人クラブ）との連携については、「よく連携している」が 36.7%、「多少連携している」が 25.0%で、あわせて 61.7%が連携していると答えています。一方で、「連携していない」という回答は 9.7%あるほか、「老人会はない（活動を休止している）」という回答も 27.0%ありました。

【質問10 老人会（老人クラブ）との連携】 (N=196)



<クロス集計：4エリア別>

単位：人 (%)

	合計	1.よく連携している	2.多少連携している	3.連携していない	4.老人会はない(活動を休止している)	無回答
総計	196 (100)	72 (36.7)	49 (25.0)	19 (9.7)	53 (27.0)	3 (1.5)
中央	60 (100)	30 (50.0)	12 (20.0)	4 (6.7)	13 (21.7)	1 (1.7)
北部	61 (100)	17 (27.9)	20 (32.8)	7 (11.5)	17 (27.9)	0 (0.0)
南部(旧柏)	53 (100)	22 (41.5)	10 (18.9)	4 (7.5)	17 (32.1)	0 (0.0)
南部(旧沼南)	17 (100)	2 (11.8)	6 (35.3)	2 (11.8)	5 (29.4)	2 (11.8)
無回答	5 (100)	1 (20.0)	1 (20.0)	2 (40.0)	1 (20.0)	0 (0.0)

エリア別に老人クラブとの連携をみると、中央では「よく連携している」が 50%と高くなっています。「よく連携している」と「多少連携している」をあわせてみると、中央 70%、北部 60.7%、南部（旧柏） 60.4%、南部（旧沼南） 47.1%と、南部（旧沼南）の割合が低くなっています。

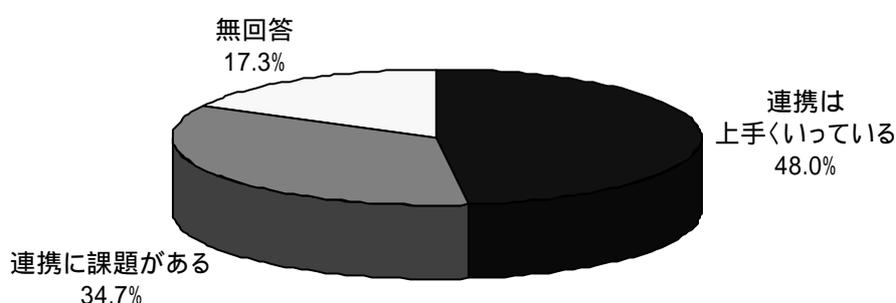
健康づくり推進員、食生活推進員との連携

質問11 地域の健康づくり推進員、食生活推進員との連携はありますか。(は1つ)

1. 連携は上手くいっている
2. 連携に課題がある 課題や今後望まれる連携のあり方などについてご記入ください。

地域の健康づくり推進員、食生活推進員との連携については、「連携は上手くいっている」が 48.0%と約半数近くを占めるものの、「連携に課題がある」も 34.7%となっています。

【質問11 健康づくり推進員との連携】(N=196)



<クロス集計：4エリア別>

単位：人 (%)

	合計	1. 連携は上手くいっている	2. 連携に課題がある	無回答
総計	196 (100)	94 (48.0)	68 (34.7)	34 (17.3)
中央	60 (100)	38 (63.3)	14 (23.3)	8 (13.3)
北部	61 (100)	21 (34.4)	28 (45.9)	12 (19.7)
南部(旧柏)	53 (100)	30 (56.6)	18 (34.0)	5 (9.4)
南部(旧沼南)	17 (100)	4 (23.5)	7 (41.2)	6 (35.3)
無回答	5 (100)	1 (20.0)	1 (20.0)	3 (60.0)

エリア別に健康づくり推進員、食生活推進員との連携をみると、中央では「連携が上手くいっている」が 63.3%と高くなっています。逆に「連携に課題がある」は北部 45.9%、南部(旧沼南) 41.2%の2つのエリアで高くなっています。

意見（連携の課題や今後のあり方について）【エリア、地区、任期】

<中央エリア>

推進員と一般町会員との連携がよくなされていない。【中央、新田原、無回答】

健康づくり推進員、食生活推進員の仕事の内容が理解できない。【中央、永楽台、無回答】

町会で推進員を推薦しているにも関わらず、その組織からの活動を含めた情報の提供がほとんど無く、連携が上手くいく訳がない。組織自体に問題があるのでは。【中央、富里、無回答】

情報交換の場が無い。【中央、豊四季台西、3期目以上】

一部に偏りがちである。【中央、豊四季台西、無回答】

地域の健康づくり、食生活、どこでやっているか。わからない人が多いと思う。【中央、旭町、1期目】

<北部エリア>

ふるさと協議会活動での連携とともに、町会としても各推進員の活動を知る機械をつくる努力をしたい。【北部、高田、1期目】

健康づくり推進員との連絡が不十分。【北部、松葉、1期目】

何もやっていない。【北部、松葉、1期目】

事例が無い。【北部、松葉、1期目】

町内の誰が推進員をしているのが承知していない。新たな推進員の募集はしているのか？【北部、松葉、1期目】

活動していない。【北部、松葉、1期目】

推進員と町会との間に接触が無い。何をしているのか、活動内容が明らかではない。【北部、松葉、1期目】

健康づくり推進員になり手がいない。【北部、田中、無回答】

町会からこれらの人への依頼をしていない。（例えば祭りの時など）【北部、田中、無回答】

回覧板で知るだけで、進んで行事に参加しない限り知ることが出来ない。【北部、西原、1期目】

健康づくり推進員とは普通に連携しているが、食生活推進員の活動は不透明。【北部、西原、2期目】

健康づくり推進員の存在を、もっと広く知ってもらわなくてはならない。【北部、富勢、1期目】

自治会と合同の取り組み、活動は多くはない。【北部、富勢、1期目】

<南部（旧柏）エリア>

健康づくり推進員とはコミュニケーションがあるが、食生活推進員との連携はない。【南部（旧柏）、土、1期目】

それぞれの組織が町自治会に入り込むことへのためらいがある。市、社協の支援で町自治会に入り込めるようにしてあげると良い。【南部（旧柏）、土、1期目】

認識も低く、関心も低い。【南部（旧柏）、土、1期目】

ふるさと協議会を通じ活動は承知しているが、それだけのこと。当会から委員も出せないでいる。【南部（旧柏） 藤心、1期目】

町会としては、健康づくり推進員が町会について関心があるのかどうか分からないが、住民の中には誰だか把握出来ていない人も多いように思う。【南部（旧柏） 藤心、無回答】

食生活推進員は無い。健康づくり推進員は平成20年度から選任の予定。【南部（旧柏） 光ヶ丘、1期目】

食生活推進員と健康づくり推進員とは一緒なので別々に考えないでほしい。2つの選考方法こそ1つの所にするのが大事で、連携が上手くいくこと。【南部（旧柏） 南光ヶ丘、無回答】

あまり交流が無い。【南部（旧柏） 酒井根、1期目】

連携の周知、広報が不十分である。【南部（旧柏） 南部、1期目】

活動内容が住民に理解されていない。【南部（旧柏） 南部、1期目】

高齢者を中心とした福祉活動にもっと時間を割いてほしいが、妊婦や子育ての方で手一杯という状況がみられる。【南部（旧柏） 南部、無回答】

<南部（旧沼南）エリア>

管理組合の内での活動が出来ていない。【南部（旧沼南） 大津ヶ丘、2期目】

「推進員」の活動には町会としても出来るだけ応援したいが、今の所上手くいっていない。「推進員」には町会役員になってもらうのが良いとは思いますが、「役員」となると他の役割も背負わせることになり、かえって「推進員」になることに積極的にいられる恐れがある。【南部（旧沼南） 大津ヶ丘、3期目以上】

食生活推進員については、どのような仕事をしているのかよくわからない。【南部（旧沼南） 高柳、1期目】

<地区無回答>

民生委員と町会との役割区分の明確化をして、取り組む。町会各施設（公園、集会所）のバリアフリー化。【無回答、1期目】

民生委員児童委員との連携

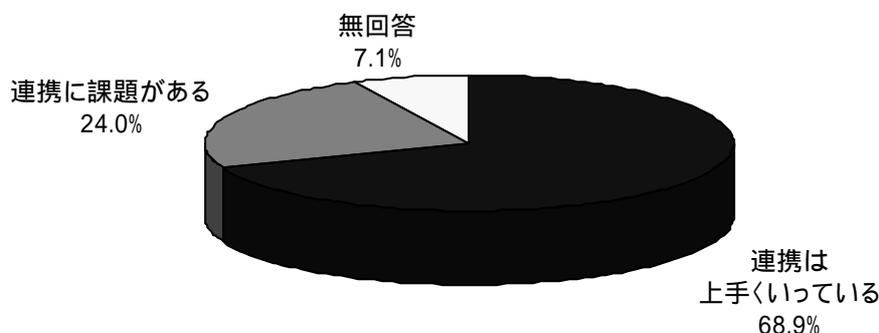
質問12 地域の民生委員児童委員(主任児童委員)との連携は上手くいっていますか。(は1つ)

1. 連携は上手くいっている
2. 連携に課題がある 課題や今後望まれる連携のあり方などについてご記入ください。

民生委員児童委員(主任児童委員)との連携については、「連携は上手くいっている」が68.9%と7割近くとなっています。

一方、「連携に課題がある」は24.0%となっています。

【質問12 民生委員児童委員との連携】(N=196)



<クロス集計：4エリア別>

単位：人 (%)

	合計	1. 連携は上手くいっている	2. 連携に課題がある	無回答
総計	196 (100)	135 (68.9)	47 (24.0)	14 (7.1)
中央	60 (100)	49 (81.7)	9 (15.0)	2 (3.3)
北部	61 (100)	36 (59.0)	20 (32.8)	5 (8.2)
南部(旧柏)	53 (100)	38 (71.7)	11 (20.8)	4 (7.5)
南部(旧沼南)	17 (100)	11 (64.7)	3 (17.6)	3 (17.6)
無回答	5 (100)	1 (20.0)	4 (80.0)	0 (0.0)

エリア別に民生委員児童委員(主任児童委員)との連携をみると、全てのエリアにおいて、「連携が上手くいっている」が半数を超え高い割合となっていますが、なかでも、中央 81.7%、南部(旧柏) 71.7%の割合が高くなっています。逆に「連携に課題がある」は北部 32.8%がやや高めとなっています。

意見（連携の課題や今後のあり方について）【エリア、地区、任期】

<中央エリア>

委員には仕事時間があまりにも多く気の毒に思う。敬老会、地区運動会等の活動事業を少なくしてはどうか。委員の仕事はこれからも増えるばかり。町会でも推薦する時、今のままでは出せない。【中央、柏中央、2期目】

民生委員の仕事の負担が大き過ぎる。ボランティアで出来る範囲を超えている。なり手を町会に探させるのは無理。【中央、永楽台、1期目】

委員個々人との関係は良好なるも、組織同士の連携になると課題が残る。組織からの活動を含めた情報の提供がほとんど無く、連携が上手くいく訳がない。組織自体に問題があるのでは。【中央、富里、無回答】

町会役員会への参加をお願いするようにする。【中央、旭町、1期目】

町会が3ブロックに分かれ、民生委員が3人いるが、その中の2人は当町会以外の町会推薦者で、交替しても連絡が非常に遅く連携に困ることがある。【中央、旭町、2期目】

個人情報保護が壁となり、情報が集まらない。【中央、新富、無回答】

<北部エリア>

ふるさと協議会活動での連携とともに、町会としても各推進員の活動を知る機械をつくる努力をしたい。【北部、高田、1期目】

多数の町会員は活動を知らない。【北部、松葉、1期目】

連携していない。【北部、松葉、1期目】

連携すべきと思うが、連携が無い。町会役員の1つに福祉担当役員がある。この役員との連携をするのが良いと思う。民生委員～町会福祉担当の線、パイプを作り、それを通じて、町会が民生委員の仕事を手伝えると思う。【北部、松葉、1期目】

活動していない。【北部、松葉、1期目】

委員と接点が無い。町会としては推薦した委員がいない。【北部、松葉、1期目】

なり手がいない。【北部、松葉、2期目】

個人情報保護を踏まえ、民生委員との情報交換を交わすことが大事。町内で一人暮らしをしている高齢者の人数が全く分からない。【北部、田中、1期目】

民生委員児童委員からも、町会からも、互いに問題提起をすることがない。もっと連絡を密にしたい。【北部、田中、無回答】

個人情報保護のため、民生委員単独行動のため、協力者を求められない。【北部、西原、1期目】

自治会の役員と民生児童委員との会合の場がほしい。【北部、富勢、1期目】

何かしっくりいかない。【北部、富勢、無回答】

<南部（旧柏）エリア>

そもそも民生活動に対する認識が無い。また活動も見えない。【南部（旧柏）、土、1期目】

当町会の民生委員は25年位継続して従事しているが、町会長は最近1年交代なので、とても守秘義務を明かす訳にはいかず、従って連携プレーは無理。民生委員も困っていると思う。

【南部（旧柏）、光ヶ丘、1期目】

町会としては連携は良いが地区となると問題点もある。【南部（旧柏） 光ヶ丘、2期目】

町会には情報が無い。（障害者リストが不明）【南部（旧柏） 光ヶ丘、2期目】

民生委員児童委員に出席して、情報及び意見の交換が十分でない。【南部（旧柏） 南部、1期目】

個人情報保護との関係で、情報開示が無く、活動が制約される。【南部（旧柏） 南部、1期目】

情報を民生委員が独占していて、町会長に全く出てこない。（個人情報保護法を盾に）これでは町会は何も出来ない。【南部（旧柏） 南部、1期目】

当町会では世帯数が少なく、町会として民生委員を推薦できていない。【南部（旧柏） 南部、2期目】

情報交換が少ない。【南部（旧柏） 南部、2期目】

<南部（旧沼南）エリア>

今まで他地域の人が民生委員だったため関心が無かった。今後、積極的に関与するべきだと思う。【南部（旧沼南） 大津ヶ丘、2期目】

民生委員児童委員の人は熱心に活動しているが、町会活動との連携はほとんど出来ていない。町会役員を兼ねてもらおう方が活動しやすいと思うが。【南部（旧沼南） 大津ヶ丘、3期目以上】

民生委員の開示が無く、よくわからない。（人、活動等）【南部（旧沼南） 高柳、1期目】

<地区無回答>

個人の開示と、役割区分。【無回答、1期目】

まず基本町会の日々の運営なので、民生委員児童委員の存在、活動すら耳に入らない。【無回答、2期目】

民生委員児童委員のなり手がいない。【無回答、3期目以上】

(6) 地区社会福祉協議会との関わりについて

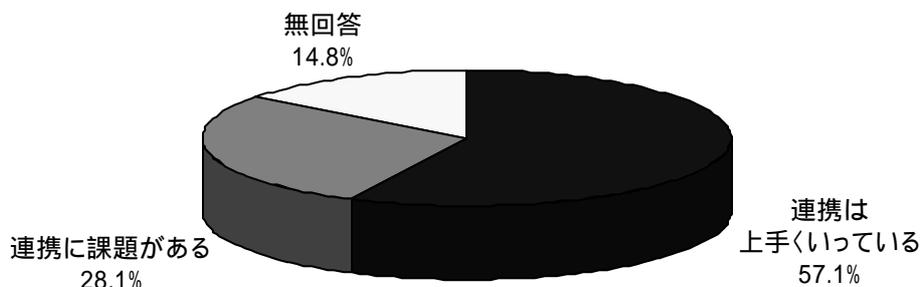
地区社会福祉協議会との連携

質問13 地区社会福祉協議会との連携は上手くいっていますか。(は1つ)

1. 連携は上手くいっている
2. 連携に課題がある 課題や今後望まれる連携のあり方などについてご記入ください。

地区社会福祉協議会との連携については、「連携は上手くいっている」が 57.1%、「連携に課題がある」が 28.1%となっています。

【質問13 地区社会福祉協議会との連携】(N=196)



<クロス集計：4エリア別>

単位：人 (%)

	合計	1. 連携は上手くいっている	2. 連携に課題がある	無回答
総計	196 (100)	112 (57.1)	55 (28.1)	29 (14.8)
中央	60 (100)	34 (56.7)	18 (30.0)	8 (13.3)
北部	61 (100)	26 (42.6)	23 (37.7)	12 (19.7)
南部(旧柏)	53 (100)	39 (73.6)	7 (13.2)	7 (13.2)
南部(旧沼南)	17 (100)	12 (70.6)	4 (23.5)	1 (5.9)
無回答	5 (100)	1 (20.0)	3 (60.0)	1 (20.0)

エリア別に地区社会福祉協議会との連携をみると、「連携が上手くいっている」は、中央 56.7%、北部 42.6%、南部（旧柏）73.6%、南部（旧沼南）70.6%となっており南部両エリアの割合が高くなっています。

「連携に課題がある」は中央で 30%、北部で 37.7%と高くなっています。

意見（連携の課題や今後のあり方について）【エリア、地区、任期】

<中央エリア>

今少し活動内容が分からない。視察事業など不要。経費の面でも見直しが必要。上の方は反省意見を言えば聞いてはくれるようだが、意見の反映はない。従来通りでが良いと言うなら、これからは参加せずの考えでいる。【中央、柏中央、2期目】

同じような仕事内容のため、1つにしてはどうかと思う。【中央、柏中央、3期目以上】

ふるさと協議会、社会福祉協議会を一体化すべき。【中央、柏中央、無回答】

ふるさと協議会の中での地区社協の活動が遊離している。情報交換を積極的に行い、役割、使命を協議会として明確にする必要あり。【中央、新田原、3期目以上】

地区社会福祉協議会は本年4月以降、市の指導により、協議会に吸収されている。本件についての市福祉協議会の意見を確認したい。【中央、新田原、無回答】

当地区では地区社協と町会の連合体が今年度から一本化されている。市の社協が独立しているのが不自然。市の社協は解散すべき。【中央、新田原、無回答】

地域のふるさと協議会を通して、ということでは考えると上手くいっていると言えるが、町会単位でとらえると、社会福祉協議会へ人を出しているようにはなっていないので、町会組織としては連携は課題が多い。【中央、富里、無回答】

本来の目的等ふるさと協議会と方向が同一。組織、機構が複雑過ぎる。一本化が望ましい。【中央、豊四季台西、無回答】

接点が無いのでよくわからないことが課題だろうか。【中央、豊四季台西、無回答】

組織的な連携が成り立っていない。【中央、豊四季台、無回答】

民生委員の人に努力してもらいたい。【中央、旭町、1期目】

ふる協と一本化されたが、十分に連携されているかは疑問。人的交流がちぐはぐな面がある。【中央、新富、1期目】

<北部エリア>

ふるさと協議会活動での連携。【北部、高田、1期目】

特に上手くやろうとかは考えていない。【北部、高田、2期目】

あまり面白くない(金の無駄遣いのような)広報紙が送られて来る。また、各種催事の主催あるいは協賛をしていることから社協の活動を知る程度。【北部、松葉、1期目】

自治会の担当役員が仕事の都合で出席できていない。【北部、松葉、1期目】

今の所、関わりが余り無い。町会が深く関わって推進できる事業があると良い。【北部、松葉、1期目】

全てふるさと協議会に一本化すべき。協議会の事業と協調を図ることによって、さらに地域全体のコミュニティー発展の中で弱者対策の意識の啓発を図ることが、地域における社会福祉の発展につながると思う。【北部、松葉、2期目】

西原地区に、ふるさと協議会、社会福祉協議会と2つの大きな団体のため、町会の役員対応が増大となっており、役員の負担が厳しいので、統一化を図る必要がある。【北部、西原、1期目】

地域組織の一元化が進展しないため、各町会の町民には各組織で行う事業を理解できない人が見受けられる。【北部、西原、2期目】

地区ふるさと協議会との一本化が望まれる。【北部、西原、2期目】

西原地区はふるさと協議会一本化にしてほしい。【北部、西原、無回答】

あまり話し合いの場が無い。【北部、富勢、1期目】

ふるさと協議会との仲が悪いように感じている。【北部、富勢、1期目】

地区の町会、自治会等の連携が見えないため、当地区社協の活動の自主性がない。【北部、富勢、2期目】

ふるさとづくり協議会と重複した活動がある。一本化を望む。【北部、富勢、無回答】

<南部（旧柏）エリア>

人材の確保が難しい。【南部（旧柏）光ヶ丘、無回答】

活動を一定化させない。幅広くリーダーを育てつつ現状に対応すること。【南部（旧柏）南光ヶ丘、無回答】

社会福祉協議会の具体的な活動内容が十分に周知されていない。【南部（旧柏）南部、1期目】

<南部（旧沼南）エリア>

住民が協議会の活動内容に関心が低く、協力的にない。把握されていない。【南部（旧沼南）風早北部、1期目】

一般の人には良く分からないと思う。役員（地区）の間では上手くいっている。【南部（旧沼南）高柳、1期目】

ふるさと協議会が出過ぎる。（メインになっている）【南部（旧沼南）手賀、1期目】

<地区無回答>

田中地区で開催され、遠いこと、高齢者に対して交通手段が提供されないこと。子育て等についても田中の下部組織であるが、柏の葉3町会での交流になっている。数年後には柏の葉キャンパス地区と一緒に活動していくのであろう。【無回答、1期目】

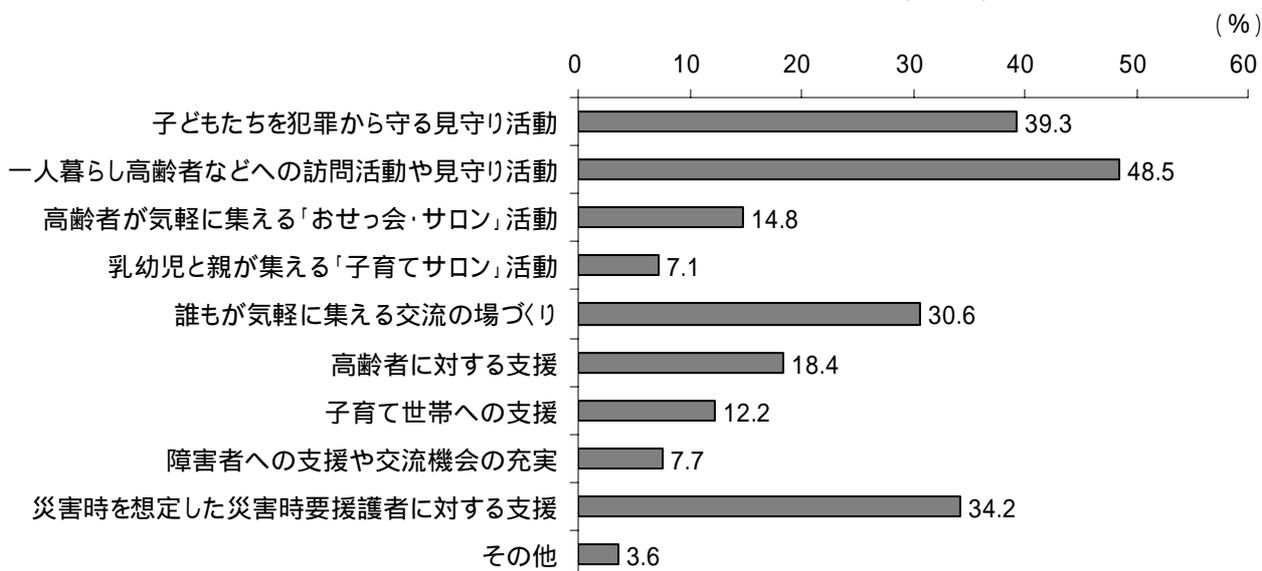
地区社協が力を入れるべき活動

質問14 地区社会福祉協議会が、今後力を入れるべき地域福祉活動は何だと思えますか。
(は3つまで)

1. 子どもたちを犯罪から守る見守り活動
2. 一人暮らし高齢者などへの訪問活動や見守り活動
3. 高齢者が気軽に集える「おせっ会・サロン」活動
4. 乳幼児と親が集える「子育てサロン」活動
5. 誰もが気軽に集える交流の場づくり
6. 高齢者に対する支援(ごみ出しなど、簡単なお手伝いなど)
7. 子育て世帯への支援(託児所や母親の集いの場など)
8. 障害者への支援や交流機会の充実
9. 災害時を想定した災害時要援護者に対する支援
10. その他

地区社協が力を入れるべき活動については、「一人暮らし高齢者などへの訪問活動や見守り活動」が48.5%と最も多く、次いで「子どもたちを犯罪から守る見守り活動」39.3%、「災害時を想定した災害時要援護者に対する支援」34.2%、「誰もが気軽に集える交流の場づくり」30.6%となっています。

【質問14 地区社協が力を入れるべき活動】(複数回答)(N=196)



<クロス集計：4エリア別>

単位：人（%）

	合計	1.子どもたちを犯罪から守る見守り活動	2.一人暮らし高齢者などへの訪問活動や見守り活動	3.高齢者が気軽に集える「おせっ会・サロン」活動	4.乳幼児と親が集える「子育てサロン」活動	5.誰もが気軽に集える交流の場づくり
総計	196 (100)	77 (39.3)	95 (48.5)	29 (14.8)	14 (7.1)	60 (30.6)
中央	60 (100)	21 (35.0)	28 (46.7)	6 (10.0)	7 (11.7)	18 (30.0)
北部	61 (100)	29 (47.5)	30 (49.2)	12 (19.7)	3 (4.9)	15 (24.6)
南部(旧柏)	53 (100)	18 (34.0)	26 (49.1)	9 (17.0)	3 (5.7)	18 (34.0)
南部(旧沼南)	17 (100)	6 (35.3)	8 (47.1)	1 (5.9)	1 (5.9)	8 (47.1)
無回答	5 (100)	3 (60.0)	3 (60.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	1 (20.0)

	6.高齢者に対する支援（ごみ出しなど、簡単なお手伝いなど）	7.子育て世帯への支援（託児所や母親の集いの場など）	8.障害者への支援や交流機会の充実	9.災害時を想定した災害時要援護者に対する支援	10.その他
総計	36 (18.4)	24 (12.2)	15 (7.7)	67 (34.2)	7 (3.6)
中央	10 (16.7)	8 (13.3)	4 (6.7)	17 (28.3)	2 (3.3)
北部	12 (19.7)	5 (8.2)	5 (8.2)	20 (32.8)	3 (4.9)
南部(旧柏)	8 (15.1)	9 (17.0)	4 (7.5)	23 (43.4)	2 (3.8)
南部(旧沼南)	5 (29.4)	2 (11.8)	1 (5.9)	5 (29.4)	0 (0.0)
無回答	1 (20.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	2 (40.0)	0 (0.0)

エリア別に地区社協が力を入れるべき活動をみると、「子どもたちを犯罪から守る見守り活動」は、北部47.5%と他のエリアの3割台に比べ高くなっています。

「誰もが気軽に集える交流の場づくり」「高齢者に対する支援」は、南部（旧沼南）の割合が高くなっています。

「災害時を想定した災害時要援護者に対する支援」は南部（旧柏）の割合が高くなっています。

それ以外の項目においては、大きな差は見られませんでした。

(7) 市社会福祉協議会との関わりについて

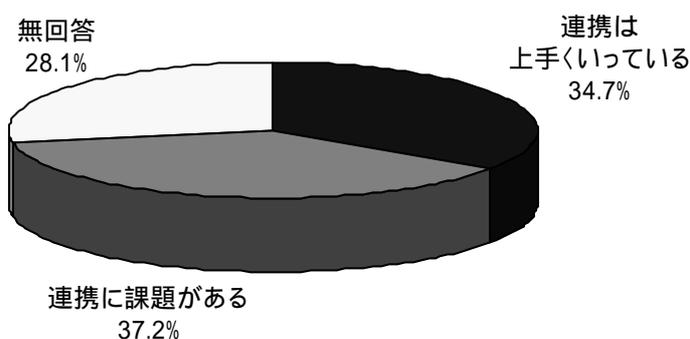
市社会福祉協議会との連携

質問15 市社会福祉協議会との連携は上手くいっていますか。()は1つ)

1. 連携は上手くいっている
2. 連携に課題がある 課題や今後望まれる連携のあり方などについてご記入ください。

市社会福祉協議会との連携について伺ったところ、37.2%が「連携に課題がある」と答えており、「連携は上手くいっている」の34.7%を上回っています。

【質問15 市社会福祉協議会との連携】(N=196)



<クロス集計：4エリア別>

単位：人 (%)

	合計	1. 連携は上手くいっている	2. 連携に課題がある	無回答
総計	196 (100)	68 (34.7)	73 (37.2)	55 (28.1)
中央	60 (100)	25 (41.7)	20 (33.3)	15 (25.0)
北部	61 (100)	18 (29.5)	24 (39.3)	19 (31.1)
南部(旧柏)	53 (100)	20 (37.7)	18 (34.0)	15 (28.3)
南部(旧沼南)	17 (100)	4 (23.5)	9 (52.9)	4 (23.5)
無回答	5 (100)	1 (20.0)	2 (40.0)	2 (40.0)

市社協との連携をエリア別にみると、「連携が上手くいっている」は、中央41.7%南部(旧柏)37.7%となっており、北部29.4%、南部(旧沼南)23.5%に比べ高くなっています。

「連携に課題がある」は南部(旧沼南)52.9%と高くなっています。

意見（連携の課題や今後のあり方について）【エリア、地区、任期】

<中央エリア>

同じような仕事内容のため、1つにしてはどうかと思う。【中央、柏中央、3期目以上】

市、地区と別れていて混乱する場合がある。【中央、柏中央、無回答】

市行政と市社協との福祉政策に関する役割分担と責任体制を明確にしないと、福祉活動に無駄や行き届かない事柄がある。【中央、新田原、3期目以上】

現状においては市社会福祉協議会は有名無実である。【中央、新田原、無回答】

市社協の会員だが（世帯300円）一般の人へのPRが出来ていない。役員でいれば見えると思うが。【中央、富里、2期目】

地域のふるさと協議会を通して、ということだと考えると上手くいっていると言えるが、町会単位でとらえると、社会福祉協議会へ人を出しているようにはなっていないので、町会組織としては連携は課題が多い。【中央、富里、無回答】

業務連絡のみで人的関係が不足している。【中央、豊四季台西、1期目】

本来の目的等ふるさと協議会と方向が同一。組織、機構が複雑過ぎる。一本化が望ましい。【中央、豊四季台西、無回答】

都市部での役割は終わったのではないか。民営化したらどうか。【中央、豊四季台西、無回答】

行事があっても参加する人がいない。【中央、旭町、1期目】

具体的な接触が無い。サロン等で保健師の力を借りている以外に何も無い。【中央、新富、無回答】

地区社協とは上手くいっているが、市社協に対しては距離感がある。執行部に特権意識はないか？【中央、新富、無回答】

<北部エリア>

連携が不十分。【北部、松葉、1期目】

協議会へ役員を1名出しているが、町会との関わりは特に無い。【北部、松葉、1期目】

連携するという考えが生まれて来ないのが問題。連携して何か良い事が出来るという考えも浮かばない。【北部、松葉、1期目】

活動出来ていない。【北部、松葉、1期目】

今の所、関わりが余り無い。町会が深く関わって推進できる事業があると良い。【北部、松葉、1期目】

市社協の一本化に対する考え方を財政の仕組みから広く開放することによって、地域と一体化を図ることが出来、結果的に市社協の発展につながると思う。【北部、松葉、2期目】

現在連携すべきことは無いような気がする。地区社協があるので。【北部、田中、無回答】

一方的でよく理解できない。行事が多過ぎる。ふる協と1つになってほしい。【北部、西原、1期目】

地域ふるさと協と社会福祉協の一元化、活動の一体化を早急に実現する必要がある。【北部、西原、2期目】

地区ふるさと協議会との一本化が望まれる。【北部、西原、2期目】

話し合いの場を多くして、情報の共有が望ましい。【北部、富勢、1期目】

ふるさと協議会との仲が悪いように感じている。【北部、富勢、1期目】

<南部(旧柏)エリア>

町自治会への市社協からの直接のアプローチは無いのが現状。地区社協経由での連携で良いのでは。【南部(旧柏)、土、1期目】

地域レベルの社協とのつながりがよく見えない。やるべき、求められている目的への進捗がわからない。【南部(旧柏)、土、1期目】

情報が少ない。活動の内容がわからないことが多い。【南部(旧柏)、藤心、1期目】

私個人としては、地区社協の役員も含めて8年ぐらいやっているので繋がりはあると思うが、いざ町会となると、連携に関しては、少し淋しい結果となっている。【南部(旧柏)、藤心、無回答】

地区社協参加の町会長、一般民生委員等から正確な問題点を把握し、施策を実行しないと、協議会の存亡が危うくなると思う。地区社協メンバーの若返りが必要。一部長老の地区社協メンバーは必要ない。当町会も私の責任で今後メンバーを入れ替える。【南部(旧柏)、光ヶ丘、1期目】

地区社協の上部組織としての顔が見えない。【南部(旧柏)、光ヶ丘、1期目】

取り組み方は正しいが、各町会、自治会等に依存し過ぎている。各町会は万能ではない。【南部(旧柏)、光ヶ丘、無回答】

毎年いろいろな行事に対する反省点があれば修正し、次年度に活かすこと。もう少し、行政側と市民との差を縮小する必要がある。【南部(旧柏)、南部、1期目】

地区と比べ遠い存在。町会と市社協との結びつきをもっと強く。【南部(旧柏)、南部、1期目】

単位町会と市社協との連携という捉え方は、今一つピンと来ない。上手くいくとか、いっていないという観点は不自然であり、考えたこともない。【南部(旧柏)、南部、無回答】

<南部(旧沼南)エリア>

地区社協と市社協の関わりが良く分からない。もっと広報に力を入れると良い。【南部(旧沼南)、大津ヶ丘、2期目】

例えば民生委員の推薦の際、再選者の条件として会議等への出席率を加味するよう指示されているが、そのような情報は全く提供されていない。情報交換が不十分で「うまくいっている」とは言い難い。福祉功労者の推薦等も同様。【南部(旧沼南)、大津ヶ丘、3期目以上】

関心が低い。【南部(旧沼南)、風早北部、1期目】

地区とは上手くいっていると思うが、市とはどうなのか?【南部(旧沼南)、高柳、1期目】

ふるさと協議会が出過ぎる。(メインになっている)【南部(旧沼南)、手賀、1期目】

<地区無回答>

市社会福祉協議会の活動を町会員はほとんど知らない。【無回答、1期目】

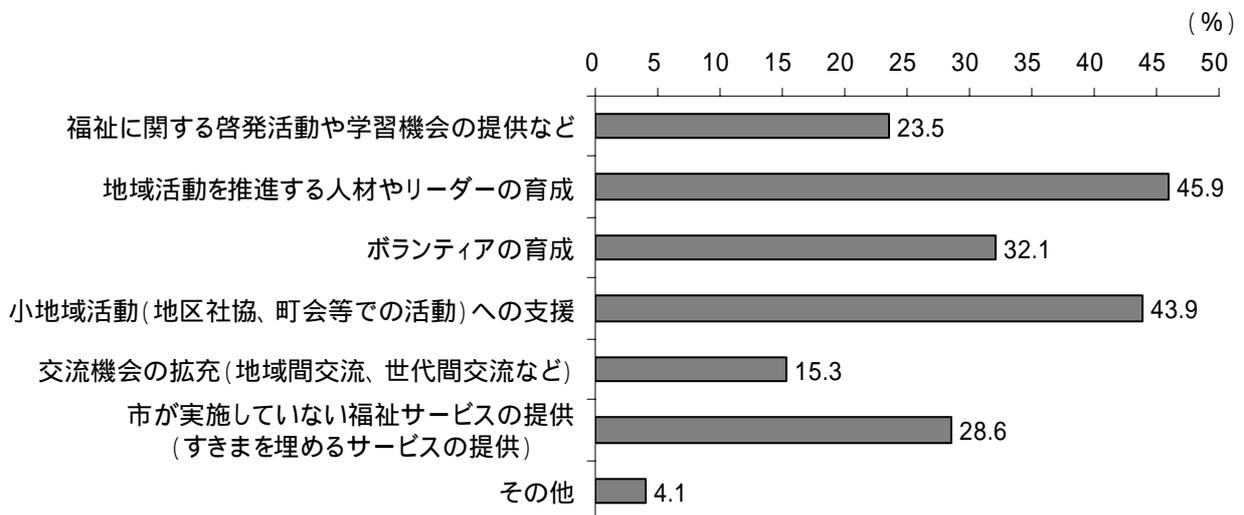
市社会福祉協議会が力を入れるべき施策

質問16 市社会福祉協議会が力を入れるべき施策は何だと思えますか。(は3つまで)

1. 福祉に関する啓発活動や学習機会の提供など
2. 地域活動を推進する人材やリーダーの育成
3. ボランティアの育成
4. 小地域活動(地区社協、町会等での活動)への支援
5. 交流機会の拡充(地域間交流、世代間交流など)
6. 市が実施していない福祉サービスの提供(すきまを埋めるサービスの提供)
7. その他

市社会福祉協議会が力を入れるべき施策については、「地域活動を推進する人材やリーダーの育成」45.9%、「小地域活動(地区社協、町会等での活動)への支援」43.9%、「ボランティアの育成」32.1%、「市が実施していない福祉サービスの提供(すきまを埋めるサービスの提供)」28.6%、「福祉に関する啓発活動や学習機会の提供など」23.5%などが挙げられています。

【質問16 市社会福祉協議会が力を入れるべき施策】(複数回答)(N=196)



<クロス集計：4エリア別>

単位：人（％）

	合計	1.福祉に関する啓発活動や学習機会の提供など	2.地域活動を推進する人材やリーダーの育成	3.ボランティアの育成
総計	196 (100)	46 (23.5)	90 (45.9)	63 (32.1)
中央	60 (100)	14 (23.3)	31 (51.7)	24 (40.0)
北部	61 (100)	11 (18.0)	26 (42.6)	13 (21.3)
南部(旧柏)	53 (100)	15 (28.3)	26 (49.1)	20 (37.7)
南部(旧沼南)	17 (100)	5 (29.4)	6 (35.3)	5 (29.4)
無回答	5 (100)	1 (20.0)	1 (20.0)	1 (20.0)

	4.小地域活動(地区社協、町会等での活動)への支援	5.交流機会の拡充(地域間交流、世代間交流など)	6.市が実施していない福祉サービスの提供(すきまを埋めるサービスの提供)	7.その他
総計	86 (43.9)	30 (15.3)	56 (28.6)	8 (4.1)
中央	27 (45.0)	6 (10.0)	15 (25.0)	4 (6.7)
北部	24 (39.3)	11 (18.0)	21 (34.4)	0 (0.0)
南部(旧柏)	25 (47.2)	9 (17.0)	14 (26.4)	2 (3.8)
南部(旧沼南)	7 (41.2)	4 (23.5)	4 (23.5)	1 (5.9)
無回答	3 (60.0)	0 (0.0)	2 (40.0)	1 (20.0)

エリア別に市社協が力を入れるべき活動をみると、「ボランティアの育成」は中央南部（旧柏）の割合が高くなっています。それ以外の項目では、多少の差はみられるものの、ほぼ同傾向になっています。

市社会福祉協議会への要望・意見

質問17 最後に市社会福祉協議会に対する要望・意見などがございましたら自由にご記入ください。

地区の順番になっています。地区ごとに任期順となっています。

<中央エリア>

「社協だより」の内容検討と発行回数および部数の削減、赤い羽根共同募金からの広報活動費のカット、本来の福祉活動費の増額を願う。特に老人、児童、母子、父子福祉活動費に。

【中央、柏中央、1期目】

あまり手を広げすぎないで、中味の充実を。【中央、新田原、1期目】

組織名の変更。協議会の呼称を市民に親しまれるものに改名し、もっと一般市民に認識される運動が必要。【中央、新田原、3期目以上】

社会福祉協議会は法的に設置されているが、存在価値はゼロと考えている。【中央、新田原、無回答】

このアンケートの集計結果を早くまとめて報告することを切望する。【中央、新田原、無回答】

地域組織の一本化の推進にあたって市との意見が統一されておらず、当地域は二転、三転してまとまった。市の担当部署との意志疎通が薄いように思われる。【中央、新田原、無回答】

可及的速やかに解散すべし。【中央、新田原、無回答】

福祉関係で、社協と市はそれぞれ計画（縦割り）しているようだが、社協と市は今以上に連携調整して、地域および町会等に依頼、連絡してほしい。【中央、永楽台、無回答】

一本化の話が進んでいると思うが、ふるさと協議会の看板の中で社協部では福祉が見えないと思う。誰が見てもわかるような名称にしてほしい。だれでも福祉には関心があり、いざという時に頼りにしたいと思う。地区に近隣センターがあるが、「地域福祉センター」とか、相談の窓口がここにあると思われるようにしてほしい。一本化の話が出る前に、そのことを考えてからでも遅くなかったのではないか。【中央、富里、2期目】

従来までは、社協の活動要員は町会とはほとんど関係の無い人員で組織され、全く別の組織だった。町会ではその活動をほとんど理解しないまま推移してきたと思う。地域のふるさと協議会と地区社協の合併が進行している時でもあり、今後は社協組織も末端を町会組織とリンクするような方法や考えで見直していかないと、町会との連携が上手く作用していかないように思う。【中央、富里、無回答】

自主防災活動に関し、防災訓練、防災備品、町会内安全点検、防災知識・啓発、K-netの具体策等、災害時要援護者に対する具体策について指導してほしい。特に費用に関するデータも含めて教示願う。【中央、豊四季台西、1期目】

社協からの分担金の300円は、負担が大きすぎる。財政報告から人件費にかかる費用が多過ぎる感じがする。もっと改善できないのか。【中央、豊四季台西、1期目】

あまり期待することは無い。本庁の充実を図ったらどうか。【中央、豊四季台西、無回答】

プライバシー保護は当然だが、行政、市民も含めて、世の中全体が過剰反応し過ぎる。地域のコミュニティも含めて、善意の活動の全てに影を落としている。町会への「会費負担金」は取りやめた方がよい。ただし「団体加入」として会費制とする。（適当な金額か、率とする）理由1．町会負担分より越えて事業寄附している。2．社会福祉協議会全体予算から言えばあまり大きな割合ではない。3．住民負担の理解がなかなか得難い。4．町会の財政負

担として全額が過負担。【中央、豊四季台、無回答】

福祉活動の実態がまったく見えない。公報活動だけでは、福祉協議会の実態、活動は評価されないと思う。協議会事務局の一人ひとは本当に福祉の専門家として仕事をしているが、少ない予算で成果をあげるには民間のボランティア活動を育成したり、支援したりすることが必要と思う。【中央、新富、無回答】

赤十字募金等の協力度が町会、自治会ごとに相違があり、また、町会未加入の共同住宅住民へのアプローチがされておらず不公平になっている。【中央、新富、無回答】

<北部エリア>

私も市社協自体を良くは理解できていない。確かに福祉を必要としている人もいると思うが、もしそうなった時は町会の役員の任期からしても継続的に出来ないと思う。ある程度連続的にやれる状況に無いと難しいと思う。【北部、高田、2期目】

町会長としての役割を把握し、運営するまでには相当の時間を要する。町会内の連携をスムーズにはかるための精神的な負担は大きい。(職業に就きながらの町会活動は余裕が無い。)社会福祉協議会の役割が大切なことは承知できるが、現在の町会組織の中でどう取り組んでいけるのか?何か良い方策がないのか尋ねたいのが実状。(別組織体制を設ける、町会長ではなく単独の長を設けるなど)【北部、高田、2期目】

調査費を有効に使っているか。調査レポートの紙質が良すぎる。今回のアンケート調査の項目、内容については市民活動推進課の意見が反映されているか。【北部、高田、3期目以上】

「協議会」と名の付く会がたくさんあるが、名前が不適切。椅子に座って協議ばかりやって実行が伴わないというイメージが先行する。「推進会」「促進会」と名称変更したら、もう少し活動的で何かやる会との印象が湧く。中国、台湾、香港、シンガポールの朝の公園では、高齢者が早朝元気に大勢集まって体を動かしたり話をしたりしている。公園には高齢者向けの体を動かす器具が設置してある。また、夏は緑陰を提供するように大木が茂っている。健康増進のための設備にもっともっと金を使っても、医療費の削減で充分おつりが来るだろう。十年、二十年計画で公園を整備してほしい。【北部、松葉、1期目】

初めての役員であり、市社協の事業等について不案内。「市社協が力を入れるべき施策が何か」という質問にも答えられなかった。あえて言えば、課題が設定されれば、専門家によって施策の重点、めりはりは付けられるように思う。一般論として、不案内な者にとって難しいアンケート類が多いので、この点を工夫してほしい。【北部、松葉、1期目】

協議会のPRが不十分。市民との接点を増やす必要がある。【北部、松葉、1期目】

3年前頃から地区社協とふるさと協議会の一本化が市側から提案され、その変革は、地域における社会福祉のニーズが地域全体に理解される必要性からであると思い、大変喜ばしく思っていた。しかし、その中味が必ずしもそのようなスタンスではないことがわかり失望した。当地域は形式的には一本化したが、会計の分離をはじめとして「旧組織の方が良かったのでは」との住民の声を耳にしている。本来、組織が一体化し、協調に活動するためには、まず拠点の一体化と、事業経費は別としても、日々活動の諸経費である事務費は一体化して経理すべき。市社協は各地区に交付される助成金の事務経費までもに制約を加え、特別会計を義務付けている。このことが市社協に対する地域住民の不信感を産み、不協和音を発生させている。このままでは市社協の事業の発展を望むべくもなく不安を感じる。どうか市社協が先頭に立って、ふるさと協議会をも巻き込み、増え続ける社会福祉のニーズを地域住民の協力のもと発展させるべく大所高所からのご理解をいただくようお願いする。【北部、松葉、2期目】

町会役員も高齢化が進み、年間行事をこなすことで精一杯になっている。市の支援を受けている会、または市の呼びかけに応じたボランティアの会からの押し付けが強く、少数役員の負担が重くなり困っている。【北部、田中、1期目】

現在のような会費の二重取り（本部と支部）の強制徴収をやめ、寄付のみで運営すること。反対もあり、各個人からは集金ができない。現実には町会費の内から支払っている。【北部、田中、無回答】

ふる協と一緒にしてほしい。出る時間が多くて困る。【北部、西原、1期目】

組織の一元化に向けた取組みの強化、指導。各地域町会において役員の選出を重複することなく、一つの組織の役員として、わかりやすい活動基盤とすべき。【北部、西原、2期目】

高齢化時代に求められる福祉、行政との橋渡し、災害時の支援対策等に力を入れてほしい。【北部、富勢、1期目】

「社会福祉協議会って何？」「どんな活動しているの？」等、市民は具体的なことは知らない人が多いと思われる。市民に親しまれ、地域のみなが力をつなぎ、誰もが安心して暮らせる、市民に密着した活動が必要。【北部、富勢、1期目】

町会内で活動していて上部団体に加入していないような小さなグループ（老人会、シニア会等）を把握し、支援するようにしてほしい。【北部、富勢、1期目】

<南部（旧柏）エリア>

1. 民生委員や健康づくり推進委員のなり手がなかなか決まらずに困っている。（今年度の民生委員の改選でもとても苦労した。）活動の内容には意義があり、社会福祉協議会の皆さんも大変努力しているのは見ているが、このような有意義な仕事のなり手がなかなか決まらないことをどのように考えているのか。2. 今回のアンケートの集計や要望、意見、質問はどのような形でフィードバックされるのか？ご教示願う。【南部（旧柏）、藤心、1期目】

市社協と地区社協の関係が今一つ明確ではないように思う。ふるさと協議会との統一が論じられているが、なおさらのこと。福祉団体の物販活動について。本当に福祉活動を行っているのか不明。その辺りは市社協として諸団体についてどう把握しているのか。（前回の会長の時に問い合わせたが、よくわからないということだった。）別に苦情、トラブルがあった訳ではないので、回覧するだけだからと慣習的に引き継いでいるが、今一つすっきりしていない。だんだん数が増えて、東京の方からも電話がかかってくる。これは断わっているが。【南部（旧柏）、藤心、1期目】

特に高齢者を対象としたイベントが多いように感じる。自治会等の運営に適任者が少なく、現状は何も活動していない。このようなアンケートのフィードバックが無い。（単なる集計結果のみで、具体的な対策が講じられていない。）【南部（旧柏）、藤心、2期目】

市社会福祉協議会が行っている募金について、目標金額を提示するのをやめてほしい。町会の規約にそぐわないのと、その金額を出すことで町会活動に重大な影響が出てきている。【南部（旧柏）、藤心、無回答】

社協、ふるさと協、ともに内容および会議に重複する面がある。（出来るものは一本化が望ましい）【南部（旧柏）、光ヶ丘、1期目】

施策はサラリーマン的発想では駄目。社会福祉委員会（民生委員、一般主婦、高齢者代表、町会代表、学識経験者等）を設置し、地区社協から意見を汲み上げるのではなく、委員会の意見を下に降ろし、即実行しないと、時流に遅れる。活気のない協議会では優秀な人材は集まらない。失敗を恐れては駄目。何事も行動が大事。【南部（旧柏）、光ヶ丘、1期目】

ふるさと協議会と社協の一体化を早く推進してほしい。ふるさと協議会の中に光ヶ丘地区社協が2団体あるが、重複部会があり役員はほぼ同一人である。ふるさと協議会も2団体にすると話は早急に解決すると思う。現在の2団体をふるさと協に一本化するなら、市の方から決定してほしい。現在の状況では市の方針を出すことが早急の解決策と思う。ようは中味の問題であり、名前には誰もこだわらないと思う。(例：柏市ふるさと社会福祉協議会)市長とふるさと協、社協の三役にて話し合いを望む。【南部(旧柏) 光ヶ丘、2期目】

柏市の施策との整合性を取ってほしい。【南部(旧柏) 光ヶ丘、無回答】

一本化の問題は、市社協がどう考えているのか、実際に上手くいく方法も提示して進めるべき。ただ「一本化、一本化」というべきではない。現状でそれ程の問題が無ければ今のままがスムーズ。助成金(お金)が問題なだけで、一本化した後での複雑化は下部の人たちを混乱させるだけ。(委員が振り回される。役員の重複は他で解決できる。)スムーズな移行が無理な現状では、今のままで良いと思う。もともとは一本化を望んでいたが、そう単純ではなく、一本化した他の町会で「形だけ一本化しても活動状況は変わらない」ことが見えていることから、今は反対せざるを得ない。一本化は組織も助成金も活動も一体となって出来なければ意味がなく、活動が出来ないし、すべきでないと思う。ふる協の活動は地区社協にはいれるが、ふる協の中に地区社協を入れ込んで一緒にするのは活動と組織が全く違うので難しい。新しい組織として名前も新しくして取り換えることがスムーズに進められる一案でもある。【南部(旧柏) 南光ヶ丘、無回答】

最近、市社協の会長、副会長、職員の人たちが地域のボランティアと交流してくれる機会(来てくれる回数)が増え、考え(意向)や心意気が伝わってくる。大変良い傾向だと思う。これからもますます信頼関係が出来ていくことを望む。【南部(旧柏) 南光ヶ丘、無回答】

行政側のリーダーシップもある程度必要だが、何のために社会福祉協議会が必要なのか、それを推進するための人材、ボランティア等の必要性を説明すべき。いずれ人間は年齢を重ねていく訳だから、早々に関心を持ち、いろいろな企画に参画することが地区の活性化等につながる。【南部(旧柏) 南部、1期目】

自分だったら……と思うことはあっても内向的なため何もせず、自分は駄目だなと感じている、そういう人は意外と多いように思う。協議会から書類をもらうが、それだけで終わっているように思う。【南部(旧柏) 南部、1期目】

役員以外の人にも広く認識してもらう必要がある。【南部(旧柏) 南部、1期目】

町会未入会の家庭に対して、どう手を打っていくかが一番問題。【南部(旧柏) 南部、1期目】

地区社協を通じて連携が上手くいっていると思う。【南部(旧柏) 南部、2期目】

今、地域の課題はふる協との統一化問題だが、市民部と市社協が必ずしも一体感と見受けられないことが不思議で仕方がない。お互いの思いをきちんと整理して、対応してほしい。【南部(旧柏) 南部、無回答】

<南部(旧沼南)エリア>

配付用紙にお金がかかり過ぎていませんか。啓発活動や公報活動にしては！【南部(旧沼南) 大津ヶ丘、2期目】

<地区無回答>

全く創造性の無い無駄なアンケートだった。そこを理解できるかが、今後、役所と他組合、会の重要な問題。【無回答、2期目】

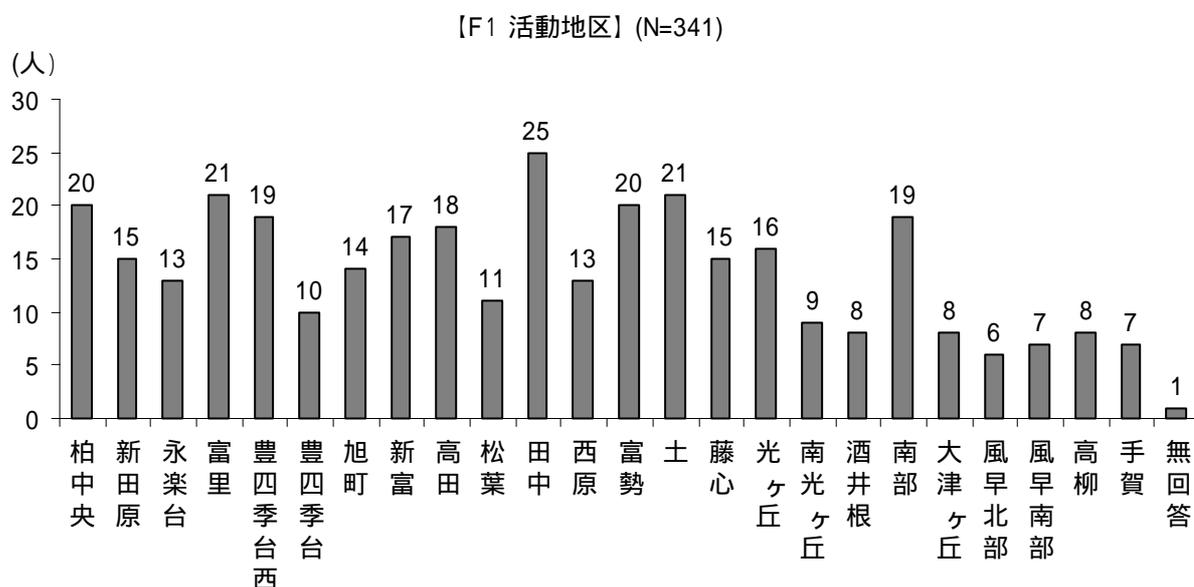
2 民生委員児童委員（主任児童委員）

もくじ

(1) 回答者の属性	68
(2) 日頃の活動について	70
(3) 地区社会福祉協議会との関わりについて	80
(4) 町会・自治会等との関わりについて	86
(5) 関係機関、関係団体との関わりについて	90
(6) 地域における福祉等の取り組みについて	94
(7) 市社会福祉協議会との関わりについて	106

(1) 回答者の属性

活動担当地区



(上段:人、下段:%)

合計	1. 柏中央	2. 新田原	3. 永楽台	4. 富里	5. 豊四季台西	6. 豊四季台
341 100.0	20 5.9	15 4.4	13 3.8	21 6.2	19 5.6	10 2.9
7. 旭町	8. 新富	9. 高田	10. 松葉	11. 田中	12. 西原	13. 富勢
14 4.1	17 5.0	18 5.3	11 3.2	25 7.3	13 3.8	20 5.9
14. 土	15. 藤心	16. 光ヶ丘	17. 南光ヶ丘	18. 酒井根	19. 南部	20. 大津ヶ丘
21 6.2	15 4.4	16 4.7	9 2.6	8 2.3	19 5.6	8 2.3
21. 風早北部	22. 風早南部	23. 高柳	24. 手賀	無回答		
6 1.8	7 2.1	8 2.3	7 2.1	1 0.3		

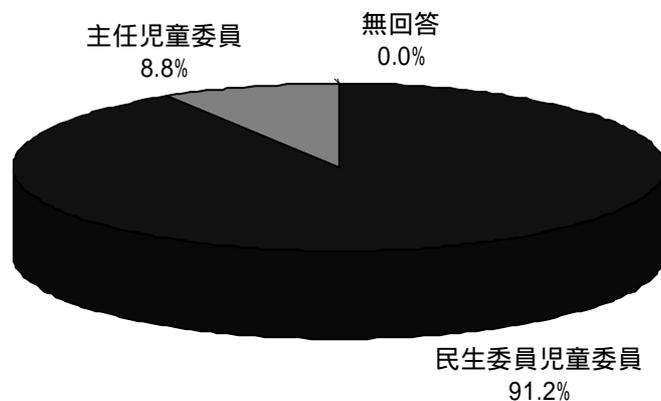
上記 24 地区に加えて、4 エリアでの集計も行っています。

4 エリアは、次のとおりです。(番号は上記 24 地区のもの)

1 ~ 8 中央、9 ~ 13 北部、14 ~ 19 南部 (旧柏)、20 ~ 24 南部 (旧沼南)

回答者の任務

【F2 回答者の任務】(N=341)



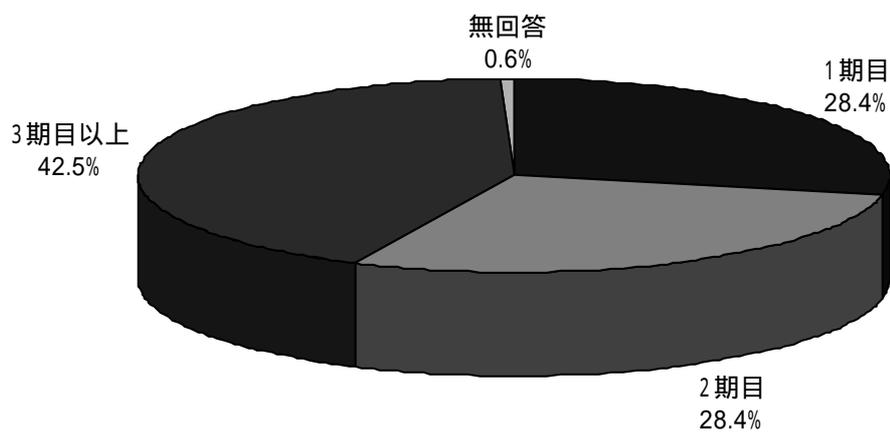
(上段:人、下段:%)

合計	1. 民生委員 児童委員	2. 主任児童 委員	3. 健康づくり 推進員	4. 食生活推 進員	無回答
341	311	30	0	0	0
100.0	91.2	8.8	0.0	0.0	0.0

健康づくり推進員、食生活推進員も同じ調査票を使用した分析は別に行った。

活動年数

【F3 活動年数】(N=341)



(上段:人、下段:%)

合計	1. 1期目	2. 2期目	3. 3期目以 上	無回答
341	97	97	145	2
100.0	28.4	28.4	42.5	0.6

(2) 日頃の活動について

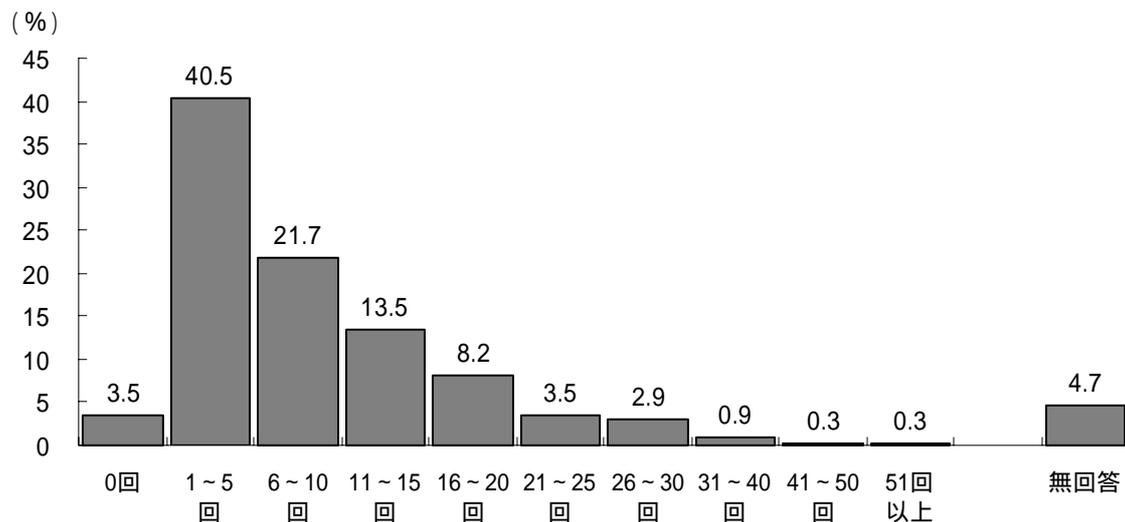
月あたりの訪問活動、相談活動回数

質問1 月に概ねどの程度、訪問及び相談活動を行っていますか。それぞれ回数を記入してください。

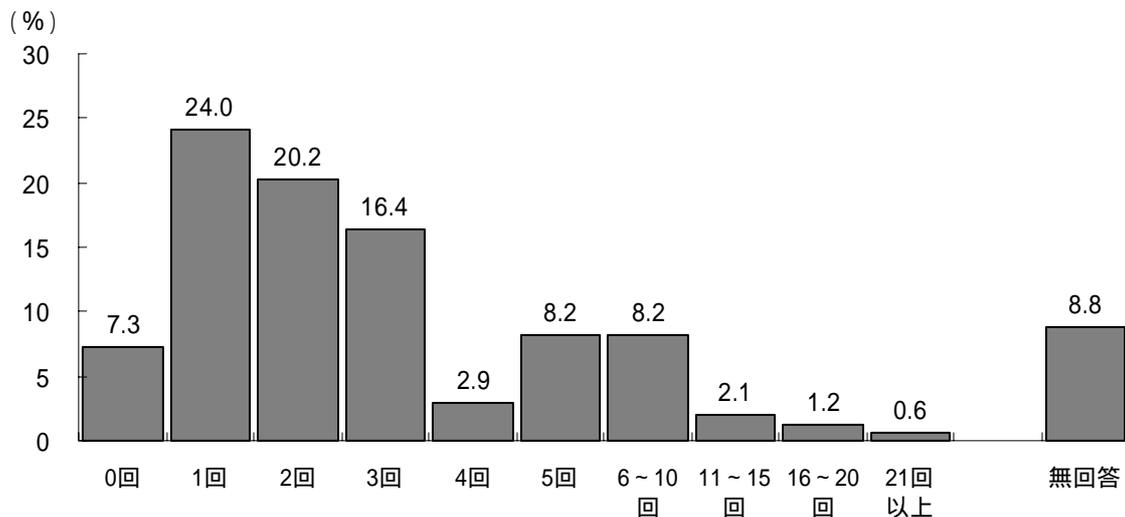
月あたりの訪問活動、相談活動の回数を伺ったところ、訪問活動は「1回～5回」までが40.5%と最も多く、次いで「6回～10回」が21.7%、「11回～15回」が13.5%と続きます。1回～15回で約75%と全体の4分の3を占めています。なかには月50回を超える訪問活動を行っている方もいました。

相談活動については、「1回」が最も多く24.0%、次いで「2回」20.2%、「3回」16.4%となっています。1回～3回で全体の6割を占めています。

【質問1 - 1 訪問活動の回数】(N=341)



【質問1 - 2 相談活動の回数】(N=341)



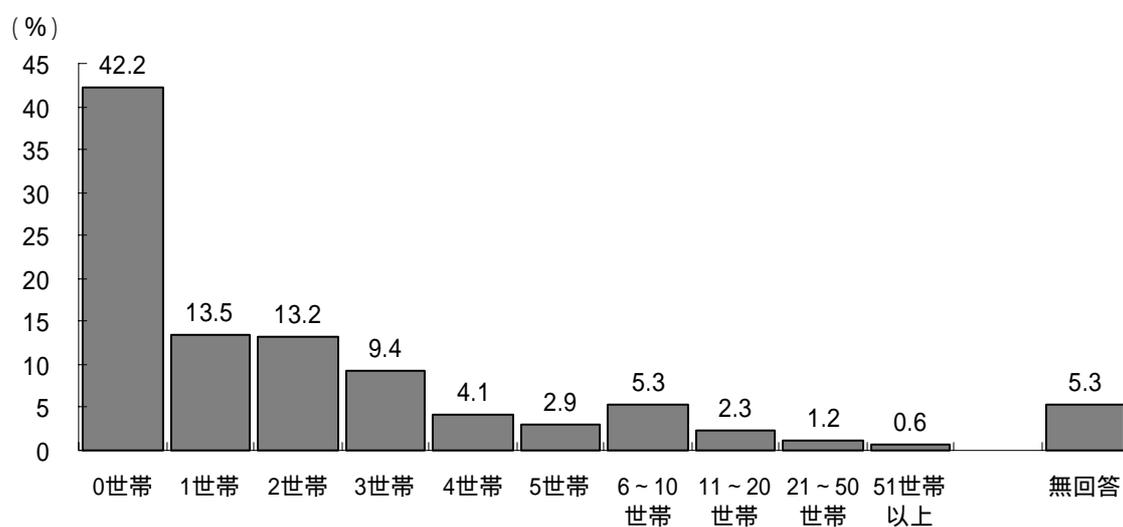
週1回以上の見守りが必要な世帯数

質問2 週1回以上の見守りを必要とする世帯はどの位ありますか。実際に関わっている世帯数をご記入ください。

週1回以上の見守りを必要とする世帯数を伺ったところ、「0世帯」が42.2%で最も多く、次いで「1世帯」が13.5%、「2世帯」が13.2%、3世帯以上はそれぞれ1割以下となっています。

週1回以上の見守りを必要とする世帯は全体の約半分となっており、1～3世帯が多くなっています。6世帯以上もあわせて1割弱みられます。

【質問2 週1回以上の見守りを必要とする世帯数】(N=341)

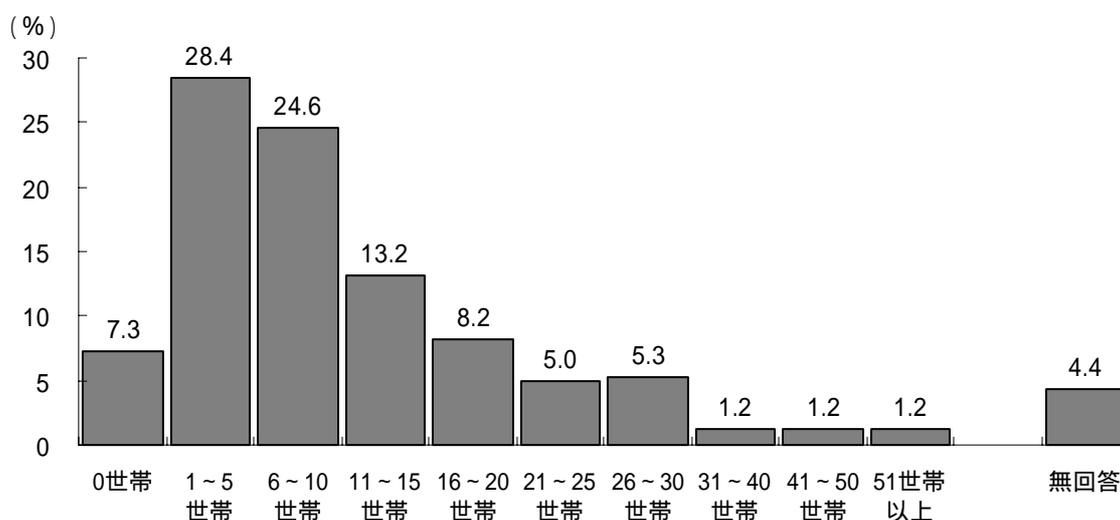


災害時の安否確認が必要な世帯数

質問3 災害時に安否確認が必要だと思われる世帯はどの位ありますか。把握している世帯数をご記入ください。

災害時の安否確認が必要な世帯数を伺ったところ、「1～5世帯」が28.4%で最も多く、次いで「6～10世帯」が24.6%、「11～15世帯」が13.2%となっています。「0世帯」の7.3%を含め、10世帯以下が半数を超えますが、一方で21世帯以上の回答もあわせて14%近くみられます。

【質問3 災害時の安否確認が必要な世帯数】(N=341)



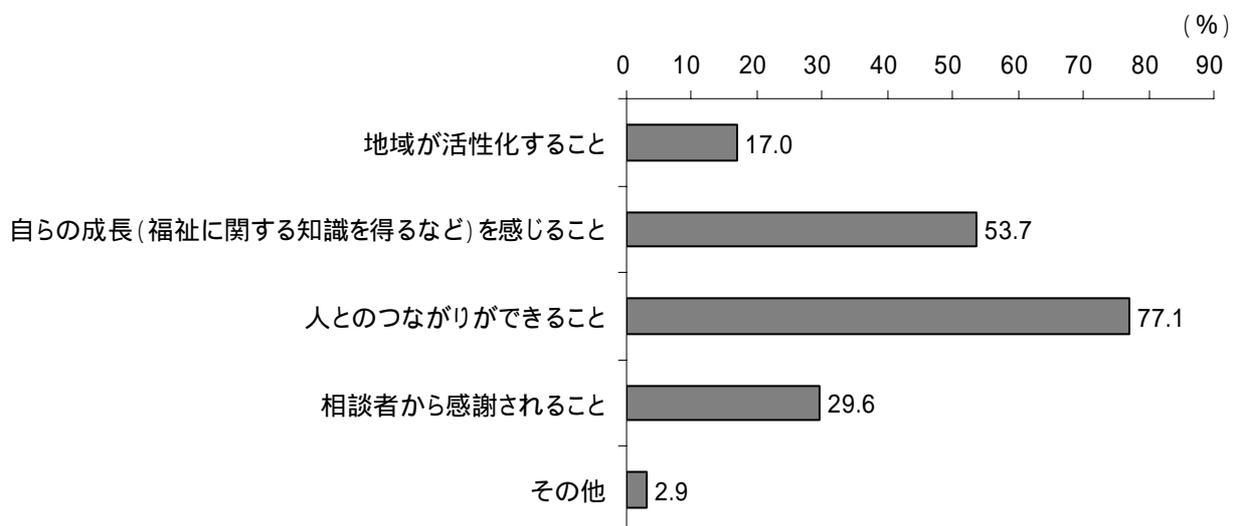
活動でやりがいを感じる事

質問4 活動をするなかで、やりがいを感じることは何ですか。(2つまで)

1. 地域が活性化すること
2. 自らの成長(福祉に関する知識を得るなど)を感じる事
3. 人とのつながりができること
4. 相談者から感謝されること
5. その他

活動する中でやりがいを感じる事については、「人とのつながりができること」77.1%、「自らの成長(福祉に関する知識を得るなど)を感じる事」53.7%の2つの割合が高く、それに「相談者から感謝されること」29.6%が続いています。

【質問4 活動でやりがいを感じる事】(複数回答)(N=341)



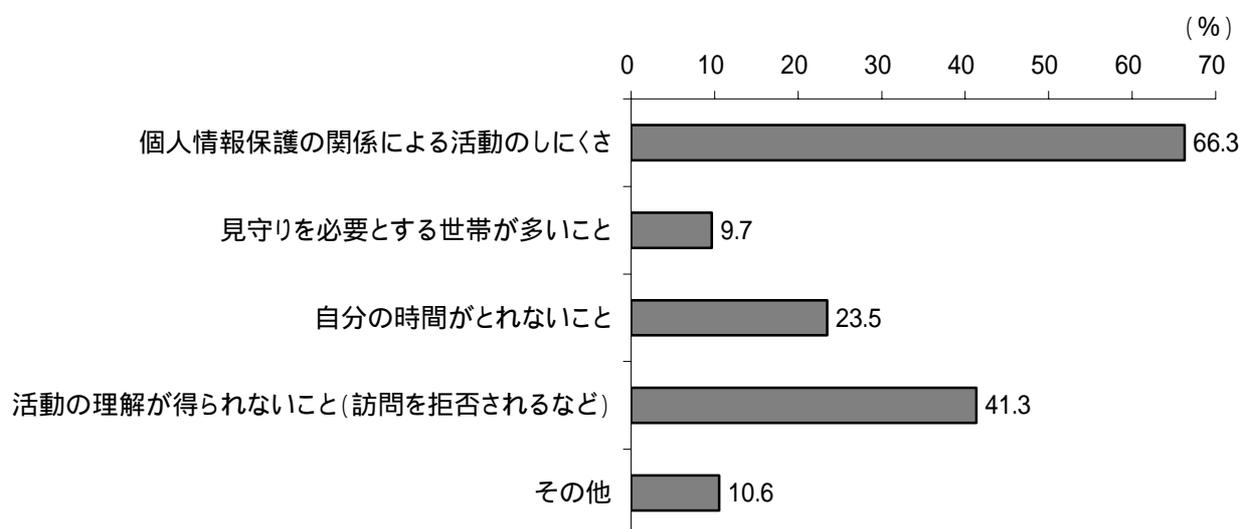
活動の難しさや負担を感じること

質問5 活動をするなかで、難しさや負担を感じることは何ですか。(2つまで)

1. 個人情報保護の関係による活動のしにくさ
2. 見守りを必要とする世帯が多いこと
3. 自分の時間がとれないこと
4. 活動の理解が得られないこと(訪問を拒否されるなど)
5. その他

活動の難しさや負担を感じることは、「個人情報保護の関係による活動のしにくさ」66.3%が飛びぬけて高く、「活動の理解が得られないこと(訪問を拒否されるなど)」41.3%、「自分の時間がとれないこと」23.5%などが続いています。

【質問5 活動の難しさや負担を感じること】(複数回答) (N=341)



<クロス集計：4エリア別>

単位:人(%)

	合計	1.個人情報保護の関係による活動のしにくさ	2.見守りを必要とする世帯が多いこと	3.自分の時間がとれないこと	4.活動の理解が得られないこと(訪問を拒否されるなど)	5.その他
合計	341 (100)	226 (66.3)	33 (9.7)	80 (23.5)	141 (41.3)	36 (10.6)
中央	129 (100)	93 (72.1)	13 (10.1)	26 (20.2)	51 (39.5)	9 (7.0)
北部	87 (100)	57 (65.5)	8 (9.2)	17 (19.5)	40 (46.0)	12 (13.8)
南部(旧柏)	88 (100)	52 (59.1)	9 (10.2)	27 (30.7)	29 (33.0)	11 (12.5)
南部(旧沼南)	36 (100)	23 (63.9)	3 (8.3)	10 (27.8)	20 (55.6)	4 (11.1)
無回答	1 (100)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)

エリア別にみると、「個人情報保護の関係による活動のしにくさ」では、中央エリアが72.1%と高く、それに比較すると南部(旧柏)で59.1%と低くなっています。

活動しやすいように心がけていること、工夫していること

質問6 活動しやすいように、心がけていること、工夫していることはありますか。

主な意見の要旨【エリア、地区、就任年数、委員の種別】

地域の中で、どなたにでも先にこちらから挨拶をするように心がけている。【中央、柏中央、1期目、民生委員】

町会行事、会議などに参加して、顔を覚えてもらう。老人会に加入して、高齢者と関わる。【中央、柏中央、1期目、民生委員】

やさしい言葉で話しかけるように、笑顔で接するように、相手の顔を見ながら話をよく聞くように、心がけている。【中央、新田原、1期目、民生委員】

新任の時は大変だった。名前と顔を覚えてもらえるよう、まめに訪問。留守の時は、訪問カード（自作）を置いてくる。後からTELを入れる。【中央、新田原、2期目、民生委員】

安否確認の道順を決め、表にしておく。【中央、新田原、2期目、民生委員】

活動する中で難しさや負担を感じた時に、包括支援センターに連絡し、相談に乗ってもらえて大変心強かった。やはり、公的機関の人が携わってくれれば、守秘の事柄についての的確に対応してくれるという安心ができ、それを基に連携して物事を処理できたと思う。専門家の存在は双方にとって重要な役割を担っていると思う。【中央、新田原、2期目、民生委員】

曜日を決めている。見守りを必要な方のご近所に「よろしく」と協力をお願いしている。何かあると連絡をくださるよう、お願いしている。【中央、新田原、3期目以上、民生委員】

訪問先が受け入れやすい時間帯を選ぶこと。【中央、新田原、3期目以上、民生委員】

出来るだけ気軽に相談できるような雰囲気をつくること。いろいろな機会をとらえ、多くの方と接触できるようにすること。【中央、永楽台、3期目以上、民生委員】

ウィークデーより土日の方が在宅が多いので、なるべく土日に何うようにしている。（医者に行っている人が多い）【中央、永楽台、3期目以上、民生委員】

何気ない会話の中で話が進んでいくようにしている。生意気な言葉をつつしんでいる。【中央、富里、1期目、民生委員】

高齢者が集まる会合には、できる限り出席する。【中央、富里、1期目、民生委員】

お手紙を出すようにしている。寒い時などは特に玄関先でのお話は嫌がられるので……。【中央、豊四季台西、3期目以上、民生委員】

「訪問しましたよ」というような態度ではなく、「何となく近所に来たので立ち寄りました」という感じにしている。【中央、旭町、3期目以上、民生委員】

相手の目線に合わせて、気持ちをくんで、いつも笑顔を忘れずにと思っている。【中央、新富、1期目、民生委員】

再々拒否されても根気よく訪問して相手と信頼関係をつくるよう心がける。【中央、新富、3期目以上、民生委員】

始めから電話番号や緊急連絡先を無理に聞き出さない。どうしても必要な時以外は家の中に入らない。安否確認のため突然訪問するより電話で話を聞くようにしている。訪問介護サービスを受けている人を訪問するときはヘルパーの来ない日に行く。【北部、高田、1期目、民生委員】

声かけ訪問時に聞いた話題（趣味、病気、家族に関すること）を覚えておいて、ふれあいの

あった時に話題のその後を折り込んで会話するようにしている。【北部、田中、2期目、民生委員】

訪問する時に、民生委員ということを周りの家の人に分からないように気を遣っている。【北部、田中、3期目以上、民生委員】

安否確認など、あまり何う必要のない一人暮らしの人には電話などで連絡をとることもある。(頻繁に行くと迷惑がられる感じがするので)【北部、田中、3期目以上、民生委員】

町内老人会等に入会し、会合に出席して話し合いをすること。自分をよく知ってもらおうよう心がけている。【北部、西原、2期目、民生委員】

信頼とふれあいが深まることが大事。そのため、1.町会、子ども会、老人クラブ、健康づくり推進員等の活動に積極的に参加。2.情報の提供。3.話をきいてあげること。【北部、西原、3期目以上、民生委員】

町会の行事には極力、参加する。街で(買い物途中)出会った折は声をかける。相談事には、すぐ対応する。【北部、富勢、2期目、民生委員】

直接本人からではなく、隣近所から情報をそれなりに得るようにしている。【南部(旧柏)土、2期目、民生委員】

人間関係を円滑に保つこと。自分の精神状態を出来る限り安定させておくように心がけている。イライラしないように、他人に嫌な思いをさせないように、やはり健康でなくては出来ないと思う。【南部(旧柏)土、3期目以上、民生委員】

定期的に一人暮らし宅の安否確認、相談相手として訪問している。何度も訪問することで打ち解けた話が出来ようになる。また、介護支援センターとも連絡を取り協力をあおいでいる。【南部(旧柏)土、3期目以上、民生委員】

長い間をおかないように、なるべく等間隔の期間で伺って、話題の継続を心がけている。【南部(旧柏)光ヶ丘、2期目、民生委員】

気になることがあれば、すぐ行動に移す。家族の協力がないと難しいので、家庭生活も大切にす。【南部(旧柏)光ヶ丘、3期目以上、民生委員】

町会単位で行う行事には全て参加している。日頃から各年度の役員(班長)さんとは親しくお付き合いさせていただいている。【南部(旧柏)南部、2期目、民生委員】

個人の見守りでは限りがあるので、特に一人暮らしの人については、近所や知人に異変があった時の報告を頼んでいる。犬の散歩を毎日しているので、注意を要している人たちの家の前を通るようにしている。【南部(旧柏)南部、2期目、民生委員】

民生委員として...の前に、地域の人として顔馴染みになることが大事。【南部(旧沼南)大津ヶ丘、3期目以上、民生委員】

訪問した時は、いろいろなことに関して詳しく丁寧に説明するようにしている。服装もきちんと(華美とかではなく)言葉使いも親し過ぎず、他人行儀過ぎず、相手の心に響くように、笑顔でと思っている。【南部(旧沼南)風早南部、1期目、民生委員】

委員同士のコミュニケーションを普段から取るようにし、何かの時には話のしやすい関係であるようにしておきたい。【中央、柏中央、3期目以上、主任児童委員】

民生委員と連携を取りながら活動するようにしている。人との和を大事にしている。【中央、豊四季台西、2期目、主任児童委員】

相談や問題のある家庭の情報が入ったらすぐに民協の担当者と情報を共有し、単独で行動を起こさないように、気持ちも少し楽でいられるように、仲間とよく話し合ってから最善の策を探すようにしている。【南部(旧柏)土、2期目、主任児童委員】

委員としての活動状況

質問7 以下の組織の委員になっていますか。委員になっているものにつけて下さい。また、委員になっている場合、年間の会議や活動への出席回数を記入してください。

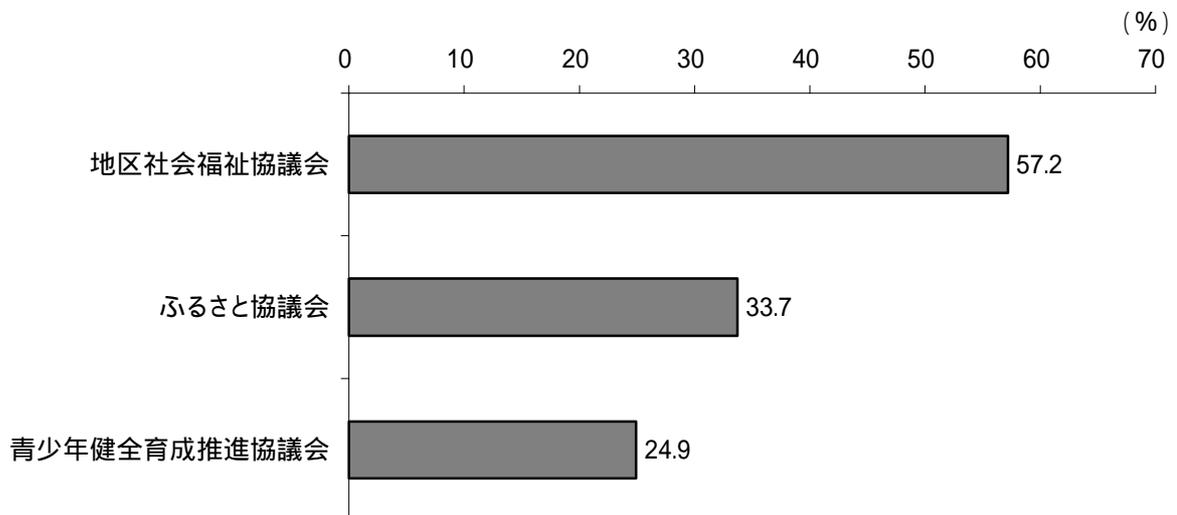
地区社会福祉協議会

ふるさと協議会

青少年健全育成推進協議会

地域組織において委員になっているものを伺ったところ、「地区社会福祉協議会」の委員は57.2%、「ふるさと協議会」の委員は33.7%、「青少年健全育成推進協議会」の委員は24.9%という結果となりました。

【質問7 委員としての活動状況】(複数回答) (N=341)



<クロス集計：エリア別>

単位:人(%)

	合計	地区社会福祉協議会	ふるさと協議会	青少年健全育成推進協議会
合計	341 (100)	195 (57.2)	115 (33.7)	85 (24.9)
中央	129 (100)	58 (45.0)	48 (37.2)	36 (27.9)
北部	87 (100)	39 (44.8)	20 (23.0)	18 (20.7)
南部(旧柏)	88 (100)	64 (72.7)	31 (35.2)	30 (34.1)
南部(旧沼南)	36 (100)	33 (91.7)	15 (41.7)	0 (0.0)
無回答	1 (100)	1 (100.0)	1 (100.0)	1 (100.0)

エリア別に委員の状況をみると、地区社会福祉協議会の委員は、南部（旧沼南）91.7%、南部（旧柏）72.7%では高いものの、中央が45.0%、北部が44.8%と低くなっています。

ふるさと協議会の委員は、南部（旧沼南）41.7%に対し、北部23.0%と低くなっています。中央と南部（旧柏）は、3割台となっています。

<クロス集計：活動年数別>

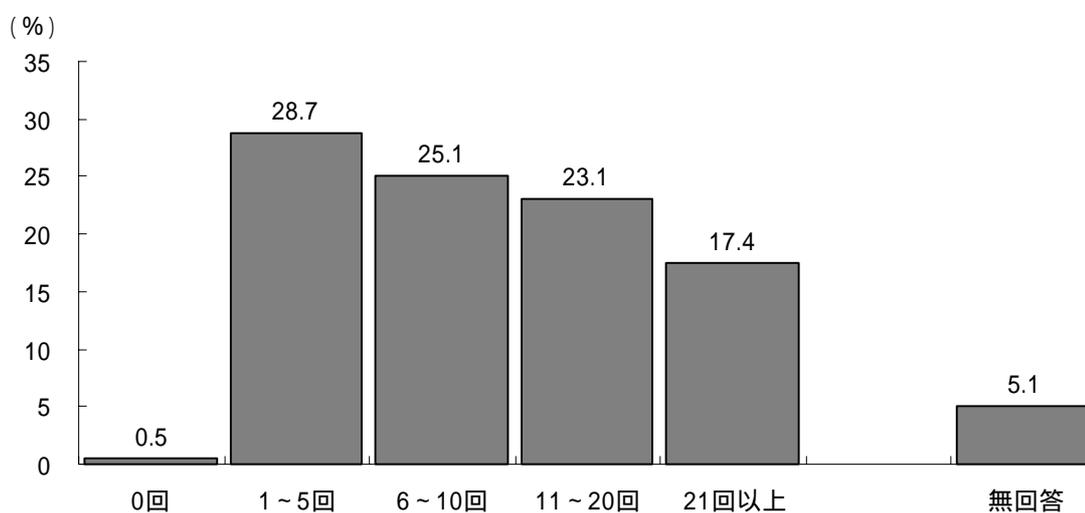
	合計	単位:人(%)		
		地区社会 福祉協議会	ふるさと協 議会	青少年健 全育成推進 協議会
合計	341 (100)	195 (57.2)	115 (33.7)	85 (24.9)
1期目	97 (100)	45 (46.4)	29 (29.9)	17 (17.5)
2期目	97 (100)	55 (56.7)	39 (40.2)	24 (24.7)
3期目以上	145 (100)	93 (64.1)	45 (31.0)	43 (29.7)
無回答	2 (100)	2 (100.0)	2 (100.0)	1 (50.0)

活動年数別に委員の状況をみると、地区社会福祉協議会と青少年健全育成推進協議会は、活動年数を重ねるほど、委員になっている割合が高くなっています。

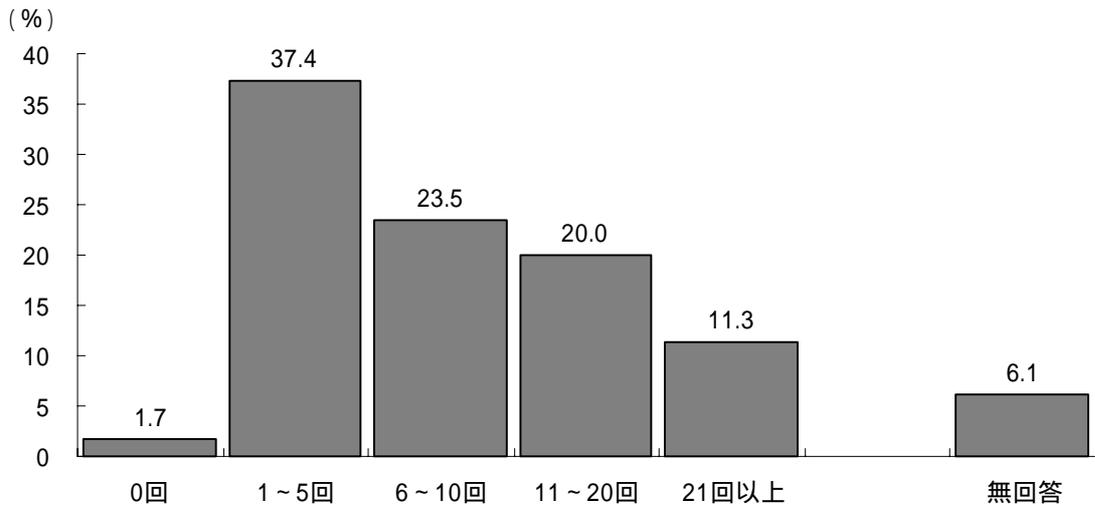
ふるさと協議会の委員は、2期目が高くなっています。

委員となっている組織の年間活動回数については、いずれの組織も「1～5回」が最も多くなっています。地区社会福祉協議会とふるさと協議会では、6回以上の出席も多く、「21回以上」も1割を超えています。

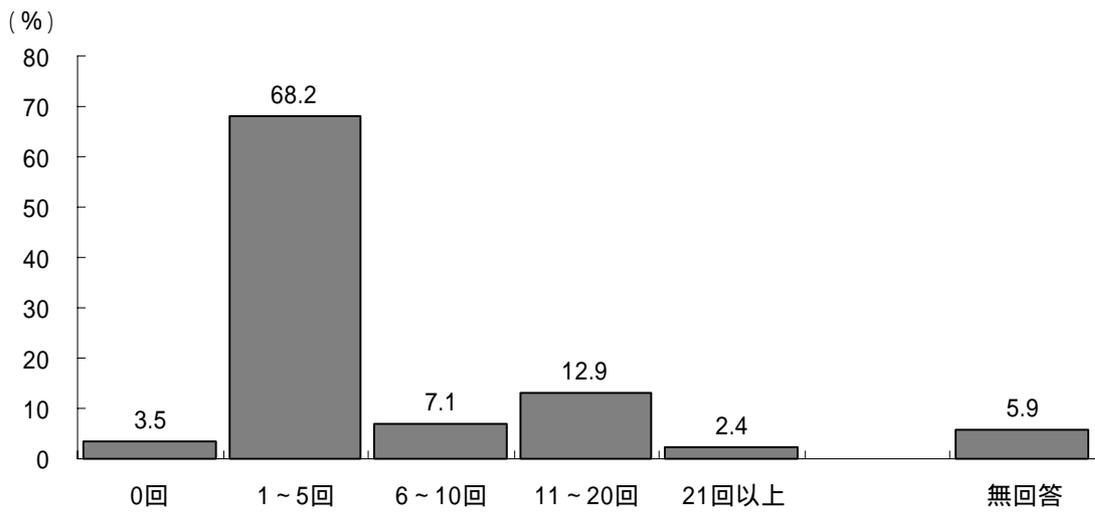
【質問7 地区社会福祉協議会の活動回数】(N=195)



【質問7 ふるさと協議会の活動回数】(N=115)



【質問7 青少年健全育成推進協議会の活動回数】(N=85)



(3) 地区社会福祉協議会との関わりについて

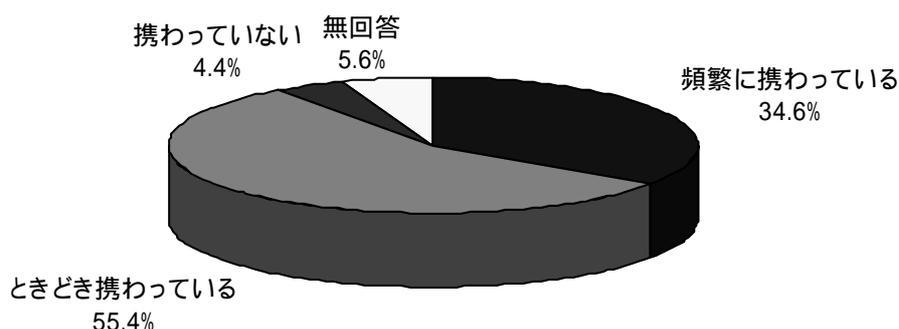
地区社会福祉協議会の活動

質問8 地区社会福祉協議会(以下、地区社協という)の活動にどの程度、携わっていますか。(1は1つ)

- 1. 頻繁に携わっている 問9へ
- 2. ときどき携わっている 問9へ
- 3. 携わっていない 問10へ

地区社会福祉協議会(以下、地区社協という)活動については、「ときどき携わっている」が55.4%と最も多く、「頻繁に携わっている」の34.6%とあわせ9割が地区社協の活動に携わっています。「携わっていない」は4.4%となっています。

【質問8 地区社会福祉協議会の活動】(N=341)



<クロス集計：活動年数別>

単位：人 (%)

	合計	1. 頻繁に携わっている	2. ときどき携わっている	3. 携わっていない	無回答
合計	341 (100)	118 (34.6)	189 (55.4)	15 (4.4)	19 (5.6)
1期目	97 (100)	19 (19.6)	66 (68.0)	6 (6.2)	6 (6.2)
2期目	97 (100)	44 (45.4)	41 (42.3)	5 (5.2)	7 (7.2)
3期目以上	145 (100)	54 (37.2)	81 (55.9)	4 (2.8)	6 (4.1)
無回答	2 (100)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

地区社協活動への携わり頻度は、地域別では大きな違いがみられませんでした。

活動年数別にみると、「2期目」45.4%、「3期目以上」37.2%に対し、「1期目」は2割弱と低くなっています。

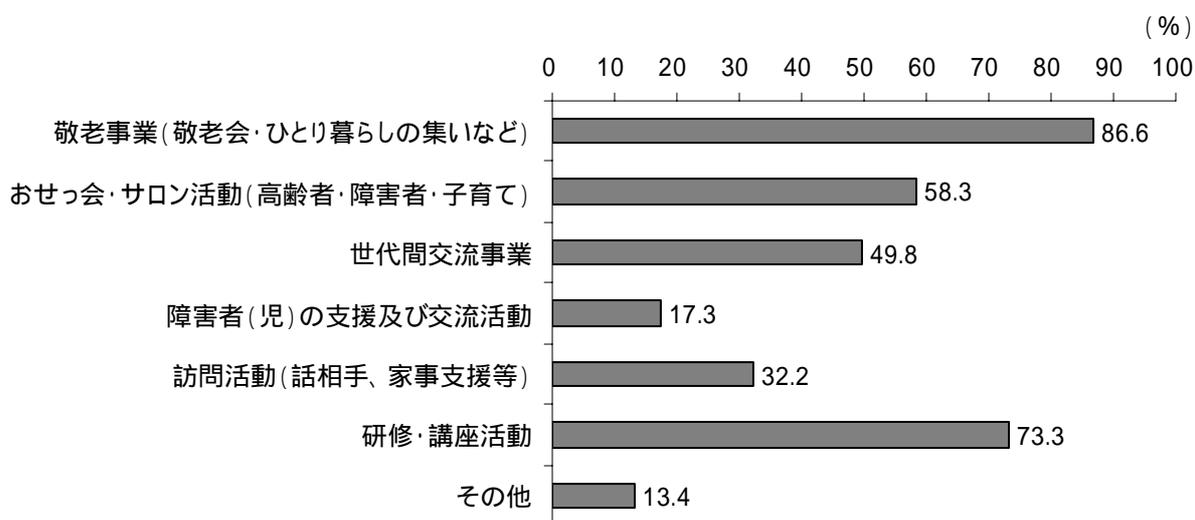
地区社協の活動内容

【問8で「1.頻繁に携わっている」「2.ときどき携わっている」と回答した方のみ】
質問9 地区社協のどのような活動に携わっていますか。(あてはまるものすべてに)

1. 敬老事業(敬老会・ひとり暮らしの集いなど)
2. おせっ会・サロン活動(高齢者・障害者・子育て)
3. 世代間交流事業
4. 障害者(児)の支援及び交流活動
5. 訪問活動(話相手、家事支援等)
6. 研修・講座活動
7. その他

質問8で地区社協活動に携わっていると答えた方に活動内容を聞いたところ、多い活動としては、「敬老事業(敬老会・ひとり暮らしの集いなど)」86.6%、「研修・講座活動」73.3%、「おせっ会・サロン活動(高齢者・障害者・子育て)」58.3%、「世代間交流事業」49.8%の順となっています。

【質問9(地区社協活動に携わっている方のみ)活動内容](複数回答)(N=307)



地区社協活動の課題、改善点

質問10 地区社協との関わり方についての課題や、今後、地区社協をより良くしていくために改善した方がよいと感じる点など、ありましたらご記入ください。

主な意見の要旨【エリア、地区、就任年数、委員の種別】

敬老会、ひとり暮らしの集いは地区社協主催なのに、民生委員が主催の様なやり方を改善してほしい。絶対におかしい。【中央、柏中央、3期目以上、民生委員】

地区社協がふるさと協議会の中に入ったので、本年度は特に位置づけがはっきりしなかった。地区社協として取り組んできた事業が、今後、予算の関係で実施できなくなる懸念がある。敬老祝等は無くさないでほしい。【中央、新田原、2期目、民生委員】

ふるさと協議会との合併1年目で、運営面で慣れない面もあるが、次第に良い方向に落ち着くと思う。地域ふるさと協議会と地域社協部の構成メンバーが重複しており、さらなる組織改善が必要。【中央、富里、2期目、民生委員】

子育て、高齢者に対するボランティアを増し、出来るだけ多くの人に関わりを持ってほしい。そのために、ボランティア養成に力を入れていく必要がある。(多くの時間ではなく短時間でもやれるような。)地区社協の役員も、1人がいくつも兼ねるのでなく、いろいろな人に経験してほしい。【中央、富里、3期目以上、民生委員】

地区社協は活動を行うときの名前だけ。総会なし、役員会なし、会計不明、会長に改善する気持ちなし。地区社協と自治会の会計分離が早急に必要。【中央、豊四季台、3期目以上、民生委員】

専任リーダーの育成。当地区は、会長、副会長とも他組織の会長を兼任しており、ボランティア活動の限界を超えている。地区社協活動に100%傾注できる人材が必要。【中央、旭町、2期目、民生委員】

情報の交換が何よりと思う。情報の不足は、理解、協力が得られにくいのではないだろうか。【中央、新富、2期目、民生委員】

民生委員は地区社協の一員(役員)になれないため何も出来ない。【北部、高田、3期目以上、民生委員】

地区社協と民生委員との連携について、不明。そういう地域は他にもあると思うが、社協が間に入って調整したらどうか。【北部、高田、3期目以上、民生委員】

社協に役員および協力メンバーを出しているが、会議および行事の報告、協力をするだけでなく、年数回、交流をはかるための会議をすることが必要。【北部、松葉、2期目、民生委員】

年間を通しての行事の数が多い。社協で行うものとふる協で行うものを、もう少し話し合った方が良いのでは。行事に入ると訪問の方がなかなか出来なく心配になる。【北部、松葉、2期目、民生委員】

地区社協の役員をして社協の内容が分かってきた。一般の民生・児童委員は、現在の社協の活動を全部わかっていないのではないかと。共通の活動も多々あるので、もっと社協と民生・児童委員との会議を設けたら良い。【北部、田中、3期目以上、民生委員】

「より良いまちづくり」目指して各町会・グループ代表によるまちづくり研修会は効果を上げている。さらに、住民ヒアリング「高齢者(老人会)、身障者・介護者、小中学生および保護者が対象」を行って困ったこと、このまちの良い所は何かなどの話し合いを持っている。

困ったことを話すことで、悩みの少しは軽減されることはあるが、地区社協として、話を受けた改善状況について、住民に対しフィードバックすべきです。活動結果を住民対象に報告（PR）すべきだと思う。【北部、西原、2期目、民生委員】

地区社協で計画したことに携わる行事も多く、これが本来の民生委員の仕事なのかどうか、わからないところもある。関わりについて今一度、説明してもらえればと思う。【北部、富勢、1期目、民生委員】

一人一役ということで、多くの人々に役をしてもらい、皆が社協と福祉に関わるようにした方が、社会全体がボランティアに協力しているということになると思う。一人の人が多くの役を兼任しているように思う。【北部、富勢、3期目以上、民生委員】

町会、自治会等と連携して、高齢者、障害者がどこに住んでいるのか、全体で何世帯いるのか把握することが大切。福祉に関する知識をもっと多く得ることが大切。【南部(旧柏)、土、1期目、民生委員】

催し物などはほとんど元気な人が参加している。ひとりで会場へ行けない人などが参加できるように改善する必要がある(送迎等)。【南部(旧柏)、土、1期目、民生委員】

他の地区の良いモデル地区などの話を聞いたり見学したりすると、より具体的に、何をすれば良くなるか考えられる。やはり、人材の育成が一番。【南部(旧柏)、光ヶ丘、1期目、民生委員】

地区社協の行事がマンネリ化している。行事に参加する人が固定化している。若い人の参加を望む。【南部(旧柏)、南光ヶ丘、2期目、民生委員】

年度計画を立て、計画的に事業を進める。その事業のための準備の集まりもきちんとする。そして実施に際して、気を配って、実践し、みんなが良かったと思うように。【南部(旧柏)、南部、3期目以上、民生委員】

民生委員は全員が地区社協の委員、福祉委員となっているため、民生委員の持っている情報は活用出来ている。ただ、町会、管理組合の役員の積極的参加が乏しく、学区等、他機関との連携も少ない。民生委員が、これらの団体と地区社協との接着剂的な役割をもっと積極的に担っていくと良いのではと思う。【南部(旧沼南)、大津ヶ丘、3期目以上、民生委員】

地区社協単位よりもっと細分化した区域(町会単位など)での地域活動を推進する。高齢者が歩いて集まれる範囲が理想。【南部(旧沼南)、風早北部、2期目、民生委員】

役員を選出についてはもう少し地域全体から選出すべきと思う。【無回答、3期目以上、民生委員】

地域(町会、自治会)の協力を得られるように、活動への理解を求め、多くの人が活動に関われるような組織づくりが必要。【中央、柏中央、3期目以上、主任児童委員】

協力員が固定されてしまうので、地区社協の活動を地域のより多くの人たちに知ってもらい、いろいろな世代の人が関わっていく必要がある。同じ人に負担が集中しないように、大勢の人が楽しく活動出来たら良い。【中央、永楽台、3期目以上、主任児童委員】

なるべく若い世代を取り込めるように(委員の若返りを図る)委員の選任の仕方を工夫してほしい。【北部、田中、3期目以上、主任児童委員】

地区社協と民生委員は切っても切れない関係。私はふるさと協議会推薦のため、協議会の年間行事の準備、定例会、反省、管理等に忙しく負担。出来れば、サロンの方と民生委員で地区社協、ボランティア、自治会の人と連携した地区社協をつくったほうが良いと思う。【南部(旧柏)、藤心、1期目、主任児童委員】

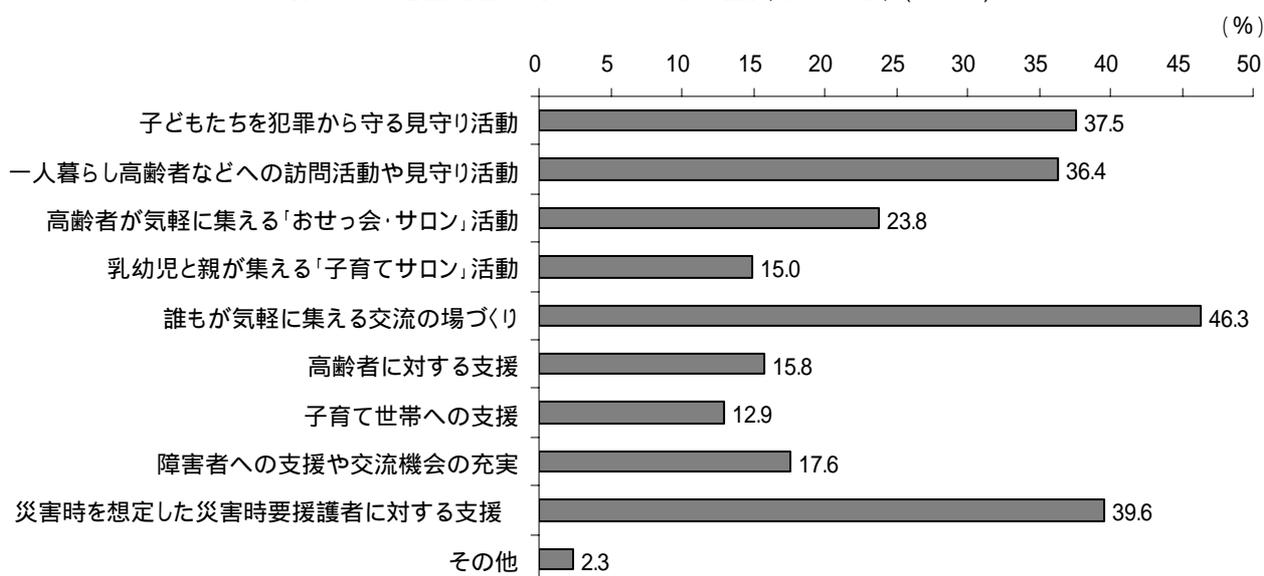
地区社協が力を入れるべき活動

質問11 地区社協が、今後力を入れるべき地域福祉活動は何だと思えますか。(は3つまで)

1. 子どもたちを犯罪から守る見守り活動
2. 一人暮らし高齢者などへの訪問活動や見守り活動
3. 高齢者が気軽に集える「おせっ会・サロン」活動
4. 乳幼児と親が集える「子育てサロン」活動
5. 誰もが気軽に集える交流の場づくり
6. 高齢者に対する支援(ごみ出しなど、簡単なお手伝いなど)
7. 子育て世帯への支援(託児所や母親の集いの場など)
8. 障害者への支援や交流機会の充実
9. 災害時を想定した災害時要援護者に対する支援
10. その他

地区社協が今後力をいれるべき地域福祉活動について聞いたところ、「誰もが気軽に集える交流の場づくり」46.3%、「災害時を想定した災害時要援護者に対する支援」39.6%、「子どもたちを犯罪から守る見守り活動」37.5%、「一人暮らし高齢者などへの訪問活動や見守り活動」36.4%の順に多く回答が寄せられました。

【質問11 地区社協が力を入れるべき活動】(複数回答)(N=341)



< クロス集計：4エリア別 >

単位：人 (%)

	合計	1. 子どもたちを犯罪から守る見守り活動	2. 一人暮らし高齢者などへの訪問活動や見守り活動	3. 高齢者が気軽に集える「おせっ会・サロン」活動	4. 乳幼児と親が集える「子育てサロン」活動	5. 誰もが気軽に集える交流の場づくり
合計	341 (100)	128 (37.5)	124 (36.4)	81 (23.8)	51 (15.0)	158 (46.3)
中央	129 (100)	57 (44.2)	50 (38.8)	23 (17.8)	21 (16.3)	60 (46.5)
北部	87 (100)	41 (47.1)	26 (29.9)	25 (28.7)	14 (16.1)	41 (47.1)
南部(旧柏)	88 (100)	20 (22.7)	35 (39.8)	20 (22.7)	11 (12.5)	35 (39.8)
南部(旧沼南)	36 (100)	10 (27.8)	13 (36.1)	12 (33.3)	5 (13.9)	22 (61.1)
無回答	1 (100)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

	6. 高齢者に対する支援(ごみ出しなど、簡単なお手伝いなど)	7. 子育て世帯への支援(託児所や母親の集いの場など)	8. 障害者への支援や交流機会の充実に	9. 災害時を想定した災害時要援護者に対する支援	10. その他
合計	54 (15.8)	44 (12.9)	60 (17.6)	135 (39.6)	8 (2.3)
中央	23 (17.8)	13 (10.1)	22 (17.1)	54 (41.9)	1 (0.8)
北部	9 (10.3)	10 (11.5)	19 (21.8)	28 (32.2)	1 (1.1)
南部(旧柏)	16 (18.2)	16 (18.2)	14 (15.9)	37 (42.0)	5 (5.7)
南部(旧沼南)	6 (16.7)	5 (13.9)	4 (11.1)	15 (41.7)	1 (2.8)
無回答	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (0.0)

地区社協が、今後力を入れるべき地域福祉活動について、エリア別でみると、「子どもたちを犯罪から守る見守り活動」は、中央、北部の4割台に対し、南部(旧柏)南部(旧沼南)では2割台と低くなっています。

「一人暮らし高齢者などへの訪問活動や見守り活動」は、北部が3割をやや下回っており、他のエリアに比べ低くなっています。

「誰もが気軽に集える交流の場づくり」は、南部(旧沼南)が61.1%と他のエリアの3~4割台に対し、高くなっています。

(4) 町会・自治会等との関わりについて

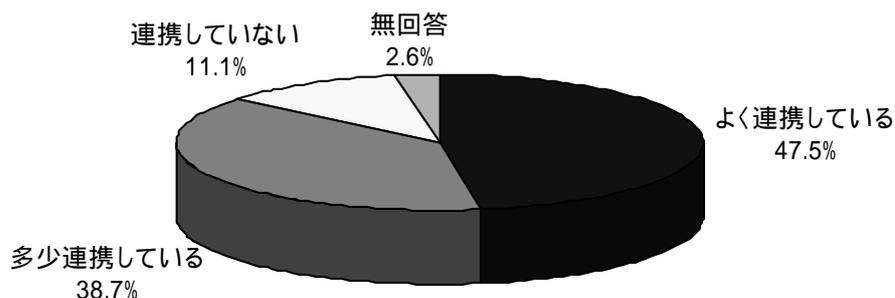
町会、自治会等との連携

質問12 町会・自治会等との連携はありますか。(1は1つ)

- 1. よく連携している
- 2. 多少連携している
- 3. 連携していない

町会・自治会等との連携については、「よく連携している」が47.5%、「多少連携している」が38.7%で、あわせて8割半ばが連携していると答えています。一方で、「連携していない」という回答は11.1%となっています。

【質問12 町会、自治会等との連携】(N=341)



<クロス集計：4エリア別>

単位：人 (%)

	合計	1.よく連携している	2.多少連携している	3.連携していない	無回答
合計	341 (100)	162 (47.5)	132 (38.7)	38 (11.1)	9 (2.6)
中央	129 (100)	75 (58.1)	38 (29.5)	10 (7.8)	6 (4.7)
北部	87 (100)	44 (50.6)	37 (42.5)	6 (6.9)	0 (0.0)
南部(旧柏)	88 (100)	34 (38.6)	45 (51.1)	7 (8.0)	2 (2.3)
南部(旧沼南)	36 (100)	9 (25.0)	11 (30.6)	15 (41.7)	1 (2.8)
無回答	1 (100)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

町会・自治会等との連携をエリア別でみると、「よく連携している」は、中央58.1%、北部50.6%が高く、南部(旧柏)38.6%、南部(旧沼南)25.0%は低くなっています。

町会、自治会等の会議への出席

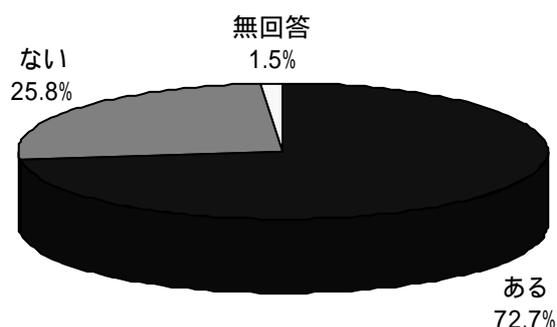
質問13 町会・自治会等の会議に出席することはありますか。(は1つ)
ある場合、年何回程度出席されていますか。

1. ある 年間の出席回数
2. ない

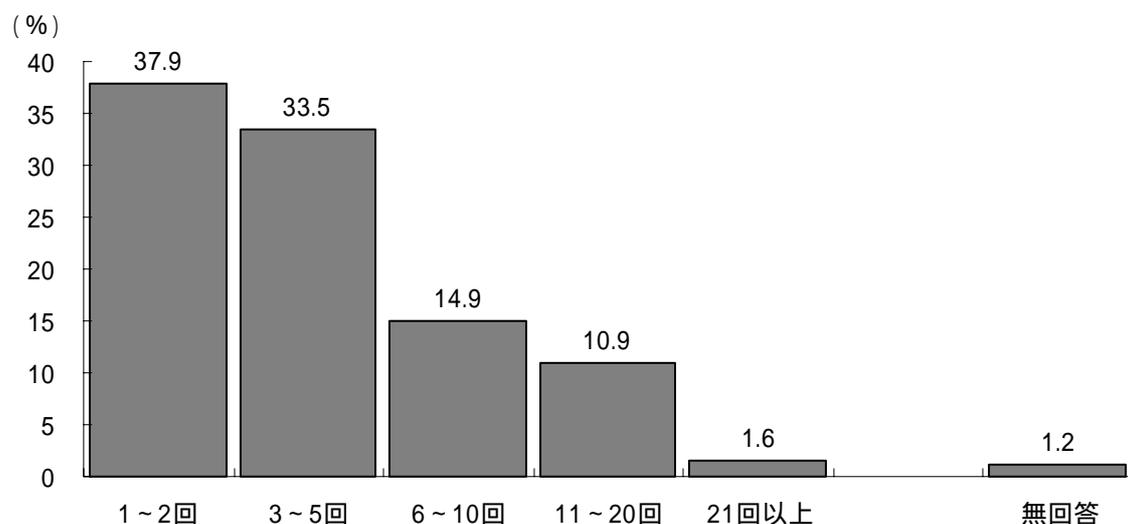
町会・自治会等の会議への出席については、「ある」が72.7%、「ない」が25.8%となっています。

出席される方に年間の出席回数を伺ったところ、「1～2回」が37.9%、「3～5回」が33.5%となっています。年間の出席回数が「11回以上」という回答も12.5%みられます。

【質問13 - 1 町会、自治会等への出席】(N=341)



【質問13 - 2 (町会、自治会等へ出席する方のみ) 年間出席回数】(N=248)



町会・自治会との今後の連携について

質問14 町会・自治会と、今後どのような連携が必要だと思いますか。ご自由に記入ください。

主な意見の要旨【エリア、地区、就任年数、委員の種別】

ひとり暮らしの方は、町会の方々にも知ってもらい、連携して活動できたらと思う。【中央、柏中央、3期目以上、民生委員】

災害時要援護者に対する危機感がある。個人情報保護の関係も考えながら、身近な町会の人たちに協力してもらいたい。【中央、柏中央、3期目以上、民生委員】

町会長はじめ、町会役員と連絡を密にする。【中央、新田原、2期目、民生委員】

防犯、防災に関することを、町会役員、老人会、健康づくり推進員、民生委員、その他関心のある方等で話し合い、連携をとり、自分たちの町は自分たちで守ることが大切だという意識を高めることだと思う。【中央、永楽台、3期目以上、民生委員】

きめ細かな連携をしているので、今のままで充分。【中央、富里、3期目以上、民生委員】

町会の行事にはすべて参加して、町会の人たちと連携をとるように心がけている。【中央、豊四季台西、1期目、民生委員】

子どもたちを犯罪から守るためには、社協を通してでなく、町会等が自主的に組織を作り行動することが大事だと思う。そのために地区民児協と町会が協力し、行動する必要がある。【中央、豊四季台西、3期目以上、民生委員】

お互いの立場を理解し合いたい。勢力争いをしているように見える。【中央、豊四季台、2期目、民生委員】

町会の会合に、常時でなくても、民生委員も出席すべき。【中央、新富、3期目以上、民生委員】

民生委員活動とかサロンの活動の内容を良く知っていただいた上で、町会の役員と話し合いをしたい。【北部、高田、2期目、民生委員】

住民に流す情報を自治会を通じて流せれば楽。市から自治会に通達を出し、伝達依頼をしてくれば良い。これが無い限り、民生委員の意見を住民に流す義務は自治会に無い。規則がそうになっている。市からの依頼があれば可。【北部、田中、1期目、民生委員】

町会の役員をする人は毎年変わる。あまり知らないという人も多い。もう少し活動を知ってもらいたいと思う。【北部、田中、3期目以上、民生委員】

防災組織を編成し、その中で民生委員の活躍の場が出来た。高齢化が進む中、町会がもっと高齢者対策に意識を向けるよう、今後、民生委員としてPRしていきたい。【北部、西原、2期目、民生委員】

制度ボランティアを含む福祉関係者の活動に対する町会の理解と支援。そのために福祉関係者も、積極的に交流、PRを。【北部、西原、3期目以上、民生委員】

パトロール、夏祭りの手伝いをしているが、「たすけあいネット」との連携がもっとあっても良いと思う。【南部(旧柏) 土、1期目、民生委員】

町会、自治会との連携は必要。ただし、町自治会役員は短期間で交代するので、腰の据わった活動を連携して行うのが難しい状況にあるので、悩むところでもある。【南部(旧柏) 土、2期目、民生委員】

もし災害が起きた時は、ということ考えて、シュミレーションを考えておくことが必要。連絡のつけ方など、より具体的に話し合っておくことが必要。【南部(旧柏) 光ヶ丘、1期目、民生委員】

個人情報の保護により、情報を提供することに個人の確認をとり、町会、自治会と連携をすすめていかなければならない。非常なもどかしさを感じる。町会単位で情報を共有できれば、より広い範囲からの支援活動が出来ると思う。【南部(旧柏) 光ヶ丘、3期目以上、民生委員】

情報交換は大切だと思う。時間がなかなか取れないが、町会の会議に出させていただくのは連携がとれて良い。【南部(旧柏) 南光ヶ丘、3期目以上、民生委員】

災害時を想定し、地域内の安全確保や見直しなど、既存のバリアフリーの施設を巻き込んだ要援護者対策について、小地域単位のレベルからの構築が必要。【南部(旧柏) 南部、2期目、民生委員】

民生委員は町会長の推薦でやっているので年度が変わっても民生委員 = 町会役員は一体であるべし。【南部(旧柏) 南部、3期目以上、民生委員】

まずは情報の共有。行事の相互協力。町会、自治会同士の結びつきの手伝い。【南部(旧沼南) 大津ヶ丘、3期目以上、民生委員】

見守り活動は小さな単位で行うのが望ましいと。それぞれの町会、自治会で協力して、見守りが必要だと思われる人をそれとなく見守っていくのがベストだと思う。隣近所の連携を深めることが一番必要。【南部(旧沼南) 風早北部、2期目、民生委員】

災害時要援護者に対する支援では、町会と民生委員および社協との連携が不可欠。平常時から両者が組織的に連携することが必要。【南部(旧沼南) 風早北部、2期目、民生委員】

町会と自治会の活動を出来る限り統合する。自治会役員(会長等)を協会のメンバーとする。【南部(旧沼南) 高柳、2期目、民生委員】

町会は広過ぎる。自治会レベルで、問題家庭の情報が入ってくる方策を確立すべき。(支援をするには個人情報が必要なのである。)【南部(旧沼南) 高柳、2期目、民生委員】

子どもや高齢者を交通事故から守ることや、災害訓練に参加することなど、町会のあらゆる行事に参加することが大事。【中央、豊四季台西、2期目、主任児童委員】

町会長、他役員も地区社協の運営委員で同じように活動しているので、必要なことは、地区社協の会議の時に話し合えるようになっている。【南部(旧柏) 南光ヶ丘、1期目、主任児童委員】

主任児童委員は、ふる協推薦ということがあるので、町会への関わりが少ないと思う。【南部(旧柏) 南部、3期目以上、主任児童委員】

(5) 関係機関、関係団体との関わりについて

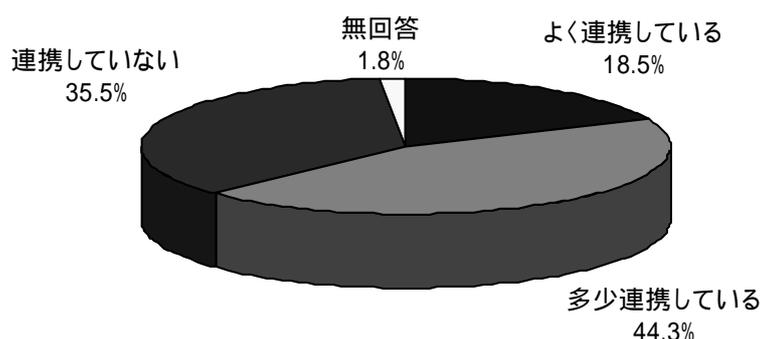
地域の子育て関連団体との連携

質問15 地域の子育て関連団体(子ども会、子育てサークル等)との連携はありますか。(は1つ)

1. よく連携している
2. 多少連携している
3. 連携していない

地域の子育て関連団体(子ども会、子育てサークル等)との連携については、「多少連携している」が44.3%と最も多く、「よく連携している」18.5%とあわせると6割強が連携しています。一方で、「連携していない」という回答も35.5%みられます。

【質問15 地域の子育て関連団体との連携】(N=341)



<クロス集計：4エリア別>

単位：人 (%)

	合計	1.よく連携している	2.多少連携している	3.連携していない	無回答
合計	341 (100)	63 (18.5)	151 (44.3)	121 (35.5)	6 (1.8)
中央	129 (100)	23 (17.8)	61 (47.3)	41 (31.8)	4 (3.1)
北部	87 (100)	21 (24.1)	42 (48.3)	24 (27.6)	0 (0.0)
南部(旧柏)	88 (100)	17 (19.3)	41 (46.6)	28 (31.8)	2 (2.3)
南部(旧沼南)	36 (100)	2 (5.6)	6 (16.7)	28 (77.8)	0 (0.0)
無回答	1 (100)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

子育て関連団体等との連携をエリア別でみると、「よく連携している」は、南部(旧沼南)が5.6%と低く、逆に「連携していない」が77.8%と、他のエリアの倍以上となっています。

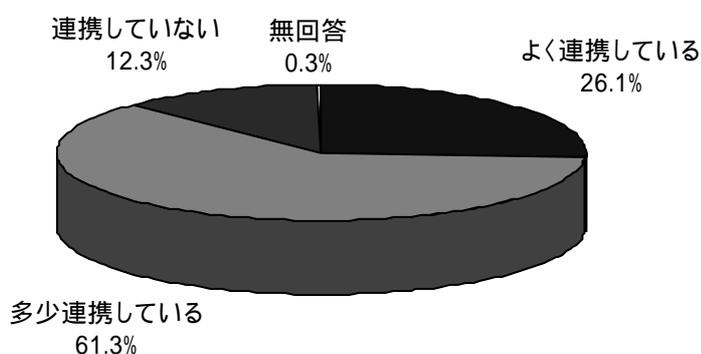
学校との連携

質問16 学校との連携はありますか。(は1つ)

1. よく連携している
2. 多少連携している
3. 連携していない

学校との連携については、「多少連携している」が61.3%と最も多く、続いて「よく連携している」が26.1%となっており、あわせて8割半ばが連携しています。一方で、「連携していない」という回答は12.3%となっています。

【質問16 学校との連携】(N=341)



<クロス集計：4エリア別>

	合計	単位：人 (%)			
		1.よく連携している	2.多少連携している	3.連携していない	無回答
合計	341 (100)	89 (26.1)	209 (61.3)	42 (12.3)	1 (0.3)
中央	129 (100)	32 (24.8)	79 (61.2)	17 (13.2)	1 (0.8)
北部	87 (100)	25 (28.7)	50 (57.5)	12 (13.8)	0 (0.0)
南部(旧柏)	88 (100)	20 (22.7)	56 (63.6)	12 (13.6)	0 (0.0)
南部(旧沼南)	36 (100)	11 (30.6)	24 (66.7)	1 (2.8)	0 (0.0)
無回答	1 (100)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

学校との連携はエリア別で大きな違いはみられませんでした。

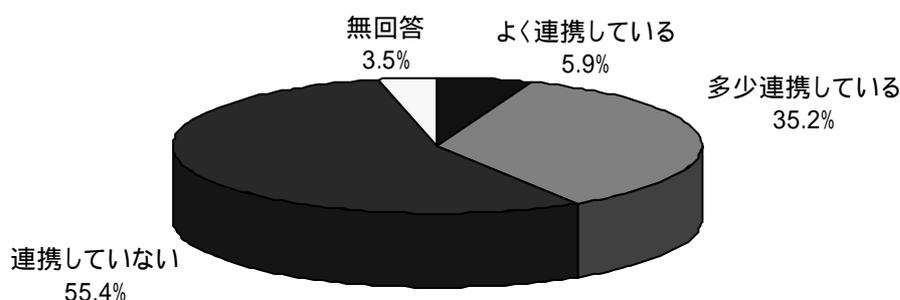
地域の民間施設や事業者、NPO 等との連携

質問17 地域の民間施設や事業者、NPO 等との連携はありますか。(は1つ)

1. よく連携している
2. 多少連携している
3. 連携していない

地域の民間施設や事業者、NPO 等との連携については、「連携していない」が 55.4%と最も多くなっています。「多少連携している」35.2%と「よく連携している」をあわせ約 4 割が連携しています。

【質問17 地域の他の団体との連携】(N=341)



<クロス集計：4 エリア別>

	合計	単位：人 (%)			
		1.よく連携している	2.多少連携している	3.連携していない	無回答
合計	341 (100)	20 (5.9)	120 (35.2)	189 (55.4)	12 (3.5)
中央	129 (100)	5 (3.9)	46 (35.7)	73 (56.6)	5 (3.9)
北部	87 (100)	4 (4.6)	33 (37.9)	49 (56.3)	1 (1.1)
南部(旧柏)	88 (100)	4 (4.5)	34 (38.6)	47 (53.4)	3 (3.4)
南部(旧沼南)	36 (100)	7 (19.4)	7 (19.4)	19 (52.8)	3 (8.3)
無回答	1 (100)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)

地域の民間施設や事業者、NPO 等との連携は、南部(旧沼南)が「よく連携している」19.4%と他のエリアに比べ高くなっています。「連携していない」は、全てのエリアで 5 割台となっています。

関係機関、団体との連携についての課題

質問18 関係機関、団体との連携に課題がありましたら、ご記入ください。

主な意見の要旨【エリア、地区、就任年数、委員の種別】

連携がとれていないのが問題。福祉の将来構想（目標）や具体的課題の提示など、周囲のボランティア参加者にもわかりやすく現状や将来が見えれば、ボランティア活動がもっと有効、効率的になるのではないかと。【中央、柏中央、1期目、民生委員】

関係機関の活動内容をもっとよく知り、理解すること。【中央、富里、1期目、民生委員】

地域の中にはNPOも施設もない。地域在宅支援センターも、24時間といっても力が弱い。市、社協での24時間相談窓口がほしい。【中央、富里、3期目以上、民生委員】

民生として、高齢者への対応で精一杯。子どもの所までは、母親も入るし、母子家庭へは男性としては取り組みにくい。行事で、親子会、青少年関係、世代間交流等、力を合わせてかなり大きな事業をこなしているが、それへの協力、参加で手いっぱいといった感じ。【中央、新富、3期目以上、民生委員】

担当在宅介護支援センターとの関係強化。【北部、高田、3期目以上、民生委員】

1) 消防署との連携。防火および救急（AEDの使用）訓練を民生委員には必修にしたら非常の時に役立つ。2) 国立がんセンターでガン予防や治療の講座の開設。【北部、田中、3期目以上、民生委員】

うまくいっていると思うが、虐待、不登校等、学校はもっと情報開示を。【北部、西原、3期目以上、民生委員】

どのような団体があるのか、一般住民にはわからない。回覧などでPRすべき。【南部（旧柏）土、2期目、民生委員】

関係機関との関わりを、町会、自治会という小地域で結ぶか、地区社協という中地域で結ぶかにより、やり方が変わってくる。まずは主体がどちらかを決めてから、関わり方を協議すべきと考える。【南部（旧沼南）大津ヶ丘、3期目以上、民生委員】

今の関係では、月に1度くらいの連携しかなく、その月1度が休みになると、3ヶ月くらい連携がなくなる。定期的に（また集会する場所なども）行うことが出来れば、もう少し連携感を持つことが出来るように思う。【南部（旧沼南）風早北部、1期目、民生委員】

老人ホーム等との連携や、関係することで地区内の高齢者の健康管理等で意識を高揚することが最近進んできた。【南部（旧沼南）手賀、1期目、民生委員】

どこでどのような団体がどんな活動をしているのか、良くわからない。特に介護関係以外の団体は全然わからない。地域福祉に関わりそうなリストなどがあると良い。子どもから老人まで。【中央、富里、2期目、主任児童委員】

主任児童委員は、ふる協・青少協への関わりは重要。児童育成課、健康づくり等々、同じような事業をしているように思う。イベントの開催はなるべく連携して行い、訪問活動に力を入れることが大事。問題のある家庭は、高齢者も子どもも地域との関わりが少ない。「手を差しのべる」活動の推進を願う。【南部（旧柏）南部、3期目以上、主任児童委員】

(6) 地域における福祉等の取り組みについて

福祉の取り組みへの評価

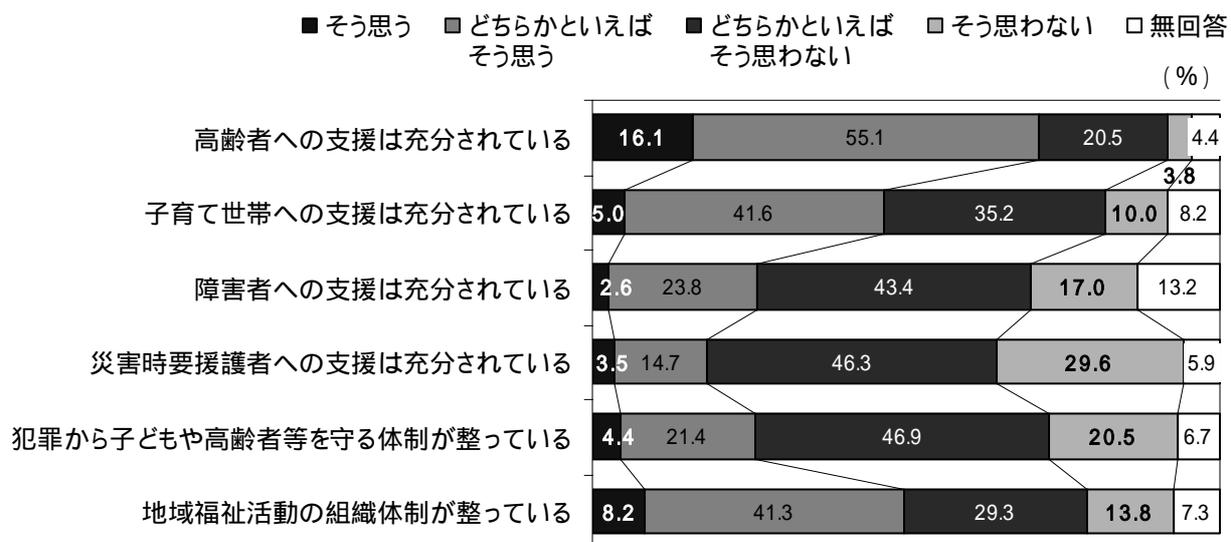
質問19 地域における福祉等の取り組みについて、どのようにお感じになっていきますか（該当するものに）

- 高齢者への支援は充分されている
- 子育て世帯への支援は充分されている
- 障害者への支援は充分されている
- 災害時を想定した災害時要援護者への支援は充分されている
- 犯罪から子どもや女性、高齢者などを守る体制が整っている
- 地域福祉活動の組織体制が整っている

高齢者への支援など6つの項目について取り組みへの評価を4段階で伺ったところ、十分な支援や体制整備ができています（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が多い）項目は、『高齢者への支援』（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計71.2%）、『地域福祉活動の組織体制』（同49.5%）、『子育て世帯への支援』（同46.6%）となっています。

一方、支援や体制整備が充分でない（「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」が多い）項目は、『災害時要援護者への支援』（「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計75.9%）、『犯罪から子どもや高齢者等を守る体制』（同67.4%）、『障害者への支援』（同60.4%）となっています。

【質問19 福祉の取り組みへの評価】(N=341)



高齢者向けサロン、子育てサロンへの意見

質問20 高齢者向けのサロンや、子育てサロンについて、その配置、サロン数、運営方法などについて、ご意見ありましたら記入してください。

(高齢者向けサロンについて)

(子育てサロンについて)

主な意見の要旨【エリア、地区、就任年数、委員の種別】

(高齢者向けサロンについて)

地域により参加人数に差があるようなので、サロンのあり方の意見交換の場があったら良いと思う。【中央、柏中央、1期目、民生委員】

月に1度の開催だが、回数を増やしたい。イベントが無くても、お茶を飲むだけでも、高齢者が立ち寄れる場所がほしい。【中央、柏中央、1期目、民生委員】

地区社協のサロンと社福のサロンが、いきいきプラザが同地域で、同じ場所でやられている。【中央、柏中央、2期目、民生委員】

地区内で月3～4回運営しており、少々負担に感じることもある。【中央、新田原、1期目、民生委員】

既存の老人会から理解が得られず苦労した。その存在理由を広く理解してもらう必要がある。【中央、永楽台、1期目、民生委員】

足の不自由な人が多いので、椅子とテーブルの方が良いと思う。床座は困難。そのために参加しない人が多い。【中央、永楽台、2期目、民生委員】

緑ヶ丘地区は毎週木曜日、当番を決めて楽しくしている。【中央、富里、3期目以上、民生委員】

町内に集会所等が無いので、1ヶ所くらい、みんなが集まれる場所が是非必要と感じる。【中央、豊四季台西、1期目、民生委員】

地元から近隣センターまでが徒歩では遠過ぎて参加できない。交通機関もなく、タクシーのみ。【中央、旭町、3期目以上、民生委員】

サロンに行きたい人が何人かいるが、膝や腰の悪い人が多く、出席できない。自家用車で送迎することは禁止されているので健康な人しか出席できない。【中央、新富、3期目以上、民生委員】

本来、参加してほしい対象の人が出てこない。限られた人だけ参加して、人数が増えない。【北部、高田、1期目、民生委員】

場所が無くサロンを立ち上げられない。ボランティアをする人数の確保に困難。【北部、高田、3期目以上、民生委員】

参加したくても身体等の都合で参加できない人への配慮が必要。今までの公報活動では不足気味(対策は思いつかないが)。【北部、松葉、1期目、民生委員】

空店舗を開放し、高齢者が気軽に立ち寄り、会話、おしゃべりが出来る場所が必要。そこに高齢者が大好きなボランティアの育成が必要。【北部、松葉、3期目以上、民生委員】

どのサロンなどでも参加者のマンネリ化に困惑しているとのこと。高齢者がどのようなことを望んでいるのかをしっかりと把握し、あまり無理の無い方向に向かえば、長続きや参加者の数が多くなるなど、良い方向に向かうと思う。【北部、田中、3期目以上、民生委員】

(西原の場合)町会の特性に応じていろいろな形で開催されており、それで良いと思う。一般論として、このサロンをベースに、子どもの防犯活動などに発展すると良い。高齢者だけでも良いが、三世代交流がもっとあって良い。【北部、西原、3期目以上、民生委員】

女性の出席はあるが、男性の行事参加が少ないので、何か良い案などを教えてほしい。【北部、富勢、2期目、民生委員】

富勢地区もみの木(サロン)のような所が各地域にあれば良い。【北部、富勢、2期目、民生委員】

サロン数の不足。高齢者にも知識欲旺盛な人が多いので、それを満たす内容を取り上げるべき。例えば外国語など。【南部(旧柏)土、2期目、民生委員】

6ヶ所に「サロン広場」があるが連携がまだ完全ではなく、運営方法も独自に行われている。【南部(旧柏)藤心、1期目、民生委員】

参加者はほとんどが元気な人で、華やかな行事の陰で参加できない人も多くいる。その参加できない人のサポート役が民生委員の仕事と考えているが、最近はその点が置き去りにされているように感じられ、民生委員とは何なのか、と考えるようになっている。【南部(旧柏)藤心、3期目以上、民生委員】

町会会館を使用しているが、遠距離の人は通えない。サロン数が少ない。ボランティアが誠心誠意頑張っているので、年々内容が向上して、高齢者に喜ばれるようになってきた。【南部(旧柏)光ヶ丘、1期目、民生委員】

地区の会館がないため近隣センターを利用しているが、開催場所に苦労する。【南部(旧柏)酒井根、3期目以上、民生委員】

1ヶ月1回のお茶のサロンも1年以上になったと思う。続けていくことの大切さを感じている。だんだん知ってくれる人が増えると思う。普段外に出掛けられない人でも行けるような体制づくりが必要。【南部(旧柏)南部、1期目、民生委員】

高齢者向けサロンが町会にまかされているため、格差がある。費用もかかることなので、町会に理解、協力をえるのが大変。【南部(旧柏)南部、2期目、民生委員】

実際にサロンを運営してみると「行きたいけど足が無い」という声が多い。近所で歩ける人は良いが、坂道が多いと行けない(場所の問題)。出来れば毎月1~2回くらい開くと良いが、施設の利用料もかかり、予算的にも簡単には増やせない。光熱費程度の負担はしかたがないが、施設の利用料を無料にしてほしい。【南部(旧沼南)風早北部、2期目、民生委員】

私の地域のサロンは、とても充実した活動をしていると思う。参加者も少しずつ増えているが、身体の不自由な人たちの足がないので、送り迎えなどを出来ればもっといろいろな人たちが参加してくれると思う。【南部(旧沼南)高柳、2期目、民生委員】

現在、サロンによっては協力員の負担が大きいような気がする。今後も長く続けていくために運営方法を考えていく必要がある。【中央、永楽台、3期目以上、主任児童委員】

サロンの他に老人会があるためか、今あまり上手にサロン活動が出来ていない。高齢者にばかり目を向けず、子どもと高齢者との合同の、触れ合えるような取り組みを推進してほしい。【北部、高田、2期目、主任児童委員】

南光ヶ丘地区はとても充実しているのではないかと思う。今後とも継続して、さらに充実させてほしい。【南部(旧柏)南光ヶ丘、1期目、主任児童委員】

参加者、委員などある程度の輪になっていて、他の人たちが入り込めないという話もあり、新しく入りたいと思っても入れない。声かけ、お迎えがあれば、参加できるのではと思う。【南部(旧沼南)高柳、3期目以上、主任児童委員】

(子育てサロンについて)

高齢者と子どもを分けて対処するのではなく、同所、同一でサロン化し、高齢者の智恵と子どもたちの元気をコラボレーションしてはどうか。【中央、柏中央、1期目、民生委員】

できれば予算をもう少し増やしてほしい。【中央、柏中央、3期目以上、民生委員】

若い奥様たちが頑張っている組織活動している機会を目にする。【中央、新田原、1期目、民生委員】

特に新米ママさんたちには喜ばれている。子どもの成長によって顔触れも交代しているが、子育てサロンの場が役に立っていると思う。【中央、永楽台、3期目以上、民生委員】

市、町会、民生委員、保健推進委員、児童委員の協力で、子育てサークル(あそぼう会)など毎月1回、会館を利用して7年間続けられてきた。各委員との信頼関係も深まり、感謝している。【中央、永楽台、3期目以上、民生委員】

サロンの場所が狭く、もう少し広いスペースがほしい。運営方法としては、ほとんど見守りで、母親同士の語らいの場。子どもの遊び場、友達づくりの場にしている。【中央、富里、3期目以上、民生委員】

最近、核家族や転勤族が多いので、子育てサロンは絶対に必要。気軽に出掛けられるように数も多い方が良い。【中央、豊四季台西、3期目以上、民生委員】

実のところ方向が分からない。メディアに犯されている幼児達、その母親を、ただサロンで話しあっていれば良いというだけでは不十分だと思う。【北部、松葉、1期目、民生委員】

開催場所が1ヶ所のため、足を運べない。もっと身近に(個人宅でも)あれば、子連れママにも便利。【北部、田中、2期目、民生委員】

本年度立ち上がったばかりながら、子育て中の母親たちに好評で、参加者が増加の一方だと聞いている。小学生を対象にしたコーナーも人気のようで、良い交流の場が生まれたと、運営している人たちに感謝したい。【北部、田中、2期目、民生委員】

富勢地区には4ヶ所おしゃべり広場等のサロンがあり、東西南北どこも好評で、複数の場所を利用している人もいる。【北部、富勢、2期目、民生委員】

保健師だけでなく、話の上手な人、遊び方等を指導してくれる人が時々参加してくれれば良いと思う。【北部、富勢、2期目、民生委員】

増尾子育てサロン立ち上げの時、「いずれボランティアの方々にゆだねる」ということだったが、充分人が集まらず、民生委員、元母子推進、健康推進員で構成されたまが続けている。もっとPRが必要かとも思われる。【南部(旧柏)、土、2期目、民生委員】

サロンを設置するための場所の確保に苦勞する。空き会社の社屋、民間などの活用に、市、社協の支援が望まれる。【南部(旧柏)、土、2期目、民生委員】

PR不足だろうと思う。地域のネットワークを使い、より効果のある方法を考える必要がある。【南部(旧柏)、藤心、1期目、民生委員】

活用されるお母さんたちも徐々に増えていると思う。高齢者とふれあう機会を少し増やしてもらえれば良いと思う。【南部(旧柏)、光ヶ丘、3期目以上、民生委員】

とにかく数多く開催する必要あり。地域で一番不足している活動。親と子を一緒にする方法と、別々のサロン形式の展開も必要か。【南部(旧柏)、酒井根、3期目以上、民生委員】

元気な高齢者もたくさんいるので、高齢者サロンと子育てサロンを合わせたサロンなども良いのではないか。近ごろの子どもは高齢者との接点がないようなので、高齢者との会話などもしたほうが良いのでは。【南部(旧沼南)、風早北部、1期目、民生委員】

ベビーカーで動いている人が多いので、歩いて気軽に自由にいつでも参加できる場所がほしい。(自分が子育てしていて、児童館があり助かったの。)【中央、新田原、1期目、主任児童委員】

積極的な親子はいろいろなサロンでいつも見かけるが、サロンに出て来ない親子へどうアピールするかが問題。【中央、富里、2期目、主任児童委員】

場所の提供はとても良いことだが、サロンに来れない悩みをかかえた親の方が心配で、相談室(気軽に寄れるような場所)も必要だと思う。【北部、高田、2期目、主任児童委員】

長い目では、どちらも居場所として、時には高齢者と子育ての両方が交流できるような場所として運営されていくと良いと思う。【北部、松葉、3期目以上、主任児童委員】

どうしてもボランティアが女性だけになってしまい、役職のある女性に負担が行く。男性(おじさん、おじいさんも)のボランティアも参加できる体制がとれればと思う。【南部(旧柏)土、2期目、主任児童委員】

自分たちで工夫して活動している。親子が集まりやすい工夫、母子が交流しやすい場所づくりをしている。【南部(旧柏)藤心、2期目、主任児童委員】

地域によって子育ての状況が多少違うので、その地域のニーズに合った子育てサロンのあり方を考え、取り組んでいくことが大事。【南部(旧柏)南光ヶ丘、1期目、主任児童委員】

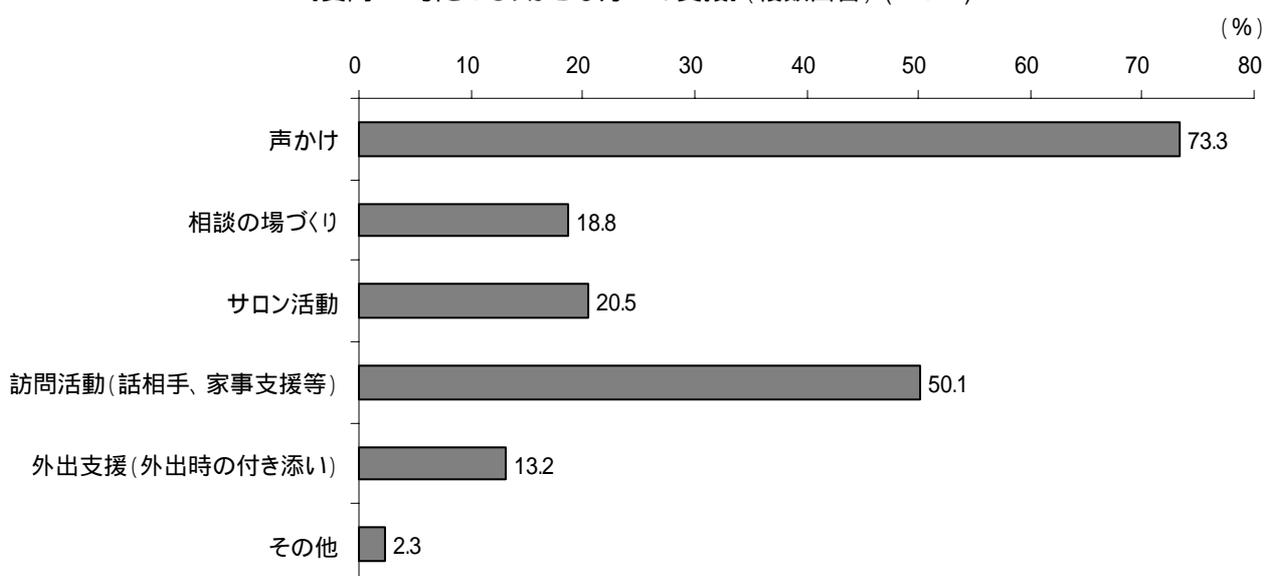
引きこもりがちな方への支援

質問21 高齢者など、引きこもりがちな方に対し、どのような支援が必要だと感じますか。(2つまで)

1. 声かけ
2. 相談の場づくり
3. サロン活動
4. 訪問活動(話し相手、家事支援等)
5. 外出支援(外出時の付き添い)
6. その他

引きこもりがちな方へどのような支援が必要かを伺ったところ、「声かけ」が73.3%と最も多く、次いで「訪問活動(話し相手、家事支援等)」が50.1%となっており、この2項目が高い割合となっています。「サロン活動」「相談の場づくり」も2割前後の人が必要な支援と回答しています。

【質問21 引きこもりがちな方への支援】(複数回答)(N=341)

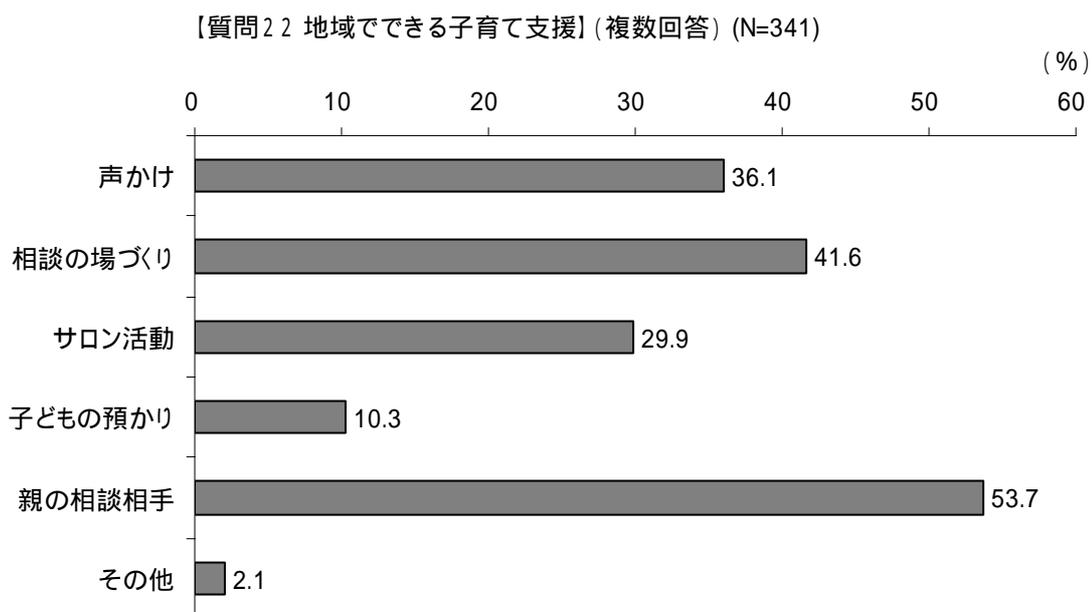


地域でできる子育て支援

質問22 子育てで悩む親に対して、地域でできる支援は、どのようなものだと思いますか。
(2つまで)

1. 声かけ
2. 相談の場づくり
3. サロン活動
4. 子どもの預かり
5. 親の相談相手
6. その他

子育て世帯に対する地域での支援については、「親の相談相手」が53.7%と最も多く、次いで「相談の場づくり」41.6%と相談支援が上位にあがっており、「声かけ」36.1%、「サロン活動」29.9%がそれに続いています。



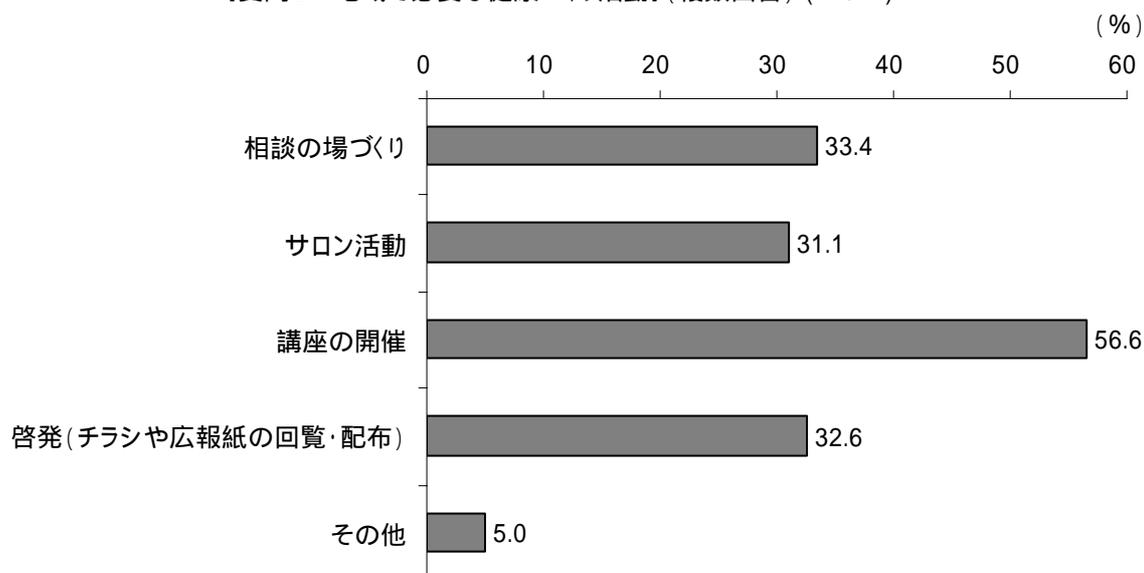
地域に必要な健康づくり活動

質問23 健康づくり、食の育成、栄養改善といったことに対して、地域でどのような活動が必要と感じますか。(2つまで)

1. 相談の場づくり
2. サロン活動
3. 講座の開催
4. 啓発(チラシや広報紙の回覧・配布)
5. その他

健康づくり、食の育成、栄養改善といったことに対して、地域でどのような活動が必要かを伺ったところ、「講座の開催」が最も多く56.6%となっています。次いで「相談の場づくり」33.4%、「啓発(チラシや広報紙の回覧・配布)」32.6%、「サロン活動」31.1%が3割台で並んでいます。

【質問23 地域に必要な健康づくり活動】(複数回答)(N=341)



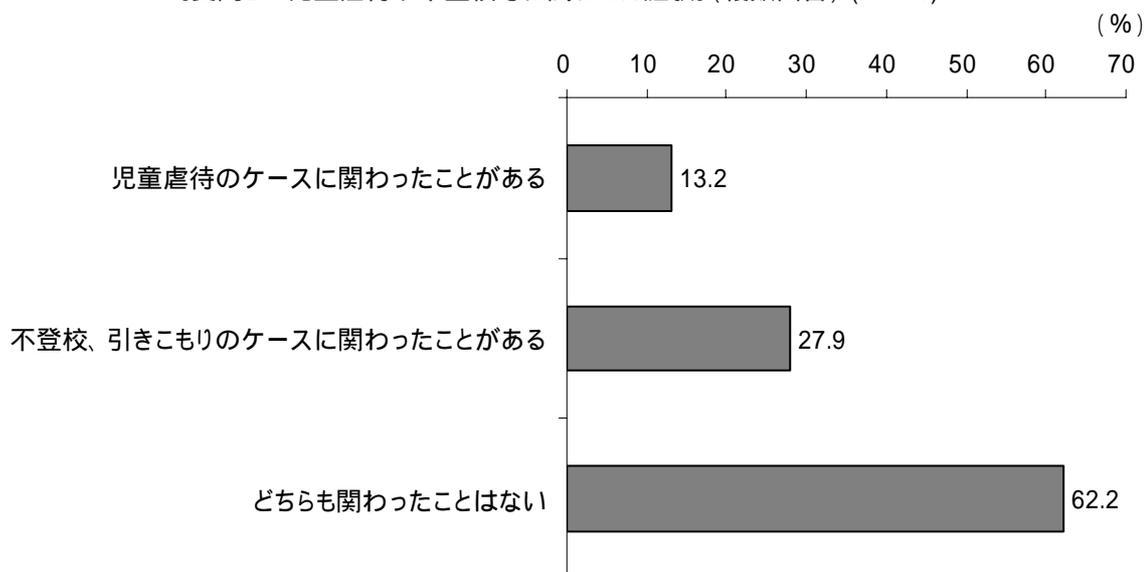
児童虐待や不登校等に関わった経験

質問24 児童虐待や、不登校、引きこもりのケースに関わった経験はありますか。(あてはまるものに)

1. 児童虐待のケースに関わったことがある
2. 不登校、引きこもりのケースに関わったことがある
3. どちらも関わったことはない

児童虐待や、不登校、引きこもりのケースに関わった経験については、「どちらも関わったことはない」が 62.2%と最も多い結果でしたが、4 割の方が関わりを経験しており、「不登校、引きこもりのケースに関わったことがある」が 27.9%、「児童虐待のケースに関わったことがある」が 13.2%となっています。

【質問24 児童虐待や不登校等に関わった経験】(複数回答) (N=341)



<クロス集計：4エリア別>

単位：人 (%)

	合計	1. 児童虐待のケースに関わったことがある	2. 不登校、引きこもりのケースに関わったことがある	3. どちらも関わったことはない
合計	341 (100)	45 (13.2)	95 (27.9)	212 (62.2)
中央	129 (100)	14 (10.9)	34 (26.4)	84 (65.1)
北部	87 (100)	11 (12.6)	24 (27.6)	56 (64.4)
南部(旧柏)	88 (100)	17 (19.3)	31 (35.2)	43 (48.9)
南部(旧沼南)	36 (100)	3 (8.3)	6 (16.7)	28 (77.8)
無回答	1 (100)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)

エリア別にみると、「どちらも関わったことはない」は、南部（旧沼南）が77.8%と高く、逆に、南部（旧柏）では、児童虐待、不登校等の両ケースとも「関わったことがある」の割合が他のエリアに比べ高くなっています。

<クロス集計：活動年数別>

単位：人 (%)

	合計	1. 児童虐待のケースに関わったことがある	2. 不登校、引きこもりのケースに関わったことがある	3. どちらも関わったことはない
合計	341 (100)	45 (13.2)	95 (27.9)	212 (62.2)
1期目	97 (100)	8 (8.2)	15 (15.5)	74 (76.3)
2期目	97 (100)	15 (15.5)	23 (23.7)	60 (61.9)
3期目以上	145 (100)	22 (15.2)	56 (38.6)	77 (53.1)
無回答	2 (100)	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)

活動年数が短いほど、「どちらも関わったことはない」の割合が低く、活動年数とともに関わりの経験が増えています。

児童虐待等に対して必要な地域活動

質問25 児童虐待、不登校、引きこもりなどの課題に対し、どのような地域活動が必要だと感じていますか。

主な意見の要旨【エリア、地区、就任年数、委員の種別】

親など同居の家族への支援。近隣の声かけなど、生活が孤立しないような住まい方が出来るようにすることが必要。【中央、柏中央、3期目以上、主任児童委員】

学校との連携。親とはもう一步踏み込んだ話が出来ると良いが、かなり慎重になり過ぎていような気がする。【中央、新田原、2期目、主任児童委員】

見守り。何か問題が発生したと思われた時に、スムーズに関係機関と連携して、手を打てる体制を整えておく。(ネットワークづくり)【中央、永楽台、3期目以上、主任児童委員】

虐待について、子どもの細かい変化を見逃さないような見守り。子育てサロンなどへの誘い。不登校、引きこもりは親子が孤立しやすいので温かい見守り。【中央、富里、2期目、主任児童委員】

親との関わりを大事にし、相談に乗る。話を聞いてあげる。【中央、富里、2期目、主任児童委員】

個人情報保護のため、身近にいたとしてもなかなかその実態がわからない。【中央、豊四季台西、2期目、主任児童委員】

学校、保育園等、関係機関との平素からの関わりにより、担当者(学校長等)管理者が異動後も同様に情報交換ができること。気軽に連絡が取れる関係づくり。地域の見守りが必要。【中央、旭町、3期目以上、主任児童委員】

町内会等への加入の有無に関わらず、気軽に参加できる地域の行事等が必要。民生委員、主任児童委員の存在をもっと広める。【中央、新富、2期目、主任児童委員】

虐待に関しては通報の義務を皆にもっともっと知ってもらいたい!引きこもりに関しては、地域活動としてはあまり出来る事が無いのでは。専門の機関への紹介をさりげなく(皆に知られず大きく動かずに)出来るシステムが必要。学校からの情報も今では個人情報保護のためか、ほとんどわからなくなっている。【北部、高田、2期目、主任児童委員】

家児相等につなぐが、その後の経過等のフィードバックが無い。児童虐待は、家庭訪問を出来る状況に無いので、子育て家族を訪問できる環境があれば良い。【北部、高田、3期目以上、主任児童委員】

家族への支援。家族が一時的に問題のある子から離れてホッと出来る場を提供する活動。【北部、松葉、3期目以上、主任児童委員】

学校ではなくて、どこか出掛けられる場所が必要。また、先生ではなくて、お姉さんお兄さん、青年の人(教育に携わっている人)が訪問してくれたら良いと思う。【北部、田中、1期目、主任児童委員】

地域の中に、子どもたちが気軽に集える場がいくつかあると良い。その場所づくりが必要。【北部、田中、3期目以上、主任児童委員】

地域で活動するのは難しいが、少なくとも民生委員児童委員には、もう少し情報を伝えてほしい。【北部、西原、2期目、主任児童委員】

町会や各団体が学校との話し合いの場を持つこと。日頃から相談できる「人」や「場所」があることを伝えること。【南部(旧柏)土、2期目、主任児童委員】

幼、小、中との情報交換を定期的に行って、情報を得られれば、見守り活動ができると思う。
【南部（旧柏）、藤心、2期目、主任児童委員】

噂などでも良いので、情報を得ることが大切。隣近所が「愛情ある眼」を光らせることによって、表に出てきやすくなるのではないかと思う。井戸端会議も大事。【中央、富里、1期目、民生委員】

家庭、学校、地域の連携がもっとも重要だと思う。そのために地域での行事に多くの地域住民を取り込み、また、地域と学校との関係も、もう少しオープンに連絡を取り合えるよう、何事も早いうちに対処することが望ましいと思う。【中央、富里、3期目以上、民生委員】

ケース家庭は一般的に付き合いがなく、訪問や会話が困難。公的機関（児相、相談室、学校など）と一緒に対応が必要。特に学校は、情報開示すべき。【北部、西原、3期目以上、民生委員】

ケースバイケースでひとくくりでは取り扱えない課題。何故ここまでに至ったか、分析、検討する必要がある。そうした課題に関わる人材が全ての地域にいるかどうか疑問。そのため、地域活動が必要かどうかわからない。【南部（旧柏）、土、1期目、民生委員】

親との相互理解等がむずかしく、見守りが最適かと思われ、近所同士で声を掛け合い情報交換している。【南部（旧柏）、光ヶ丘、2期目、民生委員】

(7) 市社会福祉協議会との関わりについて

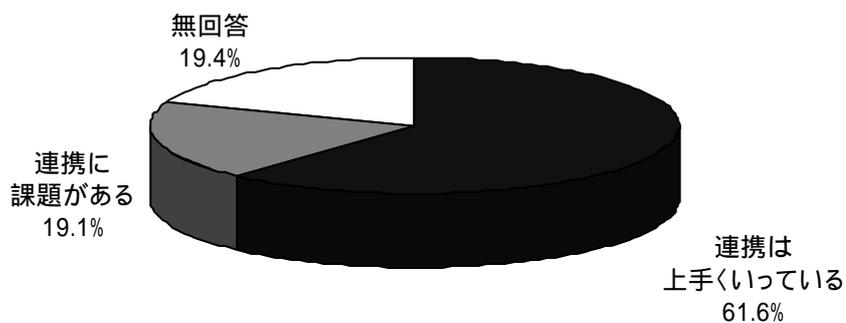
市社会福祉協議会との連携

質問26 市社会福祉協議会との連携は上手くいっていますか。() は1つ)

1. 連携は上手くいっている
2. 連携に課題がある

市社会福祉協議会との連携について伺ったところ、61.6%が「連携は上手くいっている」と答えています。一方で、「連携に課題がある」も19.1%ありました。

【質問26 市社会福祉協議会との連携】(N=341)



<クロス集計：4エリア別>

単位：人 (%)

	合計	1.連携は上手にしている	2.連携に課題がある	無回答
合計	341 (100)	210 (61.6)	65 (19.1)	66 (19.4)
中央	129 (100)	78 (60.5)	21 (16.3)	30 (23.3)
北部	87 (100)	56 (64.4)	17 (19.5)	14 (16.1)
南部(旧柏)	88 (100)	58 (65.9)	14 (15.9)	16 (18.2)
南部(旧沼南)	36 (100)	18 (50.0)	13 (36.1)	5 (13.9)
無回答	1 (100)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)

エリア別にみると、「連携に課題がある」は、南部（旧沼南）が36.1%と他のエリアに比べ高くなっています。「連携が上手にしている」は南部（旧沼南）が50%、他のエリアは6割台となっています。

<クロス集計：活動年数別>

単位：人 (%)

	合計	1.連携は上手にしている	2.連携に課題がある	無回答
合計	341 (100)	210 (61.6)	65 (19.1)	66 (19.4)
1期目	97 (100)	55 (56.7)	22 (22.7)	20 (20.6)
2期目	97 (100)	59 (60.8)	20 (20.6)	18 (18.6)
3期目以上	145 (100)	94 (64.8)	23 (15.9)	28 (19.3)
無回答	2 (100)	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

活動年数が長くなるほど、「連携が上手にしている」の割合が高くなっています。

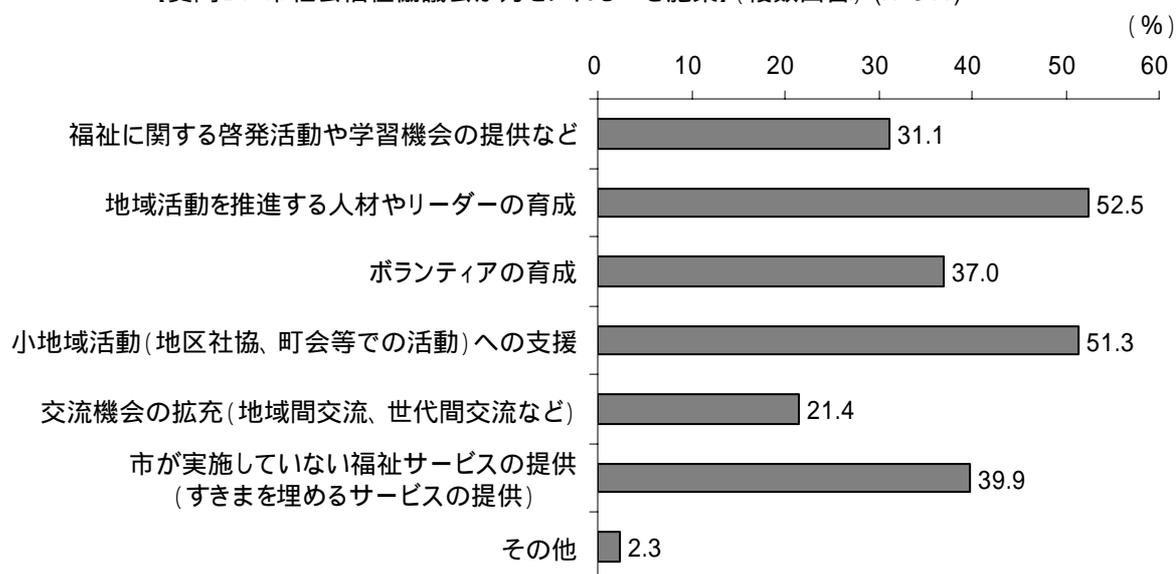
市社会福祉協議会が力を入れるべき施策

質問27 市社会福祉協議会が力を入れるべき施策は何だと思いますか。(は3つまで)

1. 福祉に関する啓発活動や学習機会の提供など
2. 地域活動を推進する人材やリーダーの育成
3. ボランティアの育成
4. 小地域活動(地区社協、町会等での活動)への支援
5. 交流機会の拡充(地域間交流、世代間交流など)
6. 市が実施していない福祉サービスの提供(すきまを埋めるサービスの提供)
7. その他

市社会福祉協議会が力を入れるべき施策については、「地域活動を推進する人材やリーダーの育成」52.5%、「小地域活動(地区社協、町会等での活動)への支援」51.3%が5割を超えて特に多く、次いで「市が実施していない福祉サービスの提供(すきまを埋めるサービスの提供)」39.9%、「ボランティアの育成」37.0%、「福祉に関する啓発活動や学習機会の提供など」31.1%が3割台で続いています。

【質問27 市社会福祉協議会が力を入れるべき施策】(複数回答)(N=341)



市社会福祉協議会への要望・意見

質問28 最後に市社会福祉協議会に対する要望・意見などがございましたら自由にご記入ください。

主な意見の要旨【エリア、地区、就任年数、委員の種別】

いつでも集まれる場所が少な過ぎる。【中央、柏中央、1期目、民生委員】

高齢者、障害者等、弱い立場の人たちが、経済的に負担が増えないよう、生きがいを持って暮らせるようにしてほしい。【中央、柏中央、2期目、民生委員】

社協の人は毎日忙しいだろうが、自身の目で足で、担当している地域を現実をしっかりと見てほしい。実際、経験がないと駄目なことがたくさんあると思う。地域の人やボランティア、その他の意見もしっかりと受け入れてほしい。【中央、柏中央、3期目以上、民生委員】

高齢化、核家族化に伴い、民生委員の仕事はますます増加傾向にある。市、社協からの事業はほとんど民生委員に関わる。今後は町会、自治会と連携をどうするか大きな課題ではないか。また、人材育成（ボランティア）も大切。【中央、新田原、3期目以上、民生委員】

社協ではボランティアに頼り過ぎる所があるように思う。【中央、永楽台、1期目、民生委員】

民生委員の仕事が増えている。将来、ますます増えていくだろう。何か軽減策を提案してほしいと思う。【中央、永楽台、3期目以上、民生委員】

行政の他の部門との連携を強化してもらいたい。【中央、富里、1期目、民生委員】

これからは福祉に力を入れる時。相談が出来る場所があれば。近隣センターは用があって入る所という感じがする。そこに行けば福祉の情報が目に入るようにしてほしい。【中央、富里、2期目、民生委員】

全体を通して、ボランティアの育成を必要としているので、講座や、実施をともなうイベントなどを開催していただきたい。ボランティアを誰でもがやれる、自分たちの地域を自分たちで見守るような地域にしたい。そのために市社協でも地域の行事に参加し、感じたこと、相互の考えを出し合って、必要とすること、必要ではないことなどを見直し出来ればと思う。【中央、富里、3期目以上、民生委員】

地区内に福祉活動の拠点があったらと思う。リーダーの人がいて、相談が出来るように。【中央、富里、3期目以上、民生委員】

町会内の情報は入りやすいが、市役所や社協に行くのが大変なので、近くで、そこに行けば市役所、社協の新しい情報がわかり、ボランティア活動も私でも出来ると思えるような場所をつくってほしい。【中央、富里、3期目以上、民生委員】

町会・自治会の幹部の中には社会福祉協議会の活動を理解していないと思われる人がいる。住民が市社協および地区社協の活動を理解しないと、立派な計画を策定しても本当の活動にはつながらないと思う。市社協は特に地区社協の指導を望む。【中央、豊四季台西、3期目以上、民生委員】

地域に最も近い立場にあり、また、いろいろ社協にはお世話になり助かっている。地区社協がどんなことまで地域にやっていただけるのかもっと知りたい。地域をより良くするため、また出来ればと思う。【中央、豊四季台、3期目以上、民生委員】

私の周り的高齢者は、社会福祉協議会がどういうものか知らない人が多いようだ。毎年暮れに行われる社会福祉金300円にも、何に使われているのか分からないという人がたくさん

いる。もう少し社会福祉協議会を分かりやすく説明する必要があるのではないか。【中央、豊四季台、3期目以上、民生委員】

社協だよりをもう少しやわらかくして、一般住民が気軽に、手に取りたくなるような紙面にしてはどうか。【中央、新富、2期目、民生委員】

予算的に難しいかと思うが、福祉サービスの提供の増加を希望する。【北部、高田、1期目、民生委員】

講演会等の出席人数は、各地区の民生委員の人数に合わせてほしいと思う。(15名中4人出席してください、というのはきつい現状。)【北部、松葉、1期目、民生委員】

活動推進のために講演会等の必要は感じるが、中味の濃いものにしてほしい。似たような内容の講演に、人数合わせのために何回も出席するのはつらい。【北部、松葉、1期目、民生委員】

他の地区での活動内容を教えてほしい。【北部、松葉、2期目、民生委員】

もっと地域に来て親密な関係をつくるべき。行政とは違う、きめ細かな取り組みが大切。社協はどんな活動をしているのか、理解されていない。民間の良いところを学び、官の不都合の面は改める努力が大切。職員がおしゃべりサロンに来訪しても、行政の人たちと同じように必要事項を説いて、後は人生の先輩の高齢者に話しかけようとしていないで、ただ無口無表情で席を温めているだけでは、親しみは生まれえないと思う。【北部、松葉、3期目以上、民生委員】

各町会活動への支援(交流)強化。市社協が、少人数で大変だとは思いますが、地区社協イベントにとどまらず、町会行事(夏祭り、冬の餅つき、複数町会合同イベント)にも「市社協」として参加し、住民との関わりを深めてはどうか(今は距離があり過ぎる感がある)。町会長が社協に対して動きやすいだけでなく、一般市民から「社協」に対して関心と理解が高まることになるのでは。【北部、西原、2期目、民生委員】

福祉に関するプラットフォームとしての活動の充実(諸ネットの構築、異分野を含めた交流)、教育委員会(生涯学習、公民館活動)と連携したボランティアの育成。地域通貨の研究。子育て(高齢者も)ポイント制度の研究、実施。(経済界の協力を得て。石川県、群馬県等で実施している。)住民福祉大会は、一般の人でも参加できる福祉まつりの形にしてはどうか。【北部、西原、3期目以上、民生委員】

社協の方が定例会に必ず出席して下さり、市からの情報を知ることが出来てとても助かっています。今後ともよろしくお願いします。【北部、富勢、2期目、民生委員】

ふるさと協の一本化について。現状では社会福祉協議会の名称さえ危うくなってきている。時代の趨勢として、これで良いものかと考える。富勢地区でも来年度4月からまた話し合いを開始したいとの旨も耳にしている。ご指導を仰ぎたい。【北部、富勢、3期目以上、民生委員】

社会福祉協議会とはどういうもので、どの様な活動をしているのかをもっと広める説明をしてほしい。【南部(旧柏)、土、1期目、民生委員】

敬老会や講座の出席、他サロンの手伝いなど仕事が多岐に渡るため、ともすれば基本である訪問活動がおそろかになるのが悩み。【南部(旧柏)、土、2期目、民生委員】

市社協の日頃の活動に感謝する。これからも地域に入り込んで、地域の組織と協同した活動を期待している。【南部(旧柏)、土、2期目、民生委員】

今のままでは、だんだん市社協との関わりが少なくなってしまうような気がする。地区担当の職員が地区に来て、会議に出席してアドバイスをしてほしい。ふる協会議にも来てほしい。

【南部(旧柏) 土、3期目以上、民生委員】

これまでも種々の相談窓口として良くしてもらっているので特別な要望はない。今後とも地域福祉活動の援助、相談窓口としてよろしく願いたい。【南部(旧柏) 土、3期目以上、民生委員】

社協があって市民が安心して暮らせる、困った時の最初の窓口であるという意識と、市民に対する簡潔な広報の必要性を感じる。難解な用語は除いて、誰でも理解できる文章が良い。

【南部(旧柏) 土、3期目以上、民生委員】

社協とふるさと協議会の運営内容が重複しているところがある。65歳以上対象の友愛訪問はまだ元気で働いている人も対象で、訪問してもあまりピンと来ないようだ。かたや、70歳以上で、家族と同居していても昼間は1人となり、足腰が悪く外出も出来ず、1人でポツンとしている。年齢で選別するのではなく、たすけあい募金対象世帯のように我々にまかせてもらえれば、せっかくの真心が倍増するのではと思う。敬老会でもサロンでも出席できる方は限られている(顔触れが同じ)。体調が悪くて外出できない人、公の場に出られない(性格)で家にばかりいる人たちに、何かの形で平等に(精神的、物質的)分配できればと思う。

【南部(旧柏) 光ヶ丘、1期目、民生委員】

地域の会議や交流会に職員の人がよく出席してくれるので、交流や意向が伺えて良いと思う。

【南部(旧柏) 南光ヶ丘、1期目、民生委員】

民生委員児童委員になって3年が経ったが、まだ地域のこと、状況などを把握していないので何とも言えない状況。しかし理想を言えば、社協は地域のまとめ役だと思う。民生委員もコーディネーターの部分があると思うが、社協もコーディネーターの役割が大きいと思う。これからも地域住民の力になってもらい、第三者の眼で冷静に見てもらい、共に手を携えてもらえればうれしい。【南部(旧柏) 南部、1期目、民生委員】

経済的支援より、いつの間にかお互いに心が貧しくなってきた。地区社協に力を入れているのはわかるが、地域に根差すならば、市社協が自ら各町会のふるさと会館を巡回して、心の問題を中心とした講演会を多くやってもらいたい。【南部(旧柏) 南部、3期目以上、民生委員】

ふる協と一本化され、その組織に入ってしまう、従来の社協としての活動が手薄になり、停滞するようになったら、市社協として、全体の立場から、力・知恵を貸してほしい。みんなが安心して、楽しく暮らせるまちづくりに積極的に手を出してほしい。【南部(旧柏) 南部、3期目以上、民生委員】

市社協で考えていることと、地区社協で考えていることにギャップを感じている。市社協は全市的視野で方針を降ろしてくるが、地区社協としては押し付けられる受け方をし、ギクシャクすることが見受けられる。ニーズの事例を細かく説明し、自然体で地区社協が受けられるよう吟味して降ろしてほしい。【南部(旧沼南) 大津ヶ丘、3期目以上、民生委員】

自主的な地域活動には限界がある。今の地域の状況はわかるが、長期的な視点が持ちにくく、専門職としての職員の関わりが大きな力となる。また、事務局的な仕事の難しさ、調整力というものが、地域住民では限界がある。職員の一層の関わりを期待したい。【南部(旧沼南) 大津ヶ丘、3期目以上、民生委員】

市社協の職員は現在誠実に対応してくれ満足しているが、我々が活動をもっと活発にしていけば、市社協の協力が一層求められる。市社協職員は精一杯働いていると見受けられるので、今以上の要求に応えるには人員増が必要。若い職員を増員し、早く教育してもらいたい。【南部(旧沼南) 風早北部、2期目、民生委員】

地区社協活動に関して、以前のように全面的にサポートしてくれることを望む。現在のやり

方だと委員の負担が大きすぎて、結果としてはボランティア委員の増員が難しいと思う。【南部（旧沼南）、風早南部、2期目、民生委員】

連携、情報（ニーズ）共有の場づくり。多くの人が地域活動に参画できるしくみづくりの地区懇談を開いてほしい。【南部（旧沼南）、高柳、1期目、民生委員】

「頼まれたから福祉委員になった」という人たちが多く、その多くの人たちは、福祉に関する学習の機会がほとんどないと思う。リーダーの人たちはそういう勉強を受けているかと思うので、他の福祉委員さん全員に報告してほしい。民生委員の場合は守秘義務についても厳しく言われているが、福祉委員にも、そのようなことをきちんと教える機会を作ってほしい。

【南部（旧沼南）、高柳、2期目、民生委員】

行動計画の作成の前に、社会福祉のあるべき姿（2008年）を決めてください。その上で地域性を考えて、1）現状をどのようにしたいか。2）その方策、支援をどうするか。【南部（旧沼南）、高柳、2期目、民生委員】

市内各地域の間のパイプ役として積極的に情報を収集・提供し、地域差を無くしてほしい。

【中央、永楽台、3期目以上、主任児童委員】

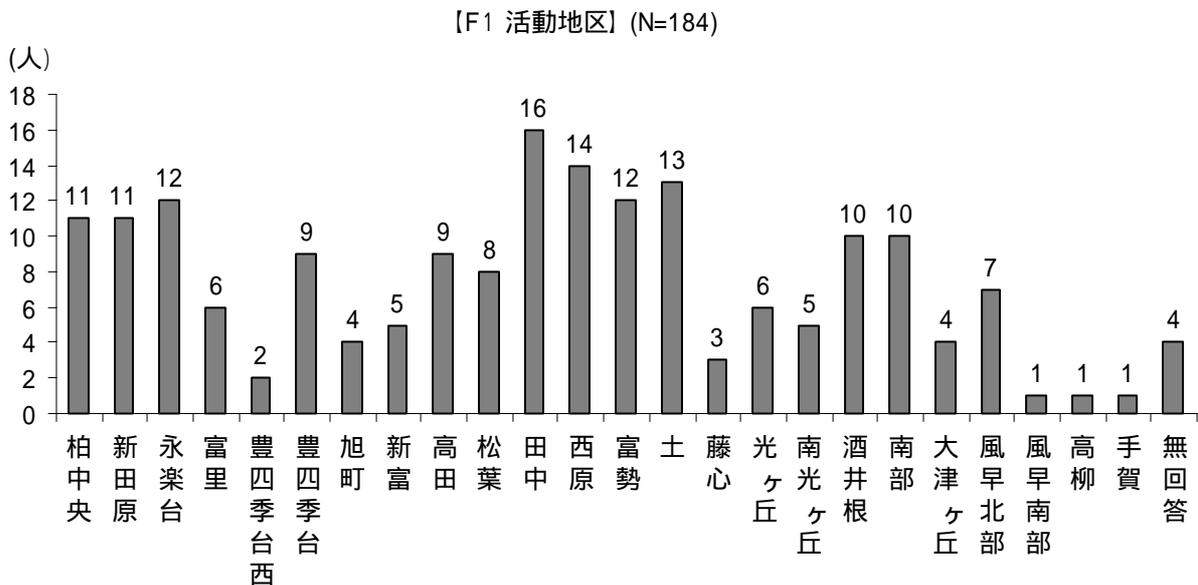
3 柏市民健康づくり推進員

もくじ

(1) 回答者の属性	114
(2) 日頃の活動について	116
(3) 地区社会福祉協議会との関わりについて	123
(4) 町会・自治会等との関わりについて	129
(5) 関係機関、関係団体との関わりについて	134
(6) 地域における福祉等の取り組みについて	138
(7) 市社会福祉協議会との関わりについて	146

(1) 回答者の属性

活動担当地区



(上段:人、下段:%)

合計	1. 柏中央	2. 新田原	3. 永楽台	4. 富里	5. 豊四季台西	6. 豊四季台
184 100.0	11 6.0	11 6.0	12 6.5	6 3.3	2 1.1	9 4.9
7. 旭町	8. 新富	9. 高田	10. 松葉	11. 田中	12. 西原	13. 富勢
4 2.2	5 2.7	9 4.9	8 4.3	16 8.7	14 7.6	12 6.5
14. 土	15. 藤心	16. 光ヶ丘	17. 南光ヶ丘	18. 酒井根	19. 南部	20. 大津ヶ丘
13 7.1	3 1.6	6 3.3	5 2.7	10 5.4	10 5.4	4 2.2
21. 風早北部	22. 風早南部	23. 高柳	24. 手賀	無回答		
7 3.8	1 0.5	1 0.5	1 0.5	4 2.2		

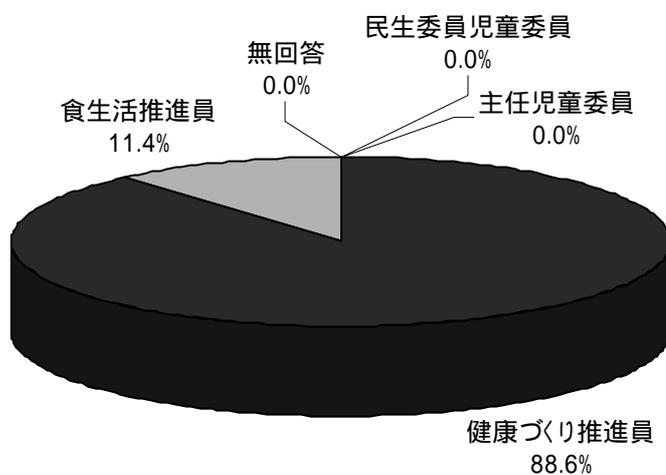
上記 24 地区に加えて、4 エリアでの集計も行っています。

4 エリアは、次のとおりです。(番号は上記 24 地区のもの)

1 ~ 8 中央、9 ~ 13 北部、14 ~ 19 南部 (旧柏)、20 ~ 24 南部 (旧沼南)

回答者の任務

【F2 回答者の任務】 (N=184)

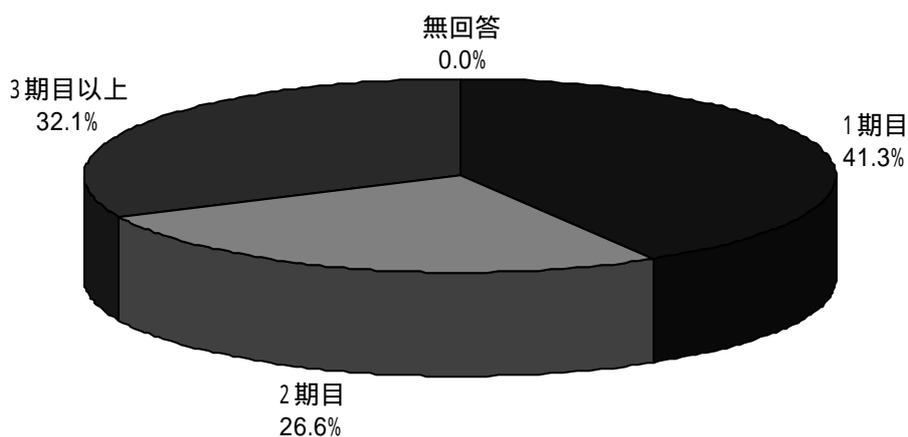


(上段:人、下段:%)

合計	1. 民生委員 児童委員	2. 主任児童 委員	3. 健康づくり 推進員	4. 食生活推 進員	無回答
184	0	0	163	21	0
100.0	0.0	0.0	88.6	11.4	0.0

活動年数

【F3 活動年数】 (N=184)



(上段:人、下段:%)

合計	1. 1期目	2. 2期目	3. 3期目以 上	無回答
184	76	49	59	0
100.0	41.3	26.6	32.1	0.0

(2) 日頃の活動について

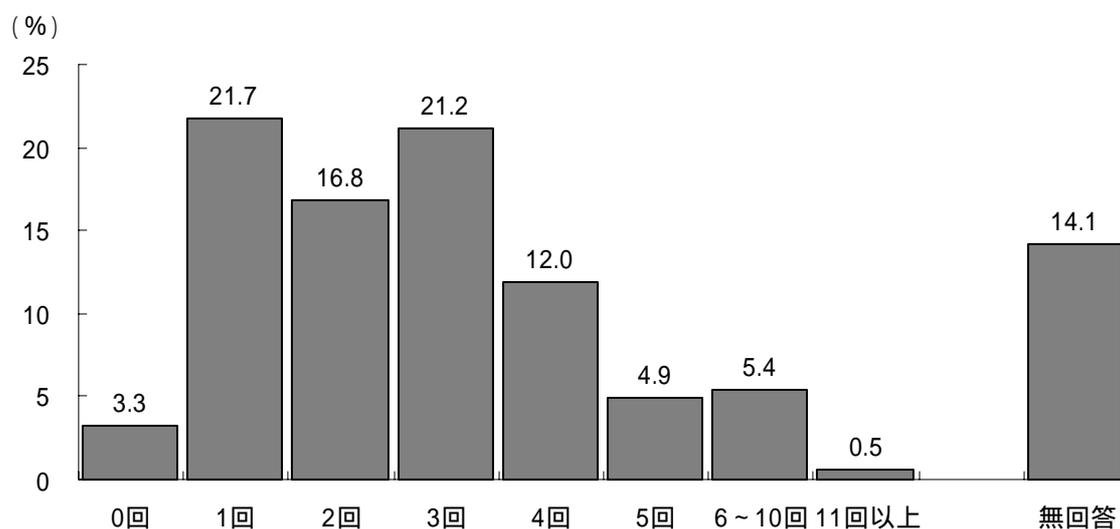
月あたりの訪問活動、相談活動回数

質問1 月に概ねどの程度、訪問及び相談活動を行っていますか。それぞれ回数を記入してください。

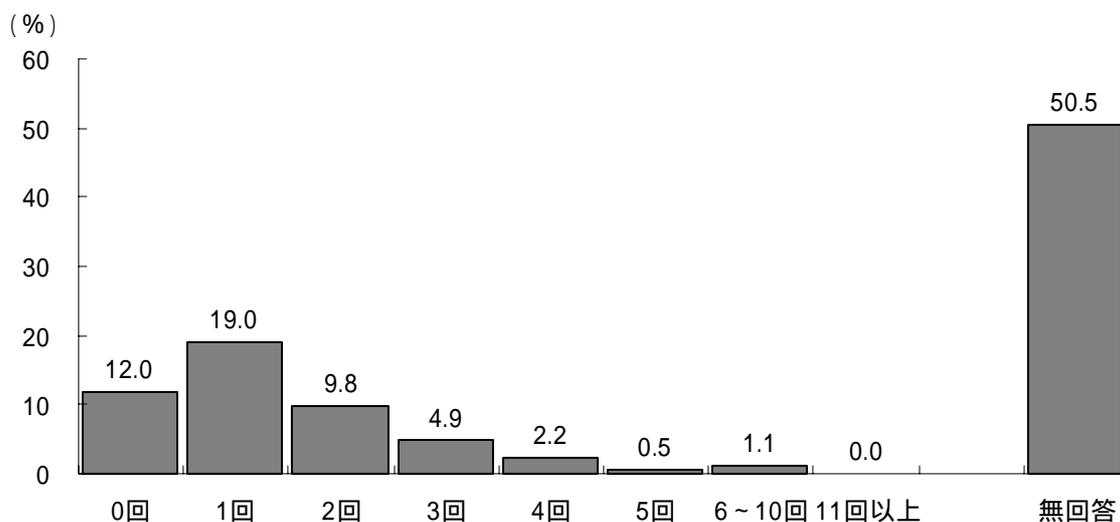
月あたりの訪問活動、相談活動の回数を伺ったところ、訪問活動は「1回」もしくは「3回」がそれぞれ21.7%、21.2%と多く、次いで「2回」が16.8%、「4回」が12.0%と続きます。「1~4回」で71.7%を占めています。

一方、相談活動については無回答が半数と多く、回数では「1回」19.0%、「0回」12.0%などが多くっており、「1~4回」で35.9%となっています。

【質問1 - 1 訪問活動の回数】 (N=184)



【質問1 - 2 相談活動の回数】 (N=184)



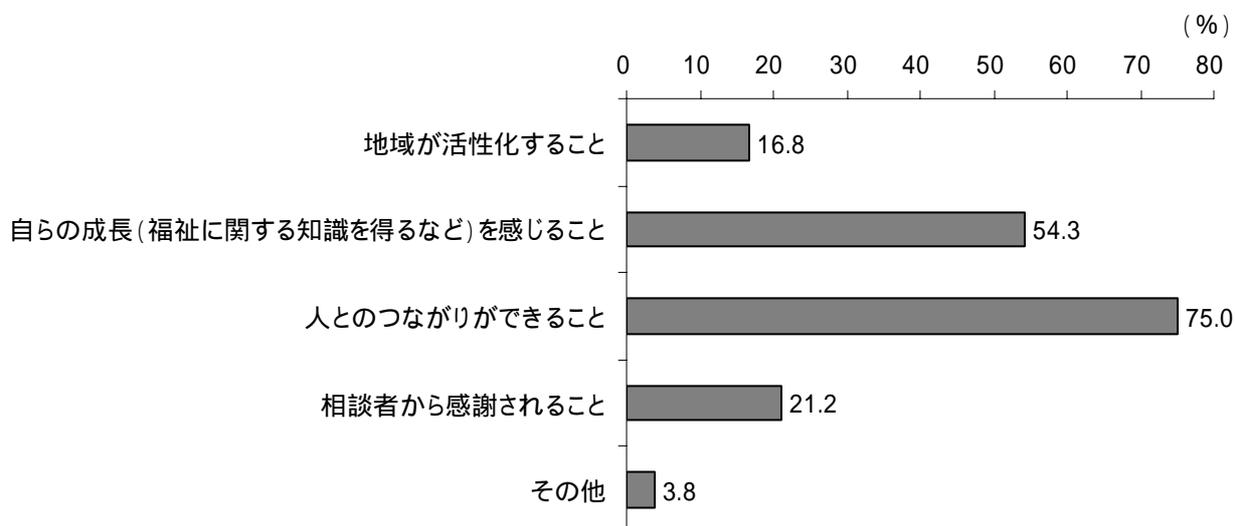
活動でやりがいを感じることに

質問4 活動をするなかで、やりがいを感じることは何ですか。(2つまで)

1. 地域が活性化すること
2. 自らの成長(福祉に関する知識を得るなど)を感じることに
3. 人とのつながりができることに
4. 相談者から感謝されることに
5. その他

活動する中でやりがいを感じることは、「人とのつながりができること」75.0%と「自らの成長(福祉に関する知識を得るなど)を感じることに」54.3%の2項目の割合が高く、それに「相談者から感謝されること」21.2%が続いています。

【質問4 活動でやりがいを感じることに】(複数回答)(N=184)



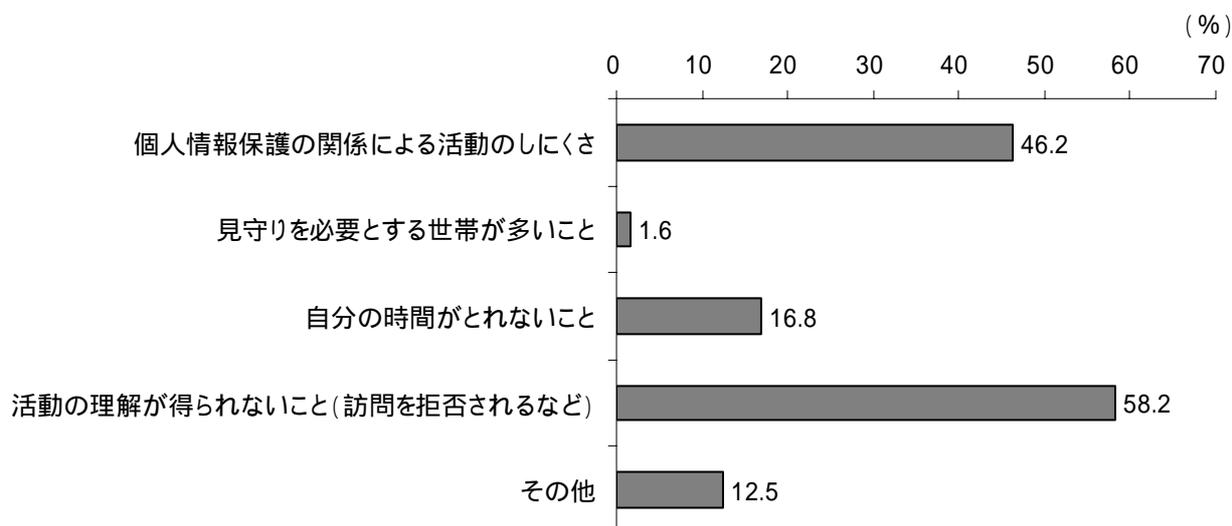
活動の難しさや負担を感じること

質問5 活動をするなかで、難しさや負担を感じることは何ですか。(2つまで)

1. 個人情報保護の関係による活動のしにくさ
2. 見守りを必要とする世帯が多いこと
3. 自分の時間がとれないこと
4. 活動の理解が得られないこと(訪問を拒否されるなど)
5. その他

活動の難しさや負担を感じることについては、「活動の理解が得られないこと(訪問を拒否されるなど)」58.2%が最も多く、次いで「個人情報保護の関係による活動のしにくさ」が46.2%で、この2項目の割合が高くなっています。

【質問5 活動の難しさ、負担に感じること】(複数回答)(N=184)



<クロス集計：4エリア別>

単位：人 (%)

	合計	1. 個人情報保護の関係による活動のしにくさ	2. 見守りを必要とする世帯が多いこと	3. 自分の時間がとれないこと	4. 活動の理解が得られないこと(訪問を拒否されるなど)	5. その他
総計	184 (100)	85 (46.2)	3 (1.6)	31 (16.8)	107 (58.2)	23 (12.5)
中央	60 (100)	35 (58.3)	2 (3.3)	10 (16.7)	31 (51.7)	10 (16.7)
北部	59 (100)	18 (30.5)	1 (1.7)	14 (23.7)	38 (64.4)	8 (13.6)
南部(旧柏)	47 (100)	26 (55.3)	0 (0.0)	6 (12.8)	29 (61.7)	5 (10.6)
南部(旧沼南)	14 (100)	3 (21.4)	0 (0.0)	1 (7.1)	6 (42.9)	0 (0.0)
無回答	4 (100)	3 (75.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (75.0)	0 (0.0)

エリア別にみると、「個人情報保護の関係による活動のしにくさ」は、中央が58.3%、南部(旧沼南)が55.3%と他のエリアに比べ高くなっています。

活動しやすいように心がけていること、工夫していること

質問6 活動しやすいように、心がけていること、工夫していることはありますか。

主な意見の要旨【エリア、地区、就任年数、委員の種別】

訪問する前に配付する資料に目を通し、ひととおり勉強する。わからないことを尋ねられたときには、帰宅してから保健師に電話で確認し、なるべく早く知らせる。【中央、柏中央、1期目、健康づくり推進員】

訪問前に電話したり、拒否されることも多いので、直接伺い突然の訪問を謝ってお話したりする。渡せる資料があると行きやすい。【中央、柏中央、3期目以上、健康づくり推進員】

住んでいる場所を具体的に話すことで相手は安心するようなので、そのようにしている。【中央、永楽台、1期目、健康づくり推進員】

訪問する時にはあらかじめ電話をし、その際に出来るだけ具体的に自己紹介をするようにしている。【中央、豊四季台、1期目、健康づくり推進員】

役立ちそうなパンフレットの収集に努めたり、訪問の際に尋ねられたことを再度調べて情報提供出来るよう、出来る範囲で努力している。【中央、豊四季台、2期目、健康づくり推進員】

名前を言って、どこに住んでいるか伝えて、安心してもらえるように笑顔で話をしている。【中央、旭町、1期目、健康づくり推進員】

大変だと思うことは声かけ訪問。留守の時、ポストにパンフレットやメモを入れさせてもらうが、メモに妊婦さんを気遣う言葉を添えると、後日、電話で都合の良い日を知らせてくれるようになった。【北部、高田、1期目、健康づくり推進員】

相手が何を求めているか、話を聞き出し、即答できないことは改めて報告。共通する質問については手帳にメモして即答できるようにしている。【北部、松葉、1期目、健康づくり推進員】

見かけた時は挨拶にとどまらず、なるべく話しかけて問題がないか気をつけている。【北部、松葉、2期目、健康づくり推進員】

地元を良く知る人に打診してみる。【北部、田中、1期目、健康づくり推進員】

パンフ配布日と訪問日、2日続けて行くこと。戸建てとアパートでは訪問の仕方を変える。出産前訪問は早すぎると仕事で留守が多いので、2ヶ月前くらいの方が会いやすい。【北部、西原、2期目、健康づくり推進員】

町会役員会や町会の行事に参加し、活動のPRを行っている。町会や民生児童委員他との横のつながりを強めるように、コミュニケーションを取っている。【北部、西原、3期目以上、健康づくり推進員】

電話にて訪問の内容等を伝える。何度電話しても連絡がとれない時には、訪問票やパンフレットを投函してから再度電話すると、会えることが多い。【北部、富勢、2期目、健康づくり推進員】

地域の中での活動なので、訪問の時は一定の距離を置いて話すように心がける。余り踏み込まないようにしている。【南部(旧柏)土、1期目、健康づくり推進員】

地域の人に顔を知ってもらえるよう、街で出会う子ども連れには積極的に声かけをしている。声かけの第一段階の電話をかける曜日、時間帯を妊産婦さんの生活を考えて工夫する。(職業の有無、上の子どもの有無など)【南部(旧柏)土、2期目、健康づくり推進員】

相手の話をじっくり聞くこと。留守でも、パンフレット、チラシの情報だけは早めに知らせるため置いてくること。【南部（旧柏） 光ヶ丘、3期目以上、健康づくり推進員】

訪問する前に電話をと思うと電話で話が終わってしまったり、訪問しても留守が多かったり、インターホンで終わってしまう。どうしたら母親や赤ちゃんに会えるのか考えている。【南部（旧柏） 酒井根、2期目、健康づくり推進員】

声かけ訪問に際しては、服装、言葉づかいなど、相手先に嫌な思いをさせないようにしている。自分自身が健康でなくては活動が続けられない。ご近所で対象の人に会えば親しく話しかけるようにしている。気配りなど。【南部（旧柏） 酒井根、3期目以上、健康づくり推進員】

いつも「柏市民健康づくり推進員証」を携帯し、身分を明らかにし、相手に対し安心感を与えること。【南部（旧柏） 南部、1期目、健康づくり推進員】

訪問をして必ず会って話が何えるよう、相手の都合を優先する。笑顔で会話できるよう心がける。【南部（旧沼南） 大津ヶ丘、1期目、健康づくり推進員】

声かけ訪問に関して最初の電話で心を込めて話すよう努めている。電話する時間の配慮（食事準備の頃は避ける）。仕事などで都合が悪く定例会などの活動に参加できない時もあり、後日、資料には必ず目を通すようにしている。【南部（旧沼南） 大津ヶ丘、1期目、健康づくり推進員】

訪問の際に拒否されないよう、明るく活発な挨拶で対応している。まだまだ、健康づくり推進員が何なのか、何のために訪問しているのか分かっていないようだ。【南部（旧沼南） 風早北部、1期目、健康づくり推進員】

電話で相手の都合を聞くより、直接訪問した方が会えやすかった。【無回答、2期目、健康づくり推進員】

市から委嘱されて健康推進員として活動していること、特に妊婦さんにはどうして情報を知っているかの説明する。【北部、西原、2期目、食生活推進員】

あまり知られていないので、食生活推進員のPRをしている。【南部（旧沼南） 高柳、1期目、食生活推進員】

訪問する前に電話をかけて予約を取る。今困っていることを事前に聞き、その回答を持って出向く。【無回答、2期目、食生活推進員】

委員としての活動状況

質問7 以下の組織の委員になっていますか。委員になっているものに をつけて下さい。また、委員になっている場合、年間の会議や活動への出席回数を記入してください。

地区社会福祉協議会

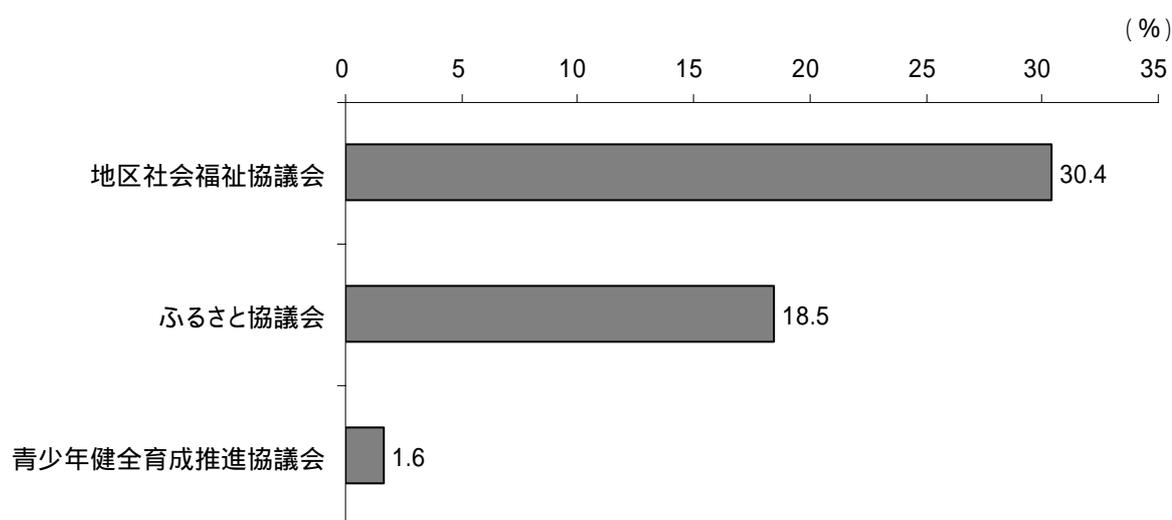
ふるさと協議会

青少年健全育成推進協議会

地域組織において委員になっているものを伺ったところ、「地区社会福祉協議会」の委員は30.4%、「ふるさと協議会」の委員は18.5%、「青少年健全育成推進協議会」の委員は1.6%という結果となりました。

委員となっている組織の年間活動（会議）回数については、いずれの組織も「1～5回」が最も多くなっています。3つの活動組織のなかではふるさと協議会への出席回数が多い傾向がみられます。

【質問7 委員としての活動状況】（複数回答）（N=184）



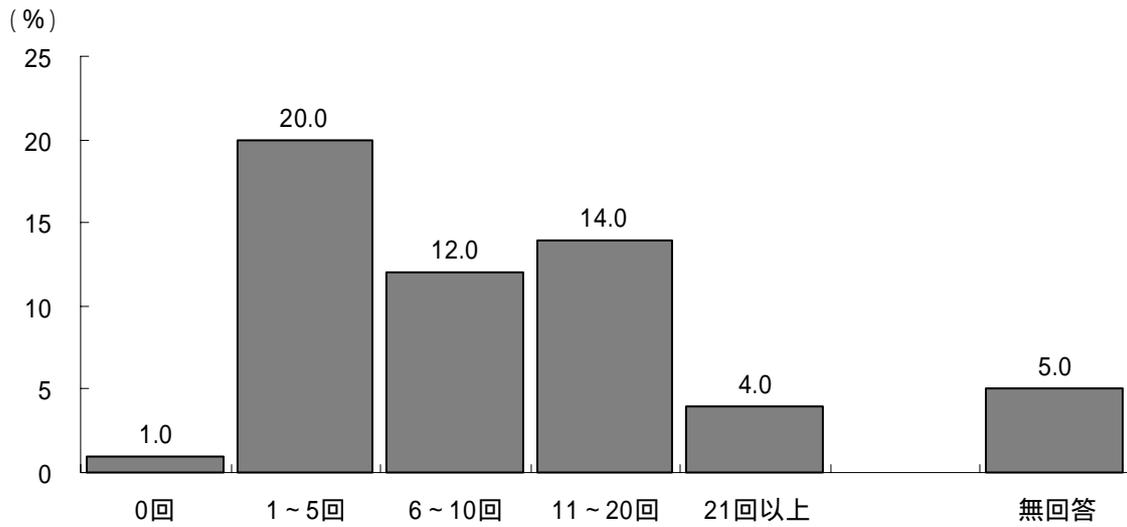
<クロス集計：4エリア別>

単位：人 (%)

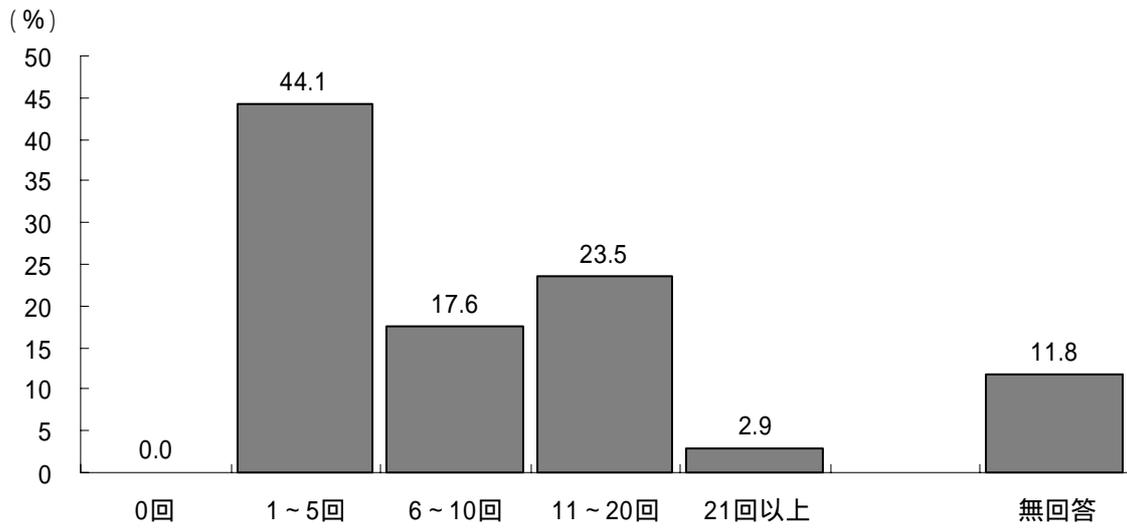
	合計	地区社会福祉協議会	ふるさと協議会	青少年健全育成推進協議会
総計	184 (100)	56 (30.4)	34 (18.5)	3 (1.6)
中央	60 (100)	17 (28.3)	14 (23.3)	1 (1.7)
北部	59 (100)	13 (22.0)	8 (13.6)	0 (0.0)
南部(旧柏)	47 (100)	21 (44.7)	9 (19.1)	2 (4.3)
南部(旧沼南)	14 (100)	4 (28.6)	2 (14.3)	0 (0.0)
無回答	4 (100)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)

エリア別にみると、地区社協の委員は南部（旧柏）で割合が高くなっています。

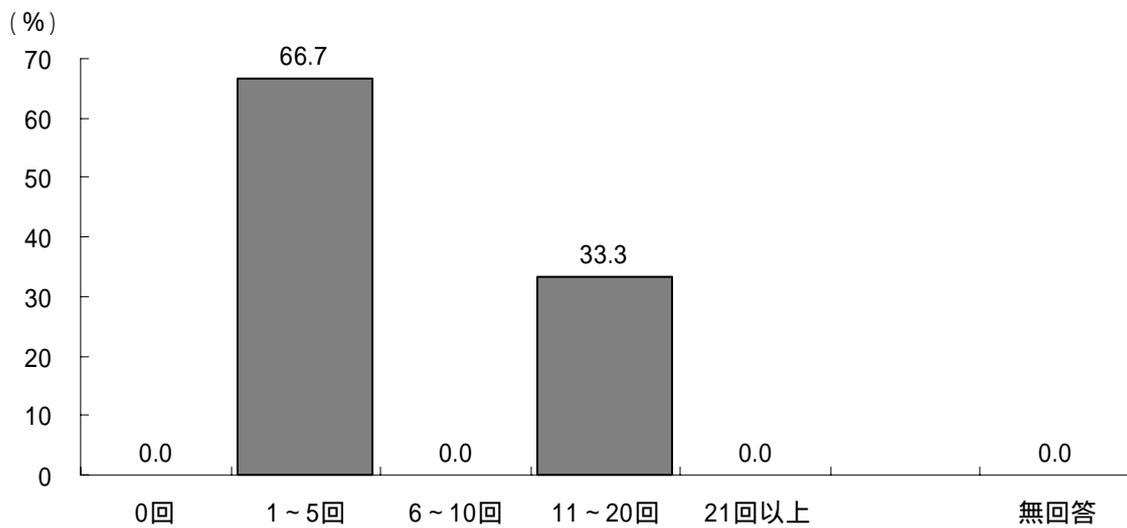
【質問7 地区社会福祉協議会の活動回数】 (N=56)



【質問7 ふるさと協議会の活動回数】 (N=34)



【質問7 青少年健全育成推進協議会の活動回数】 (N=3)



(3) 地区社会福祉協議会との関わりについて

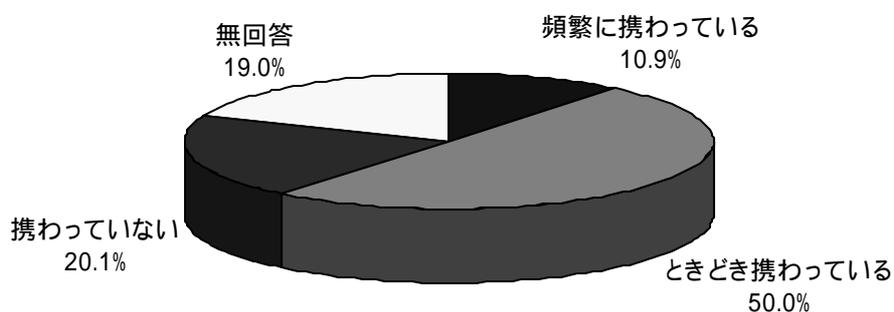
地区社会福祉協議会の活動

質問8 地区社会福祉協議会(以下、地区社協という)の活動にどの程度、携わっていますか。(は1つ)

- | | |
|---------------|------|
| 1. 頻繁に携わっている | 問9へ |
| 2. ときどき携わっている | 問9へ |
| 3. 携わっていない | 問10へ |

地区社会福祉協議会(以下、地区社協という)活動については、「ときどき携わっている」が50.0%と最も多く、「頻繁に携わっている」の10.9%とあわせ60.9%が地区社協の活動に関わっています。一方で、「携わっていない」は20.1%となっています。

【質問8 地区社会福祉協議会の活動】(N=184)



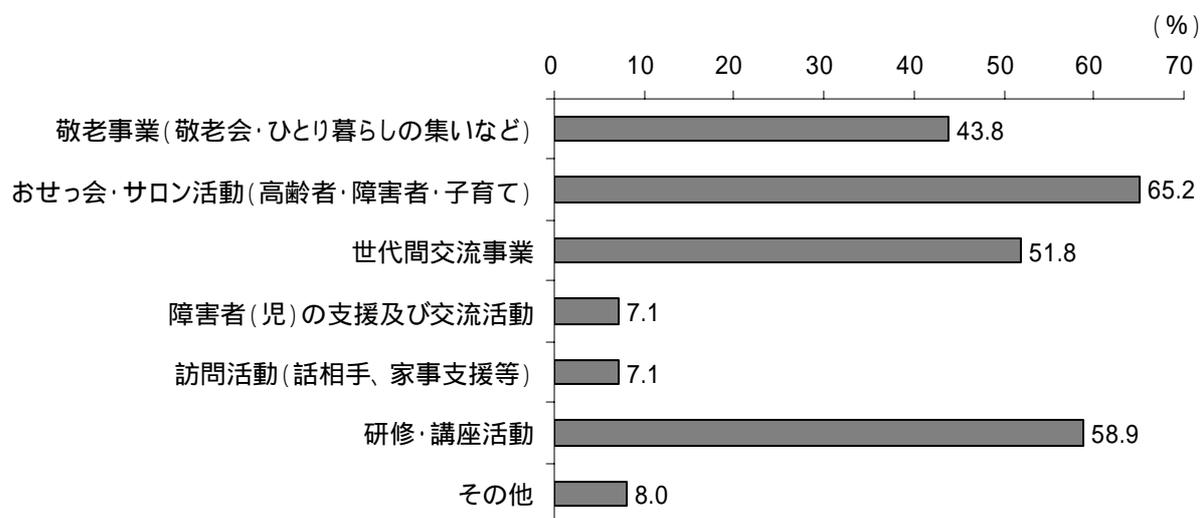
地区社協の活動内容

【問8で「1.頻繁に携わっている」「2.ときどき携わっている」と回答した方のみ】
質問9 地区社協のどのような活動に携わっていますか。(あてはまるものすべてに)

1. 敬老事業(敬老会・ひとり暮らしの集いなど)
2. おせっ会・サロン活動(高齢者・障害者・子育て)
3. 世代間交流事業
4. 障害者(児)の支援及び交流活動
5. 訪問活動(話相手、家事支援等)
6. 研修・講座活動
7. その他

質問8で地区社協活動に携わっていると答えた方に活動内容を聞いたところ、多い活動としては、「おせっ会・サロン活動(高齢者・障害者・子育て)」65.2%、「研修・講座活動」58.9%、「世代間交流事業」51.8%、「敬老事業(敬老会・ひとり暮らしの集いなど)」43.8%の4項目が高い割合となっています。

【質問9(地区社協活動に携わっている方のみ)活動内容](複数回答)(N=112)



地区社協活動の課題、改善点

質問10 地区社協との関わり方についての課題や、今後、地区社協をより良くしていくために改善した方がよいと感じる点など、ありましたらご記入ください。

主な意見の要旨【エリア、地区、就任年数、委員の種別】

それぞれの立場の仕事を精一杯頑張ろう！と活動していても、いろいろな行事にひっぱり出され負担になってしまっている仲間もいるのが現状。具体的な案は無いが、何とかしないと、健康推進員のなり手もいなくなるのではと心配。【中央、柏中央、3期目以上、健康づくり推進員】

当地区ではふるさと協議会一本化にともない、地区社協という名称がなくなり、何がどうなっているのか良くわからないのが実情。今まで通り「ふる協」「地区社協」の区分がはっきりしている方が我々制度ボランティアは動きやすいと思う。これから地区社協がなくなり、福祉のことはどうなるのか？【中央、新田原、3期目以上、健康づくり推進員】

社協自体があまり知られていない。我々も、役員になり初めて知った。どういう活動をし、どんな仕組みか、本当に一般の人たちに知ってもらおう活動をしてほしい。【中央、新田原、3期目以上、健康づくり推進員】

いろいろな事業や催しの参加、手伝いが多く、負担に思う。【中央、富里、2期目、健康づくり推進員】

赤ちゃんの産まれる家庭を訪問するだけの仕事と聞いてボランティアを引き受けたのに、いつのまにか社協の会員の名簿に名前が載っていて驚いた。これ以上仕事を増やしたくないので、1度も社協の会議には参加していない。今後も欠席するつもり。【中央、豊四季台、3期目以上、健康づくり推進員】

より密接な関係をしたら良い。地区を考え、交流することに関しては、皆同じで、問題であり、協力して、高齢者、子育てにあたるのが良い。【中央、新富、3期目以上、健康づくり推進員】

組織がよくわからないので、自分がどの位置にいるのかわからない。いろいろな行事に参加するが、それが地区社協か、ふる協か、市役所の行事なのか、よくわからない。もう少しわかりやすいと良い。【北部、高田、2期目、健康づくり推進員】

その前にもっと地区社協の内容を広くアピールして何をを目指しているのか周知してほしい。そうすることで皆さんに理解が広がり、協力してもらえる人たちが増えていくのでは？(底辺を広げていく)【北部、松葉、2期目、健康づくり推進員】

今年は地区社協の役員ではないが、役員の際は、地区社協のイベントが多くて負担が大きく、二度と社協と関わりたくないと思った。【北部、松葉、2期目、健康づくり推進員】

地区社協は必要とする人としらない人の差がある。いずれ皆、少なからず携わるようになるものと思うので、啓発の必要は大きい。意識を少しずつでも変えられればと思う。【北部、松葉、3期目以上、健康づくり推進員】

「地区社協とは？」もっと市民にPRしてほしい。回覧でも良い。もっとわかりやすく、初歩的なことから、Q & Aの読みやすい印象に残るようなものを社協だよりに入れてほしい。【北部、田中、1期目、健康づくり推進員】

健康づくり推進員の仕事だけではなく、地区社協との関わりが多くなっているので、仕事をしながらの私にとっては出席する回数が多くなってしまうので、各自の独立した任務だけに

してほしい。【北部、田中、3期目以上、健康づくり推進員】

一人でいくつもの「役」を兼ねている人が多い。民生、健康づくり推進員などの団体以外、地域住民からの参加を呼びかけた方が良い。ふるさと協議会との一本化が進んでいるが、今一度よく話し合い、方向性を確かめたい。【北部、西原、3期目以上、健康づくり推進員】

活動が見えない。地域の人のために骨を折っているのだから、何をしている団体か一般の人がもっとよくわかるように、堂々とアピールしても良い。【北部、富勢、3期目以上、健康づくり推進員】

活動している人の世代が片寄っているので、若い人から年輩の人まで、出来るだけいろいろな世代がいた方が良い。【南部（旧柏）、光ヶ丘、1期目、健康づくり推進員】

これから「こんにちは赤ちゃん事業」が始まるので、地区社協との関わりが負担になることが予想される。健康づくり推進員としての活動だけでも「訪問活動」「きりんサークル」「ふれあい健康相談」「保育園で遊ぼう会」「調理実習」「各講座」「その他の研修会」等、いろいろな活動があり、自分の時間がなくなりそう。【南部（旧柏）、南部、1期目、健康づくり推進員】

定例会で全員参加と言われて活動しているが、私には活動時間が長すぎる。子育て中の人、仕事がある人、高齢者をかかえながら活動している人、いろいろです。地域のボランティアは大切だが、今の状況は多過ぎて、負担が大きくなっている。【中央、柏中央、2期目、食生活推進員】

役員が長年同じ人。活性化のためにも期間を決めて交代することが望ましい。下部組織まで情報の伝達ができない。【中央、新田原、3期目以上、食生活推進員】

活動が多いのもう少し少なくしてほしい。推進員の仕事と協議会の仕事の両方なので大変。【北部、松葉、1期目、食生活推進員】

健康推進員＝地区社協の運営委員ということを知らなかった。回覧板を見て初めて知った。当初、何故役員になっているのか疑問だった。先に役員になるという説明があれば関わり方も違って来るのではないか。仕事を持ちながらの役員の重複は、時間をつくるのが大変。【南部（旧柏）、南光ヶ丘、2期目、食生活推進員】

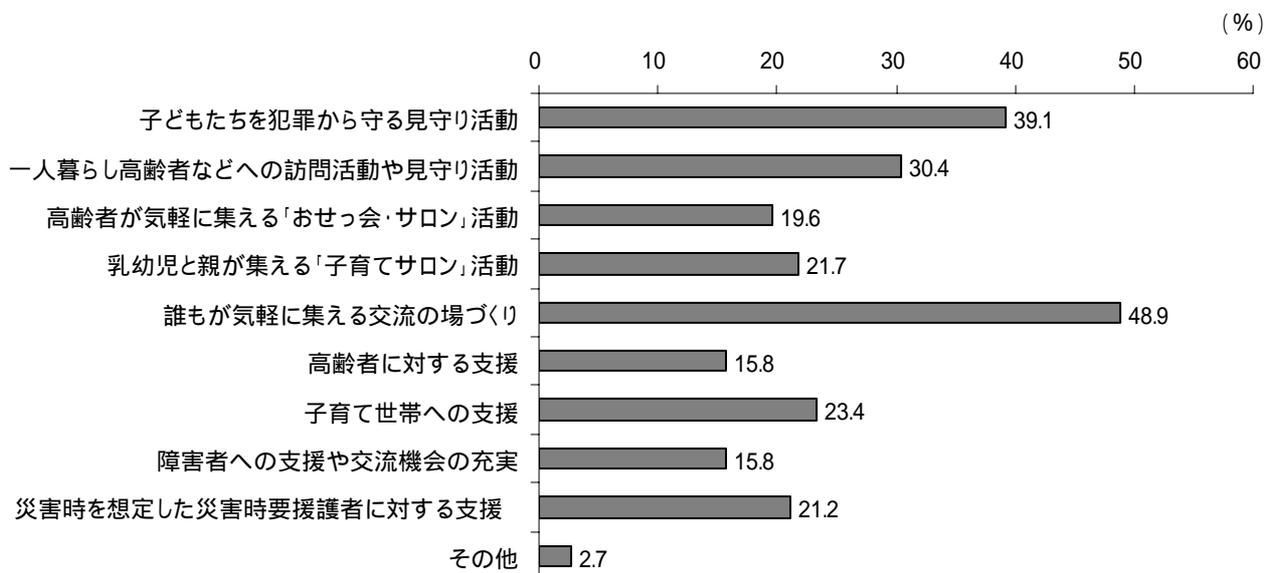
地区社協が力を入れるべき活動

質問11 地区社協が、今後力を入れるべき地域福祉活動は何だと思えますか。(は3つまで)

1. 子どもたちを犯罪から守る見守り活動
2. 一人暮らし高齢者などへの訪問活動や見守り活動
3. 高齢者が気軽に集える「おせっ会・サロン」活動
4. 乳幼児と親が集える「子育てサロン」活動
5. 誰もが気軽に集える交流の場づくり
6. 高齢者に対する支援(ごみ出しなど、簡単なお手伝いなど)
7. 子育て世帯への支援(託児所や母親の集いの場など)
8. 障害者への支援や交流機会の充実
9. 災害時を想定した災害時要援護者に対する支援
10. その他

地区社協が今後力をいれるべき地域福祉活動については、「誰もが気軽に集える交流の場づくり」48.9%、「子どもたちを犯罪から守る見守り活動」39.1%、「一人暮らし高齢者などへの訪問活動や見守り活動」30.4%の順に多く回答が寄せられました。

【質問11 地区社協が力を入れるべき活動】(複数回答)(N=184)



< クロス集計：4 エリア別 >

単位：人 (%)

	合計	1. 子どもたちを犯罪から守る見守り活動	2. 一人暮らし高齢者などへの訪問活動や見守り活動	3. 高齢者が気軽に集える「おせっ会・サロン」活動	4. 乳幼児と親が集える「子育てサロン」活動	5. 誰もが気軽に集える交流の場づくり
総計	184 (100)	72 (39.1)	56 (30.4)	36 (19.6)	40 (21.7)	90 (48.9)
中央	60 (100)	29 (48.3)	15 (25.0)	10 (16.7)	16 (26.7)	27 (45.0)
北部	59 (100)	18 (30.5)	21 (35.6)	16 (27.1)	14 (23.7)	25 (42.4)
南部(旧柏)	47 (100)	17 (36.2)	14 (29.8)	10 (21.3)	8 (17.0)	30 (63.8)
南部(旧沼南)	14 (100)	6 (42.9)	4 (28.6)	0 (0.0)	1 (7.1)	6 (42.9)
無回答	4 (100)	2 (50.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	2 (50.0)

	6. 高齢者に対する支援(ごみ出しなど、簡単なお手伝いなど)	7. 子育て世帯への支援(託児所や母親の集いの場など)	8. 障害者への支援や交流機会の充実に	9. 災害時を想定した災害時要援護者に対する支援	10. その他
総計	29 (15.8)	43 (23.4)	29 (15.8)	39 (21.2)	5 (2.7)
中央	5 (8.3)	14 (23.3)	12 (20.0)	11 (18.3)	0 (0.0)
北部	11 (18.6)	15 (25.4)	11 (18.6)	13 (22.0)	3 (5.1)
南部(旧柏)	9 (19.1)	12 (25.5)	5 (10.6)	11 (23.4)	2 (4.3)
南部(旧沼南)	2 (14.3)	2 (14.3)	0 (0.0)	2 (14.3)	0 (0.0)
無回答	2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	2 (50.0)	0 (0.0)

地区社協が今後力を入れるべき地域福祉活動について、エリア別にみると、「子どもたちを犯罪から守る見守り活動」では、中央と南部（旧沼南）で4割台、他エリアは3割台となっています。「誰もが気軽に集える交流の場づくり」は、南部（旧柏）が6割台と他エリアの4割台に比べ高くなっています。

(4) 町会・自治会等との関わりについて

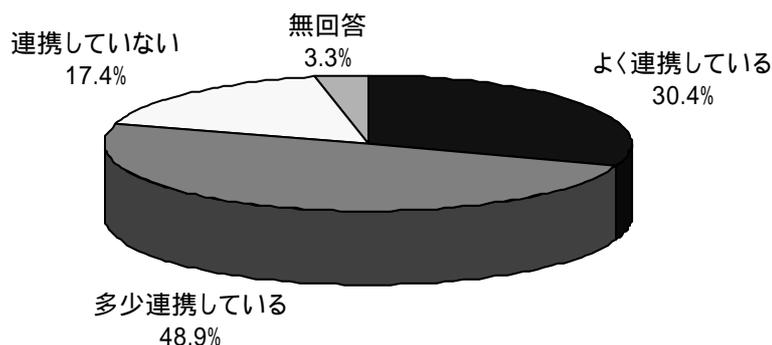
町会、自治会等との連携

質問12 町会・自治会等との連携はありますか。(1は1つ)

1. よく連携している
2. 多少連携している
3. 連携していない

町会・自治会等との連携については、「多少連携している」が48.9%、「よく連携している」が30.4%で、あわせて79.3%が連携していると答えています。一方で、「連携していない」という回答は17.4%となっています。

【質問12 町会、自治会等との連携】(N=184)



<クロス集計：4エリア別>

単位：人 (%)

	合計	1.よく連携している	2.多少連携している	3.連携していない	無回答
総計	184 (100)	56 (30.4)	90 (48.9)	32 (17.4)	6 (3.3)
中央	60 (100)	27 (45.0)	27 (45.0)	5 (8.3)	1 (1.7)
北部	59 (100)	14 (23.7)	33 (55.9)	11 (18.6)	1 (1.7)
南部(旧柏)	47 (100)	13 (27.7)	25 (53.2)	7 (14.9)	2 (4.3)
南部(旧沼南)	14 (100)	2 (14.3)	3 (21.4)	7 (50.0)	2 (14.3)
無回答	4 (100)	0 (0.0)	2 (50.0)	2 (50.0)	0 (0.0)

エリア別にみると、「よく連携している」は、中央が45.0%と、他のエリアの1~2割台に比べ高くなっています。

町会、自治会等の会議への出席

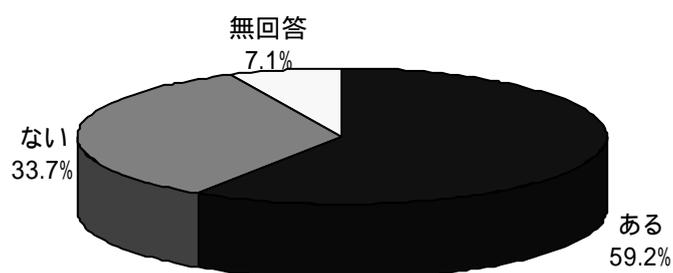
質問13 町会・自治会等の会議に出席することはありますか。()は1つ
ある場合、年何回程度出席されていますか。

1. ある 年間の出席回数
2. ない

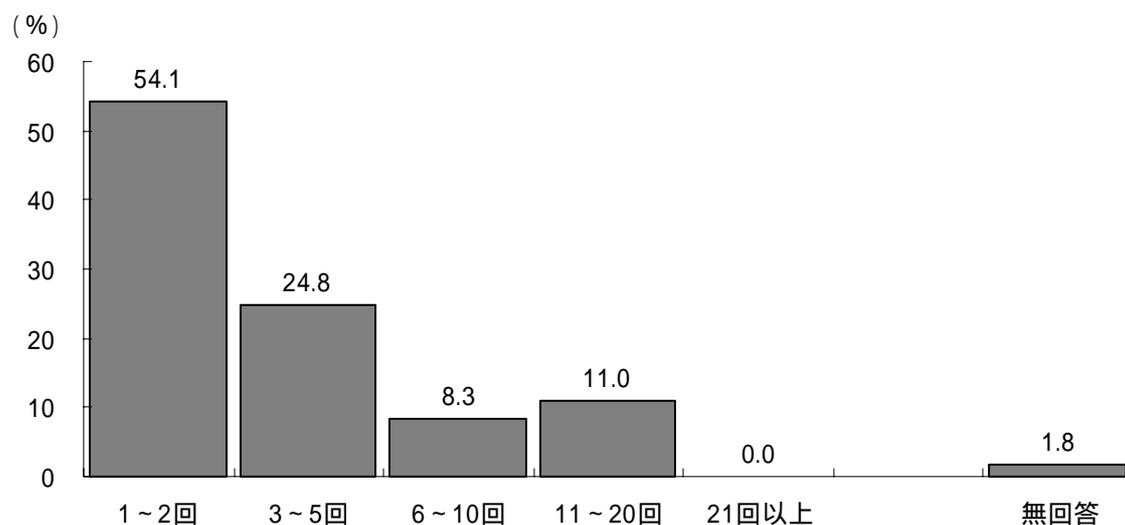
町会・自治会等の会議への出席については、「ある」が59.2%、「ない」が33.7%となっています。

出席される方に年間の出席回数を伺ったところ、「1~2回」が54.1%、「3~5回」が24.8%となっており、「1~5回」で約8割を占めています。出席回数が「11回以上」という回答も11.0%みられます。

【質問13 - 1 町会、自治会等への出席】(N=184)



【質問13 - 2 (町会、自治会等へ出席する方のみ) 年間出席回数】(N=109)



< クロス集計：4エリア別 >

単位：人 (%)

	合計	1.ある	2.ない	無回答
総計	184 (100)	109 (59.2)	62 (33.7)	13 (7.1)
中央	60 (100)	45 (75.0)	12 (20.0)	3 (5.0)
北部	59 (100)	30 (50.8)	25 (42.4)	4 (6.8)
南部(旧柏)	47 (100)	30 (63.8)	15 (31.9)	2 (4.3)
南部(旧沼南)	14 (100)	3 (21.4)	8 (57.1)	3 (21.4)
無回答	4 (100)	1 (25.0)	2 (50.0)	1 (25.0)

エリア別にみると、町会・自治会等の会議への出席について、「ある」は中央で75.0%と4人に3人が出席、南部（旧柏）は63.8%で3人に2人、北部は50.8%で2人に1人、南部（旧沼南）は21.4%で5人に1人と、エリアによって大きく差が出ています。

< クロス集計：活動年数別 >

単位：人 (%)

	合計	1.ある	2.ない	無回答
総計	184 (100)	109 (59.2)	62 (33.7)	13 (7.1)
1期目	76 (100)	36 (47.4)	32 (42.1)	8 (10.5)
2期目	49 (100)	32 (65.3)	15 (30.6)	2 (4.1)
3期目以上	59 (100)	41 (69.5)	15 (25.4)	3 (5.1)

活動年数別にみると、1期目に比べ、2期、3期目以上など活動が長くなるほど、出席の割合が高くなっています。

町会・自治会との今後の連携について

質問14 町会・自治会と、今後どのような連携が必要だと思いますか。ご自由に記入ください。

主な意見の要旨【エリア、地区、就任年数、委員の種別】

町会とは連携が取れていると思う。むしろ、頼られすぎているように感じる。【中央、新田原、1期目、健康づくり推進員】

町会の行事などに積極的に参加し、地域の人と顔見知りになることが大切かと思っているが、なかなか参加できない。【中央、永楽台、1期目、健康づくり推進員】

町会長の考えで違いがある。今の会長は去年までの人と違い、連携が少し増えた。やはり連携は必要だと思う。【中央、永楽台、1期目、健康づくり推進員】

情報交換が必要だと思う。その上で、お互いに足りない所を補い合い、助け合うことが必要ではないか。【中央、豊四季台、1期目、健康づくり推進員】

地域の活性化のために必要だが町会に未加入の人たちとの交流をどのようにするか？【中央、豊四季台、3期目以上、健康づくり推進員】

健康づくり推進員を引き受けたが、推進員の活動内容が町会の会員などに知られておらず、次に引き受けてくれる人を探すのに会長がとても苦労しているようだ。推進員は何の資格もいらず、身近にいる人をお願いできるので、町会の総会などで活動の様子を紹介してほしいと思う。【北部、高田、1期目、健康づくり推進員】

年に何回かの意見交換は必要だと思う。それぞれ分担して活動すべき。【北部、高田、1期目、健康づくり推進員】

町会、自治会から選出された部員を1年限りではなく、ボランティアの育成に持っていきたい。【北部、松葉、1期目、健康づくり推進員】

町会、自治会の一部だと理解してもらえないことがあるので、もっと交流していかなければと思う。(年に1度は町会の会合に参加する。)
【北部、松葉、2期目、健康づくり推進員】

推進員活動を知らない町会役員が大勢いるので活動の周知を行う。そして、活動報告をこまめに行う。【北部、西原、3期目以上、健康づくり推進員】

災害時を想定した連携。【北部、富勢、2期目、健康づくり推進員】

富勢地区では年2回ほど地区社協関連で交流会を開催しているが、このような場に可能であれば各町会長や自治会長なども参加してもらい、情報交換が出来たらと思っている。【北部、富勢、3期目以上、健康づくり推進員】

毎年つくる町会名簿に「健康づくり推進員」の名前を入れてもらっている。【南部(旧柏)土、3期目以上、健康づくり推進員】

こちらから町会の活動には口を出せない。町会がサロン等の活動を広げていくときは声をかけてほしい。【南部(旧柏)藤心、2期目、健康づくり推進員】

町会の役員の中の仕事のひとつとして位置付ければ、より一層連携しながら活動出来るかと思う。町会の役員(順番制)と推進員の役とが重なった年はとても大変で、充実した活動を心から進んでは出来なかった。【南部(旧柏)酒井根、1期目、健康づくり推進員】

地域活動の中では町会との連携は必要。健康づくり推進員の活動を知ってもらいたい。(好きで活動をしていると思われていることもあるため。)
【南部(旧柏)酒井根、3期目以上、

健康づくり推進員】

町会から1名ということで引き受けた。訪問のための住所と20年くらい前の地図を1枚もらったが、最近は個人情報保護の関係で地図が更新されない状態。町会での地図の発行は無理なのか。【南部(旧沼南)、大津ヶ丘、1期目、健康づくり推進員】

仕事内容を理解してほしいので、どういう活動をしているのかを話す機会があると良い。【中央、永楽台、2期目、食生活推進員】

お互いが知り合うために町会の会議にも参加して自己PRさせてほしい。【北部、高田、3期目以上、食生活推進員】

地域のものであるべきおせっ会、サロン活動が一部の人のためだけの会になっている現状がある。もっと開かれた会であるように町会と連携したいが。【北部、田中、1期目、食生活推進員】

健康推進員は町会長推薦になっているので、町会役員の人に理解してもらいたい。活動状況等も総会で発表して理解を深めたい。【北部、西原、2期目、食生活推進員】

(5) 関係機関、関係団体との関わりについて

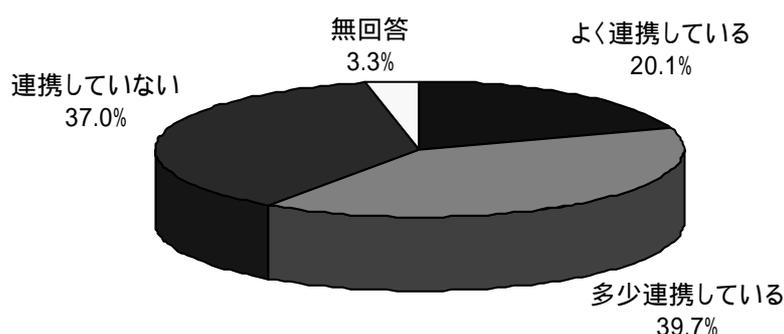
地域の子育て関連団体との連携

質問15 地域の子育て関連団体(子ども会、子育てサークル等)との連携はありますか。(は1つ)

1. よく連携している
2. 多少連携している
3. 連携していない

地域の子育て関連団体(子ども会、子育てサークル等)との連携については、「多少連携している」39.7%、「よく連携している」20.1%をあわせると59.8%が連携しています。一方で、「連携していない」という回答も37.0%にのびます。

【質問15 地域の子育て関連団体との連携】(N=184)



<クロス集計：4エリア別>

単位：人 (%)

	合計	1.よく連携している	2.多少連携している	3.連携していない	無回答
総計	184 (100)	37 (20.1)	73 (39.7)	68 (37.0)	6 (3.3)
中央	60 (100)	15 (25.0)	20 (33.3)	24 (40.0)	1 (1.7)
北部	59 (100)	12 (20.3)	29 (49.2)	17 (28.8)	1 (1.7)
南部(旧柏)	47 (100)	9 (19.1)	19 (40.4)	16 (34.0)	3 (6.4)
南部(旧沼南)	14 (100)	1 (7.1)	4 (28.6)	8 (57.1)	1 (7.1)
無回答	4 (100)	0 (0.0)	1 (25.0)	3 (75.0)	0 (0.0)

エリア別にみると、地域の子育て関連団体との連携は、南部(旧沼南)で「連携していない」が57.1%と、他のエリアに比べ高くなっています。

そのため、「よく連携している」「多少連携している」をあわせた数値でも、中央58.3%、北部69.5%、南部(旧柏)59.5%、南部(旧沼南)35.7%と南部(旧沼南)が低くなっています。

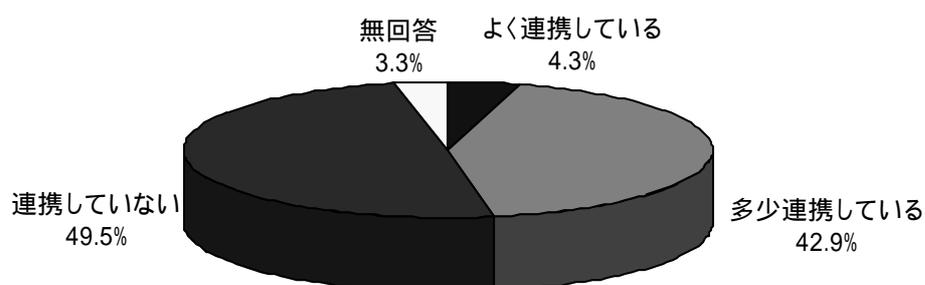
学校との連携

質問16 学校との連携はありますか。(は1つ)

1. よく連携している
2. 多少連携している
3. 連携していない

学校との連携については、「連携していない」が49.5%と最も多く、「多少連携している」42.9%と「よく連携している」4.3%をあわせて47.2%が連携しており、連携の有無は半々となっています。

【質問16 学校との連携】(N=184)



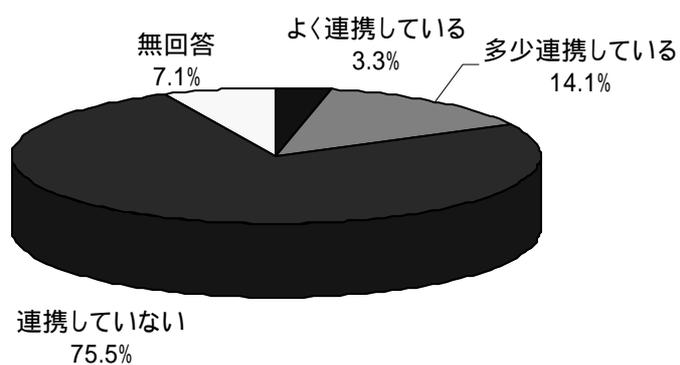
地域の民間施設や事業者、NPO 等との連携

質問17 地域の民間施設や事業者、NPO 等との連携はありますか。(は1つ)

1. よく連携している
2. 多少連携している
3. 連携していない

地域の民間施設や事業者、NPO 等との連携については、「連携していない」が75.5%と最も多く、「多少連携している」14.1%と「よく連携している」3.3%をあわせて連携している割合は17.4%にとどまっています。

【質問17 地域の他の団体との連携】(N=184)



関係機関、団体との連携についての課題

質問18 関係機関、団体との連携に課題がありましたら、ご記入ください。

主な意見の要旨【エリア、地区、就任年数、委員の種別】

小学校との関連はあるが、地域の複数校の内、いつも同じ1校にしばられている。多くの町会があり、自分たちの所属する学区で交流の場を持たなければあまり意味がないのではと思う。【中央、新田原、1期目、健康づくり推進員】

障害者施設、老人ホーム、デイサービス、グループホームなど。【中央、新田原、3期目以上、健康づくり推進員】

相互とのコミュニケーションは大切。普段はもちろん、いざという時も考慮に入れながら、お互いに情報交換し、連携することが大事。【中央、永楽台、3期目以上、健康づくり推進員】

若いボランティアが不足。高年齢化している。【北部、松葉、2期目、健康づくり推進員】

開催事業の内容が重なったりすることがあるので、本来ならば連携を密にする必要があると思うが。【北部、松葉、3期目以上、健康づくり推進員】

地区社協もふるさと協議会も、中学校区で区分されていないので、とてもやりにくい。地区社協と地区社協のはざまにいる。地域活動しにくい。【北部、田中、3期目以上、健康づくり推進員】

あまり交流が無いので団体の様子がわからない。普段の活動とは関わりが深くはないが、横のつながりを持ち、お互い理解できたらと思う。【北部、西原、3期目以上、健康づくり推進員】

どんなものがあるのか、まず自分が知っておくことが第一条件。【北部、富勢、3期目以上、健康づくり推進員】

合併前のような開かれた関係を望む。【南部（旧沼南）、風早北部、3期目以上、健康づくり推進員】

年に1回松葉中学の「命の授業」の手伝いをしており、とても良いことだと思う。もっとが高等への手伝いが出来れば良いと思う。【北部、松葉、1期目、食生活推進員】

(6) 地域における福祉等の取り組みについて

福祉の取り組みへの評価

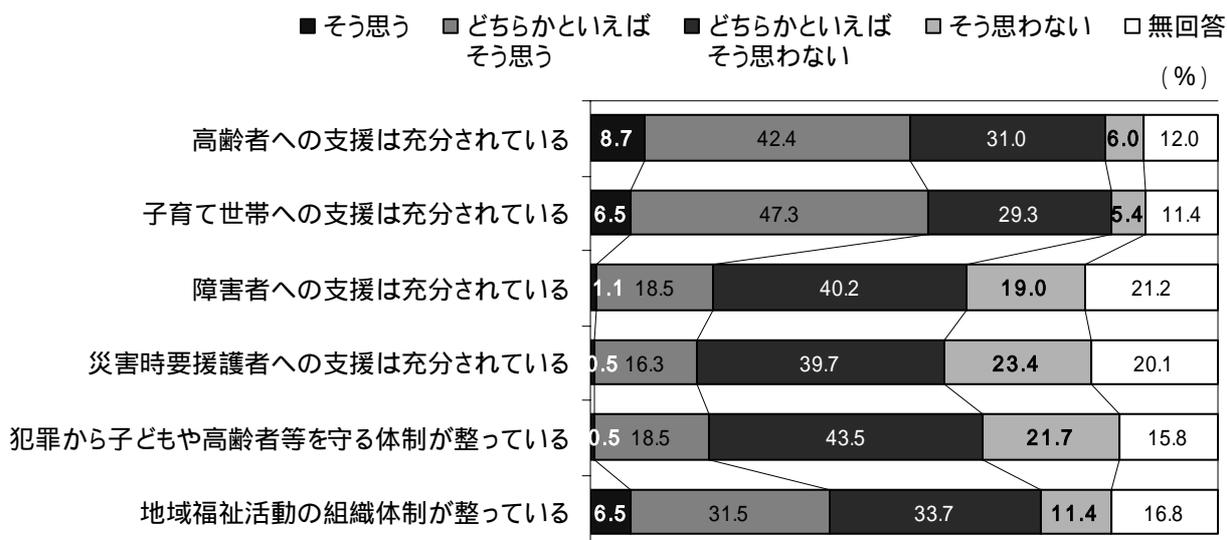
質問19 地域における福祉等の取り組みについて、どのようにお感じになっていきますか（該当するものに）

- 高齢者への支援は充分されている
- 子育て世帯への支援は充分されている
- 障害者への支援は充分されている
- 災害時を想定した災害時要援護者への支援は充分されている
- 犯罪から子どもや女性、高齢者などを守る体制が整っている
- 地域福祉活動の組織体制が整っている

高齢者への支援など6つの項目について取り組みへの評価を4段階で伺ったところ、十分な支援や体制整備ができていく（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が多い）項目は、『子育て世帯への支援』（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計53.8%）、『高齢者への支援』（同51.1%）となっています。

一方、支援や体制整備が充分でない（「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」が多い）項目は、『犯罪から子どもや高齢者等を守る体制』（「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計65.2%）、『災害時要援護者への支援』（同63.1%）、『障害者への支援』（同59.2%）となっています。

【質問19 福祉の取り組みへの評価】(N=184)



高齢者向けサロン、子育てサロンへの意見

質問20 高齢者向けのサロンや、子育てサロンについて、その配置、サロン数、運営方法などについて、ご意見ありましたら記入してください。

(高齢者向けサロンについて)

(子育てサロンについて)

主な意見の要旨【エリア、地区、就任年数、委員の種別】

(高齢者向けサロンについて)

男女では女性の方が出席率が高い。男性の会が加わるとその内容によっては女性ゼロの場合が多々ある。内容に苦慮している。男女一緒となると、とても難しい。【中央、柏中央、1期目、健康づくり推進員】

決まった人しか出席しない。場所的に悪いので足の悪い人は出席できないのでは。【中央、柏中央、1期目、健康づくり推進員】

送迎を考えてあげる必要がある。身近な場所にしてあげた方が良い。訪問を考えたサロンも良いのでは。【中央、柏中央、3期目以上、健康づくり推進員】

月1回のサロンでは少ないように思う。【中央、永楽台、1期目、健康づくり推進員】

利用者の意見を聞いた方が良い。毎月同じことをして、やっている人は利用者が何に不満を感じているかわからないと思う。何でも、こちら側の押し付けになってはいけない。【中央、永楽台、1期目、健康づくり推進員】

毎月楽しみに来ている人、ボランティアの人に声をかけられたからと義理で来ている人、人とかかわりを求めて参加する人などいろいろいるが、ボランティア不足や役員の負担増など困難な状態が見られる。今後、継続していく意義などについて考えてみても良いのではないか。【中央、永楽台、2期目、健康づくり推進員】

月1回運営されているが、地域住民の参加も多く、根づいてきている。定着しつつあるので、この体制を続けたら良いと思う。【中央、永楽台、3期目以上、健康づくり推進員】

どちらにしても、サロンに出てくる人はまず心配の無い人たちなので、出てこない人に積極的に声をかけて、外に出ることを促すことが大切だと思う。【中央、豊四季台、1期目、健康づくり推進員】

サロン数も増えてきているが、場所が少ない。ボランティアの高齢化が進んでいるので、椅子や机を動かすのが大変そう。【中央、豊四季台、2期目、健康づくり推進員】

町会単位は良いと思う。月1回、参加者、お手伝いともあまり負担もなくて良いかと思う。【北部、高田、1期目、健康づくり推進員】

いつでも開いているサロン、居場所が増えると良いが、それはボランティアだけに頼るのではなく行政レベルで考えないと、なかなか難しいと思う。【北部、松葉、2期目、健康づくり推進員】

開催場所の都合で参加できない人も多いと思う。各地で開くことができれば良いのだが、PRの点もまだ改善の余地がある。【北部、松葉、3期目以上、健康づくり推進員】

サロンに来る人が決まっていいつも同じ。もっと参加者は気軽に。おせっ会をしてくれる人はいつも同じ人たち。この先、してくれる人がいるだろうかと不安になる。【北部、田中、1期目、健康づくり推進員】

ボランティアを募集しても集まらない。【北部、田中、3期目以上、健康づくり推進員】

いろいろなサロンを見てみたい。参考にしたい。【北部、西原、1期目、健康づくり推進員】

富勢地区では、あちらこちらで高齢者向けサロンが立ち上がってきている。民生委員や推進員、ボランティアなどで運営されているが、高齢者が自主的に運営に加わっていて、お客様感覚で行くのではないサロンが出来ていけたらと思う。【北部、富勢、3期目以上、健康づくり推進員】

気軽に利用できる雰囲気ではなく、役員とか一部の人のサロンのように感じられた。せっかくなにもったいない。ボランティアを増やし、月1回の回数を増やすと良い。【南部(旧柏)土、2期目、健康づくり推進員】

数が少な過ぎる。各近隣センターでもっと頻繁に活動し、ボランティアで話し相手になってくれる人も育成すべき。【南部(旧柏)土、2期目、健康づくり推進員】

活発に利用されていないような気がする。規則や事務手続きが多いせいかなと思う。【南部(旧柏)南部、3期目以上、健康づくり推進員】

連絡が開催地域のみで回覧されるため、他地域への参加ができない。もっと多くの人に参加してもらうために直接訪問し、声かけをしてあげてほしい。【南部(旧沼南)風早北部、3期目以上、健康づくり推進員】

一部の人のためだけのサロンになっている。世代を越えて、もっと自由に参加できるような場所が必要。【北部、田中、1期目、食生活推進員】

保健師が参加しており、いろいろな情報提供があるのでとても良い。忙しい中来てもらい感謝している。これからもお願いしたい。【北部、田中、3期目以上、食生活推進員】

各地域ごとに小さなサロンが出来ることは必要。ただ、行事、サロンにも出席しない、または出来ない人に関してどのようにするのか問題。【北部、西原、2期目、食生活推進員】

(子育てサロンについて)

他域からも来るので人数も多く、部屋が足りない。乳母車を置く所が無い等、場所の問題。【中央、柏中央、1期目、健康づくり推進員】

友達づくりのサロンだが、柏中央地区は駅前近くのため、地区外の人もたくさん来る。良いこととは思いますが、まずは自分の居住地区のサロンに参加してほしい。【中央、柏中央、2期目、健康づくり推進員】

日本人より他国の人への支援は？【中央、新田原、3期目以上、健康づくり推進員】

1歳までの赤ちゃんは「母と子のつどい」、1歳以上は児童センターということで、環境は充分と思う。【中央、豊四季台、2期目、健康づくり推進員】

「0～1歳半母と子のつどい」、「3歳～くれよん」があるが、1歳半～3歳までの情報交換の場所が必要ではないか。【中央、旭町、1期目、健康づくり推進員】

ボランティアで手伝う人数が少ない中、サロンの数を増やすということは難しいと思うが、母親を自由にする時間を設けてほしい。【北部、高田、3期目以上、健康づくり推進員】

母と子の集いは、年々参加者が増えて喜ばしいことだが、参加者が多ければその分恒例の身長・体重測定に時間を取られ、「輪の中で何かをする」という時間が足りなくなり、ただの測定日になってしまう。【北部、高田、3期目以上、健康づくり推進員】

まだまだ少ない。場所の確保、スタッフの確保が重要課題。また、団体の連携が無いので同じことをやっていると感ずることがある。団体の垣根を越えて協力しあえたら良い。千葉県

のプレーパークの話など地区社協も参加したら良いと思う。地域の子どもたちのため、心をひとつにしていきたい。【北部、田中、3期目以上、健康づくり推進員】

子育てサロンも推進員のサロンも参加者がどんどん多くなり、場所がほしい。近隣センターの和室では狭くなっている。参加者に申し訳ない。【北部、西原、3期目以上、健康づくり推進員】

サロンを開く場所がなく、今は町会の好意で無料で貸してもらっているが、有料になったり開催できなくなったら継続していけるのか心配。【北部、西原、3期目以上、健康づくり推進員】

近隣センターの活用。児童館のように専門家がいて、子どもが気軽に集える場所とする。【北部、富勢、1期目、健康づくり推進員】

すでに3ヶ所あるが、この場に来る人はそれほど心配する必要のない人なので、母親たちが自主で集まれるよう、その施設の使用方法等、学校側と話し合い、ボランティアはその補助的で良いのでは。(ここへ来られない人の関わり方が必要。)
【北部、富勢、3期目以上、健康づくり推進員】

各週1回ずつ4ヶ所で子育てサロンが開かれている。母親たちは10年くらい前に比べるととても活発ですぐに友達をつくるようで、独自のサークルを立ち上げているグループもある。このまま支援を続けていけたらと思う。【北部、富勢、3期目以上、健康づくり推進員】

現在1ヶ所なので、なんとかもう1ヶ所配置できれば利用者が増えると思う。距離的に遠くて参加しにくい人たちもいるようだ。【南部(旧柏)土、2期目、健康づくり推進員】

子育てサロン増尾は、活動の内容やボランティアの協力があるととてもスムーズに運営されていると思う。来てくれる親子連れも定着していて、新しい人との交わりも和やかに思う。【南部(旧柏)土、3期目以上、健康づくり推進員】

地域だけでなく流山市や嫁いで実家に遊びに戻った親子での参加もあり、同じ子育て中の母親同士の交流はとても大事。母親が孤立して鬱や虐待に向わないよう、場所を提供するとともに、高齢者等も参加して、核家族の多い中で高齢者の昔からの知恵を教えてもらったり、若い人たちが高齢者を尊敬したり、いたわる気持ちを育ててほしい。【南部(旧柏)南光ヶ丘、3期目以上、健康づくり推進員】

健康推進員が開いている「母と子のつどい」は乳幼児(0~1.5歳)が対象。1.5~3歳(幼稚園に入るまで)の子どもに対するケアがされていないと思う。【中央、新田原、1期目、食生活推進員】

非常にうまくいっている。【北部、高田、3期目以上、食生活推進員】

ボランティアの集め方に問題がある。健康推進員だけではなく、もっと大勢の人に参加してほしい。【北部、田中、1期目、食生活推進員】

のびのびルームの参加者が多く、他の地域にも広がると良いとは思いますが、サポートしてくれる人が少なく、サロン数が増えることには不安がある。【北部、西原、2期目、食生活推進員】

3ヶ月に1回手伝っているが、大盛況で皆さん楽しみにしている。母親同士の仲が良く、相談しあっているようで、とても良い機会だと思う。月1回、健康推進員の「母と子のつどい」も大盛況。【南部(旧沼南)手賀、2期目、食生活推進員】

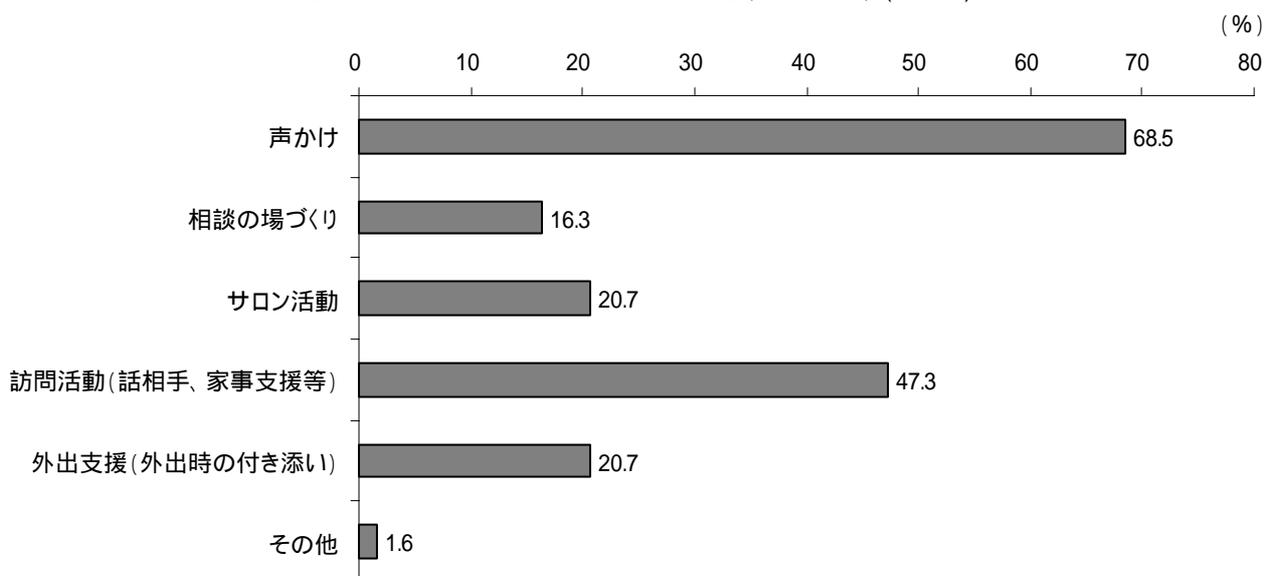
引きこもりがちな方への支援

質問21 高齢者など、引きこもりがちな方に対し、どのような支援が必要だと感じますか。(2つまで)

1. 声かけ
2. 相談の場づくり
3. サロン活動
4. 訪問活動(話し相手、家事支援等)
5. 外出支援(外出時の付き添い)
6. その他

引きこもりがちな方に対し、どのような支援が必要かを伺ったところ、「声かけ」が68.5%と最も多く、次いで「訪問活動(話し相手、家事支援等)」が47.3%となっています。

【質問21 引きこもりがちな方への支援】(複数回答)(N=184)



< クロス集計：4 エリア別 >

単位：人 (%)

	合計	1.声かけ	2.相談の場づくり	3.サロン活動	4.訪問活動 (話相手、家事支援等)	5.外出支援 (外出時の付き添い)	6.その他
総計	184 (100)	126 (68.5)	30 (16.3)	38 (20.7)	87 (47.3)	38 (20.7)	3 (1.6)
中央	60 (100)	42 (70.0)	11 (18.3)	11 (18.3)	24 (40.0)	14 (23.3)	1 (1.7)
北部	59 (100)	37 (62.7)	10 (16.9)	10 (16.9)	32 (54.2)	17 (28.8)	1 (1.7)
南部(旧柏)	47 (100)	35 (74.5)	6 (12.8)	15 (31.9)	23 (48.9)	5 (10.6)	1 (2.1)
南部(旧沼南)	14 (100)	8 (57.1)	3 (21.4)	2 (14.3)	5 (35.7)	1 (7.1)	0 (0.0)
無回答	4 (100)	4 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (75.0)	1 (25.0)	0 (0.0)

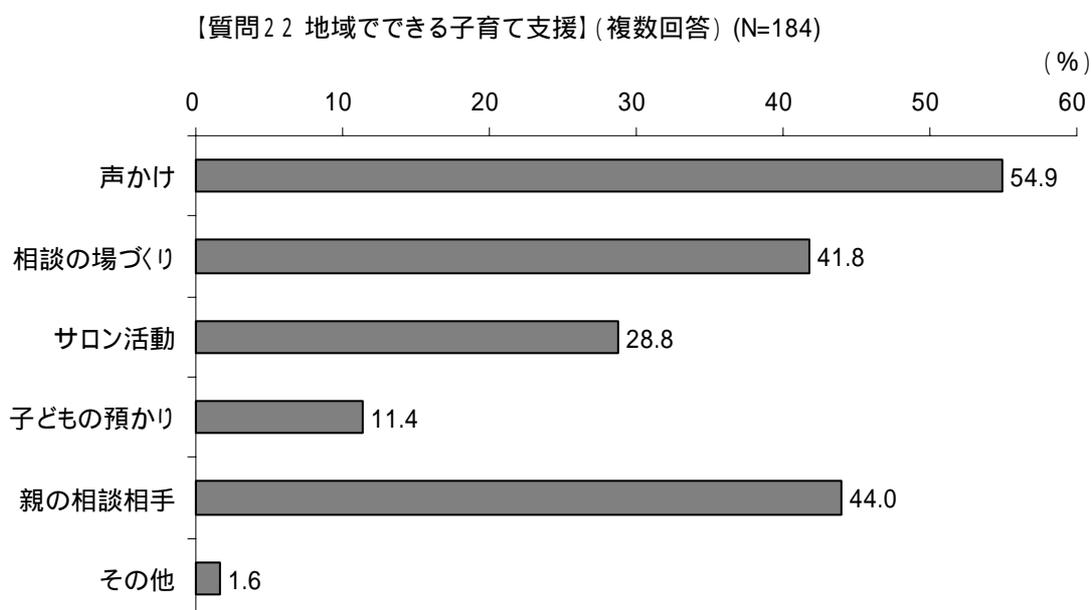
エリア別にみると、「声かけ」は中央と南部（旧柏）が 7 割台と高く、「相談の場づくり」は南部（旧沼南）が 2 割台、「サロン活動」は南部（旧柏）が 3 割台、「訪問活動」は北部と南部（旧柏）が 5 割前後、「外出支援」は中央と北部が 2 割台と、それぞれ他のエリアに比べ高くなっています。

地域でできる子育て支援

質問22 子育てで悩む親に対して、地域でできる支援は、どのようなものだと思いますか。
(2つまで)

1. 声かけ
2. 相談の場づくり
3. サロン活動
4. 子どもの預かり
5. 親の相談相手
6. その他

子育て世帯に対する地域での支援については、「声かけ」が54.9%と最も多く、次いで「親の相談相手」44.0%、「相談の場づくり」41.8%となっています。



<クロス集計：4エリア別>

単位：人 (%)

	合計	1. 声かけ	2. 相談の場づくり	3. サロン活動	4. 子どもの預かり	5. 親の相談相手	6. その他
総計	184 (100)	101 (54.9)	77 (41.8)	53 (28.8)	21 (11.4)	81 (44.0)	3 (1.6)
中央	60 (100)	37 (61.7)	25 (41.7)	14 (23.3)	6 (10.0)	25 (41.7)	1 (1.7)
北部	59 (100)	31 (52.5)	20 (33.9)	23 (39.0)	5 (8.5)	31 (52.5)	1 (1.7)
南部(旧柏)	47 (100)	29 (61.7)	22 (46.8)	12 (25.5)	7 (14.9)	16 (34.0)	1 (2.1)
南部(旧沼南)	14 (100)	2 (14.3)	8 (57.1)	4 (28.6)	2 (14.3)	6 (42.9)	0 (0.0)
無回答	4 (100)	2 (50.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	3 (75.0)	0 (0.0)

エリア別にみると、「声かけ」は南部(旧沼南)が14.3%と、他のエリアの5~6割台に対し低くなっており、「相談の場づくり」が57.1%と他の3~4割台より高くなっています。

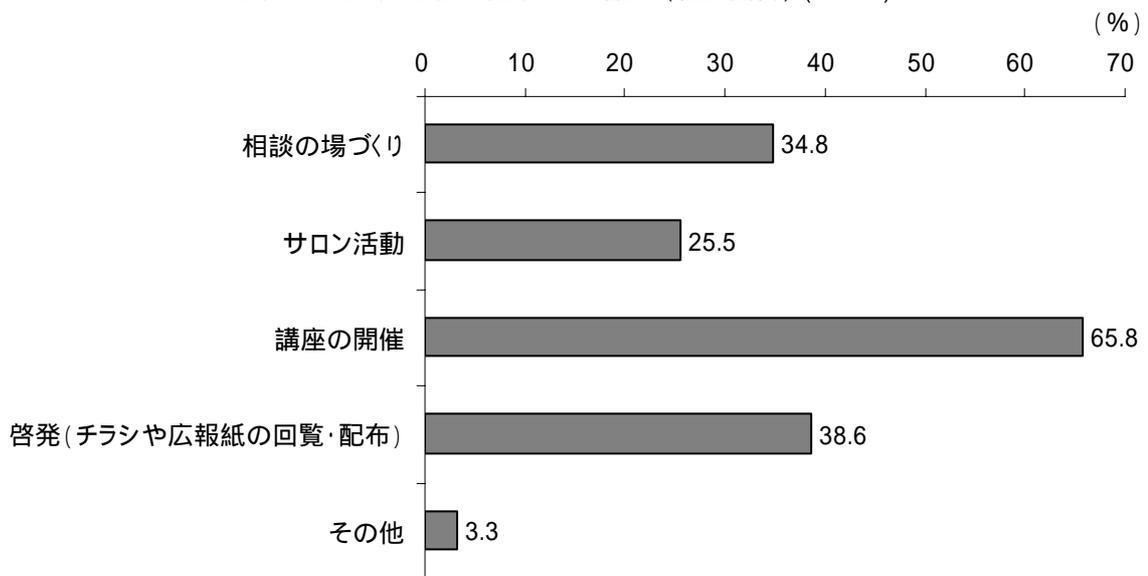
地域で必要な健康づくり活動

質問23 健康づくり、食の育成、栄養改善といったことに対して、地域でどのような活動が必要と感じますか。(2つまで)

1. 相談の場づくり
2. サロン活動
3. 講座の開催
4. 啓発(チラシや広報紙の回覧・配布)
5. その他

健康づくり、食の育成、栄養改善といったことに対して、地域でどのような活動が必要かを伺ったところ、「講座の開催」が最も多く65.8%となっています。次いで「啓発(チラシや広報紙の回覧・配布)」38.6%、「相談の場づくり」34.8%、「サロン活動」25.5%となっています。

【質問23 地域で必要な健康づくり活動】(複数回答)(N=184)



<クロス集計：4エリア別>

	合計	単位：人 (%)				
		1. 相談の場づくり	2. サロン活動	3. 講座の開催	4. 啓発(チラシや広報紙の回覧・配布)	5. その他
総計	184 (100)	64 (34.8)	47 (25.5)	121 (65.8)	71 (38.6)	6 (3.3)
中央	60 (100)	22 (36.7)	12 (20.0)	41 (68.3)	25 (41.7)	1 (1.7)
北部	59 (100)	17 (28.8)	19 (32.2)	37 (62.7)	26 (44.1)	4 (6.8)
南部(旧柏)	47 (100)	18 (38.3)	13 (27.7)	32 (68.1)	15 (31.9)	1 (2.1)
南部(旧沼南)	14 (100)	5 (35.7)	2 (14.3)	9 (64.3)	3 (21.4)	0 (0.0)
無回答	4 (100)	2 (50.0)	1 (25.0)	2 (50.0)	2 (50.0)	0 (0.0)

エリア別にみると、「啓発(チラシや広報紙の回覧・配布)」が中央と北部で4割台と高くなっています。

(7) 市社会福祉協議会との関わりについて

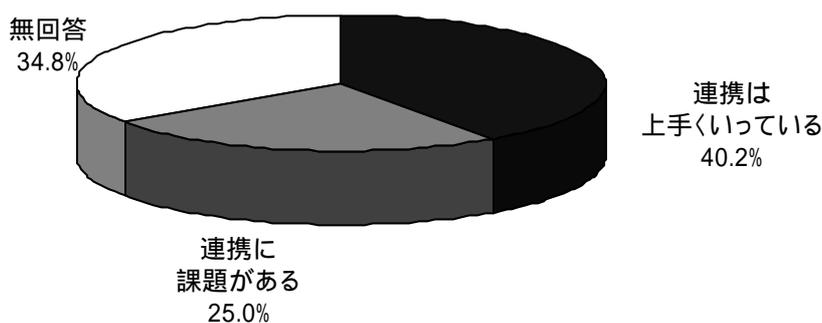
市社会福祉協議会との連携

質問26 市社会福祉協議会との連携は上手くいっていますか。(は1つ)

1. 連携は上手くいっている
2. 連携に課題がある

市社会福祉協議会との連携について伺ったところ、40.2%が「連携は上手くいっている」と答えています。一方で、「連携に課題がある」も25.0%にのびります。

【質問26 市社会福祉協議会との連携】(N=184)



<クロス集計：4エリア別>

単位：人 (%)

	合計	1. 連携は上手くいっている	2. 連携に課題がある	無回答
総計	184 (100)	74 (40.2)	46 (25.0)	64 (34.8)
中央	60 (100)	25 (41.7)	19 (31.7)	16 (26.7)
北部	59 (100)	26 (44.1)	15 (25.4)	18 (30.5)
南部(旧柏)	47 (100)	20 (42.6)	6 (12.8)	21 (44.7)
南部(旧沼南)	14 (100)	3 (21.4)	5 (35.7)	6 (42.9)
無回答	4 (100)	0 (0.0)	1 (25.0)	3 (75.0)

エリア別にみると、「連携に課題がある」で南部(旧沼南)35.7%、中央31.7%が北部25.4%、南部(旧柏)12.8%に比べ高くなっています。

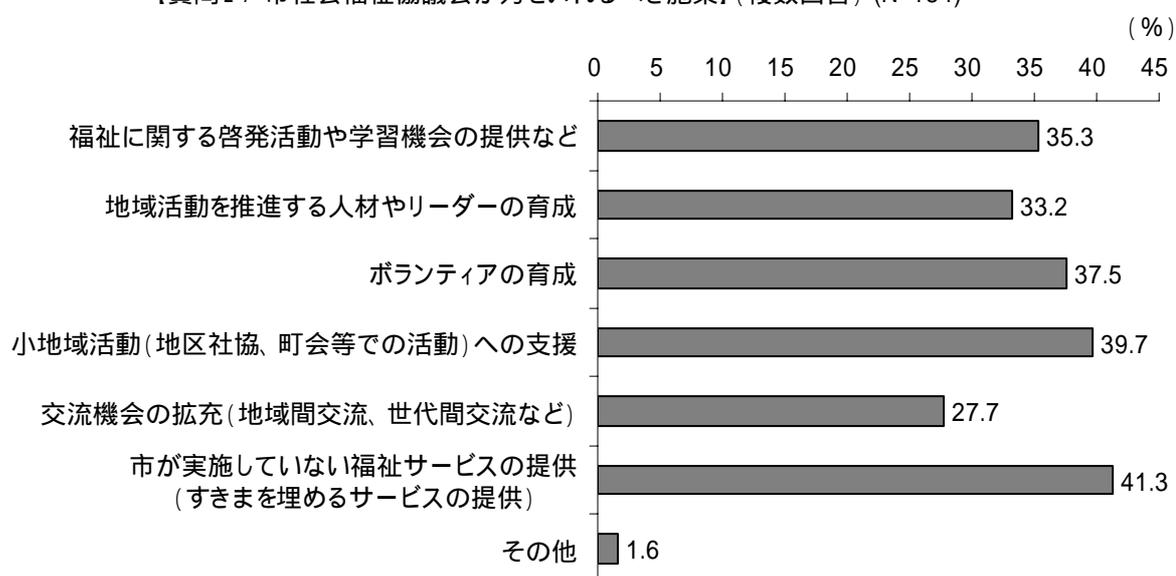
市社会福祉協議会が力を入れるべき施策

質問27 市社会福祉協議会が力を入れるべき施策は何だと思いますか。(は3つまで)

1. 福祉に関する啓発活動や学習機会の提供など
2. 地域活動を推進する人材やリーダーの育成
3. ボランティアの育成
4. 小地域活動(地区社協、町会等での活動)への支援
5. 交流機会の拡充(地域間交流、世代間交流など)
6. 市が実施していない福祉サービスの提供(すきまを埋めるサービスの提供)
7. その他

市社会福祉協議会が力を入れるべき施策については、回答の多い順に、「市が実施していない福祉サービスの提供(すきまを埋めるサービスの提供)」41.3%、「小地域活動(地区社協、町会等での活動)への支援」39.7%、「ボランティアの育成」37.5%、「福祉に関する啓発活動や学習機会の提供など」35.3%、「地域活動を推進する人材やリーダーの育成」33.2%となっています。

【質問27 市社会福祉協議会が力を入れるべき施策】(複数回答) (N=184)



<クロス集計：4エリア別>

単位：人（%）

	合計	1.福祉に関する啓発活動や学習機会の提供など	2.地域活動を推進する人材やリーダーの育成	3.ボランティアの育成	4.小地域活動(地区社協、町会等での活動)への支援
総計	184 (100)	65 (35.3)	61 (33.2)	69 (37.5)	73 (39.7)
中央	60 (100)	26 (43.3)	15 (25.0)	20 (33.3)	24 (40.0)
北部	59 (100)	19 (32.2)	20 (33.9)	27 (45.8)	24 (40.7)
南部(旧柏)	47 (100)	14 (29.8)	17 (36.2)	17 (36.2)	18 (38.3)
南部(旧沼南)	14 (100)	3 (21.4)	7 (50.0)	3 (21.4)	7 (50.0)
無回答	4 (100)	3 (75.0)	2 (50.0)	2 (50.0)	0 (0.0)

	5.交流機会の拡充(地域間交流、世代間交流など)	6.市が実施していない福祉サービスの提供(すきまを埋めるサービスの提供)	7.その他
総計	51 (27.7)	76 (41.3)	3 (1.6)
中央	14 (23.3)	23 (38.3)	1 (1.7)
北部	16 (27.1)	22 (37.3)	0 (0.0)
南部(旧柏)	16 (34.0)	22 (46.8)	2 (4.3)
南部(旧沼南)	3 (21.4)	7 (50.0)	0 (0.0)
無回答	2 (50.0)	2 (50.0)	0 (0.0)

エリア別にみると、「福祉に関する啓発活動や学習機会の提供など」は中央の4割半ば、「地域活動を推進する人材やリーダーの育成」は南部(旧沼南)の5割、「ボランティアの育成」は北部の4割半ば、「小地域活動への支援」は南部(旧沼南)の5割、「交流機会の拡充」は南部(旧柏)の3割半ば、「市が実施していない福祉サービスの提供」は南部(旧沼南)5割と南部(旧柏)4割半ばなどが高くなっています。

市社会福祉協議会への要望・意見

質問28 最後に市社会福祉協議会に対する要望・意見などがございましたら自由にご記入ください。

主な意見の要旨【エリア、地区、就任年数、委員の種別】

社会福祉協議会と連携のあることを説明されずに依頼され、引き受けたので、様々な活動の多さに驚いている。また、向上心のある意識の高い地域であり、さらに町会活動も盛んなので、会合や活動に参加する機会が非常に多く、今以上の連携を考えると不安になる。【中央、新田原、1期目、健康づくり推進員】

どのようなことをしているのか、もっとアピールしてほしい。【中央、新田原、3期目以上、健康づくり推進員】

高齢者が多くなるので学習教室をつくってほしい。ボランティアのように、お茶代くらいの費用で教えてもらえたら、とても高齢者は喜ぶのではないかと思う。(パソコン、その他いろいろ)【中央、永楽台、1期目、健康づくり推進員】

お金が無くても出席でき、楽しめることが大切。大きな行事ではなくても良いので、定期的についてみんなが集まっていて、そこに行けば友人や知人に会えて話を聞いてもらえる、そんな場所が、小さい集まりでたくさんいろいろな所にある、自分の居場所がある、そういう小さなことが大切な気がする。ボランティア活動をしている者は、「ありがとう」の言葉だけで充分。だが、自分たちの活動を知ってもらいたいというのはある。頑張っている活動を知ってもらい、出来れば参加してもらいたい。せっかく開く会だから、啓発活動に力を入れてほしい。チラシやポスター等も、今までとは違った所へも持っていってみるなど。【中央、豊四季台、2期目、健康づくり推進員】

ふるさと協議会、町会、自治会、青少協、社協、民生、PTAなど、地域での役はほとんど同じ人が兼ねていることが多い。やってくれる人がいないからだと思うが、なるべく広く、多くの人に地域の活動に関わってもらえるような仕組みをつくってほしい。無関心な人を一人でも少なくするための活動を願う。【中央、旭町、1期目、健康づくり推進員】

協議会の人たちの活動についていつも感謝している。民生、健康推進員、町会その他、民間有志の会等との交流が必要だと思う。それぞれの活動が合わされば太いものになると思う。【中央、新富、3期目以上、健康づくり推進員】

今の仕組みでは、ボランティアに関わると自分の意志ではなく、強制的に社協に関わらなくてはならない仕組みになっていて反発が強い。また、掛け持ちになるので負担が大きい。横のつながりが必要ということで掛け持ちをする仕組みになっているが、松葉の健康づくり推進員と民生委員は年1回の交流会を持っていて、そこでの話で充分。それぞれの役割は伝わってくるので、掛け持ちまでする必要がない。もっと一人ひとりの負担を軽くして、ボランティアをした時にしたい量だけ出来るようなシステムをつくるべき。【北部、松葉、2期目、健康づくり推進員】

これからの社会生活にとって大事な組織だと思うので、それぞれの立場でより良い活動が行けるよう頑張りたい。【北部、松葉、3期目以上、健康づくり推進員】

市社会福祉協議会で実施する事業は良いが、ボランティアの依頼が多過ぎる。【北部、田中、3期目以上、健康づくり推進員】

市社協レベルで町会等への福祉の指導を年1回ぐらい、参加人員を指定するくらいの強い指導性を持ってほしい。広報やチラシ、回覧等では絶対読みはしないと思ってほしい。福祉協

議会（市、地区）に対する認識がなさすぎ、どう手を打って良いのかわからない。町会や自治会で福祉に対して目を向けていかなければ、これからの時代は駄目なんだという意識を持ってもらうための手を打ってほしい。【北部、田中、3期目以上、健康づくり推進員】

市社協と地区社協との区別がつかず、「社協より割り振りで、地域から人出してくれて言われて困る」と老人会会長に小言を言われたことがあった。地区社協も同じだが、市社協として活動内容のPRをもっとしてほしい。（市社協と地区社協の内容の違いなどをPRしてほしい）【北部、西原、3期目以上、健康づくり推進員】

いろいろなことをしようとしている気がする。もっと地域に必要とすることを絞り込んで、特徴ある活動をしたい。【北部、富勢、2期目、健康づくり推進員】

いろいろ活動してくれているが、地道な活動なので、すぐに成果が出るものでもなく大変かと思う。地域の人たちのニーズは何か、それに応えるためには何をすべきか、どう人を動かすのか、我々も一緒になって考え、活動していけたらと思う。一人でも多くの人の笑顔のために！【北部、富勢、3期目以上、健康づくり推進員】

富勢地域はふるさと協議会が活発なので地区社協との距離がある。ふる協と地区社協の統一化が望ましい。【北部、富勢、3期目以上、健康づくり推進員】

社会福祉協議会とはどんな働きをする機関で、市民活動の場でどんな役割を果たしているのか、もっとアピールする必要がある。弱者に対してもう少しやさしい社会になるよう努力してほしい。【南部（旧柏）、土、3期目以上、健康づくり推進員】

私は子どもがまだ小さいので研修等に出られないことが多く、皆さんに迷惑をかけたり、お手伝いが出来なかつたりするので、もう少し条件を変えた方が良いと思う。（例えば、子どもが高校生以上の人で 歳以下の人、など。）活動自体はとても良いことだと思う。【南部（旧柏）、酒井根、2期目、健康づくり推進員】

同じ人ばかり集まるような講座などは少なくても良い。個々の家を訪問することもしてほしい。道端の枯れ葉をきれいにするクリーン活動をしてほしい。【南部（旧柏）、南部、1期目、健康づくり推進員】

高齢者、子育てで悩む親に対しての支援はいろいろあるが、それ以外（特に50代）の更年期障害で悩む人への支援がない。自身も5年前に更年期障害で悩み、孤独な時期があった。そんな時、高齢者への「デイサービス」のような場所があれば……と思った。健康な人は「カルチャー」「サークル」などに参加できるが、「心の風邪」をひいた人が集まれる場所（サロン）を、多くつくってほしい。誰もが幸せに生活できる地域として、ボランティアの育成、リーダーの育成などに力を入れてほしい。【南部（旧柏）、南部、1期目、健康づくり推進員】

各世帯に何のサービスが必要かアンケートをとり、活動してほしい。【南部（旧柏）、南部、1期目、健康づくり推進員】

私の地域は50代、60代の人たちが多くなり、ほとんどが夫婦二人世帯。今は元気で家庭の中での分業ができているが、今後、女性一人になり、高い所の電球の取り換え、タンスやテレビの移動が出来なくなる。そうしたことを福祉センターに登録している人たちに依頼できるよう要望する。【南部（旧沼南）、大津ヶ丘、1期目、健康づくり推進員】

社会福祉協議会に何らかの関係がある人はその存在が分かるが、まったく協議会のことを知らない人もいる。会の啓発をお願いしたい。町会の組織図も分からないし、誰がその長をしているのかも知らない。【中央、旭町、3期目以上、食生活推進員】

選ばれた委員だけではなく、広くボランティアを募集したほうが良い。【北部、田中、1期目、食生活推進員】

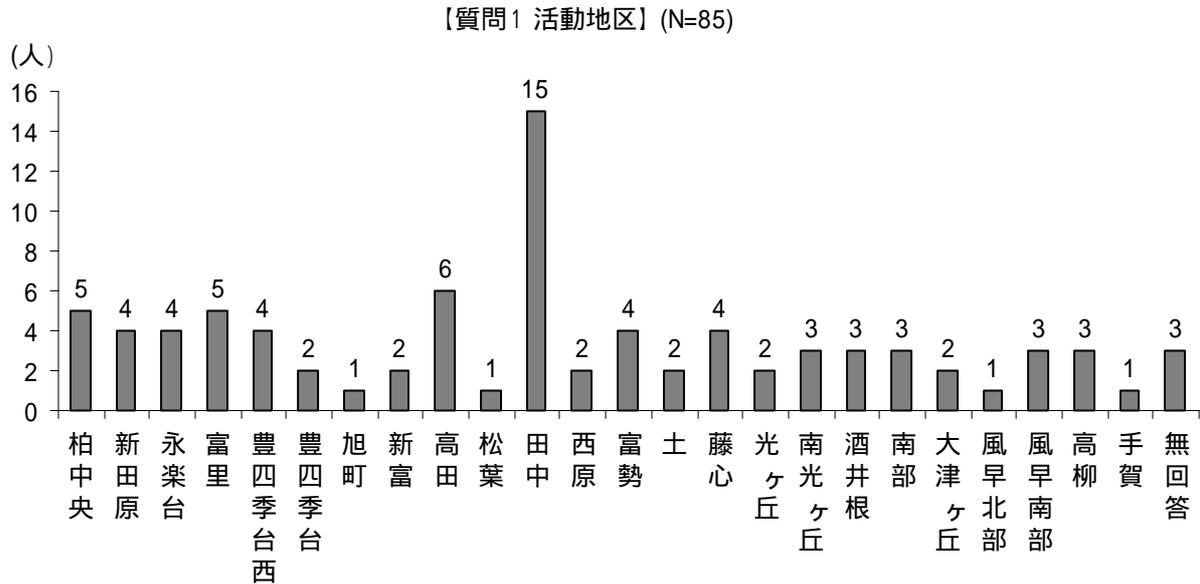
4 おせっ会・サロン活動

もくじ

(1) 回答者の属性	152
(2) 立ち上げの経緯や活動内容等について	154
(3) 運営等について	164
(4) 活動の案内や引きこもり者への対応等について	178
(5) 地区社会福祉協議会との関わりについて	182
(6) 町会・自治会、関係団体等との関わりについて	186
(7) 市社会福祉協議会について	191

(1) 回答者の属性

活動地区



(上段:人、下段:%)

合計	1. 柏中央	2. 新田原	3. 永楽台	4. 富里	5. 豊四季台西	6. 豊四季台
85 100.0	5 5.9	4 4.7	4 4.7	5 5.9	4 4.7	2 2.4
7. 旭町	8. 新富	9. 高田	10. 松葉	11. 田中	12. 西原	13. 富勢
1 1.2	2 2.4	6 7.1	1 1.2	15 17.6	2 2.4	4 4.7
14. 土	15. 藤心	16. 光ヶ丘	17. 南光ヶ丘	18. 酒井根	19. 南部	20. 大津ヶ丘
2 2.4	4 4.7	2 2.4	3 3.5	3 3.5	3 3.5	2 2.4
21. 風早北部	22. 風早南部	23. 高柳	24. 手賀	無回答		
1 1.2	3 3.5	3 3.5	1 1.2	3 3.5		

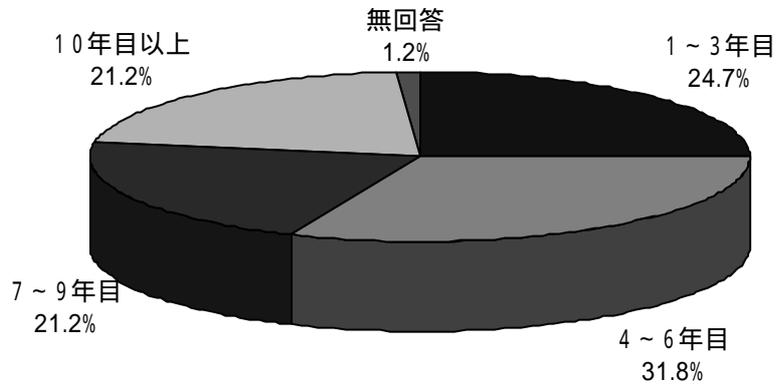
上記 24 地区に加えて、4 エリアでの集計も行っています。

4 エリアは、次のとおりです。(番号は上記 24 地区のもの)

1 ~ 8 中央、9 ~ 13 北部、14 ~ 19 南部 (旧柏)、20 ~ 24 南部 (旧沼南)

活動年数

【質問2 活動年数】 (N=85)



(上段:人、下段:%)

合計	1. 1~3年目	2. 4~6年目	3. 7~9年目	4. 10年目以上	無回答
85	21	27	18	18	1
100.0	24.7	31.8	21.2	21.2	1.2

(2) 立ち上げの経緯や活動内容等について

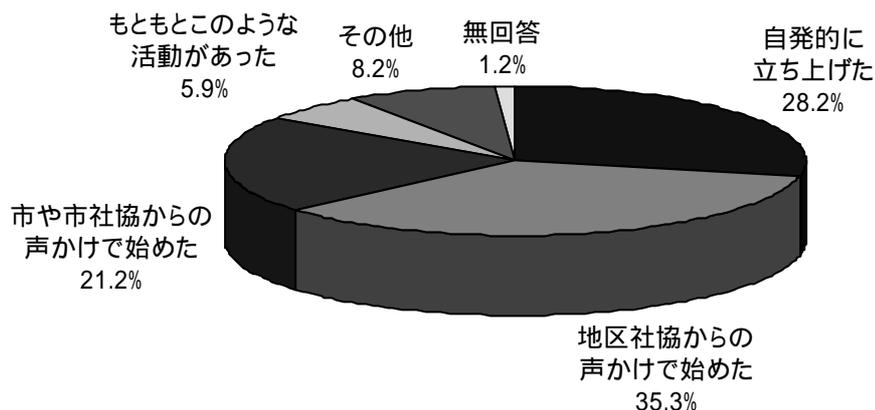
立ち上げの経緯

質問3 立ち上げの経緯について教えてください。(は1つ)

1. 自発的に立ち上げた
2. 地区社協からの声かけで始めた
3. 市や市社協からの声かけで始めた
4. もともこのような活動があった
5. その他

立ち上げの経緯については、「地区社協からの声かけで始めた」が35.3%と最も多く、次いで「自発的に立ち上げた」が28.2%、「市や市社協からの声かけで始めた」が21.2%、「もともこのような活動があった」5.9%と続きます。

【質問3 立ち上げの経緯】(N=85)



<クロス集計：4エリア別>

単位：人 (%)

	合計	1. 自発的に立ち上げた	2. 地区社協からの声かけで始めた	3. 市や市社協からの声かけで始めた	4. もともこのような活動があった	5. その他	無回答
総計	85 (100)	24 (28.2)	30 (35.3)	18 (21.2)	5 (5.9)	7 (8.2)	1 (1.2)
中央	27 (100)	7 (25.9)	14 (51.9)	4 (14.8)	0 (0.0)	1 (3.7)	1 (3.7)
北部	28 (100)	8 (28.6)	4 (14.3)	12 (42.9)	2 (7.1)	2 (7.1)	0 (0.0)
南部(旧柏)	17 (100)	7 (41.2)	6 (35.3)	2 (11.8)	0 (0.0)	2 (11.8)	0 (0.0)
南部(旧沼南)	10 (100)	1 (10.0)	5 (50.0)	0 (0.0)	3 (30.0)	1 (10.0)	0 (0.0)
無回答	3 (100)	1 (33.3)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)

エリアで立ち上げの経緯に違いがみられました。中央は「地区社協からの声かけで始めた」が51.9%と高く、北部は「市や市社協からの声かけで始めた」42.9%、南部(旧柏)は「自発的に立ち上げた」41.2%、「地区社協からの声かけで始めた」35.3%、南部(旧沼南)は「地区社協からの声かけで始めた」50%、「もともこのような活動があった」30%などの割合が高くなっています。

開催頻度と開催時間

質問4 開催頻度と開催時間

4-1 開催頻度(は1つ)

- | | | |
|------------|-------------|----------|
| 1. 週4回以上 | 2. 週2～3回程度 | 3. 週1回程度 |
| 4. 月1～2回程度 | 5. 2ヶ月に1回程度 | 6. 年数回程度 |

4-2 開催時間(午前、午後) (は1つ)

- | | | | |
|-------|-------|-------------|--------|
| 1. 午前 | 2. 午後 | 3. 午前、午後の両方 | 4. 不定期 |
|-------|-------|-------------|--------|

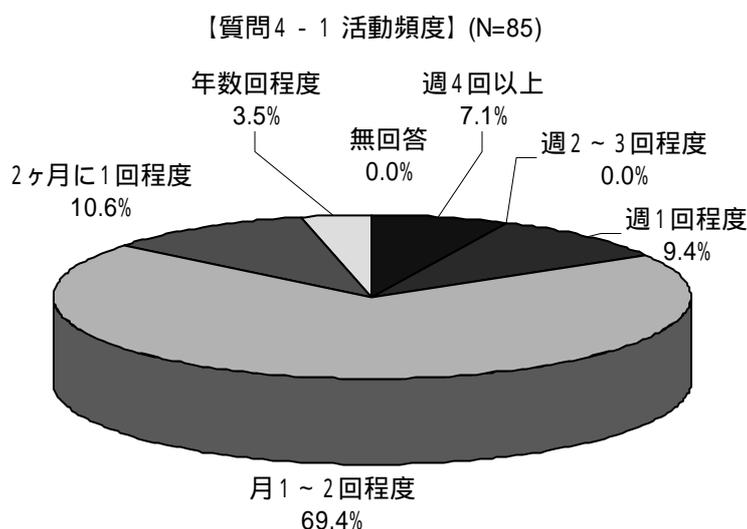
4-3 開催時間(は1つ)

- | | | | |
|----------|------------|------------|----------|
| 1. 2時間未満 | 2. 2～4時間未満 | 3. 4～6時間未満 | 4. 6時間以上 |
|----------|------------|------------|----------|

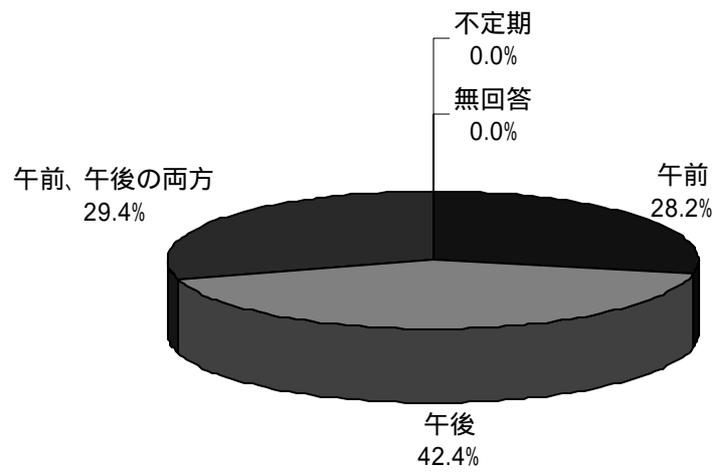
開催頻度については、「月1～2回程度」が69.4%で最も多く、次いで「2ヶ月に1回程度」10.6%、「週1回程度」9.4%となっています。

開催時間帯については、「午後」が42.4%で最も多く、「午前、午後の両方」が29.4%、「午前」が28.2%となっています。

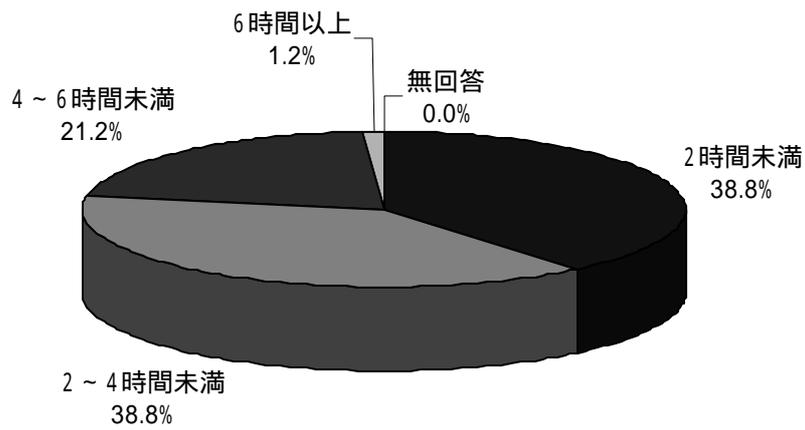
開催時間については、「2時間未満」と「2～4時間未満」がともに38.8%となっており、「4～6時間未満」が21.2%となっています。



【質問4 - 2 開催時間帯】 (N=85)



【質問4 - 3 活動時間】 (N=85)



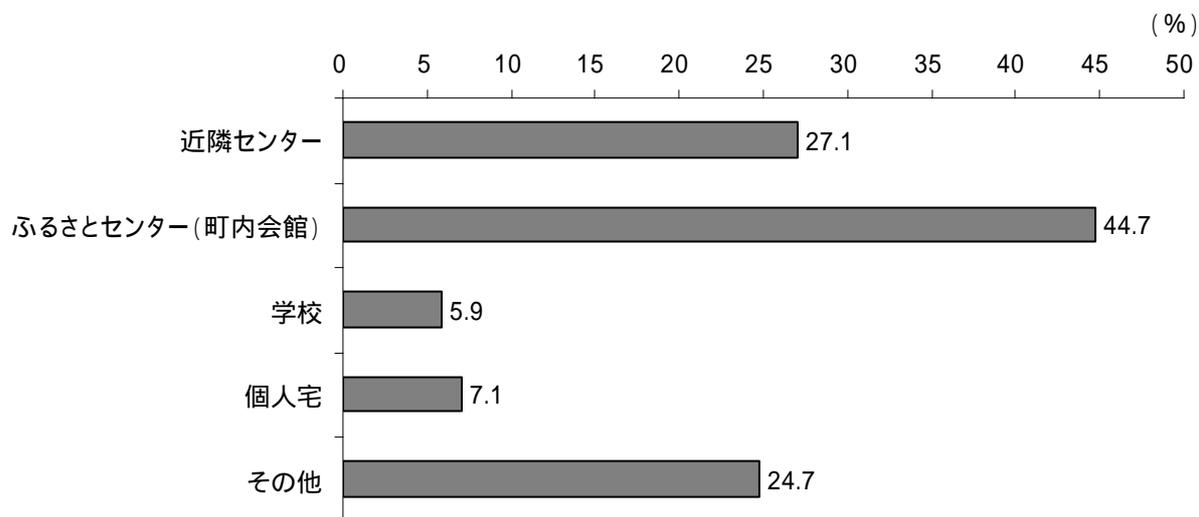
活動場所

質問5 活動場所(あてはまるものすべてに)

1. 近隣センター
2. ふるさとセンター(町内会館)
3. 学校
4. 個人宅
5. その他

活動場所としては、「ふるさとセンター(町内会館)」が44.7%で最も多く、「近隣センター」27.1%、「その他」24.7%となっています。その他の具体的な意見としては、「(団地や公園等の)集会所」「自治会館」「福祉センター」「公民館」などとなっています。

【質問5 活動場所】(複数回答) (N=85)



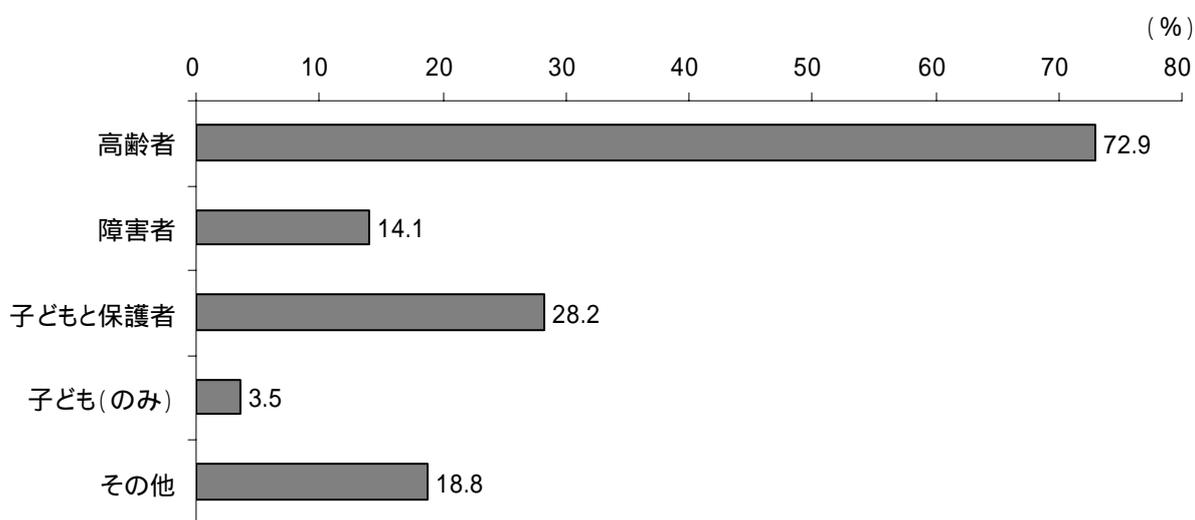
利用対象者

質問6 利用対象者(あてはまるものすべてに)

1. 高齢者 2. 障害者 3. 子どもと保護者 4. 子ども(のみ)
5. その他

利用対象者としては、「高齢者」が72.9%と最も多く、「子どもと保護者」が28.2%、「その他」が18.8%となっています。その他の具体的な意見では、「年齢を問わず誰でも参加可能」という団体が多くみられます。

【質問6 利用対象者】(複数回答) (N=85)



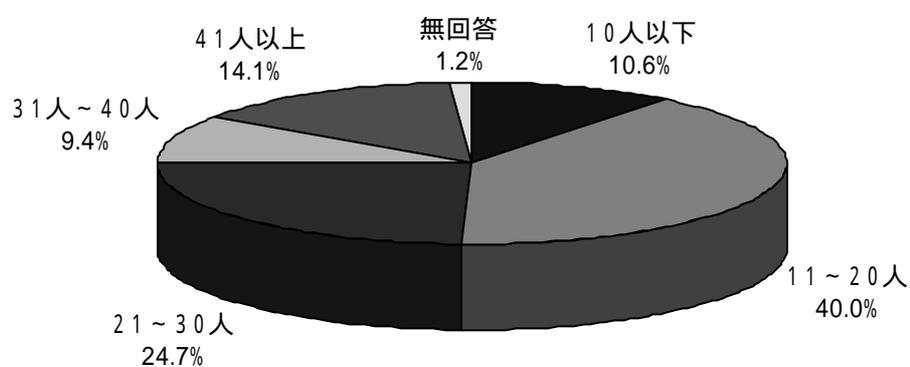
平均利用者数

質問7 平均利用者数(子育てサロンは、親と子を含めた平均利用者数) (は1つ)

1. 10人以下 2. 11～20人 3. 21～30人
4. 31人～40人 5. 41人以上

平均利用者数は、「11～20人」が40.0%で最も多く、次いで「21～30人」24.7%となっています。「41人以上」という回答も14.1%みられます。

【質問7 平均利用者数】(N=85)



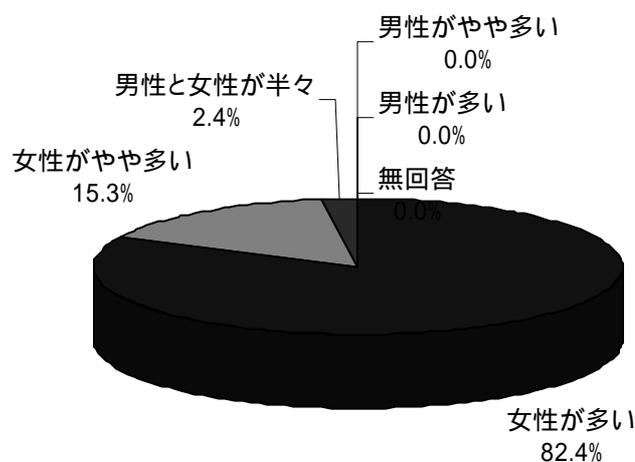
利用者の男女比率

質問8 利用者の男女比率(子育てサロンは親を基準) (は1つ)

1. 女性が多い(男性2割以下:女性8割以上)
2. 女性がやや多い(男性3~4割程度:女性6~7割程度)
3. 男性と女性が半々(男性、女性とも5割前後)
4. 男性がやや多い(男性6~7割:女性3~4割程度)
5. 男性が多い(男性8割以上、女性2割以下)

利用者の男女比率を伺ったところ、「女性が多い(男性2割以下:女性8割以上)」が82.4%と圧倒的に多く、次いで「女性がやや多い(男性3~4割程度:女性6~7割程度)」15.3%と続きます。「男性が多い」「男性がやや多い」という回答はありませんでした。

【質問8 利用者の男女比率】(N=85)



利用者の平均年齢

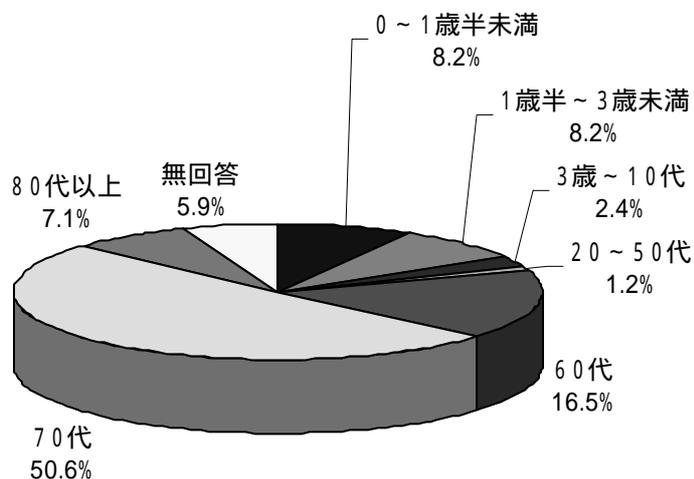
質問9 利用者の平均年齢(子育てサロンは、子どもの平均年齢をお願いします。)(は1つ)

- | | | | |
|------------|-------------|-----------|----------|
| 1. 0～1歳半未満 | 2. 1歳半～3歳未満 | 3. 3歳～10代 | |
| 4. 20～50代 | 5. 60代 | 6. 70代 | 7. 80代以上 |

利用者の平均年齢については、「70代」が50.6%と半数を超え、次いで「60代」16.5%、「80代以上」7.1%と、60代以上という回答が74.2%を占めます。

一方、「0～1歳半未満」と「1歳半～3歳未満」はともに8.2%となっています。

【質問9 利用者の平均年齢】(N=85)



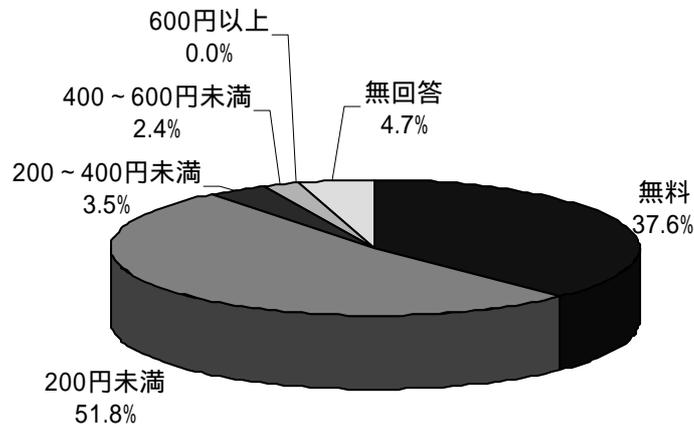
1回あたりの参加費

質問10 参加費(1回あたり)

- | | | |
|------------------|------------|------------------|
| 1. 無料 | 2. 200 円未満 | 3. 200 ~ 400 円未満 |
| 4. 400 ~ 600 円未満 | 5. 600 円以上 | |

1回あたりの参加費については、「200 円未満」が 51.8%と最も多く、次いで「無料」が 37.6%となっています。このほか、「200 ~ 400 円」3.5%、「400 ~ 600 円」2.4%と続きますが、「600 円以上」という回答はみられませんでした。

【質問10 参加費(1回あたり)】(N=85)



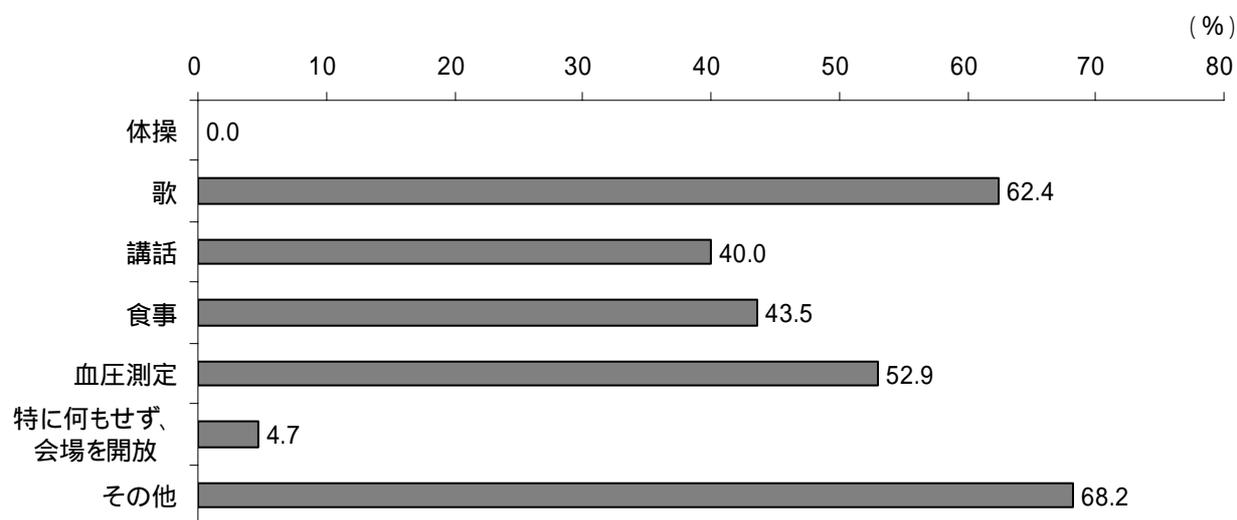
主な活動内容

質問11 主な活動内容(あてはまるものすべてに)

1. 体操
2. 歌
3. 講話
4. 食事
5. 血圧測定
6. 特に何もせず、会場を開放
7. その他のレクリエーション等

主な活動内容を伺ったところ、「歌」62.4%、「血圧測定」52.9%、「食事」43.5%、「講話」40.0%など、さまざまな活動に取り組んでいるようすがみられ、選択肢で用意した項目以外の「その他のレクリエーション等」という回答も 68.2%みられます。具体的には、「旅行」「ウォーキング」「手芸」「マジック」「ゲーム」など多様な活動が挙げられています。

【質問11 主な活動内容】(複数回答) (N=85)



(3) 運営等について

スタッフ数

質問12 スタッフ数

12-1 総スタッフ数(は1つ)

1. 5人以下	2. 6～10人	3. 11～15人
4. 16～20人	5. 21人以上	

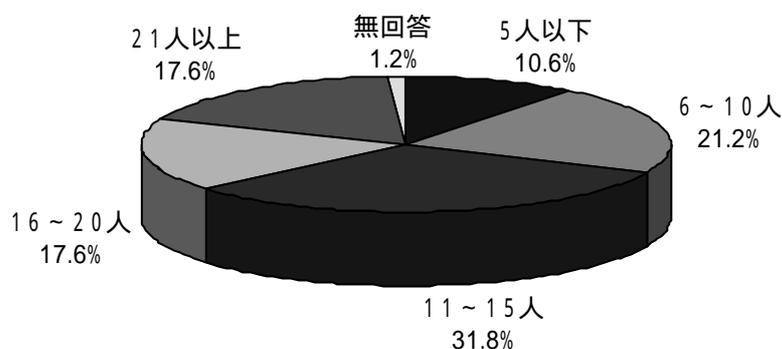
12-2 毎回の平均参加スタッフ数(は1つ)

1. 1～3人	2. 4～6人	3. 7～9人
4. 10人以上		

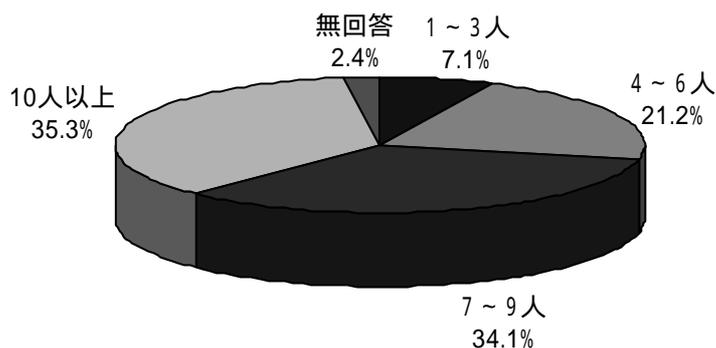
総スタッフ数については、「11～15人」が最も多く31.8%、次いで「6～10人」が21.2%、「16～20人」、「21人以上」がともに17.6%となっています。

毎回の平均参加スタッフ数については、「10人以上」が35.3%、「7～9人」が34.1%、「4～6人」21.2%となっています。

【質問12 - 1 総スタッフ数】(N=85)



【質問12 - 2 平均参加スタッフ数】(N=85)



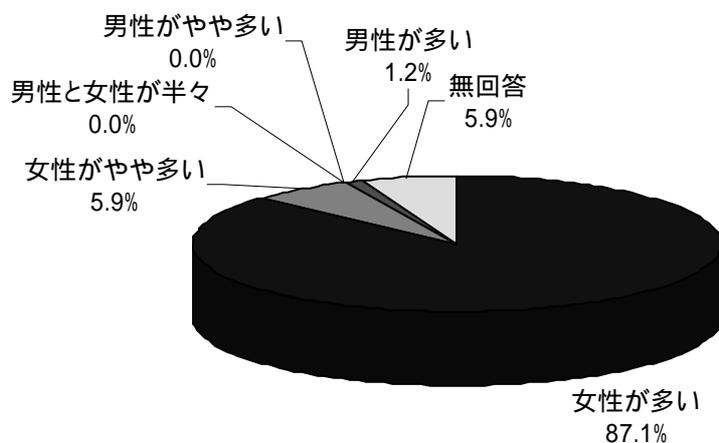
スタッフの男女比率

質問13 スタッフの男女比率(は1つ)

1. 女性が多い(男性2割以下:女性8割以上)
2. 女性がやや多い(男性3~4割程度:女性6割~7割程度)
3. 男性と女性が半々(男性、女性とも5割前後)
4. 男性がやや多い(男性6~7割:女性3~4割程度)
5. 男性が多い(男性8割以上、女性2割以下)

スタッフの男女比率については、「女性が多い(男性2割以下:女性8割以上)」が87.1%と圧倒的に多く、「女性がやや多い(男性3~4割程度:女性6~7割程度)」が5.9%と続きます。「男性が多い(男性8割以上、女性2割以下)」という回答は1.2%ありますが、女性が中心という傾向がみられます。

【質問13 スタッフの男女比率】(N=85)



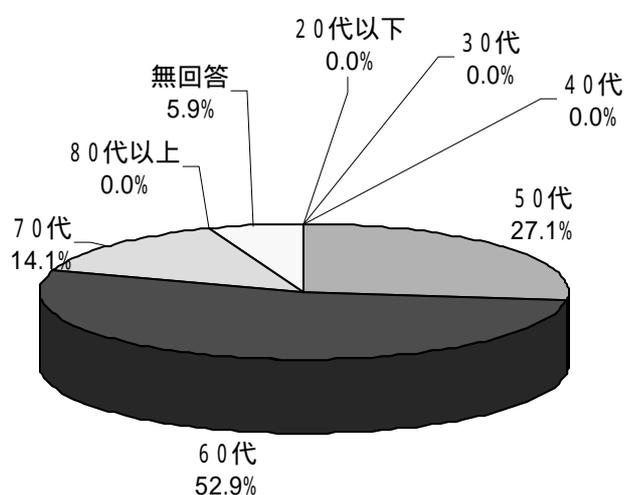
スタッフの平均年齢

質問14 スタッフの平均年齢(は1つ)

- | | | | |
|----------|--------|----------|--------|
| 1. 20代以下 | 2. 30代 | 3. 40代 | 4. 50代 |
| 5. 60代 | 6. 70代 | 7. 80代以上 | |

スタッフの平均年齢については、「60代」が52.9%と約半数近くを占め、「50代」が27.1%、「70代」14.1%と続きます。「40代」以下の回答はみられず、高年齢の方が中心となって活動されている傾向がみられます。

【質問14 スタッフの平均年齢】(N=85)



年間の運営費

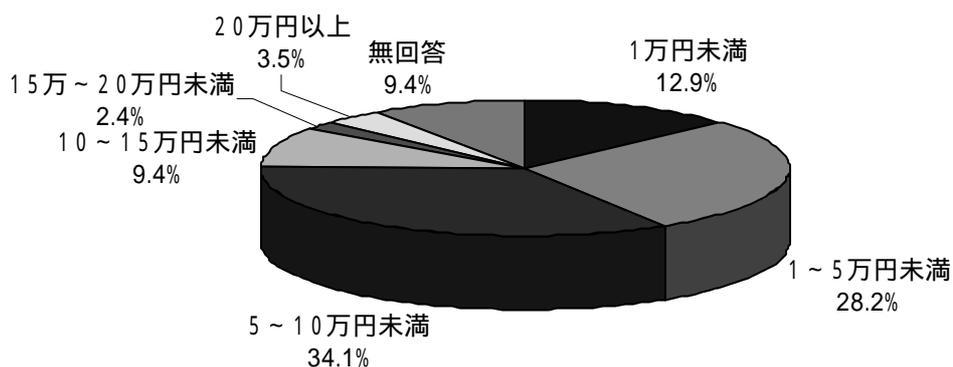
質問15 運営費(年間) (は1つ)

- | | | |
|--------------|---------------|-------------|
| 1. 1万円未満 | 2. 1～5万円未満 | 3. 5～10万円未満 |
| 4. 10～15万円未満 | 5. 15万～20万円未満 | 6. 20万円以上 |

年間の運営費については、「5～10万円未満」が34.1%で最も多く、次いで「1～5万円未満」28.2%、「1万円未満」12.9%と続いています。

一方、「10万円以上」(10～15万円未満、15～20万円未満、20万円以上の合計)は、あわせて15.3%となっています。

【質問15 運営費(年間)】(N=85)



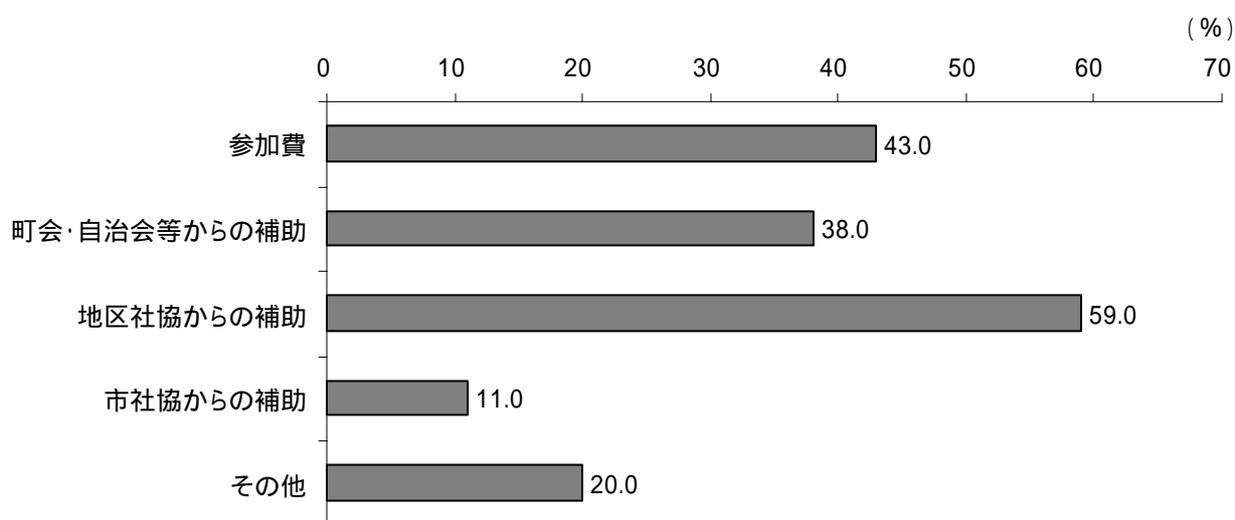
財源

質問16 財源(あてはまるものすべて)

1. 参加費
2. 町会・自治会等からの補助
3. 地区社協からの補助
4. 市社協からの補助
5. その他

財源については、「地区社協からの補助」が59.0%、「参加費」が43.0%、「町会・自治会等からの補助」38.0%、「市社協からの補助」11.0%となっています。

【質問16 財源】(複数回答) (N=85)



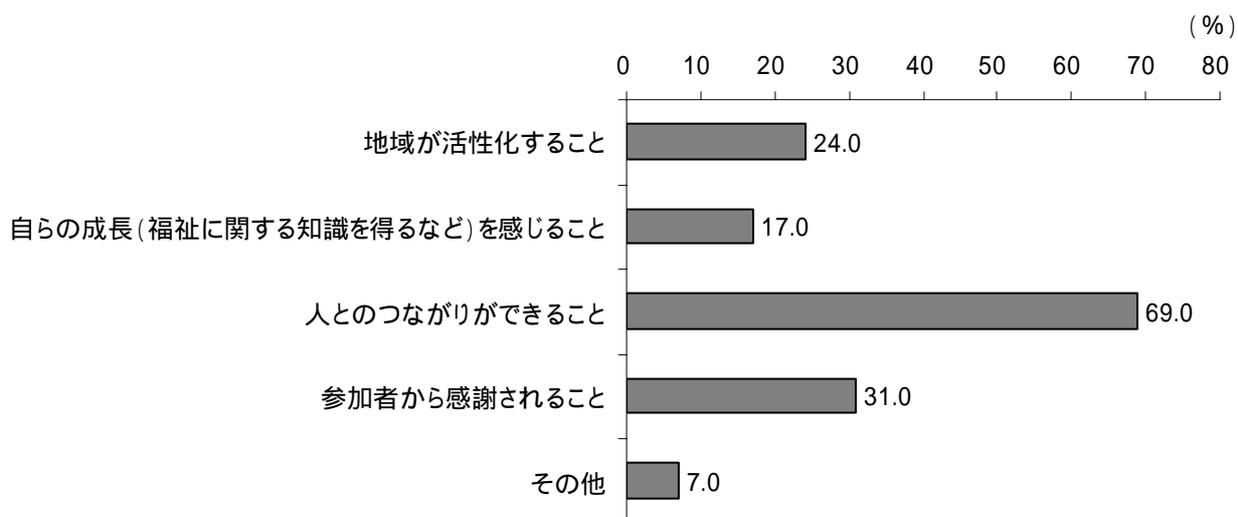
活動のよい点

質問17 活動のよい点、やりがいを感じる点は何ですか。(2つまで)

1. 地域が活性化すること
2. 自らの成長(福祉に関する知識を得るなど)を感じる事
3. 人とのつながりができること
4. 参加者から感謝されること
5. その他

活動のよい点、やりがいを感じる点としては、「人とのつながりができること」が69.0%と最も多く、次いで「参加者から感謝されること」31.0%、「地域が活性化すること」24.0%、「自らの成長(福祉に関する知識を得るなど)を感じること」17.0%となっています。

【質問17 活動のよい点】(複数回答) (N=85)



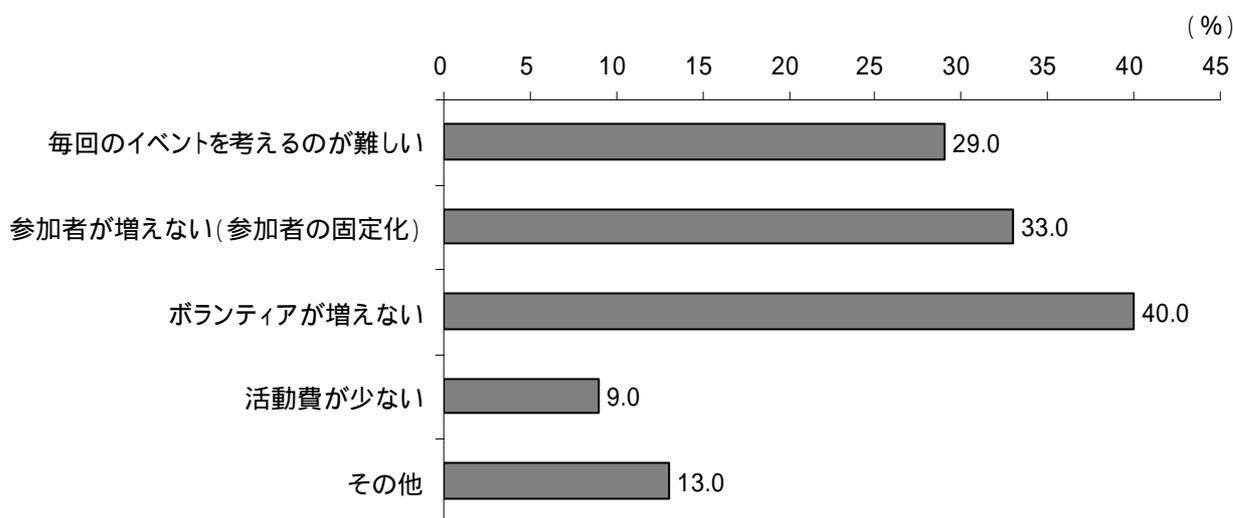
活動の難しさ、負担に感じること

質問18 活動をするなかで、難しさや負担を感じることは何ですか。(2つまで)

1. 毎回のイベントを考えるのが難しい
2. 参加者が増えない(参加者の固定化)
3. ボランティアが増えない
4. 活動費が少ない
5. その他

活動をするなかで難しさや負担に感じることについては、「ボランティアが増えない」が40.0%と最も多く、次いで「参加者が増えない(参加者の固定化)」33.0%、「毎回のイベントを考えるのが難しい」29.0%などとなっています。

【質問18 活動の難しさ、負担に感じること】(複数回答)(N=85)



<クロス集計：4エリア別>

単位：人 (%)

	合計	1. 毎回のイベントを考えるのが難しい	2. 参加者が増えない(参加者の固定化)	3. ボランティアが増えない	4. 活動費が少ない	5. その他
総計	85 (100)	29 (34.1)	33 (38.8)	40 (47.1)	9 (10.6)	13 (15.3)
中央	27 (100)	8 (29.6)	7 (25.9)	9 (33.3)	6 (22.2)	5 (18.5)
北部	28 (100)	9 (32.1)	17 (60.7)	15 (53.6)	2 (7.1)	2 (7.1)
南部(旧柏)	17 (100)	5 (29.4)	5 (29.4)	8 (47.1)	1 (5.9)	3 (17.6)
南部(旧沼南)	10 (100)	5 (50.0)	4 (40.0)	7 (70.0)	0 (0.0)	2 (20.0)
無回答	3 (100)	2 (66.7)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	1 (33.3)

エリア別にみると、北部では「参加者が増えない(参加者の固定化)」60.7%、「ボランティアが増えない」53.6%の割合が高くなっています。南部(旧沼南)は、「毎回のイベントを考えるのが難しい」50%、「ボランティアが増えない」70%の割合が高くなっています。

活動のために心がけていること

質問19 活動しやすいように、心がけていること、工夫していることはありますか。

主な意見の要旨【エリア、地区、活動年数、利用対象者】

材料代が高くなならないよう、ボランティアの人たちの持っている材料を提供してもらっている。お茶菓子も家にあるもの（お土産など）を提供してもらっている。ボランティアも一緒に楽しみながら行っている。【中央、柏中央、4~6年目、高齢者】

室内と室外を半々程度にしている。（体を動かせるため）【中央、柏中央、4~6年目、高齢者】

参加者とともに楽しむ。参加者が負担に感じないように全て強制しない。季節に合ったことをする。全員と平等に接する。個人の生活に立ち入らない。参加者の要望は出来るだけ取り入れる。何か申し出があった場合は民生委員が主として話を聴くことにしている。【中央、柏中央、7~9年目、高齢者】

常に市社協、市保健師の協力、指導を受けている。【中央、新田原、10年目以上、高齢者】
毎月定例会を持ち、次回サロンの企画などみんなで話し合う。担当なども交代して、ボランティア全員で運営するようにしている。【中央、富里、10年目以上、高齢者】

ボランティア全員が同じ目的を持って活動をしていくために、毎月の定例会で情報交換をし、サロンの一日の過ごし方など話し合っている。笑うこと、話すこと、歌うことで、内面に持っているものを引き出してあげられるような雰囲気づくりに気配りをしている。言葉を掛けることがとても大切なので、サロンは言葉掛けで始まり、言葉掛けで一日が終わる。【中央、豊四季台西、10年目以上、高齢者】

お客様に対して平等に明るく接すること。毎月ボランティアスタッフと反省会を開き、気になることなど話し合いをしている。【中央、豊四季台、4~6年目】

関係者の意見を取り入れている。マンネリ化をしないように心がけている。【中央、新富、1~3年目、高齢者】

スタッフ同士のコミュニケーション。年に1~2回自費でランチしている。【北部、高田、1~3年目、高齢者】

町内高齢者が興味を持つテーマ、レクリエーションを考える。スタッフに町内協力者を募る。介護施設「四季の里」の専門スタッフに協力してもらっている。【北部、高田、4~6年目、高齢者】

スタッフの人数を多くして一人の負担を少なくしている。毎回前日に通知文を配布する。【北部、田中、1~3年目、高齢者】

どうしても力関係が出てくる。皆が平等に気兼ねなく楽しめるように心がけている。とにかく新しい人も古い人も、みんな平等。最初は何か楽しいこと、皆が興味を持つようにといるいるやったが、今は力を抜いて、自然発生的にそれぞれ人に教えたり、教えられたりしている。【北部、田中、4~6年目、高齢者】

ボランティア全員で取り組めるように。毎回反省会をし、次回へのプランを皆でよく話し合っって検討するミーティングを持つこと。年1~2回のボランティア懇親会開催。自治会回覧での広報。【北部、田中、7~9年目、高齢者】

スタッフが役目についてあまりプレッシャーをかけないこと。出来る人が出来ることをするように心がけている。【北部、田中、7~9年目、高齢者、障害者】

常に明るいサロンであるよう。困りごと等を表に出さないよう努め、時を待つこととしている。町会の理解が得られない原因となった老人会にわかってもらえるよう、スタッフから5人が入会し、老人会員として活動している。老人会に年間計画書を提出している。【南部(旧柏) 藤心、1~3年目】

回数を増やしても参加者の固定化に流れると、参加しにくい人も出てくるだろうし、農家の仕事(市場への出荷のない日など)を考えて活動日を設定している。【南部(旧柏) 藤心、4~6年目、高齢者】

永年の懸念であったフリーサロンが予算等の関係か自治会の協力により今年6月より開始され、棟ごとのポスターで知らせたり、ことあるごとにPRや口コミで誘っている。【南部(旧柏) 南光ヶ丘、1~3年目、高齢者、障害者、子どもと保護者】

活動開始以来、毎月変更せず、決めた日に実施している。【南部(旧柏) 南光ヶ丘、10年目以上、高齢者、障害者、子どもと保護者】

ボランティアに関わる人たちとのコミュニケーションを大事にしている。活動に対する共通の理解をお互いに話し合い、前向きに進む。ボランティアが活動しやすいローテーションを組む。そのため責任者に負担がかかってしまう場合があるが。【南部(旧柏) 南部、1~3年目、高齢者、障害者、子どもと保護者】

地域の人たちが皆知り合いになること。社会福祉について、機会をとらえて説明、理解させる。関わりたくない人たちから関わる人たちへの意識改革へ。【南部(旧沼南) 風早南部、4~6年目、高齢者】

サロン案内はポスト使用から対話、手渡しに変わり、見回り活動との連携で参加者は増加傾向にある。【南部(旧沼南) 高柳、10年目以上、高齢者】

<子ども向けサロン>

毎月反省会をして、次年度計画に活かすように努力している。【中央、新田原、10年目以上、子どもと保護者】

既存の小学校(三小、豊小)の子どもルームの午前中の空き時間を利用することでスタート。市の児童育成課、社会福祉協議会および小学校と連携し、使用場所の共存のための設備変更(子どもルームのプライバシー維持、サロン参加者の子どもの安全確保など)に努めてきた。運用面でも打合せを重ね、問題点の早期改善に努めている。【中央、富里、1~3年目、子どもと保護者】

スタッフが気持ち良く活動出来るよう、スタッフ同士のコミュニケーションを大切にしている。ボランティアが負担にならないよう準備やボランティア(子育てサロン)の日数、時間を増やさないようにしている。ほとんどが民生委員や健康づくり推進員なので、他にも活動しなければならない場があるので、出来る範囲で、自分たちも喜んで関わられる程度。【北部、富勢、1~3年目、子どもと保護者】

スタッフ皆が明るく接すること。健康推進員と民生委員が定例会等で出席不可能な折は常時ボランティアで来てくれる人が確保出来る。小学校の教室を借りているため、休み時間を利用して生徒達が顔を見せ、僅かの触れ合いを喜んでもらっている。【北部、富勢、1~3年目、子どもと保護者】

環境づくり。ケガのないような見守り(危険防止)、おもちゃの扱い(消毒、洗濯等)。ボランティア(スタッフ)同士の連携、親睦。【北部、富勢、4~6年目、子どもと保護者】

安全な空間づくり【南部(旧柏) 土、1~3年目、子どもと保護者】

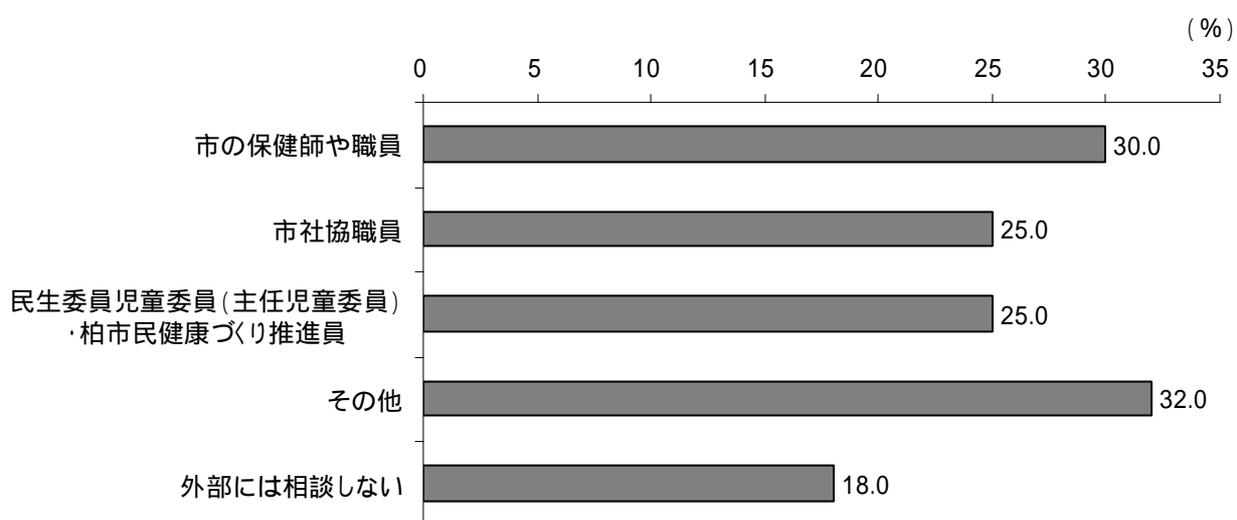
困ったときの相談先

質問20 活動で困ったときに、どこに相談しますか。(あてはまるものすべて)

1. 市の保健師や職員
2. 市社協職員
3. 民生委員児童委員(主任児童委員)・柏市民健康づくり推進員
4. その他
5. 外部には相談しない

活動で困ったときの相談先については、「市の保健師や職員」30.0%、「市社協職員」25.0%、「民生委員児童委員(主任児童委員)・柏市民健康づくり推進員」25.0%という回答のほか、「その他」が32.0%と多くなっています。その他の意見としては、「スタッフ同士で相談する」「学校や施設」「地域の関係機関の長などに相談する」などとなっています。

【質問20 困ったときの相談先】(複数回答)(N=85)



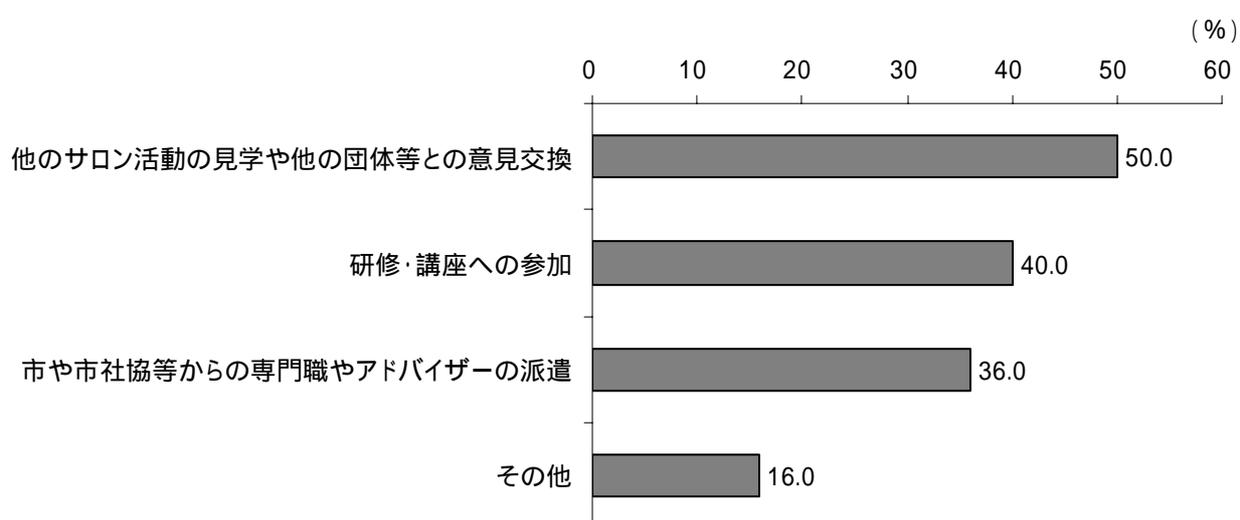
活動を充実させるために必要なこと

質問21 活動を充実するために必要だと感じることはありますか。(あてはまるものすべてに)

1. 他のサロン活動の見学や他の団体等との意見交換
2. 研修・講座への参加
3. 市や市社協等からの専門職やアドバイザーの派遣
4. その他

活動を充実させるために必要なことについては、「他のサロン活動の見学や他の団体等との意見交換」50.0%、「研修・講座への参加」40.0%、「市や市社協等からの専門職やアドバイザーの派遣」36.0%となっています。

【質問21 活動を充実させるために必要なこと】(複数回答) (N=85)



<クロス集計：4エリア別>

	合計	1.他のサロン活動の見学や他の団体等との意見交換	2.研修・講座への参加	3.市や市社協等からの専門職やアドバイザーの派遣	4.その他
総計	85 (100)	50 (58.8)	40 (47.1)	36 (42.4)	16 (18.8)
中央	27 (100)	13 (48.1)	12 (44.4)	11 (40.7)	5 (18.5)
北部	28 (100)	18 (64.3)	12 (42.9)	14 (50.0)	4 (14.3)
南部(旧柏)	17 (100)	9 (52.9)	6 (35.3)	5 (29.4)	3 (17.6)
南部(旧沼南)	10 (100)	9 (90.0)	8 (80.0)	5 (50.0)	2 (20.0)
無回答	3 (100)	1 (33.3)	2 (66.7)	1 (33.3)	2 (66.7)

エリア別では、各項目ともに南部(旧沼南)の割合が高くなっています。

参加したい研修や講座

質問22 研修や講座は、どのような内容であれば参加したいと思いますか。

主な意見の要旨【エリア、地区、活動年数、利用対象者】

対象者が望んでいることに対して、具体的にこんなこと、こんなやり方があるという内容(大人、子ども)の講座。そして自分たちがその場でやってみるような研修があれば良い。【中央、柏中央、4~6年目、高齢者】

音楽に合わせたレクダンス。簡単に出来る手芸(おり紙など)。サロンで活用できるもの。【中央、柏中央、7~9年目、高齢者】

すぐに応用できる実技(体操、レクリエーションなど)【中央、新田原、7~9年目、高齢者、障害者】

腰痛予防。転倒防止。内脂肪予防。【中央、新田原、7~9年目、高齢者、子どもと保護者、子ども(のみ)】

健康に関する講座【中央、新田原、10年目以上、高齢者】

グループから1~2名の参加では、ボランティア各自が参加しなくて良いと思うらしい。そこで1グループ単位がまとまって研修を受けられると、全員で学ぶことが出来ると思う。みんなが参加できる企画をお願いする。【中央、富里、10年目以上、高齢者】

今までは同じような内容で、何と時間がもったいないと思われた時があった。【中央、富里、10年目以上、高齢者】

高齢者向けのレクリエーション等を具体的に知りたい。【中央、豊四季台西、10年目以上、高齢者】

サロン活動をしているボランティアが情報交換することで勇気づけられたり、同じ悩みがあったり、心が通い合うことが必要なので、そのような場づくりを1年に1回でもあると良いのでは。(ネットワークが必要)【中央、豊四季台西、10年目以上、高齢者】

遊びながら学べるもの。サロン活動などで、皆で簡単にできる作品の作り方や、柏市のことについて、広く地域のことについて聞いてみたい。【北部、高田、1~3年目】

おせっ会活動に役立つゲームや体操。他の団体との交流。【北部、田中、1~3年目、高齢者】

他のグループの活動内容を話してもらって講習。ボランティアの生き甲斐、やり甲斐について。利用者(特に高齢者)への理解。(してほしいこと、してほしくないことへの思いやりの心)【北部、田中、7~9年目、高齢者】

楽しく身体を動かすこと(リクレーションダンスやゲームなど)をプログラムに入れるとサロンの中がとても活気づくので、そのような研修を受けたい。【北部、田中、10年目以上、高齢者】

傾聴【南部(旧柏)、藤心、1~3年目】

サロン活動に参考になるのはもちろんのこと、ささえるボランティアも楽しめるような内容。今流行のリフォームを取り入れ、簡単にできる小物づくり、布ぞうりづくりの講習等も期待している。サロンに持ち帰り、高齢者にも一緒につくってもらえたらと思う。【南部(旧柏)、光ヶ丘、7~9年目、高齢者】

福祉、障害者(児)支援および交流。介護。【南部(旧柏)、酒井根、7~9年目】

ボランティアが出来るレクリエーション、ゲームなど。活動に必要な実技や講座。事故に対

する予備知識。【南部（旧沼南）、大津ヶ丘、10年目以上、高齢者】

文書作成について（起案、報告、お知らせ等）。会議の進め方。福祉計画、福祉活動計画、地区計画等について。社会福祉のあり方、進め方について。【南部（旧沼南）、風早南部、4～6年目、高齢者】

昨年の支え合い活動、交流会の内容がサロンでの活動につながった。楽しい食事、社協の栄養士の講座と、スポーツ用具の案内が特に良かった。【南部（旧沼南）、高柳、7～9年目、高齢者】

活動の成功例、失敗例の当事者発表と、それに対する専門家の分析、解説。スタッフの心がけについて。どんなイベントが好まれているのかのデータ（専門家の広範囲収集）発表と解説。【無回答、4～6年目、高齢者】

<子ども向けサロン>

手遊び、わらべ歌、紙芝居など、役立つもの。【中央、柏中央、4～6年目、子どもと保護者】
子どもたちへの虐待問題が発生した場合の対応法について【中央、新田原、10年目以上、子どもと保護者】

他の子育てサロンとの交流。ユニークな活動事例があれば参考にしたい。19年11月に発足したばかりで、まだ足元を固めるので精一杯。【中央、富里、1～3年目、子どもと保護者】
幼児向けの遊び。5～10分ぐらい遊ばせることが出来るもの。例えば終わる15分前にお片付けをする。その後楽しく終わることが出来るように、ちょっとした手遊びや体操など。エプロンシアターや紙芝居など、子どもが興味を持つような動作や声の出し方など。【北部、田中、1～3年目、子どもと保護者】

乳幼児との遊び方など。【北部、田中、4～6年目、子どもと保護者】

おしゃべり広場に参加の母親たちから、子どもと楽しめる遊び方を教えてほしいとのことで、スタッフへの簡単な手遊び、親子の触れ合い遊びの研修をお願いします。【北部、富勢、1～3年目、子どもと保護者】

親子への具体的な対応の仕方。市内の子育ての状況の説明。【南部（旧沼南）、大津ヶ丘、7～9年目、子どもと保護者】

怪我や事故などの事例

質問23 怪我や事故などで対応が難しかったことはありますか。ございましたら具体的に記入ください。

主な意見の要旨【エリア、地区、活動年数、利用対象者】

誤嚥の対応。食事中、ご飯がつまり必至に背中をさすり、たたき、励ます。2～3分続け、つまったものを吐き出す。(救急車を呼ぶことも考えた。)【中央、新田原、7～9年目、高齢者、障害者】

サロンの会場へ来て体の具合が悪くなり「家へ帰したら」と言うが、誰もいない家。1日中会場の隅の方で横になっていたが、もし悪化したらと気が気でなかった。運良くその人は元気に友人と帰ったが、こんな時に一応連絡する所があればと思った。【中央、富里、10年目以上、高齢者】

昼食時の食べ物がのどにつまってしまい大慌てしたことがある。以後、その人には柔らかいものや小さくしたものを食べてもらっている。【中央、豊四季台西、10年目以上、高齢者】

体調が悪くなって家族に連絡したことが2回ほど。ボランティアが活動中に骨折してボランティア保険を使用したこと1回。【南部(旧柏)、藤心、10年目以上、高齢者】

机の折畳みで指を切ったが、大したこともなくホッとした。が、今後のことも含め、教えてほしい。【南部(旧沼南)、大津ヶ丘、10年目以上、高齢者】

<子ども向けサロン>

赤ちゃんが低年齢(0～1歳)のため比較的に安全。仲間に入れない1歳児の対応に戸惑うママさんの相談にのる。(寄り添う)(事故ではないが、場の雰囲気の影響を及ぼすこともある。)【北部、富勢、4～6年目、子どもと保護者】

(4) 活動の案内や引きこもり者への対応等について

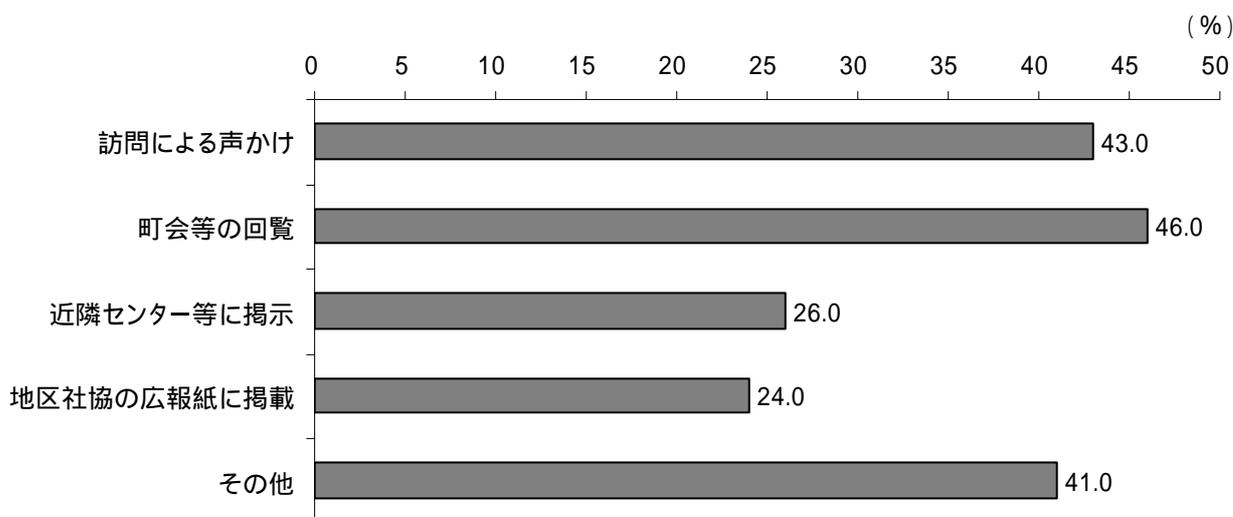
利用者への案内方法

質問24 利用者への案内はどのようにされていますか。(あてはまるものすべてに)

1. 訪問による声かけ
2. 町会等の回覧
3. 近隣センター等に掲示
4. 地区社協の広報紙に掲載
5. その他

利用者への案内方法について伺ったところ、「町会等の回覧」が46.0%、「訪問による声かけ」43.0%のほか、「近隣センター等に掲示」26.0%、「地区社協の広報紙に掲載」24.0%となっています。「その他」という意見も41.0%みられ、具体的な意見としては、「町会などの掲示板の利用」や「口コミ」などとなっています。

【質問24 利用者への案内方法】(複数回答) (N=85)



<クロス集計：4エリア別>

単位：人 (%)

	合計	1. 訪問による声かけ	2. 町会等の回覧	3. 近隣センター等に掲示	4. 地区社協の広報紙に掲載	5. その他
総計	85 (100)	43 (50.6)	46 (54.1)	26 (30.6)	24 (28.2)	41 (48.2)
中央	27 (100)	13 (48.1)	13 (48.1)	9 (33.3)	5 (18.5)	14 (51.9)
北部	28 (100)	13 (46.4)	18 (64.3)	9 (32.1)	7 (25.0)	10 (35.7)
南部(旧柏)	17 (100)	8 (47.1)	9 (52.9)	5 (29.4)	3 (17.6)	13 (76.5)
南部(旧沼南)	10 (100)	8 (80.0)	4 (40.0)	3 (30.0)	9 (90.0)	2 (20.0)
無回答	3 (100)	1 (33.3)	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (66.7)

エリア別では、各項目に大きな差はみられませんが、南部(旧沼南)では「訪問による声かけ」80%、「地区社協の広報紙に掲載」90%の割合が高くなっています。

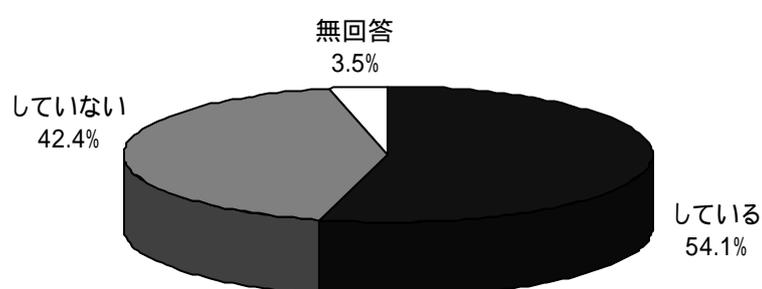
引きこもりがちな方への対応

質問25 引きこもりがちな方に、何か対応されていますか。(は1つ)

1. している 対応方法など具体的に
2. していない

引きこもりがちな方へ何か対応をされているかを伺ったところ、「している」が54.1%、「していない」が42.4%という結果となりました。

【質問25 引きこもりがちな方への対応】(N=85)



主な意見の要旨【エリア、地区、活動年数、利用対象者】

電話をし体調などを聞いたり、次回の開催日を知らせる。【中央、新田原、7～9年目、高齢者、障害者】

その方に会える時間にちょっとだけでも顔を合わせてのあいさつを続ける。【中央、富里、4～6年目、高齢者】

地域の中を歩き、自然に出会ったように話しかける。夜、外に出たとき、それから訪問。【中央、富里、10年目以上、高齢者、障害者】

民生委員が訪問したときに参加を呼びかけている。【中央、豊四季台、4～6年目、】

クリスマス会などの大きな行事のときは案内のメモを渡したり声かけをする。【北部、高田、1～3年目、高齢者】

回覧をポスティングしたり訪問による声かけ【北部、田中、1～3年目、高齢者】

友達、近所の出席者に頼んで、出かけるときにサロンなどに誘ってもらう。【南部(旧柏)藤心、4～6年目、高齢者】

参加者のお休みが2ヶ月以上の場合は声を掛ける。【南部(旧柏)藤心、10年目以上、高齢者】

根気よくサロンの案内状を持ち訪問しています。【南部(旧沼南)高柳、7～9年目、高齢者】

引きこもりがちの方へ必要な対応

質問26 引きこもりがちの方に、今後どのような対応が必要だと思いますか。

主な意見の要旨【エリア、地区、活動年数、利用対象者】

声かけ、サロンの案内、茶話会への案内をして、参加してもらおう。図書館（大学）の開放を知らせる。やりたいことを聞いて、それを取り入れて参加してもらおう。【中央、柏中央、4～6年目、高齢者】

とても難しいこと。意志を持って出掛けない人、家族が出したがらない人など、事情はいろいろあるようで、我々の力ではどうすることも出来ないことが多々あるように思う。【中央、永楽台、4～6年目、高齢者】

民生委員など顔見知りの方が訪問して話を続ける。相手のことを知ることで訪問を心待ちにするようになるのでは。【中央、富里、10年目以上、高齢者】

家庭訪問。サロンのお客様、高齢者の方に、時々電話等で話をしてもらおうように願います。【中央、富里、10年目以上、高齢者】

引きこもりの人に参加を呼び掛けても駄目だった。そっと見守りしながら相談の窓口は開けておくようにする。日頃の声かけ（挨拶だけでも）。【中央、富里、10年目以上、高齢者、障害者】

隣近所の人に声かけしてもらい、誘ってもらおう。【中央、豊四季台西、無回答、高齢者、子どもと保護者】

ケースバイケースであり、70年以上も培った性格はみんな簡単に変わるものでない。民生委員や近隣の友人などが顔を出して話をする程度で良いかと思う。【北部、高田、4～6年目、高齢者】

お隣りさんとのつながり。声かけしてほしい。【北部、高田、7～9年目、高齢者】

機会あるごとに声を掛け、サロンのお知らせをする時に相手の参加意向を少しずつ聞き出しながら意志疎通をはかり、つながりを深める。無理強いはいしない。民生委員との情報交換、意見交換を深めていく。【北部、松葉、1～3年目、高齢者、障害者、子どもと保護者】

無理に参加させることは出来ないのので、普段の地道な誘いかけを続けていくことが必要。【北部、田中、1～3年目、高齢者】

徹底的な広報と声かけ。近隣同士のつながり（引きこもりの人を知ることから、見守る、さらに連れ出す）。【北部、田中、7～9年目、高齢者】

声をかけて参加するようになった人もいるし、何度声をかけても反応の無い人、中には強い拒否反応を示す人もあり、なかなか難しいと感じて来た。が、やはり時々声をかけ続けることが必要なのではと思う。【北部、田中、10年目以上、高齢者】

周囲に住んでいる元気な人に誘い出してもらうのが一番。我々ボランティアが誘っても、毎日顔を合わせていないし、心を開くほど打ち解ける時間が少ないので、最初は親しい人に誘ってもらおうしかない。【北部、富勢、4～6年目、高齢者、障害者、子どもと保護者】

声かけを続けていくことが必要だが、かける人にもかけられる人にも負担にならないように気をつけるべき。【南部（旧柏）南光ヶ丘、10年目以上、高齢者】

その人の友達がいる時が一番早いと思う。友達の力が一番効果があるように思う。【南部（旧柏）酒井根、7～9年目、高齢者】

多くの人に参加してほしいが、どこに引きこもりの人がいるか等、知るのは困難。【南部(旧柏) 酒井根、7~9年目】

家が一番と思っている人に外出させるのは至難の技。心やすく家に入れる民生委員が働きかけをするのが良いのでは。引きこもっている所へコンタクトを取るまでがかなり大変。【南部(旧柏) 南部、10年目以上、高齢者、障害者】

話し相手になり、コミュニケーションが取れば出てくるので、何回も訪問し、心の交流が必要で、時間のかかるボランティア活動だと思う。【南部(旧沼南) 大津ヶ丘、10年目以上、高齢者】

信頼関係を築いていきたい。その中で、いかに相手に安心してもらえるかということがとても大切で、そのためには日頃からの地道な活動の積み重ねが大きな意味を持つということがわかった。【南部(旧沼南) 高柳、10年目以上、高齢者】

<子ども向けサロン>

子育てサロンの参加を呼びかける。【中央、柏中央、4~6年目、子どもと保護者】

市や社協、町会のインターネットを構築、整備して、広報、メディアの拡充を図る。【中央、富里、1~3年目、子どもと保護者】

健康推進員や民意委員の協力をお願いする。ふる里協議会によく理解してもらい、町会長の協力を得る。【北部、田中、1~3年目、子どもと保護者】

学校とは別に他の人が訪問して、話が出来れば。【北部、田中、1~3年目、子ども(のみ)】

母子手帳を渡す時に、しっかりした行政側の対応が必要。最近はシングルマザーも増えているので、ただ母子手帳を渡すのではなく、引き換えに何回か個人的に研修のようなもの、サポート体制の説明など大切なことを伝える必要があると思う。何しろ接点がここしかないの。もうすでに産まれた母子については、小児科にかかった時に上手く情報を伝える手段があれば良いが、難しいかもしれない。【北部、富勢、1~3年目、子どもと保護者】

一民生児童委員では引きこもりの人の年齢によって対処できないので、学校から専門機関へ相談してほしい。【北部、富勢、1~3年目、子どもと保護者】

地域の親子と知り合うことから始める。積極的にサロンへは誘わず、まず顔見知り、回数を重ねる。同じ地域に住む支援者(子ども好きの人、子育てに関心を持つ人など)を募る。高齢者の体験談も、姑や母親には今の時代とズレがある等、受け入れないことも。自然な形で説得力を発揮することがある。子どもや赤ちゃんのみならず、ご近所での見守りや支え合いの機運づくりができるような取組みが必要。【北部、富勢、4~6年目、子どもと保護者】

親子の情報(どこに、どのような人がいる)が、ほとんど無いのが現状。まず情報の把握。【南部(旧沼南) 大津ヶ丘、7~9年目、子どもと保護者】

(5) 地区社会福祉協議会との関わりについて

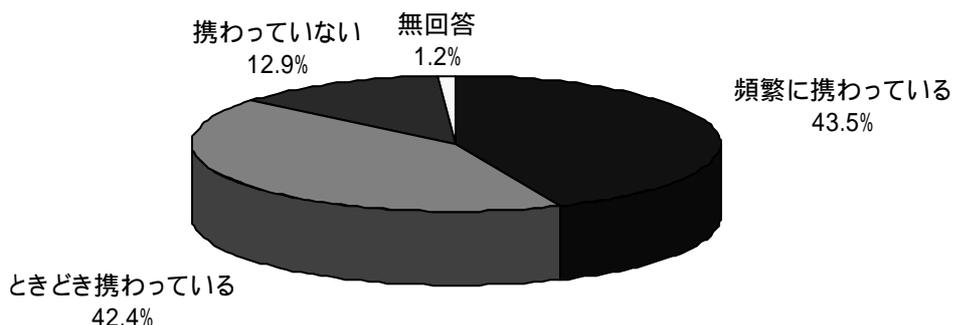
地区社会福祉協議会の活動

質問27 地区社会福祉協議会(以下、地区社協という)の活動に、どの程度携わっていますか。(は1つ)

- 1 頻繁に携わっている
- 2 ときどき携わっている
- 3 携わっていない

地区社会福祉協議会の活動については、「頻繁に携わっている」が43.5%、「ときどき携わっている」が42.4%と、あわせて85.9%が社協の活動に携わっており、「携わっていない」は12.9%となっています。

【質問27 地区社会福祉協議会の活動】(N=85)



<クロス集計：4エリア別>

単位：人 (%)

	合計	1 頻繁に携わっている	2 ときどき携わっている	3 携わっていない	無回答
総計	85 (100)	37 (43.5)	36 (42.4)	11 (12.9)	1 (1.2)
中央	27 (100)	10 (37.0)	13 (48.1)	3 (11.1)	1 (3.7)
北部	28 (100)	11 (39.3)	13 (46.4)	4 (14.3)	0 (0.0)
南部(旧柏)	17 (100)	7 (41.2)	9 (52.9)	1 (5.9)	0 (0.0)
南部(旧沼南)	10 (100)	9 (90.0)	1 (10.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
無回答	3 (100)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)	0 (0.0)

エリア別にみると、南部(旧沼南)で「頻繁に携わっている」が90%と飛びぬけて高くなっています。

地区社会福祉協議会の課題、改善点

質問28 地区社協との関わり方についての課題や、今後、地区社協をより良くしていくために改善した方がよいと感じる点など、ありましたらご記入ください。

主な意見の要旨【エリア、地区、活動年数、利用対象者】

ボランティア個人の負担が均等になるよう工夫したら良い。【中央、柏中央、4~6年目、高齢者】

地区社協が行っている他の行事等と比べると、サロンに対する予算があまりにも少ないと思う。地区社協はサロン活動にあまりしっかり関わりを持ちたくないのではないかと思う。すべてをサロンまかせでも良いが、スタッフが財源的にあまり心配しないようにしてほしい。【中央、柏中央、7~9年目、高齢者】

民生委員、健康推進員などと一般の地域ボランティアとの格差があり、「一般ボランティアが入っていけない」との声が多く聞かれている。【中央、新田原、7~9年目、高齢者、障害者】

サロン活動（一声の会）は、地区社協の援助によって運営できている。地域の福祉活動を充実させるためのリーダーの育成が必要。【中央、新田原、10年目以上、高齢者】

役員人事をもっと幅広く、若い人が増えるともっと動きやすくなるのではと思う。【中央、永楽台、4~6年目、高齢者】

サロンごとに内容などが異なることは当然と思うが、時には社協の職員が見回りに来て、意見などを聞かせてくれればサロン活動のプラスになると思う。【中央、富里、10年目以上、高齢者】

地区社協の人からサロンに助成金が入っているということは聞いているが、町会長から説明が無いので、実際にどのくらいの金額が入ってきているのかわからない。はっきりさせた方が良いのでは。1つのサロンで講師等と呼ぶのは金銭面で無理があるので、良い企画があれば近隣センター（地区社協）で合同でももらえれば良いものが出てくると思う。（映画会、音楽会など）【北部、高田、1~3年目、高齢者】

地域住民の声の吸収、サロンの充実。社協との連携の取り方、他の地域活動との交流の機会を多く持ちたい。【北部、松葉、1~3年目、高齢者、障害者、子どもと保護者】

地区社協の人は何とか宣伝したいと一生懸命取り組んでくれているが、市社協としてどのようにサロン（自治会、町会単位）を位置づけているのか見えてこない。市社協がつくったサロン（近隣センター単位）については理解もあるが、もっと、この3あいサポートサロン活動に温かい目を向けてほしい。たくさんの市民が関わっている。出発が市の施行だったが、今は社協が大きく関わっている。【北部、田中、7~9年目、高齢者】

地区社協の活動には協力しているが、地区社協からは当ボランティアに対する援助も資金提供も無い。【北部、西原、10年目以上、高齢者、障害者】

1年交代の町会長に広く全体の情報を伝えてほしい。サロンで言えば、周辺サロンへの各町会の関わり方、支援の具体的な方法等を伝え、地区社協としてはっきり「このことを毎年繰り返し行ってほしい」と要望して欲しい。活動支援金について。各サロン平等に分けられているが、町会からの支援や会場使用料の有無で実状は大きく異なる。このことを重視する社協が望まれる。【南部（旧柏）藤心、1~3年目】

今年度から助成金を受けるようになった。出来る限りイベントには協力していきたいと思っ

ているが、地区社協の役員となるとボランティアが二の足を踏んでしまう。近隣センターが遠く、地区社協のイベントに参加する人が少ないので、近場でサロンを開催して成果を上げてきた。スタッフも近場だから手伝いたいと考えている人が多いので、地区社協のスタッフまでは無理と考える。我々60代のボランティアが40、50代のボランティアを育成し、地区社協にも協力出来るようにすることが課題。【南部(旧柏) 藤心、4~6年目】

民生委員のみの活動にならないように、みんなで盛り上げる体質が必要。【南部(旧柏) 藤心、10年目以上、高齢者】

自身も忙しくいろいろの方面で活動しているので、現在ではただ流されているだけ。あまり考える暇もなく参加しているのみ。ボランティアの人たちもすみれ会には極力協力してもらっているが、社協との関わりにまで参加してくれる人は本当に少ない。会長、副会長等の人選にも行き詰っている。名案が浮かばない。【南部(旧柏) 光ヶ丘、7~9年目、高齢者】

地区社協との関わりでいろいろと勉強になると思うが、軽い気持ちで高齢者サロンのボランティアに加わったら地区社協の手伝いまでが義務となり、負担に感じる人もいる。ボランティアは民生委員等、すでに他の役と兼任している人がほとんどで、なかなか地区社協の役員を交代できない。また、ボランティアには興味があっても地区社協の仕事までは出来ないと尻込みする人もいる。【南部(旧柏) 南光ヶ丘、10年目以上、高齢者】

月1回のサロンでも準備など何かと仕事があるのに、地区社協のボランティア部の仕事もかなり多く、負担を感じる。【南部(旧柏) 酒井根、7~9年目、高齢者】

地域に密接な関わりがあるのが地区社協だと思っている。ボランティアの人たちの相談にも積極的に関わってもらい、経済的な支援もしてもらえると大変ありがたい。【南部(旧柏) 南部、1~3年目、高齢者、障害者、子どもと保護者】

町会の人とともに楽しい行事を多くして社協の宣伝をしないと、知らない人が多いので活動が理解されない。若い人材が集まらないので、考え方を考える努力をしなければと思うが、現在活動しているのが年配者が多く、切り替えが進まない。【南部(旧沼南) 大津ヶ丘、10年目以上、高齢者】

我々は割と活動している。事務的なことをしてもらえると良い。【南部(旧沼南) 風早北部、10年目以上、高齢者】

人員の拡大、確保、仲間を増加させること。若い人の協力。小中学生~大学生との関わり。助成金の増額。【南部(旧沼南) 風早南部、4~6年目、高齢者】

地区社協では独自のイベントはやめること。地区内福祉団体の補佐的役割を担い、その諸問題を解決したり介添えすることを文字通り協議する会とし、役員もそれに相応しい人物になってもらう。イベントをやりたがるから多数の役員をかかえる。市社協会員=地区社協会員ではないのだろうか?【無回答、4~6年目、高齢者】

<子ども向けサロン>

いろいろな行事の内容を決めるときは、大勢の人の意見を参考にして、改善してほしい。【中央、柏中央、4~6年目、子どもと保護者】

今後長く活動を続けていくために、もっと幅広い世代の人たちが関わっていく必要があると。まだ地域の中で地区社協の存在そのものをよく理解していない人の方が多いような気がする。誰でも楽しく活動出来るような環境を整える必要がある。【中央、永楽台、4~6年目、子どもと保護者】

町会は地域活動の原点。それを統合するふる協、地区社協は、制度ボランティアの民生委員、

健康づくり推進員と連携を強化し、協働して地域福祉の充実に努めるべき。平成18年度のふる協、地区社協の一本化の時、柏社協は各地区社協の統括・調整窓口というより、教育・教宣機関だと思った。今後一本化が更に進んでいけば、市との調整・連携は更に重要になってくる。一層の努力に期待する。【中央、富里、1~3年目、子どもと保護者】

子育て支援部会を地区社協の中に立ち上げてもらった。地区社協の広報にもとてもよく取り上げてもらっている。【北部、田中、1~3年目、子どもと保護者】

地区社協のサポートは不可欠。地区内の横のつながりが非常に大切。【北部、富勢、1~3年目、子どもと保護者】

「住民参加」を重視した地域福祉計画が社会福祉法でも定められ（H15）、柏市社会福祉協議会では、18年3月に「みんなの力でみんなが笑顔」「地区別計画」と壮大な柏市地域健康福祉活動計画が策定された。我々地域住民（制度ボランティア、地区社協運営委員など）は、この計画に基づいて、地区社協、その他の団体（集まり、サロン）等での問題点、方向性を把握し、協議していくことが大切であり、住民の参加を促すことにつながる。地区社協、とみせ交流会、民児協、健康づくり推進員、ボランティア部会等、定期的に活動状況を掌握し、検討する必要はないだろうか。なかなか地に着いた活動と結びついていかない。【北部、富勢、4~6年目、子どもと保護者】

いろいろな人の話を聞いて物事を決めてほしい。会議に行くと、もう決まっただけで口を出せないことが多い。【南部（旧柏）土、1~3年目、子どもと保護者】

(6) 町会・自治会、関係団体等との関わりについて

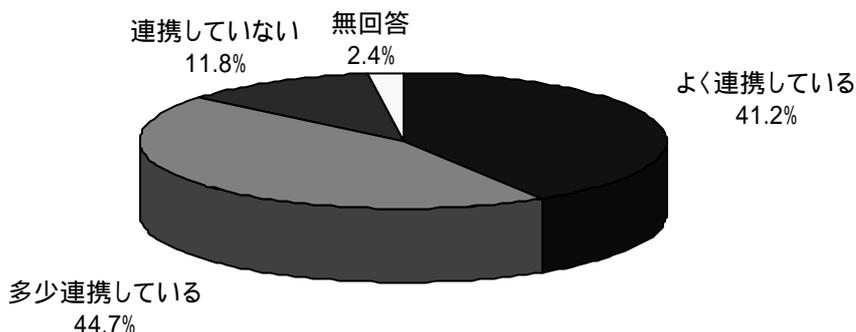
町会・自治会等との連携

質問29 町会・自治会等との連携はありますか。(1は1つ)

- 1 よく連携している
- 2 多少連携している
- 3 連携していない

町会・自治会等との連携については、「よく連携している」41.2%、「多少連携している」44.7%、あわせて85.9%が連携していると回答しています。一方、「連携していない」は11.8%となっています。

【質問29 町会、自治会等との連携】(N=85)



<クロス集計：4エリア別>

単位：人 (%)

	合計	1 よく連携している	2 多少連携している	3 連携していない	無回答
総計	85 (100)	35 (41.2)	38 (44.7)	10 (11.8)	2 (2.4)
中央	27 (100)	16 (59.3)	9 (33.3)	0 (0.0)	2 (7.4)
北部	28 (100)	9 (32.1)	15 (53.6)	4 (14.3)	0 (0.0)
南部(旧柏)	17 (100)	6 (35.3)	9 (52.9)	2 (11.8)	0 (0.0)
南部(旧沼南)	10 (100)	2 (20.0)	5 (50.0)	3 (30.0)	0 (0.0)
無回答	3 (100)	2 (66.7)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)

エリア別にみると、中央では「よく連携している」が59.3%と高く、逆に「連携していない」は、南部(旧沼南)で30%と高くなっています。

町会・自治会等との今後の連携のしかた

質問30 町会・自治会等と、今後どのような連携が必要だと思いますか。

主な意見の要旨【エリア、地区、活動年数、利用対象者】

防災と福祉でさらなる連携。【中央、柏中央、4～6年目、高齢者】

催し物の宣伝や経済的な補助。【中央、柏中央、4～6年目、高齢者】

個人情報の問題があるが、認知症患者の扱いや、一人暮らしで身体が不自由になった人の場合など、地域の町会、自治会の援助が必要。【中央、新田原、10年目以上、高齢者】

町会役員がサロン等に関わっているので改めて連携することはない。【中央、富里、4～6年目、高齢者】

町会にとって最も新しい団体のためか、なかなか他の団体のように受け入れてもらえない面がある。今後の大きな課題かと思う。【中央、富里、10年目以上、高齢者】

町会役員の男性、女性もボランティアで参加しているので連携が良い。【中央、富里、10年目以上、高齢者、障害者】

地域密着の活動をめざし実行しているので、町会や老人会の会長などにふれあいサロンに参加してもらおう。町会の行事等もボランティア要請があれば協力する。【中央、豊四季台西、10年目以上、高齢者】

町会の理解と協力、援助は絶対に必要。当会として町会役員の1名を顧問としてスタッフとしている。【北部、高田、4～6年目、高齢者】

総会の時におせっ会活動のPRをしているが、町会の行事などに出ておせっ会活動を知ってもらい、もっと参加者を開拓する必要があると思う。【北部、田中、1～3年目、高齢者】

連携を持っている町会、無関心の町会、関わるのが面倒、なるべくやりたくないという町会役員といる。町会と地区社協をつなぐ人がいなければ伝わっていかないと思う。今、町会長がその役目を担っていると思うが、あまりその意識はない。おせっ会活動、子育て支援活動は今後ますます大事で、ボランティア、特におせっ会に参加する人を町会で押し出していかなければならないと思う。【北部、田中、4～6年目、高齢者】

町会長や役員が毎年交代するので、町会長の集いの際におせっかい活動の説明をしてほしい。【北部、田中、7～9年目、高齢者、障害者】

町の急速な高齢化は、町会が老人会を支援するだけでは解決できない。老人会員の何倍もの非会員を含めてのサロン活動であることを町会が理解し、サロンスタッフと町会役員が互いに必要とし合える間柄になることが大事。サロンスタッフとしては防災や高齢者世帯のゴミ出し手伝いなど、出来ることに働き、町会役員と協力し合えば、安心できるまちづくりに一歩近づけるのではないか。【南部（旧柏）、藤心、1～3年目】

町会長、副会長、会計と三役の人たちがサロンに出席してくれるので、大変うれしく思っている。【南部（旧柏）、藤心、4～6年目、高齢者】

町会の要請に応じて防災のメンバーになっている。炊き出し訓練を主に受け持っているが、これも助成金を受けているのでギブアンドテイクと考える。【南部（旧柏）、藤心、4～6年目】

老人会との立場の違い。老人会に対しては市から高額の支援金を出しているが、サロンとの違いに不満がある。高齢化社会に向けて一元化できないのか？と思う。【南部（旧柏）、酒井根、7～9年目、高齢者】

お互いに理解し合い、どんなことでも良く話し合いを持つこと。【南部（旧柏） 南部、4～6年目、高齢者、障害者、子ども（のみ）】

社協の理解が町会の中でされていないと思うので、町会の総会に出て説明するなどの宣伝が必要。【南部（旧沼南） 大津ヶ丘、10年目以上、高齢者】

区長、町会長に月一回のふれあいサロンに必ず参加してもらっているが、1～5町会あるが、今のところ1・2町長、5町長の2人である。今後、3、4町会長の参加の呼びかけをする。

【南部（旧沼南） 高柳、7～9年目、高齢者】

<子ども向けサロン>

小学生では、親子会や町会と連携を取りながら不登校生徒の発見などに努めたい。【中央、新田原、10年目以上、子どもと保護者】

お互いの立場を理解し、出来る限り顔見知りの関係をつくり、情報を共有する。【中央、永楽台、4～6年目、子どもと保護者】

町会は地域活動の原点。それを統合するふる協、地区社協は、制度ボランティアの民生委員、健康づくり推進員と連携を強化し、協働して地域福祉の充実に努めるべき。【中央、富里、1～3年目、子どもと保護者】

子育て支援がどんなに母子に待たれているか、よく理解してもらうことから始めなくては浸透していかない。今まで高齢者には「おせっ会」など盛んに行われ地域に浸透しているが、子育てについては場所も無く、町会、自治会の協力無しでは出来ない。もっと「子育て支援」という言葉、地域の問題であることを、町会、自治会に情報を流していくことから始める。【北部、田中、1～3年目、子どもと保護者】

現在、町会からも支援のための補助金をもらっているが、今後とも地域ぐるみで子育て中の親子を支援してほしい。今年の夏祭り（盆踊り大会）は子ども中心のイベントも多かったせいか、顔見知りの赤ちゃん連れの人たちも多く参加し、お互いにより身近に感じられたと思う。マンションやアパートが多く町会加入者は少ないが、少しずつ歩み寄り、少しでも安心して暮らしやすい町会になるよう、いろいろな行事参加等も増えると良いなと思う。【北部、富勢、1～3年目、子どもと保護者】

子育てサロン、高齢者サロン等に町会、自治会関係者を招待し、その状況を周知、把握してもらう。町会、自治会の議題の中に取り入れてもらう。回数を重ねていく。機会をとらえて呼びかけ、町会、自治会のイベント等に関わるようにする。【北部、富勢、4～6年目、子どもと保護者】

子育てサロンの必要性を町会の人たちに理解してもらい、「これからの子どもたちのために」大きな気持ちで全面協力してほしい。【南部（旧柏） 土、1～3年目、子どもと保護者】

子どもに関しての話が全く出ていないのが現状。まず、子どもに関心を持ってもらえるような働きかけが、我々の方に欠けている。【南部（旧沼南） 大津ヶ丘、7～9年目、子どもと保護者】

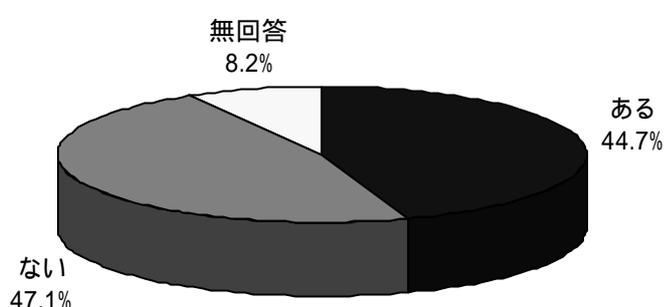
その他の団体との連携の有無

質問31 地区社協、町会・自治会以外で、連携している団体等がありますか。(は1つ)

- 1 ある 具体的に:連携している団体名など
- 2 ない

地区社協、町会・自治会以外で連携している団体があるかを伺ったところ、「ある」44.7%、「ない」47.1%、となっています。

【質問31 その他の団体との連携の有無】(N=85)



主な意見の要旨【エリア、地区、活動年数、利用対象者】

<中央エリア>

茶話会【中央、柏中央、4~6年目、高齢者】

柏市生涯学習ボランティア【中央、柏中央、7~9年目、高齢者】

かぼちゃの会【中央、新田原、7~9年目、高齢者、障害者】

柏警察ブルーフラッシュ隊【中央、富里、4~6年目、高齢者】

介護支援センター【中央、豊四季台西、10年目以上、高齢者】

地区民児協。地域健康づくり推進会。【中央、新富、1~3年目、高齢者】

柏市立介護老人保健施設はみんぐ【北部、高田、1~3年目、高齢者】

年に一度、親子会と夏休みに行事に協力している。老人会とは敬老会を一緒に行く。【北部、高田、1~3年目、高齢者】

ふるさと協議会、民生委員、健康づくり推進員【北部、松葉、1~3年目、高齢者、障害者、子どもと保護者】

健康づくり推進員協議会。3あいサポート柏。人づくり地域づくり推進協議会。柏まちづくりサロン。【北部、田中、4~6年目、高齢者】

健康づくり推進員。人づくり地域づくり推進協議会。3あいサポート柏。柏まちづくりサロ

ン。【北部、田中、4~6年目、高齢者、子どもと保護者】

小学校（花野井小）幼稚園。【北部、田中、7~9年目、高齢者】

ダイヤモンドクラブ（老人会）【南部（旧柏）土、1~3年目、】

カタクリサロン（情報交換やイベントの支援協力など、手話や朗読、手作り作品のつくり方など）【南部（旧柏）藤心、1~3年目、】

学校給食の試食会をさせてもらった。低学年で生活科のカリキュラムを実施するときに遊びなどの紹介をして欲しいとのことで、連携も続き深まりそう。【南部（旧柏）藤心、4~6年目、高齢者】

地区社協内のサロンきつねっぴょ、つくしんぼ（情報交換、人的交換、得意なものをお互いのサロンで行うなど）【南部（旧柏）藤心、4~6年目、】

介護予防センター（藤心）【南部（旧柏）藤心、10年目以上、高齢者】

民生委員【南部（旧柏）光ヶ丘、7~9年目、高齢者】

ふるさと協議会（行事のときに参加）老連（役員会などのときに）【南部（旧柏）南部、1~3年目、高齢者、障害者、子どもと保護者】

千葉西病院。創生の森の先生方。【南部（旧柏）南部、4~6年目、高齢者、障害者、子ども（のみ）】

ゆうゆうサロン、中央地区あじさい会、さつき会【南部（旧柏）南部、10年目以上、高齢者、障害者】

ネットワークハーモニー（毎年クリスマスにカードをプレゼント）。大一小（ゆとりの時間に3回ほど来てくれる）。大二小（子ども作成の野菜をプレゼントしてもらう）【南部（旧沼南）大津ヶ丘、10年目以上、高齢者】

沼南保健センター。風早中学校。柏の葉県民プラザ地域事業課。【南部（旧沼南）風早南部、4~6年目、高齢者】

沼風苑。【南部（旧沼南）風早南部、4~6年目、高齢者】

在宅介護支援センター。沼南の里。【南部（旧沼南）風早南部、4~6年目、高齢者】

柳の木の会。沼南ボランティア団体。【南部（旧沼南）高柳、10年目以上、高齢者】

老人会。婦人会。【無回答、4~6年目、高齢者】

<子ども向けサロン>

柏市生涯学習ボランティア【中央、柏中央、4~6年目、子どもと保護者】

児童センター。地域の自主育児サークル。【中央、永楽台、4~6年目、子どもと保護者】

地区の小学校（三小、豊小）【中央、富里、1~3年目、子どもと保護者】

健康づくり推進員協議会。3あいサポート柏。人づくり地域づくり推進協議会。柏まちづくりサロン。【北部、田中、1~3年目、子どもと保護者】

青少協【北部、田中、1~3年目、子ども（のみ）】

P T A、小学校の見守りパトロール。近隣センターの生涯学習。児童センター（遊戯室）イベント。【北部、富勢、4~6年目、子どもと保護者】

土地区民生委員・児童委員協議会。健康づくり推進員。市の保健師、歯科衛生士。【南部（旧柏）土、1~3年目、子どもと保護者】

(7) 市社会福祉協議会について

市社会福祉協議会に対する要望・意見

質問32 市社会福祉協議会に対する要望・意見などがございましたら自由にご記入ください。

主な意見の要旨【エリア、地区、活動年数、利用対象者】

高齢者、障害者等、弱い立場の人たちが経済的に困らないよう、また、生きがいを持って暮らせるように知恵を絞ってほしい。【中央、柏中央、4~6年目、高齢者】

アミューゼで行われている「いきいき」プラザと、地区社協「サロン」は活動が重複しているが、何か良い方法はないのか。【中央、柏中央、4~6年目、高齢者】

中央地域でも配食サービスを充実してほしい。誰でもが利用できる自治会館がほしい。【中央、柏中央、7~9年目、高齢者】

各地区のサロンの実態を良く把握してもらいたい。(どんな場所を使っているのか、スタッフの人数、年齢など、このようなアンケートではなく目で確認した上で、施策に反映してほしい。)【中央、柏中央、7~9年目、高齢者】

協議会の窓口(事務所)に入りづらい。もっと明るい対応をお願いする。【中央、新田原、7~9年目、高齢者、障害者】

予算について。年に1度「一人暮らしを囲む会」にかなりの予算がいつているが、4つのサロンに関わっている高齢者の数から考えると、月に1回、年に10回以上のサロンがそれぞれの所で開かれているので、予算の配分を考えてほしい。【中央、永楽台、4~6年目、高齢者】

これから一本化する所があれば、良く考えた方がよい。ふるさと協ではなく、名称は考えること。誰が見てもわかるように「福祉」。ボランティア活動がしたいと思うような場所。交流、相談の場づくり。【中央、富里、10年目以上、高齢者、障害者】

他のサロン(子育てサロンなど)を立ち上げる必要ありとの声もあがっている。また、現在活動しているおしゃべりサロンについてもより充実させていきたい。アドバイスを願う。ふるさと協議会と組織一本化した地区社協の活動をより良く出来るように、ふるさと協議会会長等に、社会福祉活動の重要性、意義などを説明する会議等を開催してもらい、併せて双方の助成金、補助金の経緯等も説明してほしい。(毎年6月頃?)【北部、松葉、1~3年目、高齢者、障害者、子どもと保護者】

一般住民から見るととても影が薄いと思う。もっと地域に下りて来てほしい。(PRしてほしい。なぜ社協が存在するのか、広報やチラシではなく、人と人がつながっていかねば地域には浸透しない。地区担当の職員はとても頑張ってくれていて、これ以上とは言えないし、とても感謝している。何か良い方法はないのだろうか。)【北部、田中、4~6年目、高齢者】

毎年、総入れ替えになる町会長はじめ役員会の正しい軌道を導いてほしい。町会はこれまでの運営内容を踏襲することに拘り、現実社会に向けてなかなか変えられないという状況。(他の人がやらなかったことには手を染めない姿勢が繰り返されている。)社協が、現在の正しいたくさんの情報を伝える機会を持ち、現実合った町会運営となるよう力を出してほしい。【南部(旧柏)、藤心、1~3年目】

防災のためにも、役割(リーダー)を決め、なるべく多くの人の協力が保たれるよう、日頃から地域の連携を密にするよう働きかけてほしい。【南部(旧柏)、藤心、10年目以上、高

【高齢者】

市社会福祉協議会や高齢者サロンの存在を知らない人がまだほとんどだと思う。いろいろな機会に広めてボランティアの裾野を広げ、地域力を高めるよう頑張ってもらいたい。【南部（旧柏） 南光ヶ丘、10年目以上、高齢者】

地区社協とは密にしてもらっているが、活動費の助成金等で大変な様子。ますます高齢化で支援が必要になってくる。今、ふる協と地区社協の一本化の問題が現実的になってきているが、福祉が後退しないよう切に望む。【南部（旧柏） 南部、1～3年目、高齢者、障害者、子どもと保護者】

市社会福祉協議会という名前は知っているが、実態はわからない。参加団体がいくつあるのかわからない。多くの市民が知らないと思う。もう少し市がPRすべき。【南部（旧柏） 南部、4～6年目、高齢者、障害者、子ども（のみ）】

地区社協の運営に必要な知識、能力養成、付与。パソコン操作、企画、調整能力化を図る。全地区社協の運営能力の平均化。専門学校のカリキュラムを履修させ、連携、組織力の向上を図る。【南部（旧沼南） 風早南部、4～6年目、高齢者】

運営、事務処理能力スタッフの養成講座。【南部（旧沼南） 風早南部、4～6年目、高齢者】
リーダーの養成。定年退職者の活用が出来る環境づくり。【南部（旧沼南） 風早南部、4～6年目、高齢者】

<子ども向けサロン>

市内各地域の間のパイプ役として、積極的に情報を収集、提供し、地域差をつくらないようにしてほしい。【中央、永楽台、4～6年目、子どもと保護者】

社会福祉協議会の内容について知っている人は無いに等しい。チラシではなく、直接話す機会を作った方が良い。ふるさと協議会と社協との違いや、行政と社協との関係、なぜ社協というものがあるようになったのか、せめて、その年の町会役員に話すようにしたらと思う。これから社協がとても大事になってくるのに、住民はぜんぜん知らない。【北部、田中、1～3年目、子どもと保護者】

柏市の健康推進課から保健師が子育てサロンに来て、相談に応じたり、身長、体重の計測をしてくれているが、今後、その支援が減っていく見込みのようだ。やはり保健師の参加は必要なので、市が駄目ならば市社協から保健師の経験者などを手配してもらえれば大変ありがたい。母親たちは身近に気軽に相談できる保健師を頼りにしている。【北部、富勢、1～3年目、子どもと保護者】

各サロンに任せてくれているのはありがたいが、時折スタッフの活躍の様子も見に来てあげてほしい。【北部、富勢、1～3年目、子どもと保護者】

5 障害関係ボランティア団体

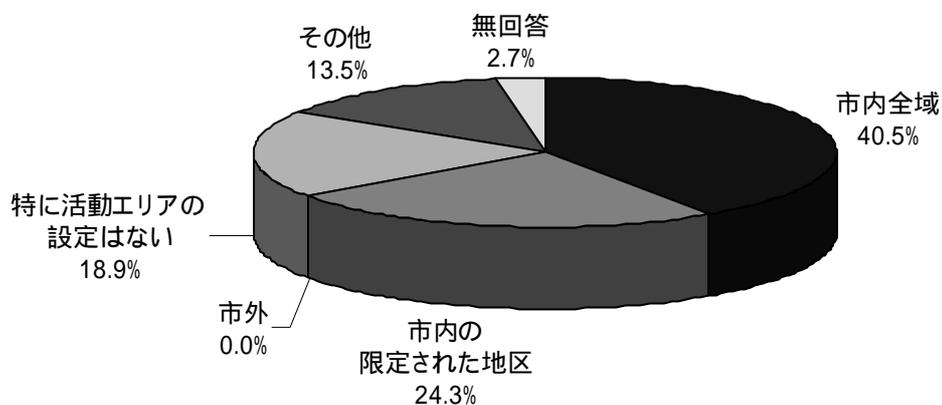
もくじ

(1) 回答者の属性	194
(2) 活動対象者について	195
(3) 活動内容について	198
(4) 運営等について	201
(5) 地域とのかかわりについて	208
(6) 市社会福祉協議会について	217

(1) 回答者の属性

活動エリア

【F1 活動エリア】 (N=37)



(上段:人、下段:%)

合計	1. 市内全域	2. 市内の限定された地区	3. 市外	4. 特に活動エリアの設定はない	5. その他	無回答
37	15	9	0	7	5	1
100.0	40.5	24.3	0.0	18.9	13.5	2.7

活動エリアは、「市内全域」40.5%、「市内の限定された地区」24.3%、「特に活動エリアの設定はない」18.9%となっています。「市外」という回答はありませんでした。

(2) 活動対象者について

活動対象者

質問1 活動対象者(あてはまるものすべてに)

1-1 障害種別

1. 障害児 2. 精神障害者 3. 知的障害者 4. 身体障害者

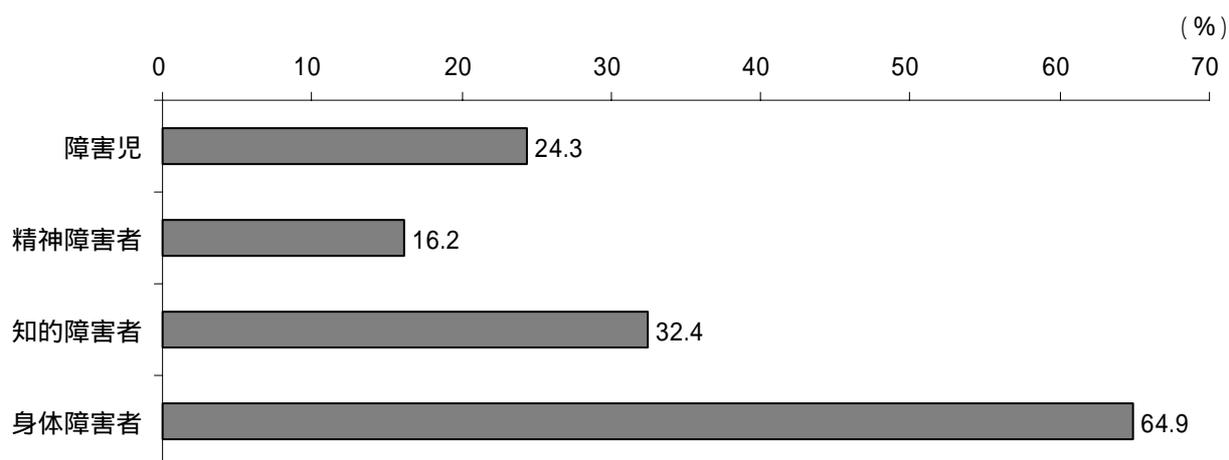
1-2 生活形態

1. 在宅 2. 施設 3. その他

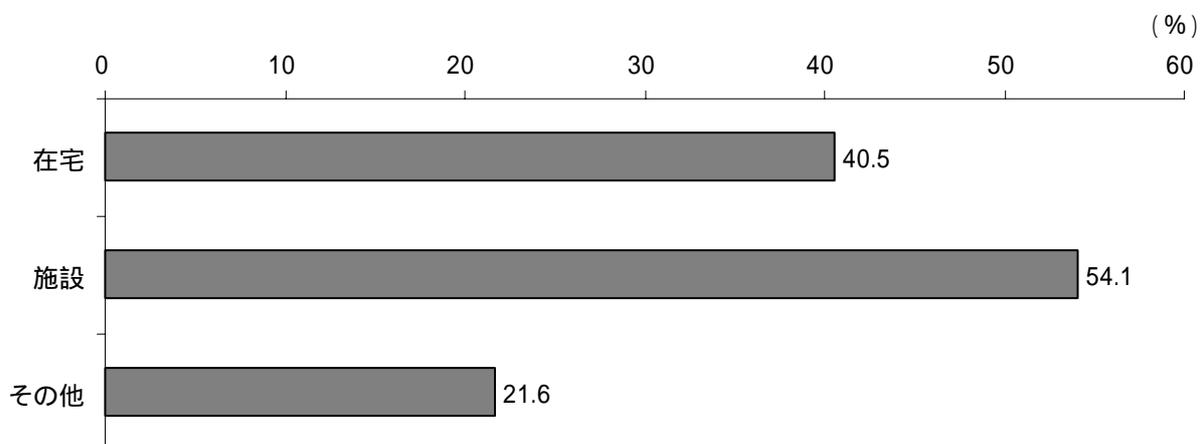
活動対象者については、「身体障害者」が64.9%と最も多く、そのほか「知的障害者」32.4%、「障害児」24.3%、「精神障害者」16.2%となっています。

活動対象者の生活形態としては、「施設」が54.1%、「在宅」が40.5%となっています。

【質問1 活動の対象者 障害種別】(複数回答)(N=37)



【質問1 活動の対象者 生活形態別】(複数回答)(N=37)



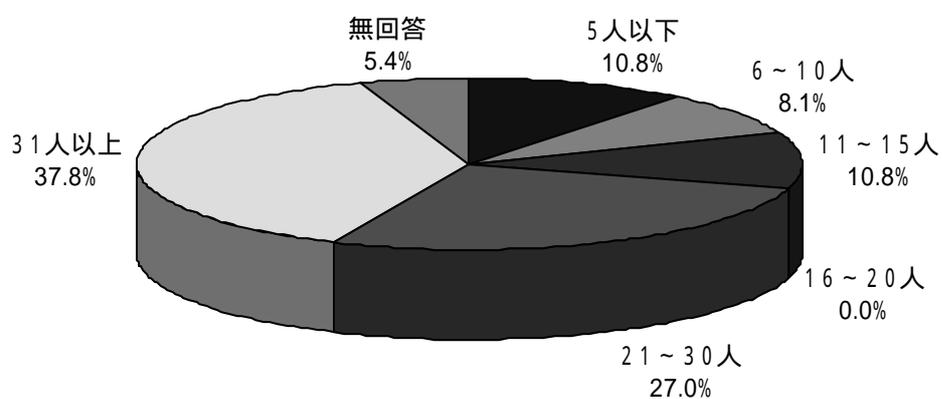
活動対象者数

質問2 活動対象者数 (は1つ)

1. 5人以下	2. 6～10人	3. 11～15人
4. 16～20人	5. 21～30人	6. 31人以上

活動対象者数については、「31人以上」が37.8%で最も多く、次いで「21～30人」27.0%となっています。このほか、「11～15人」と「5人以下」がともに10.8%、「6～10人」8.1%と続いています。

【質問2 活動対象者数】(N=37)



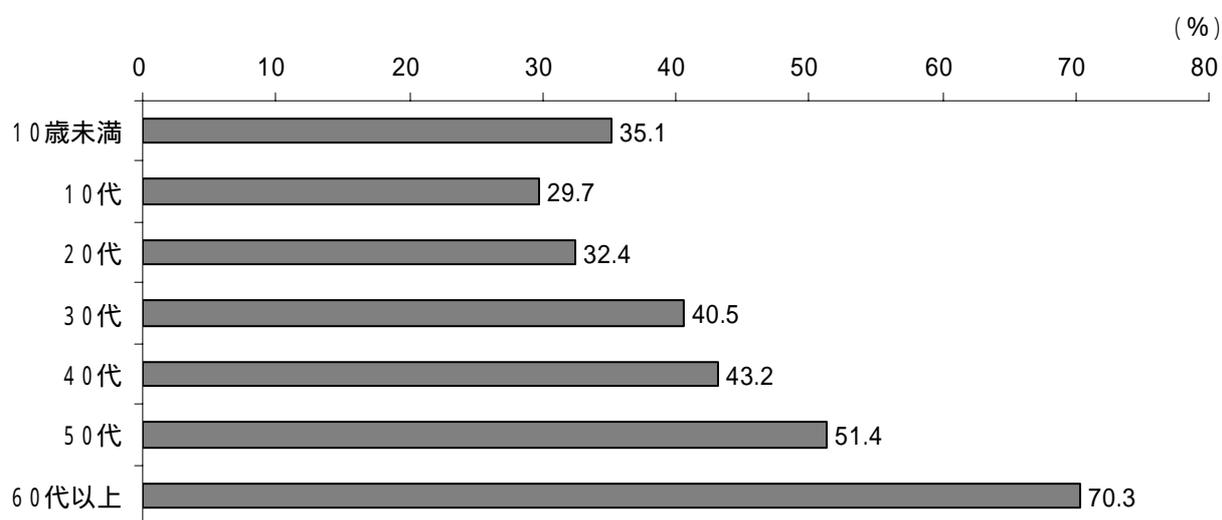
活動対象者の年齢

質問3 活動対象者の年齢(あてはまるものすべてに)

- | | | | |
|----------|--------|----------|--------|
| 1. 10歳未満 | 2. 10代 | 3. 20代 | 4. 30代 |
| 5. 40代 | 6. 50代 | 7. 60代以上 | |

活動対象者の年齢を伺ったところ、「60代以上」が70.3%と最も多く、「50代」51.4%、「40代」43.2%と、高い年齢層が多い傾向がみられますが、「10歳未満」「10代」「20代」もそれぞれ3割前後となっています。

【質問3 活動対象者の年齢】(複数回答) (N=37)



(3) 活動内容について

活動回数

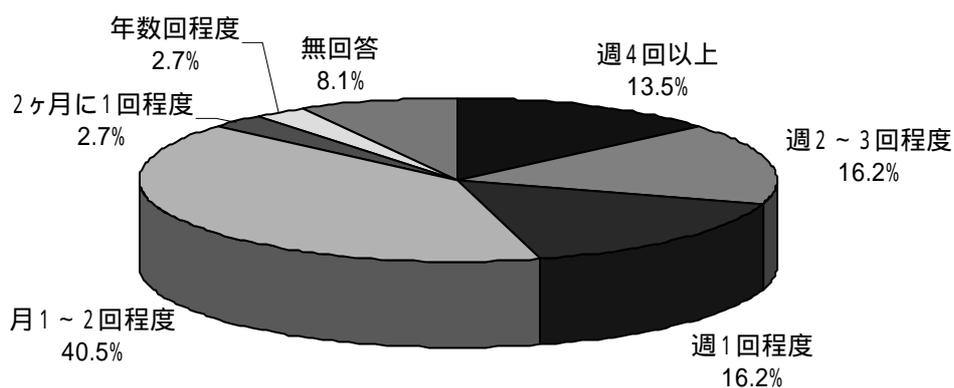
質問4 活動回数(は1つ)

- | | | |
|------------|-------------|----------|
| 1. 週4回以上 | 2. 週2～3回程度 | 3. 週1回程度 |
| 4. 月1～2回程度 | 5. 2ヶ月に1回程度 | 6. 年数回程度 |

活動回数としては、「月1～2回程度」が40.5%と最も多く、「週1回程度」と「週2～3回程度」がともに16.2%、「週4回以上」が13.5%となっています。

「週1回以上」でみると45.9%となり、半数近くが週1回以上の開催であることがわかります。

【質問4 活動回数】(N=37)



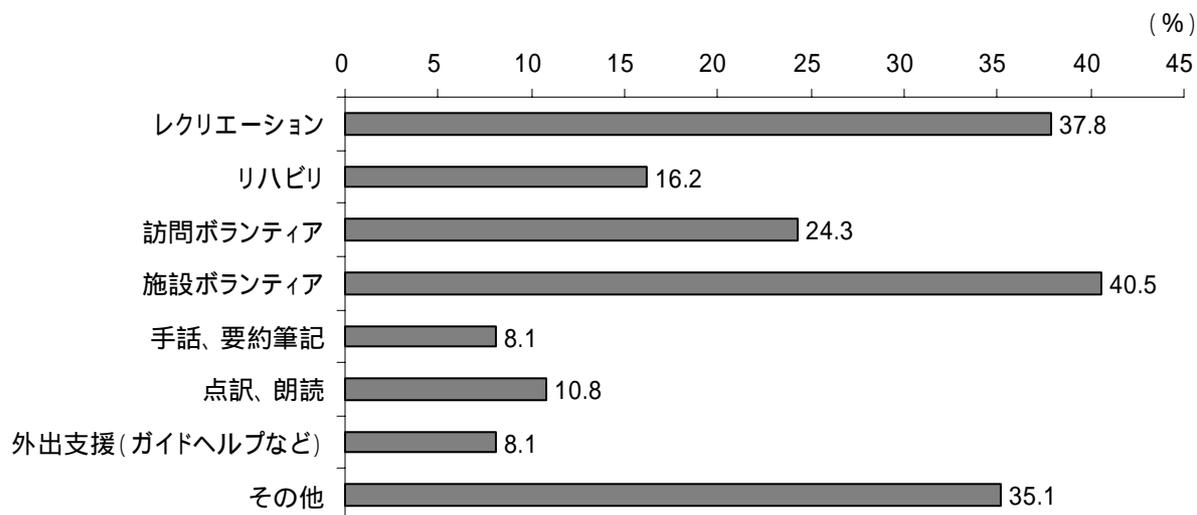
主な活動内容

質問5 主な活動内容(あてはまるものすべてに)

1. レクリエーション
2. リハビリ
3. 訪問ボランティア
4. 施設ボランティア
5. 手話、要約筆記
6. 点訳、朗読
7. 外出支援(ガイドヘルプなど)
8. その他

主な活動内容としては、「施設ボランティア」40.5%、「レクリエーション」37.8%、「訪問ボランティア」24.3%、「リハビリ」16.2%などのほか、「その他」という回答も35.1%みられます。その他の意見としては「体操」などとなっています。

【質問5 主な活動内容】(複数回答) (N=37)



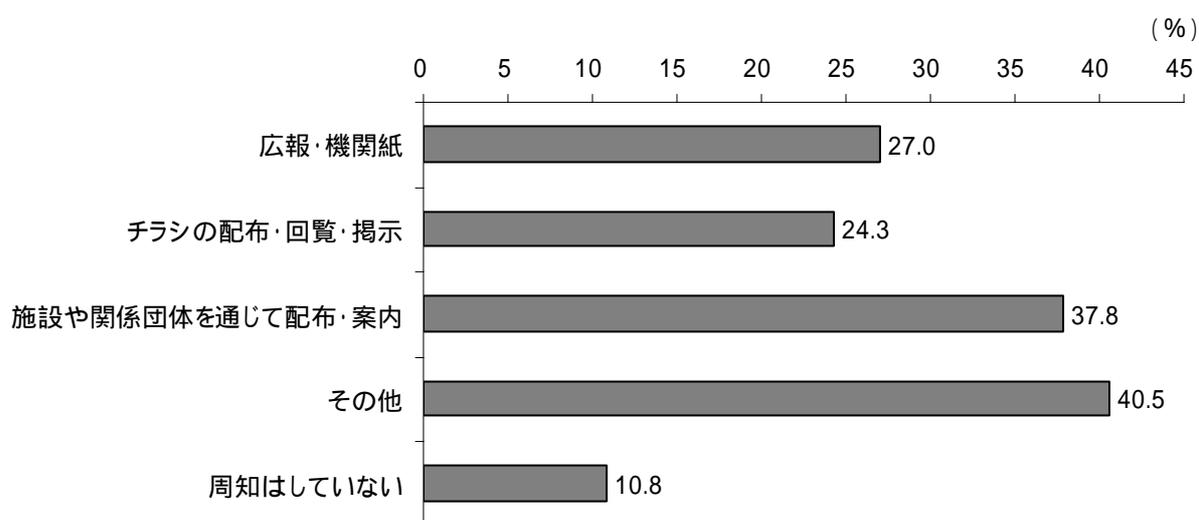
活動の周知方法

質問6 活動の周知はどのように行っていますか。(あてはまるものすべてに)

1. 広報・機関紙
2. チラシの配布・回覧・掲示
3. 施設や関係団体を通じて配布・案内
4. その他
5. 周知はしていない

活動の周知について伺ったところ、「施設や関係団体を通じて配布・案内」が37.8%、「広報・機関紙」27.0%、「チラシの配布・回覧・掲示」24.3%となっているほか、「その他」も40.5%みられます。その他の具体的な意見としては、「商業施設での広報（イオンのイエローシート）」「口コミ」「ボランティア連絡協議会やボランティアセンターの利用」などとなっています。

【質問6 活動の周知方法】(複数回答) (N=37)



(4) 運営等について

ボランティアスタッフ数

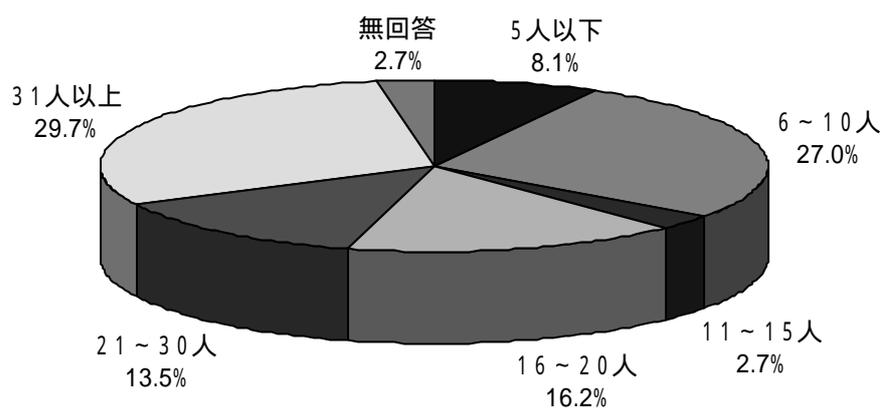
質問7 ボランティアスタッフ数(は1つ)

1. 5人以下	2. 6～10人	3. 11～15人
4. 16～20人	5. 21～30人	6. 31人以上

ボランティアスタッフ数については、「31人以上」が29.7%と最も多く、次いで「6～10人」27.0%、「16～20人」16.2%、「21～30人」13.5%となっています。

「11人以上」でみると62.1%となり、比較的スタッフ数の多い回答がみられました。

【質問7 ボランティアスタッフ数】(N=37)



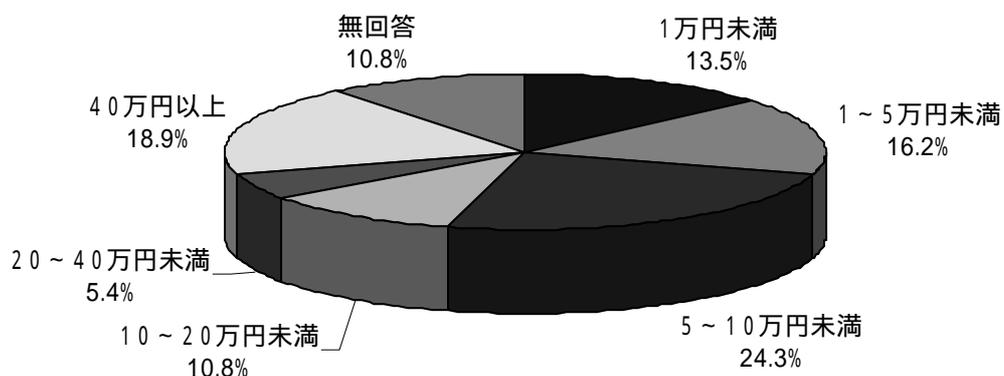
年間の運営費

質問8 運営費(年間) (は1つ)

- | | | |
|--------------|--------------|-------------|
| 1. 1万円未満 | 2. 1～5万円未満 | 3. 5～10万円未満 |
| 4. 10～20万円未満 | 5. 20～40万円未満 | 6. 40万円以上 |

年間の運営費については、「5～10万円未満」が24.3%と最も多いものの、「40万円以上」が18.9%、「1～5万円未満」が16.2%など、運営費はさまざまで、「1万円未満」という回答も13.5%となっています。

【質問8 運営費(年間)】(N=37)



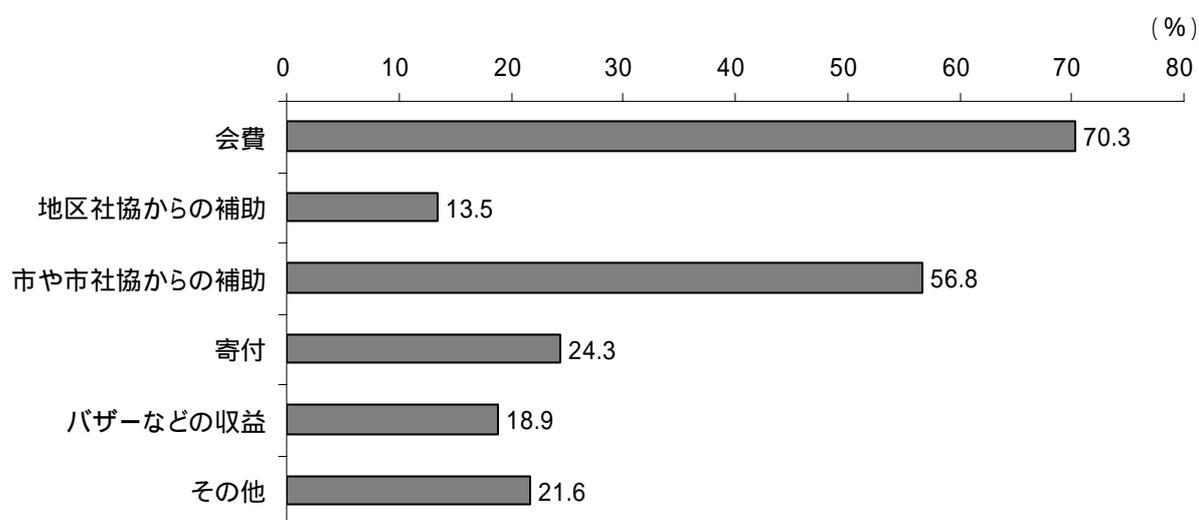
運営費の財源

質問9 運営費の財源(あてはまるものすべて)

1. 会費
2. 地区社協からの補助
3. 市や市社協からの補助
4. 寄付
5. バザーなどの収益
6. その他

運営費の財源を伺ったところ、「会費」70.3%、「市や市社協からの補助」56.8%が多く、「寄付」24.3%、「バザーなどの収益」18.9%、「地区社協からの補助」13.5%と続きます。「その他」という回答も21.6%あり、具体的な意見として、「運営費は掛からない」という意見もみられます。

【質問9 運営費の財源】(複数回答) (N=37)



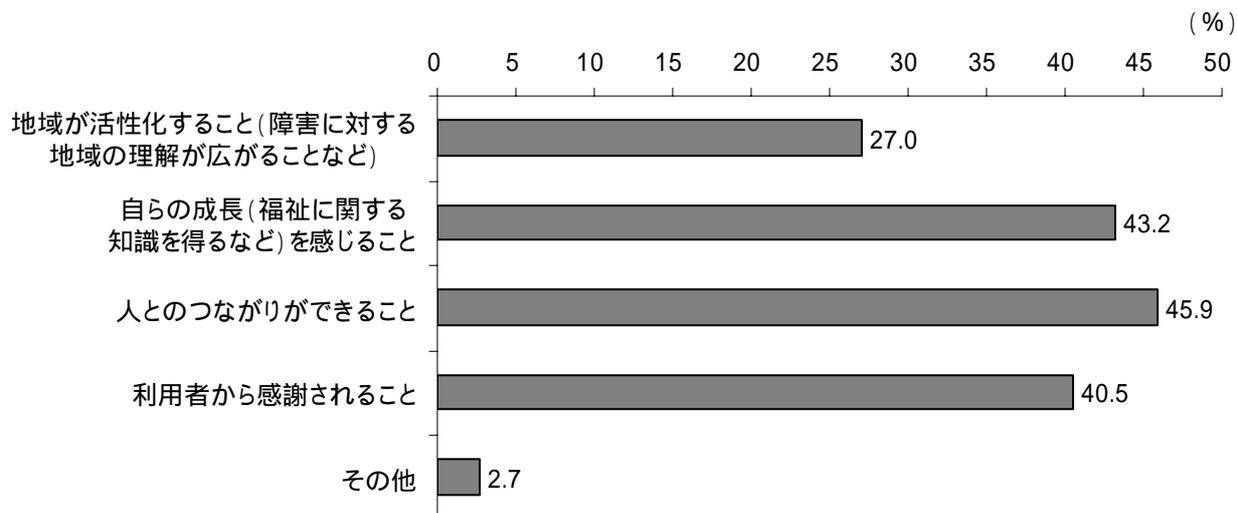
活動のよい点、やりがいを感じる点

質問10 活動のよい点、やりがいを感じる点は何ですか。(2つまで)

1. 地域が活性化すること(障害に対する地域の理解が広がることなど)
2. 自らの成長(福祉に関する知識を得るなど)を感じる
3. 人とのつながりができること
4. 利用者から感謝されること
5. その他

活動のよい点、やりがいを感じる点としては、「人とのつながりができること」45.9%をはじめ、「自らの成長(福祉に関する知識を得るなど)を感じる」43.2%、「利用者から感謝されること」40.5%、「地域が活性化すること(障害に対する地域の理解が広がることなど)」27.0%となっています。

【質問10 活動のよい点】(複数回答) (N=37)



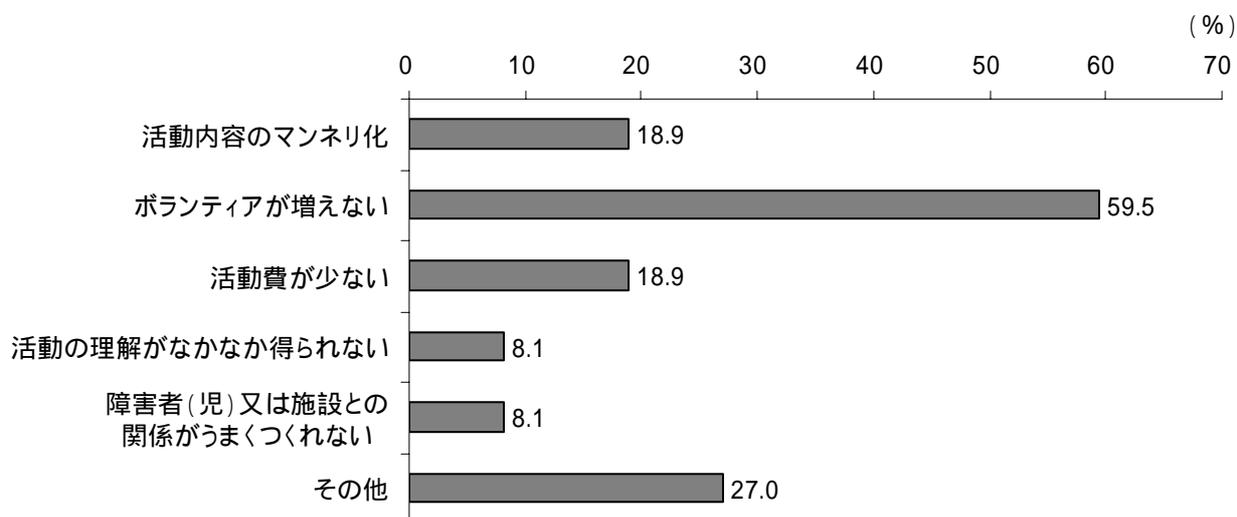
活動の難しさ、負担に感じること

質問11 活動をするなかで、難しさや負担を感じることは何ですか。(2つまで)

1. 活動内容のマンネリ化
2. ボランティアが増えない
3. 活動費が少ない
4. 活動の理解がなかなか得られない
5. 障害者(児)又は施設との関係がうまくつけれない
6. その他

活動をするなかで難しさや負担に感じることについては、「ボランティアが増えない」が59.5%と最も多く、「活動のマンネリ化」と「活動費が少ない」がともに18.9%などのほか、「その他」という意見も27.0%みられます。具体的な意見としては、「組織の運営」「ボランティアの育成」「高齢化の問題」「場所の確保」「交通費の負担」などが挙げられています。

【質問11 活動の難しさ、負担に感じること】(複数回答) (N=37)



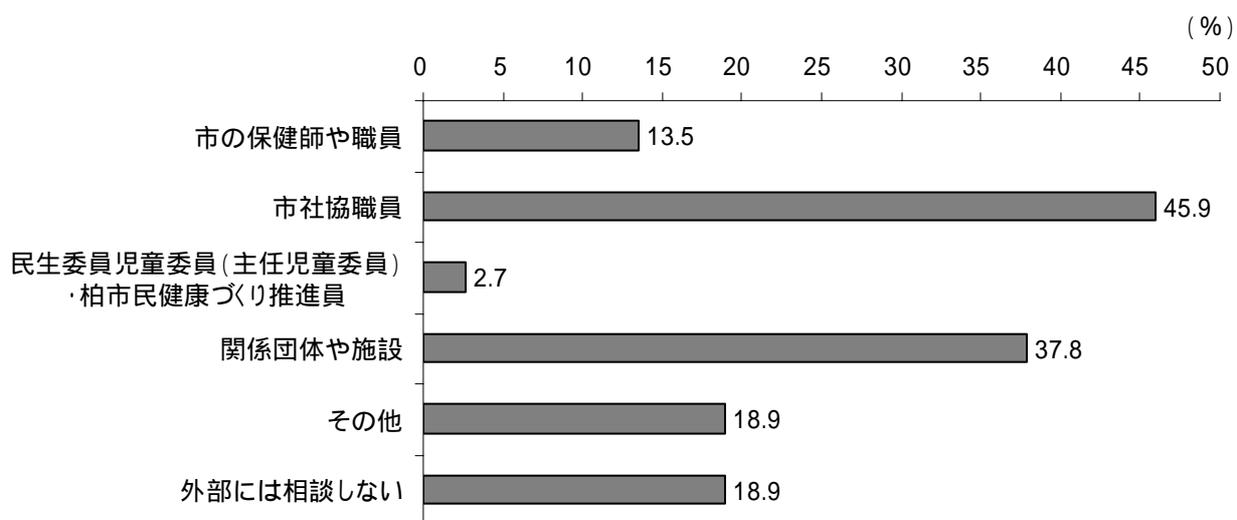
困ったときの相談先

質問12 活動で困ったときに、どこに相談しますか。(あてはまるものすべて)

1. 市の保健師や職員
2. 市社協職員
3. 民生委員児童委員(主任児童委員)・柏市民健康づくり推進員
4. 関係団体や施設
5. その他
6. 外部には相談しない

活動で困ったときの相談先については、「市社協職員」45.9%、「関係団体や施設」37.8%、「市の保健師や職員」13.5%などとなっています。「外部には相談しない」という回答も18.9%みられます。

【質問12 困ったときの相談先】(複数回答)(N=37)



活動対象者や家族からの意見・要望

質問13 活動対象者や家族から活動に対する意見や要望などは出ていますか。出ている場合、どのような意見・要望でしょうか。(差し支えない範囲で結構です。)

意見【障害種別、生活形態】

私の場合、主催者は私だが、夫が07年8月に完全リタイアしたので、二人でよく話し合った上で仲間達に話す。基本的には二人で決める。【身体障害者、施設】

今後もボランティア活動を続けてほしい。【無回答、施設】

不満というのではないが、要求がだんだん多くなってくる。【障害児、精神障害者、知的障害者、身体障害者、在宅、施設、その他】

具体的な教科書の作り方に関して出ているが、その都度解決している。【無回答、無回答】

50歳以上の人からは、育った頃の歌など、懐かしく昔を思い出すことが出来た。歌を歌うことにより声を出したり、手足を使って簡単な動作をすることで、楽しみながら(多少なりとも)リハビリになる。高齢者はハーモニカという親しみやすい楽器、音色ととらえられているのか、「また聞かせて」とよく言われる。【無回答、在宅、施設】

特に要望はないが、血圧測定や健康相談をすることで感謝されることが多い。【身体障害者、在宅】

年齢的なこともあり、夜の児童の送り迎えの危険なこと。【障害児、身体障害者、在宅、施設】

「自分が奉仕されてもいい年だろう」と言われる。【身体障害者、在宅、施設】

特には無いが、家族は活動にかかる費用を喜んではいないようだ。【知的障害者、無回答】

訪問の日数、頻度をあげるように要請される。【知的障害者、身体障害者、施設】

自立支援法による事業者との人間関係を嫌がる人が多く、仲間や友人、恋人など、普通で自然な当たり前の人間関係がつかれるような施策を望む人が多い。【障害児、知的障害者、在宅】

身体障害者を対象としているが、軽い精神(知的)障害者のご家族からは、自宅でサポートしてほしいとの要望がある。【身体障害者、施設、その他】

成人した子どもたちも、おもちゃ図書館で楽しめる内容の活動。【障害児、知的障害者、身体障害者、在宅】

施設の人や利用者のご家族からの反応をうれしく思い、次の活動への元気となっている。【身体障害者、施設】

イベント、メニューへの要望(次回は のコンサートをしてほしい、など)【無回答、その他】

(5) 地域とのかかわりについて

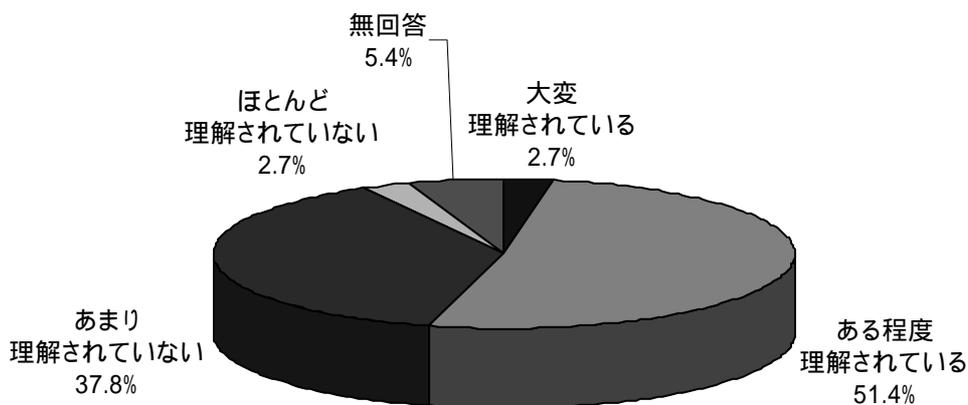
地域における障害者(児)への理解

質問14 地域における障害者(児)への理解についてどう思いますか。(は1つ)

1. 大変理解されている
2. ある程度理解されている
3. あまり理解されていない
4. ほとんど理解されていない

地域における障害者(児)への理解については、「ある程度理解されている」が51.4%と半数を占めるものの、「あまり理解されていない」も37.8%で続いています。「大変理解されている」と「ほとんど理解されていない」はともに2.7%となっています。

【質問14 地域における障害者(児)への理解】(N=37)



障害者（児）への理解を深めるための取り組み

質問15 障害者（児）への理解を深めていくためにどのようなことをしていけばよいと思いますか。

意見【障害種別、生活形態】

接触が一番の基本だと思う。私の知っている男性で、いつもここに近寄って、自分の帽子を取り、かぶらせてと何度も何度も来るが、笑いながら対応している。よく見ると、接触する人は選んでいるのだ、誠意を持って対応すべきと思う。【障害児、知的障害者、施設】

一緒に行事を行う（運動会等）【身体障害者、施設】

ある意味PR。福祉教育を幼児から取り入れる。行政職員に理解して頂きたい。【障害児、精神障害者、知的障害者、身体障害者、在宅、施設、その他】

子どもの頃から障害者（児）がいつも周りにいる環境づくりが必要。学校も出来れば一緒に通えるようなサポート体制をつくり、理解を深めていくのが良い。【無回答、無回答】

特に障害者（児）だからではなく、「挨拶」からの一声が習慣になると、顔見知りになり会話も出来るようになると思う。地域の絆、地域力が大切。障害児の場合は、大人は理解して見守ってくれていると思うが、学校での生活（友達関係）についてはまだまだ大変のようだ。ボランティアとして関わることの出来ない「学校」……地域力が発揮できると良いのではないか。【障害児、知的障害者、在宅】

障害者（児）が町会など地域の行事に出掛ける機会が増えると良い。【無回答、在宅、施設】

障害者（児）との交流会を行い、地域にどのような障害者（児）がいるのか、どう対応したら良いのか、話し合いをしながら理解を深めていくのが良い。【障害児、知的障害者、身体障害者、施設】

障害者が利用する施設を地域でサポートする輪が考えられないだろうか。また逆に、施設から近隣の地域への関係を深める方法をとってはどうか。【身体障害者、施設、その他】

日常生活の中で、誰もが平等に生活していけるよう、子どもの頃から障害を持った人と関わっていけば、特に福祉・ボランティアという言葉はいらなくなっていくのではと思う。手話についても、1つの言語として子どもの頃から知っていれば、特別なものではなくなると思う。【身体障害者、無回答】

具体的な方法は浮かばないが、障害者が一般の目にさらされることなく、隠れるように決まった場所に集まっている状態では、一般市民にとって「知らない」状態が続くだけで、理解を深めることは難しいと思う。【精神障害者、施設、その他】

個人情報保護法の改正を望む。民生委員やボランティアは、障害者がどこに住んでいるのか把握出来ないのではないだろうか。町会の回覧板を利用してイベント情報などを障害者に流すようでは、何かが違う。【身体障害者、在宅、施設】

障害者（児）の参加出来る場を増やしてほしい。【身体障害者、その他】

ボランティア活動をもっと楽しむ。上から下へのボランティア活動は私が一番嫌いな方法だが、時に勘違いしている人が多いと感じる。障害者（私の場合高齢者）の甘えも感じる。ギターボランティアの他に、私は各施設でハガキ絵を指導しているが、高齢者にも決して甘やかす指導はしない。結果的に、その方が高齢者も満足度が高い。高齢者も人格を持っている。

【身体障害者、施設】

壁の無い状況での心温まる交流を増やしていくことが出来れば良い。【精神障害者、知的障

害者、施設、その他】

数多く関わりを持つこと。【身体障害者、在宅】

地域で障害者（児）との交流をもっと多く持つ催物を共に行う。【障害児、身体障害者、在宅、施設】

私の所属している東葛柏福祉会は、350名近く会員がいる。市なり社協なりから具体的な支援を求められれば、応えられる人が大勢いると思う。個人個人では、種々ボランティア活動をしている人が大勢いる。組織として、活動出来るようにしたい。【身体障害者、施設】

いろいろな活動をオープンにしていく。【障害児、施設】

紙芝居を始めている。といっても、その物語（テーマ曲のあるもの）に音楽（ハーモニカ）が役立つものに限られることが難点である。始めたばかりだが、知的障害者には良いかもしれない。しばらく続けるつもりだ。これまで、カルメン（オペラ）、ウサギと亀（童謡）、アルプスの少女（おしえて）、かぐや姫（童謡）、宇宙戦艦ヤマト（アニメの曲）など。【知的障害者、無回答】

コミュニケーションを取ること。よく聴くことが大切。【身体障害者、在宅】

民間の施設と公的施設の取り組みの違いが歴然としている。受け入れ体制が民間は積極的であるのに対し、公的なそれでは、お座なりなところも見受けられる。【知的障害者、身体障害者、施設】

まず行政が障害者を「人」として見ること。行政の施策が、彼らを「障害者」とひとくくりにしたものであるために（特に自立支援法）、市民もそう思ってしまう。行政が彼らを区分すれば、市民もそれにならって障害者をランク付けしてしまう。このことから、行政が障害者を一人ひとりの人間として認識する姿勢を、施策として市民に見せていくことが重要。【障害児、知的障害者、在宅】

地域で行われている行事などに参加する。【障害児、知的障害者、身体障害者、在宅】

要約筆記の啓蒙。【身体障害者、その他】

交流の場、機会をつくり、障害者、障害児のことをもっと知ってもらおう。【無回答、在宅】

私たちの後援会活動の継続【無回答、その他】

コミュニケーションづくり【身体障害者、その他】

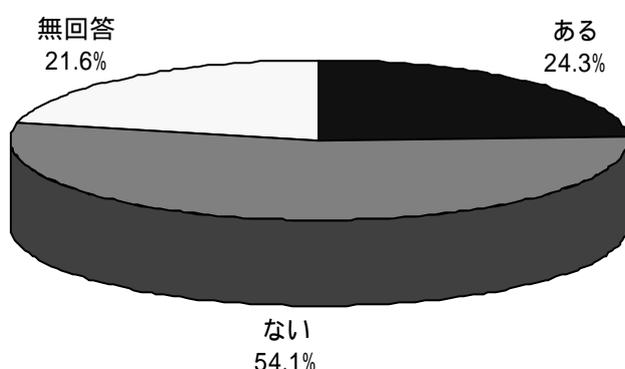
地域における障害者（児）への支援

質問16 身近な地域において、障害者（児）に対する支援はありますか。（ は1つ）

1. ある 具体的な支援内容
2. ない

身近な地域における障害者（児）に対する支援の有無を伺ったところ、「ない」が54.1%と半数を超え、「ある」という回答は24.3%となっています。

【質問16 地域における障害者(児)への支援の有無】 (N=37)



意見（具体的な支援内容）【障害種別、生活形態】

車椅子利用の人が参加している会の開催日に送迎をしている。【障害児、知的障害者、施設】
視覚障害者協会から依頼される文書の点記。年1回日帰りバス旅行(視覚障害者とペア)【身体障害者、在宅】

グループとして社協のボランティア保険に加入【障害児、知的障害者、在宅】

サロン等【身体障害者、在宅】

地域のイベントに出席して交流の場をつくる、また、こちらからお手伝いを申し出る。【障害児、精神障害者、知的障害者、身体障害者、施設】

介護委託料助成制度、生活ホーム【障害児、知的障害者、在宅】

企業より寄付をいただいている。【障害児、知的障害者、身体障害者、在宅】

授産施設の製品の販売の手伝い、レクリエーション、けん玉指導【無回答、その他】

望まれる地域のなかでの交流や活動（支援）

質問17 地域の中で、どのような交流や活動(支援)があればよいと思いますか。

意見【障害種別、生活形態】

地区社協等で催されているふれあいサロン等に参加したいと思っても、一人で行かれない人もいる。そういう人の移動がスムーズに出来る手段があれば。【障害児、知的障害者、施設】
歩道や公共施設のバリアフリー化で外出しやすくする。【身体障害者、施設】

障害者（児）の参加（交流）出来る機会をつくってほしい。【身体障害者、その他】

大人も子どもも、まず知り合いになることが前提だと思うので、やはり「愛のひと声」が最初の一步だと思う。そして土・日校庭の開放で（大学のキャンパスのように）自由に散策したり、ちょっとしたイベントが出来ると良い。学校と地域が仲良しになること。【障害児、知的障害者、在宅】

ミニ 会等、小さな規模の企画で良いので、お互いが自然な形で触れ合えるような交流を各地域で出来たら、良い方向へ向っていけないのではないか。【精神障害者、知的障害者、施設、その他】

障害者（児）を対象にした、やさしい祭りや運動会など。【身体障害者、在宅】

自立支援法などの、いわゆる福祉制度とは無関係な市民レベルでの交流や、その支援。具体的には、介護委託料助成制度や生活ホーム制度などの充実。【障害児、知的障害者、在宅】

同年代の子どもたちとの交流が出来る場がもっとあると良い。【障害児、知的障害者、身体障害者、在宅】

支援する活動場所が少なく、あっても交通の便が悪くて参加出来ない人が多いので、交通手段を考えてほしい。【身体障害者、無回答】

現在も行っているが、市内の小中学校での手話指導と交流が市内全域で行われると良い。手話や聴覚障害者について興味のある先生がいる所からは依頼が来るが、そうではない所からの依頼は少ない。公的行事には、必ず手話通訳者、要約筆記者（OHP）を付けてほしい。手話通訳者、要約筆記者の啓蒙になり、それによって聴覚障害者への理解へつながると思う。公的なお知らせ（広報など）の連絡先には、電話番号だけでなくFAX番号も載せてもらえると、聴覚障害者の活動の場が広がる。【身体障害者、無回答】

いろいろなイベントに積極的に障害者を招待すること。【精神障害者、施設、その他】

地域の活動支援をしている人が固定化して、他の人を入れたがらない様子もある。私は出張ボランティアなのであまり関係ないが……。支援者が一段高い所から関わっている、そんな光景が見られる。同じ目線での関わりが必要。【身体障害者、施設】

なかなか難しい問題で、勘違い支援がどこも多いそうだ。何でも参加出来る雰囲気してほしいようだ。【障害児、精神障害者、知的障害者、身体障害者、在宅、施設、その他】

障害児を持つ人たちが、時にその世話を任せられる施設だけではなく、一般の人たちもその仕事を担うことのできるような、登録制の場があると良い。【無回答、無回答】

私たちの活動内容を知ってもらえる機会があれば良い。【無回答、在宅、施設】

障害者（児）の外出を促すため、送迎の便を図る。（閉じこもりをなくするため）【障害児、身体障害者、在宅、施設】

福祉に関する団体は多数あると思う。社協は、町会・自治会との話し合いには相当積極的だ

が、私たちのような団体とも協議する機会をつくって頂けたらありがたい。【身体障害者、施設】

地域の行事・活動に障害者（児）も自由、気楽に参加出来る工夫、雰囲気づくりが必要。【障害児、施設】

私どものような無償奉仕はそれなりの考えで行動しているので、あまり（ほとんど）ない。【身体障害者、在宅、施設】

スポーツ大会、福祉バザー等、多くの人と交流できる場。【障害児、精神障害者、知的障害者、身体障害者、施設】

講演会などに要約筆記を付けてほしい。【身体障害者、その他】

少しずつ広がっているように感じる。なかなか思いきって参加出来ない人への働きかけが必要かと思う。【身体障害者、施設】

イベントなどへの参加などをお願いする機会があれば嬉しい。【無回答、その他】

ふれあいの輪が広がるような活動にも資金援助があれば良い。【身体障害者、その他】

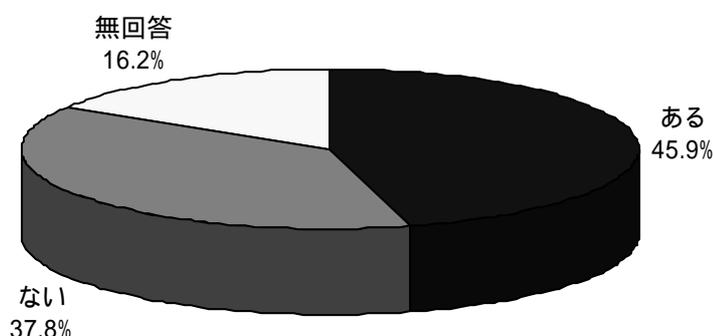
連携、交流している団体

質問18 連携や交流している団体はありますか。(は1つ)

1. ある 具体的な団体名など
2. ない

連携や交流をしている団体の有無について伺ったところ、「ある」が 45.9%、「ない」37.8%となっています。

【質問18 連携、交流している団体の有無】(N=37)



意見（具体的な団体名など）【障害種別、生活形態】

たんぼの会（特養アネシスで共同活動する時あり）、ゆずり葉の会（弁当作成の依頼をすることがある）、沼南手賀沼の会（会員同士両方活動している人多い）。【障害児、知的障害者、施設】

ほのぼの隊、育成園グループ【身体障害者、施設】

フラサークル（40分のステージを飽きさせないため）、他の楽器（当年は馬頭琴のグループやクラリネット奏者の人たちと）【身体障害者、施設】

東葛地区音訳ボランティアグループ（流山、野田、松戸、我孫子市）、日本点字図書館、ヘレンケラー協会、千葉点字図書館、千葉盲学校、（柏市点字）いなほ会、柏市視覚障害者協会。【身体障害者、在宅、施設】

あそびあいワーク実行委員会、Dio、人形劇G、わらべ唄、SECの会、子供文化連、ラムール、こどもすぺーす、町づくりサロン、3あいサポート他【障害児、精神障害者、知的障害者、身体障害者、在宅、施設、その他】

視覚障害者協会、朗読奉仕サークル【身体障害者、在宅】

全国拡大教材製作協議会【無回答、無回答】

旭町地区社会福祉協議会、東葛高校JRC【障害児、知的障害者、在宅】

わいわいクラブ【精神障害者、知的障害者、施設、その他】

地区社協、介護予防センターなど【身体障害者、在宅】

おもちゃ図書館等【障害児、施設】

手をつなぐ育成会【障害児、精神障害者、知的障害者、身体障害者、施設】

ばおばぶ、空、生活ホーム「小島屋」【障害児、知的障害者、在宅】

柏子どもの文化連絡会【障害児、知的障害者、身体障害者、在宅】

千葉県中途失聴者・難聴者協会【身体障害者、その他】

柏市聴覚障害者協会、NPO法人千葉県中途失聴者・難聴者協会柏地区会、要約筆記サークルモーグル【身体障害者、無回答】

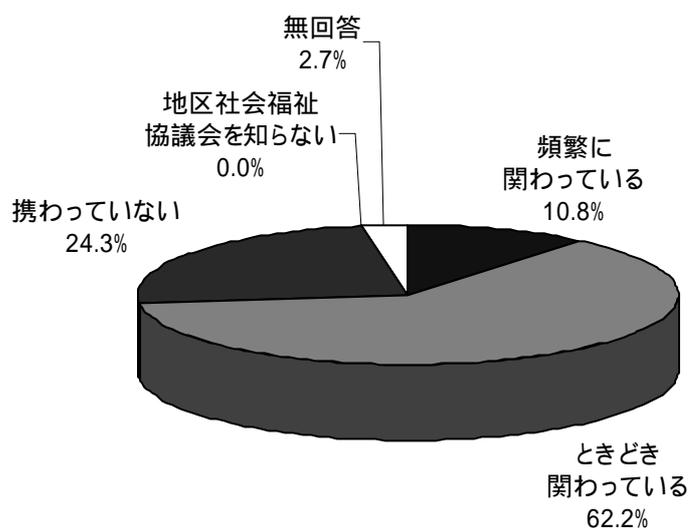
地区社会福祉協議会との関わり

質問19 地区社会福祉協議会との関わりは、ありますか。(は1つ)

1. 頻繁に関わっている
2. ときどき関わっている
3. 携わっていない
4. 地区社会福祉協議会を知らない

地区社会福祉協議会との関わりについては、「頻繁に関わっている」は10.8%、「ときどき関わっている」62.2%で、あわせて73.0%が関わりを持っています。一方、「携わっていない」も24.3%みられます。

【質問19 地区社会福祉協議会との関わり】(N=37)



(6) 市社会福祉協議会について

市社会福祉協議会に対する要望・意見

質問20 社会福祉協議会に対する要望・意見などがございましたら自由にご記入ください。

意見【障害種別、生活形態】

ボランティア活動をしている人たちの中に、独特の一種の奢りを感じるときがある。地区社協にそれを感じる。うまく説明できないが、「してやっている」「やってあげている」的感じを受ける。私は主に高齢者対象の活動なので、他の障害者のことは分からないが……。もっと人を参加させるべき。それには一部の固定化した人たちが牛耳る今のシステムに疑問を持つ。金銭が伴わないからこそ、もっと自分たち(健常者)が楽しむ、その方法を模索すべき。私の主催するギターボランティアが喜ばれ、また来てほしいと願われるためにも私自身その点を模索していきたい。【身体障害者、施設】

ボランティア活動者の高齢化があり、一方で新しい人(若い人)の参加が少ない。社協には、団塊の世代を中心にボランティアの教育・広報をお願いしたい。【無回答、施設】

社会福祉協議会の職員の皆さんには、いつも大変お世話になりご理解を得ている。私たちサークルの要望は唯一つ、活動場所の安定確保。あくまでもボランティアなので、広い場所を有料で借りることは不可能だし、年間の仕事量はかなりのもの。その辺りを更にご理解頂きたい。【無回答、無回答】

最近、市社協とボランティア団体とは上手くいっていないような気がする。ボ連の運営委員会に出席しても社協は逃げ腰。あれも駄目これも駄目というような感じ。協力して何かをやるという話し合いは無い。予算が無いのだろうか。職員の皆さんも元気がない。伝統ある柏社協だから頑張ってもらいたい。豊住の建物が使えなくなったが、場所も良い所だったし、何年計画でも良いから寄付を集めて、縮小してでも建て替えてほしい。【障害児、精神障害者、知的障害者、身体障害者、施設】

ボランティアセンターの内容充実。職員の教育 = ボランティアセンターを訪ねた人への対応が悪いとの話が広まっている。【障害児、知的障害者、身体障害者、施設】

職員一人ひとりが障害者をもっと知っていくこと。彼らとともに生きること。以前、ある会で、重複障害者やその暮らしを知らない、見たこともなければ、一緒に風呂に入ったりしたこともない社協職員がいることを知って驚いた。普通に考えて、自分たちの仕事を対象としている人を知らずに仕事にしているというのは、あまりにも雑。休日に休むのは、そうした最低限のことをクリアしてからにしてほしい。休む暇があったら、柏市に住む全ての障害者とその暮らしを知る努力をし、それをこなしてから、市民に社協会費を求めるのが常識だろう。会費を払っている私たちは休みの日にボランティアをしているのだから。【障害児、知的障害者、在宅】

おもちゃ図書館は開館場所、おもちゃや手づくりのための布やミシンの保管場所が必要なので、是非とも場所確保のご理解を願う。【障害児、知的障害者、身体障害者、在宅】

自立支援法の施行により、行政が業務を民間に委託し、弱者を切り離しているように見受けられる。このような状況の中では、社協の動きへの期待が大きい。市民に密着し、情報発信・受信を行ってほしい。柏市が中核市になることにより、国や県に縛られず、独自で出来ることも多くなると聞いている。それに伴い、社協の活動がどのように変わっていくのを知りたい。【身体障害者、無回答】

沼南ボランティアCについて。全国でも稀なことだが、交通の便が悪すぎる。柏から今では本数の少ない公共バスか自家用車でしか行けない。連絡バス等があると利用者が増えるのかと。市街地に新しい図書館が出来るとのこと。我孫子市のような複合施設とは思いますが、ボラCが入れたらすごく便利。社協について。ボランティア(連・団体)との温度差がある。ボラの方の過剰期待もあるかと思うので、応援出来ること、出来ないことの説明をはっきりと。都内の一部ボラの発達した地域よりも柏では認識が不足しているので、まだまだ育てる(資金ばかりではない)世代もいるのでは。【身体障害者、施設】

音訳ボランティア養成の出来る講師紹介、講演者紹介を希望。音訳ボランティア養成講座を3年ごとに実施してもらい、20年以上にわたってほぼ100%の人が実際に活動に携わる成果を上げている。しかし、一番大変なことは講座修了者のケアで、そのために大変な時間がかかり(ボランティアのためのボランティア)苦労している。録音技術を実演して教え、活動出来るまでに育てることが出来るような講師がおらず困っている。【身体障害者、在宅、施設】

私たちは施設を応援する団体で、収益事業を行い、その収益を施設に寄付しているが、その収益があるからといって、ボラティア登録団体としては認められているが、ボランティア保険以外のことは何も受けていない。活動助成金は、初年度だけしか頂いていない。その点が不満。【無回答、その他】

私の会は元沼南町のボランティア会。おそらく一番歴史の長い会と自負している。合併前の社協は大変ボランティアを大事に扱い、私達も対応するため一生懸命行事等に協力した。柏社協になって規模が大きくなり細かい所まで目が届かないのだろうが、温かい目でボランティアを見て、援助するところは援助してほしい。私の会は2ヶ年補助金をカットされた。30周年記念行事を行うべく、会員一同でバザー祭り等で得たお金が多過ぎたようだ。これでは意欲が薄れるのではないか?【障害児、知的障害者、施設】

福祉に関する団体は多数あると思う。社協は、町会・自治会との話し合いには相当積極的だが、私たちのような団体とも協議する機会をつくって頂けたらありがたい。【身体障害者、施設】

施設への機器の充実【身体障害者、在宅、施設】

いつも大変お世話になって感謝している。社会福祉協議会がもっと理解されるように(活動について、または組織について具体的に)広報活動をして頂きたい。【身体障害者、その他】

市民アンケートは、市民が理解できるアンケート内容にして頂けないだろうか。社協はいろいろなことを相談できる所であってほしいという要望をたくさん聞いている。どうか期待に応えてあげてほしい。それぞれの活動の状況等を是非皆さんで把握して下さい。【障害児、精神障害者、知的障害者、身体障害者、在宅、施設、その他】

日頃は大変お世話になっている。おかげさまで私達の活動は5年目を迎えた。道程は決して平坦ではなかったが今ようやく落ち着いて活動が出来ていると思っている。忙しい毎日かと思うが、担当スタッフの人には是非ボランティア活動の現場に出向いて生の声を聞いて頂けたら嬉しい。これからもよろしく願います。(追伸)タイトルは優しくわかりやすくしてほしい。【障害児、知的障害者、在宅】

ボランティアセンターからは、演奏依頼があると声をかけて頂き、ありがたく思っている。演奏依頼があればなるべく行くようにしているが、日時の指定があると、重なってしまいお断りすることもある。なるべく早めに、ある程度日時の幅を持たせて頂けるとありがたい。【無回答、在宅、施設】

かしわっぱ祭りなど、今まであった行事が無くなり淋しくなった。また企画してほしい。【障

害児、施設】

赤い羽根を25年間続け、今年からやめた。社会福祉協議会に対する要望・意見として、市長はどのような考えをお持ちでしょうか？【身体障害者、在宅、施設】

来年度からは補助金の給付を申請したい。【知的障害者、身体障害者、施設】

アンケートの回答集計とか、それが第二期の計画策定にどのように反映されたのか、計画そのものが……など、社協との距離を縮める必要がある。次にボランティア団体などが、地域活動でカバーされていない事項で必須の事項があれば、調整の指導が必要かと思う。ボランティア団体は、ほんの一部しか見えていない。そして出来る範囲のことしかしていない。社協の目標を知らしめてほしい。【身体障害者、施設、その他】

活動のための助成金をありがたく思っている。今後も宜しく願いしたい。増えると嬉しいが、無理は申しません。【身体障害者、施設】

社協の活動について多くの人に知ってもらう努力をしてほしい。特に、社協自体がどういう組織なのか。【身体障害者、無回答】